

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報12 : 平成8年度

雑誌名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
巻	12
ページ	1-195
発行年	1998-03
URL	http://hdl.handle.net/10232/00031506

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報
12

平成8年度

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

1998年3月

〒890 鹿児島市郡元一丁目21番24号

鹿児島大学
埋蔵文化財調査室

TEL 099-285-7270
FAX 099-285-7271

序

近年、日本各地から旧石器時代から古代にかけての重要な遺跡や遺構が数多く発見され、それが人々の大きな興味を惹き起こし、新たな古代史ブームとして新聞等を賑わしています。鹿児島大学のキャンパスからも縄文時代、弥生時代および古墳時代の多くの遺跡がこれまでに発掘調査され、その成果は鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報(Vol.1～Vol.11)として報告されてきました。また、平成9年4月発行の学報(第425号)から「キャンパス地中探訪」シリーズの掲載が始まり、学報の表紙には発掘された貴重な出土品の数々が美しい写真で紹介され、懇切丁寧でわかりやすい解説が付けられて、われわれを古代の世界へ誘ってくれる楽しい読み物となっています。これらの報告書や解説書を通じて、鹿児島大学キャンパスは縄文時代から古墳時代にかけての豊富な文化財を埋蔵する貴重な遺跡の上にあることが分かります。

さて、ここに平成8年度の調査結果の報告として、鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報 Vol.12 が纏められました。平成8年度には、郡元団地(地区)と桜ヶ丘団地(地区)において発掘調査1件、試掘調査1件、立ち会い調査8件が行われ、それらの成果が掲載されています。また、付編として、平成5年末から平成6年4月にかけて行われた、地域共同研究センター建設予定地での発掘調査の詳細な報告が載せられています。

いま、キャンパス内では数多くの建物の建築が行われ、それに先立って必ず埋蔵文化財の発掘調査が行われています。限られた研究スタッフは年々増え続ける発掘調査や埋蔵物の研究を懸命にこなしていますが、鹿児島大学の規模の総合大学としては、研究体制が十分とは言えないのが実情です。また、従来の埋蔵文化財調査委員会の委員長が指摘されてきましたように、これまでの出土品の量は膨大なものとなり、その保管場所の確保も困難を究めております。これ等の貴重な埋蔵文化財の研究、保管、展示の行える施設の実現について、重ねて各学部のご理解、ご協力をお願いする次第です。

平成10年3月

埋蔵文化財調査委員会
委員長 塚原 潤三

例 言

1. 本年報は鹿児島大学構内において、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が平成8年年度に行った調査活動の成果をまとめたものである。なお、郡元団地 H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査報告を付編として掲載した。
2. 本書に掲載している発掘調査及び立合調査は、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が担当した。また、3に株式会社古環境研究所が行った植物珪酸体分析報告を掲載している。個々の調査の担当者は各章の調査報告に記述した。調査における図面・写真の担当は以下のとおりである。
2：大西智和・鮎川章子・新原和子，4：中村直子・大西，付編：大西・前幸男・松村みどり・中村・天目石由美子・鮎川・池口洋人・川路代志子・小島早智子・坂元裕子・重信乃武子・陣内高志・田代桂子・床次孝子・野頭妙子・花田まち子・平野美幸・福永裕暁・古澤生・本坊美代子・牧之内久子・増森博子・横手浩二郎・米沢英昭
3. 本書の作成にあたっては、埋蔵文化財調査室が行った。遺物の実測の担当は以下の通りである。
2：大西・鮎川，4：中村，付編：大西・鮎川・新原・中村・峰山いづみ
製図は峰山・中村が担当した。写真撮影は鮎川・中村が行った。
執筆は1・4を中村が，2・付編を大西が行った。編集は中村・鮎川が行った。
4. 郡元団地 C-8区の出土遺物に関しては、渡辺芳郎氏（鹿児島大学）にご教授を賜った。また、郡元団地 H-11区の調査および報告書作成にあたっては、新田栄治氏（鹿児島大学），本田道輝氏（同），森脇広氏（同），山本温彦氏（同），横手浩二郎氏（同），渡辺氏（同），山崎純男氏（福岡市教育委員会），中園聡氏（同），大久保浩二氏（鹿児島県埋蔵文化財センター），新東晃一氏（同），東和幸氏（同），前迫亮一氏（同），武末純一氏（福岡大学），溝口孝司氏（九州大学）のご教授を賜った。
5. 発掘調査による遺物の保管は、埋蔵文化財調査室の管理の下、各学部、部局が収蔵している。また、図面・写真などの資料は埋蔵文化財調査室に保管している。

凡 例

- 1 昭和60年6月1日の埋蔵文化財調査室の設置を機として、鹿児島大学構内におけるこれからの埋蔵文化財調査に便であるように鹿児島大学構内座標を郡元団地と桜ヶ丘団地(旧宇宿団地)とに設定した。その設置基準は以下のようである。
 - (1) 郡元団地では、国土座標第2座標系(X=-158.200, Y=-42.400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行った(Fig.3参照)。
 - (2) 桜ヶ丘団地では、国土座標第2座標系(X=-161.600, Y=-44.400)を基点として一辺50mの方形地区割りを行った(Fig.4参照)。
- 2 本年報において報告を行った調査地点については、一部の立合調査地点を除き、Fig.2～Fig.4にその位置を記している。
- 3 本年報におけるレベル高はすべて海拔を表し、方位は真北方向を示す。
- 4 本書で使用した遺構の表示記号は以下の通りである。
SK:土坑 SD:溝状遺構 P:ピット RI:河川跡
- 5 2・4・付編で使用した土層の色調は『新版標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修)を使用した。
- 6 遺物については観察表を作成した。その表記、表現については以下の通りである。
色調:『新版標準土色帖』(農林水産技術会議事務局監修)を使用し、この色調に当てはまらないものについては、「～に類似」と表記した。
胎土:粒子の大きさで礫(～3mm)・粗砂粒・砂粒・細砂粒・微細な砂粒に分けた。また、砂粒の種類については、特定できないものはその色調で表記した。
法量:復原による法量は、()をつけた。
- 7 本文中の遺物番号は、挿図、図版、遺物観察表と一致させた。

目次

1	平成8年度調査の概要	1
1.1	鹿児島大学構内遺跡の立地と環境	1
1.2	調査概要	1
2	郡元団地 C-8 区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査	6
2.1	調査にいたる経過	6
2.2	調査の体制	6
2.3	調査の経過	6
2.4	層位	6
2.5	遺構	7
2.6	遺物	7
2.7	まとめ	8
3	郡元団地 C-8 区における植物珪酸体分析	10
3.1	はじめに	10
3.2	試料	10
3.3	分析法	10
3.4	分析結果	10
3.5	考察	10
3.6	まとめ	12
4	立会調査	13
	鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項	19
	受贈図書目録	21
付編	郡元団地 H-11 区（地域共同センター建設地）における発掘調査	28
1	調査にいたる経過	28
2	調査の体制	28
3	調査の経過	28
4	層位	35
5	遺構と遺構出土の遺物	36
6	包含層出土の遺物	122
7	まとめ	122
	図版	131
	SUMMARY	194
	報告書抄録	195

挿図目次

Fig.1	鹿児島市の位置	1	Fig.39	SK3 出土遺物 S=1/3	55
Fig.2	鹿児島大学構内遺跡の位置	3	Fig.40	RI1 埋土 S=1/40	57
Fig.3	郡元団地構内図 S=1/4000	4	Fig.41	ベルト1・2 出土遺物 S=1/3	59
Fig.4	桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000	5	Fig.42	ベルト2 出土遺物 S=1/3	61
Fig.5	調査地点位置図 S=1/400	6	Fig.43	ベルト2・3 出土遺物 S=1/3	63
Fig.6	層位断面図 S=1/50	7	Fig.44	RI1 出土遺物 (1) S=1/3	65
Fig.7	出土遺物 S=1/3	8	Fig.45	RI1 出土遺物 (2) S=1/3	67
Fig.8	鹿児島大学構内遺跡 C-8 区における植物 珪酸体分析結果	12	Fig.46	RI1 出土遺物 (3) S=1/3	69
Fig.9	法文学部周辺立合調査地点 S=1/1000	13	Fig.47	RI1 出土遺物 (4) S=1/3	71
Fig.10	92-B 層位柱状図	14	Fig.48	RI1 出土遺物 (5) S=1/3	73
Fig.11	農学部周辺立合調査地点 S=1/2000	15	Fig.49	RI1 出土遺物 (6) S=1/3	75
Fig.12	92-C 層位柱状図	15	Fig.50	RI1 出土遺物 (7) S=1/3	77
Fig.13	92-D (w) 層位柱状図	15	Fig.51	RI1 出土遺物 (8) S=1/3	79
Fig.14	92-E 層位柱状図	15	Fig.52	RI1 出土遺物 (9) S=1/3	81
Fig.15	96-B・C 出土遺物 S=1/3	16	Fig.53	RI1 出土遺物 (10) S=1/3	83
Fig.16	92-G 層位柱状図	18	Fig.54	RI1 出土遺物 (11) S=1/3	85
Fig.17	92-H 層位柱状図	18	Fig.55	RI1 出土遺物 (12) S=1/3	87
Fig.18	トレンチ配置図 S=1/250	28	Fig.56	RI1 出土遺物 (13) S=1/3	89
Fig.19	層位断面図 (1) S=1/60	29	Fig.57	RI1 出土遺物 (14) S=1/3	91
Fig.20	層位断面図 (2) S=1/60	31	Fig.58	RI1 出土遺物 (15) S=1/3	93
Fig.21	層位断面図 (3) S=1/60	33	Fig.59	RI1 出土遺物 (16) S=1/3	95
Fig.22	2~4層検出遺構全図 S=1/250	35	Fig.60	RI1 出土遺物 (17) S=1/3	97
Fig.23	SD1 S=1/60	36	Fig.61	RI1 出土遺物 (18) S=1/3	99
Fig.24	SD2・4・5 S=1/80	37	Fig.62	RI1 出土遺物 (19) S=1/3	101
Fig.25	SD1・2 出土遺物 S=1/3	37	Fig.63	RI1 出土遺物 (20) S=1/3	103
Fig.26	SD6 S=1/100	38	Fig.64	RI1 出土遺物 (21) S=1/3	105
Fig.27	SD6・7 埋土 S=1/40	38	Fig.65	RI1 出土遺物 (22) S=1/3	107
Fig.28	SD6 出土遺物 (1) S=1/3	39	Fig.66	RI1 出土遺物 (23) S=1/3	109
Fig.29	SD6 出土遺物 (2) S=1/3	41	Fig.67	RI1 出土遺物 (24) S=1/3	111
Fig.30	SD7 S=1/100	42	Fig.68	RI1 出土遺物 (25) S=1/3	113
Fig.31	SD7 出土遺物 S=1/3	42	Fig.69	RI1 出土遺物 (26) S=1/3	114
Fig.32	河川跡 S=1/150	44	Fig.70	RI1 出土遺物 (27) S=1/3	116
Fig.33	木杭列 S=1/60	45	Fig.71	RI1 出土遺物 (28) S=1/3	117
Fig.34	木杭列出土の茎と繊維束 S=1/5	47	Fig.72	RI1 出土遺物 (29) S=2/3	118
Fig.35	木杭列出土遺物 (1) S=1/3	48	Fig.73	RI2 出土遺物 S=1/3	119
Fig.36	木杭列出土遺物 (2) S=1/3	50	Fig.74	3~7層, カクラン出土遺物 805 : S=2/3 その他 : S=1/3	120
Fig.37	木杭列出土遺物 (3) S=1/3	52	Fig.75	土器の散布図 (縄文時代) S=1/250	123
Fig.38	木杭列出土遺物 (4) S=1/3	54	Fig.76	土器の散布図 (弥生時代前期~中期前半) S=1/250	123
			Fig.77	土器の散布図 (弥生時代中期後半~古墳時 代) S=1/250	124

表目次

Tab.1	平成8年度調査一覧表	2	Tab.23	RI1 出土遺物観察表(7)	78
Tab.2	出土遺物観察表	9	Tab.24	RI1 出土遺物観察表(8)	80
Tab.3	鹿児島大学構内遺跡 C-8 区における植物珪酸体分析結果	11	Tab.25	RI1 出土遺物観察表(9)	82
Tab.4	96-B・C 出土遺物観察表	17	Tab.26	RI1 出土遺物観察表(10)	84
Tab.5	SD 1・2 遺物観察表	37	Tab.27	RI1 出土遺物観察表(11)	86
Tab.6	SD6 出土遺物観察表(1)	40	Tab.28	RI1 出土遺物観察表(12)	88
Tab.7	SD6 出土遺物観察表(2)	41	Tab.29	RI1 出土遺物観察表(13)	90
Tab.8	SD7 出土遺物観察表	42	Tab.30	RI1 出土遺物観察表(14)	92
Tab.9	木杭列出土遺物観察表(1)	49	Tab.31	RI1 出土遺物観察表(15)	94
Tab.10	木杭列出土遺物観察表(2)	51	Tab.32	RI1 出土遺物観察表(16)	96
Tab.11	木杭列出土遺物観察表(3)	53	Tab.33	RI1 出土遺物観察表(17)	98
Tab.12	木杭列出土遺物観察表(4)	54	Tab.34	RI1 出土遺物観察表(18)	100
Tab.13	SK3 出土遺物観察表	55	Tab.35	RI1 出土遺物観察表(19)	102
Tab.14	ベルト1・2 出土遺物	60	Tab.36	RI1 出土遺物観察表(20)	104
Tab.15	ベルト2 出土遺物観察表	62	Tab.37	RI1 出土遺物観察表(21)	106
Tab.16	ベルト2・3 出土遺物観察表	64	Tab.38	RI1 出土遺物観察表(22)	108
Tab.17	RI1 出土遺物観察表(1)	66	Tab.39	RI1 出土遺物観察表(23)	110
Tab.18	RI1 出土遺物観察表(2)	68	Tab.40	RI1 出土遺物観察表(24)	112
Tab.19	RI1 出土遺物観察表(3)	70	Tab.41	RI1 出土遺物観察表(25)	114
Tab.20	RI1 出土遺物観察表(4)	72	Tab.42	RI1 出土遺物観察表(26)	115
Tab.21	RI1 出土遺物観察表(5)	74	Tab.43	RI1 出土遺物観察表(27)	118
Tab.22	RI1 出土遺物観察表(6)	76	Tab.44	RI2 出土遺物観察表	119
			Tab.45	3~7層, カクラン出土遺物観察表	121

図版目次

PL.1	郡元団地 H-11 区・C-8 区における調査	131
	1 96-2北壁 2 93-5 ①-a・b・c区東壁	
PL.2	郡元団地 H-11 区(地域共同研究センター建設地)における発掘調査	132
	1 ⑤・⑥-f南壁 2 ⑦・⑧-f区東壁	
PL.3	郡元団地 C-8 区(遺伝子実験施設建設予定地)における試掘調査	133
	1 調査地点 2 6層上面 3 出土遺物	
PL.4	郡元団地 C-8 区における植物珪酸体分析1	134
	1 イネ6層 2 イネ6層 3 オオムギ族(穎の表皮細胞)5d層下 4 ヨシ属5d層上	
	5 ススキ属型5a層下 6 ネザサ筋型5b層	
PL.5	郡元団地 C-8 区における植物珪酸体分析2	135
	7 クマザサ属型5c層 8 マダケ属型5a層上 9 棒状珪酸体5b層	
	10 ブナ科(シイ属)5d層中 11 クスノキ科5d層中 12 マンサク科(イスノキ属)5d層中	

PL.6	立会調査 (1)	136
	1 96-B 法文学部北側調査地点 2 96-B・C 出土遺物	
PL.7	立会調査 (2)	137
	1 出土遺物 2 出土遺物	
PL.8	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (1)	139
	1 表土剥ぎ前の調査区全景 2 SD1 完掘状況 3 SD2・3・4 検出状況 4 SD2 完掘状況 5 SD4 完掘及び SD5 検出状況 6 SD5 完掘状況	
PL.9	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (2)	139
	1 SD6 検出状況 2 SD6 底の木杭 3 SD6 底の木杭痕	
PL.10	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (3)	140
	1 SD6 完掘状況 2 SD7 完掘状況 3 SD6・7 埋土断面 4 水田状遺構	
PL.11	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (4)	141
	1 RI1 検出状況 (東区) 2 RI1 木杭列検出状況 (東区) 3 RI1 木杭列 (西区)	
PL.12	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (5)	142
	1 RI1 木杭列 2 RI1 木杭列 3 RI1 挟りのある木杭	
PL.13	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (6)	143
	1 RI1 木杭列 2 RI1 木杭列 3 RI1 木杭列 4 RI1 木杭列	
PL.14	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (7)	144
	1 RI1 木杭列土器出土状況 2 RI1 木杭列出土の茎と繊維の束 3 RI1 木杭列木製容器出土状況 4 RI1 木杭列木製品出土状況	
PL.15	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (8)	145
	1 RI1 内 SK2 2 RI1 内 SK3 (掘り下げ中) 3 RI1 内 SK3 木製鋤出土状況 4 RI1 内 SK3 木製鋤出土状況 5 RI1 内 SK3 6 RI1 内 SK4	
PL.16	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (9)	146
	1 RI1 土器出土状況 2 RI1 土器出土状況 3 RI1 土器出土状況 4 RI1 土器出土状況 5 RI1 段落ち 6 RI1 完掘状況	
PL.17	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (10)	147
	1 RI1 ベルト 1 (南側) 2 RI1 ベルト 1 (中央) 3 RI1 ベルト 1 (北側) 4 RI1 ベルト 2 (北側)	
PL.18	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (11)	148
	1 RI1 ベルト 2 (中央) 2 RI1 ベルト 2 (南側) 3 RI1 ベルト 3 (南側) 4 RI1 ベルト 3 (北側)	
PL.19	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (12)	149
	1 RI2 検出状況 2 RI2 完掘状況 3 RI2 埋土 4 4 層土器出土状況 5 6 層土器出土状況	
PL.20	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (13)	150
	1 ⑦・⑧・⑨-b 区北壁 2 ⑤・⑥-b 区北壁 3 ③・④-a 区北壁 4 ①・②・③-a 区北壁	
PL.21	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (14)	151
	1 ②-d 区東壁 2 ③-e・f 区東壁 3 ②・③-d 区東壁	
PL.22	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (15)	152
	1 ⑨-e・f 区西壁 2 ⑨-b・c・d 区西壁 3 ③・④-f 区南壁 4 南北ベルト (南側)	
PL.23	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (16)	153
	1 SD1・2 出土遺物 2 SD6 出土遺物	
PL.24	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (17)	154
	1 SD6 出土遺物 2 SD6 出土遺物	
PL.25	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (18)	155
	1 SD6 出土遺物 (内面) 2 SD6 出土遺物 4 3 SD7 出土遺物	

PL.26	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (19)	156
	1 RI1 木杭列出土遺物 2 RI1 木杭列出土遺物	
PL.27	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (20)	157
	1 RI1 木杭列出土遺物 2 RI1 木杭列出土遺物	
PL.28	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (21)	158
	1 RI1 木杭列出土遺物 2 RI1 木杭列出土遺物 3 RI1 木杭列出土遺物 4 RI1 木杭列出土遺物	
PL.29	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (22)	159
	1 RI1 内 SK3 出土遺物 2 RI1 ベルト 1 出土遺物 3 RI1 ベルト 1 出土遺物 (内面)	
PL.30	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (23)	160
	1 木杭列 出土遺物 2 RI1 ベルト 2 出土遺物 3 RI1 ベルト 1・2 出土遺物	
PL.31	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (24)	161
	1 RI1 ベルト 2 出土遺物 2 RI1 ベルト 2 出土遺物 (左:外面, 右:内面) 3 RI1 ベルト 2 出土遺物 (左:表, 右:裏)	
PL.32	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (25)	162
	1 RI1 ベルト 2 出土遺物 2 RI1 ベルト 2・3 出土遺物	
PL.33	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (26)	163
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.34	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (27)	164
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.35	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (28)	165
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.36	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (29)	166
	1 RI1 出土遺物 (内面) 2 RI1 出土遺物	
PL.37	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (30)	167
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.38	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (31)	168
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.39	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (32)	169
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.40	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (33)	170
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.41	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (34)	171
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.42	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (35)	172
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.43	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (36)	173
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.44	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (37)	174
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.45	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (38)	175
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.46	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (39)	176
	1 RI1 出土遺物 26 2 RI1 出土遺物	
PL.47	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (40)	177
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	

PL.48	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (41)	178
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.49	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (42)	179
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.50	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (43)	180
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物 3 RI1 出土遺物	
PL.51	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (44)	181
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物 3 RI1 出土遺物 4 RI1 出土遺物	
PL.52	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (45)	182
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.53	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (46)	183
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物 3 RI1 出土遺物 4 RI1 出土遺物	
PL.54	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (47)	184
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.55	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (48)	185
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.56	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (49)	186
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.57	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (50)	187
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物	
PL.58	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (51)	188
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物 3 RI1 出土遺物 4 RI1 出土遺物	
PL.59	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (52)	189
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物 3 RI1 出土遺物 (表) 4 RI1 埋土出土遺物 (裏)	
PL.60	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (53)	190
	1 RI1 出土遺物 (表) 2 RI1 出土遺物 (裏) 3 RI1 出土遺物 (表)	
PL.61	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (54)	191
	1 RI1 出土遺物 (裏) 2 RI1 出土遺物 (左:表, 右:裏) 3 RI1 出土遺物	
PL.62	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (55)	192
	1 RI1 出土遺物 2 RI1 出土遺物 (裏) 3 RI1 出土遺物 4 780 の X 線写真 5 RI2 出土遺物	
PL.63	郡元団地 H-11 区 (地域共同研究センター建設地) における発掘調査 (56)	193
	1 3~7 層・カクラン出土遺物 2 4 層出土遺物 3 6 層出土遺物 4 3~7 出土遺物 5 カクラン出土遺物 (左:表, 右:裏)	

1 平成8年度調査の概要

1.1 鹿児島大学構内遺跡の立地と環境

鹿児島大学構内遺跡が所在する鹿児島市は、薩摩半島東岸部のほぼ中央に位置する。鹿児島市は、東側の湾岸部以外はシラス台地に囲まれ、シラス台地と諸河川によって形成された沖積平野に分かれる。鹿児島大学構内にある遺跡のうち、本書に掲載する調査地域は郡元団地、桜ヶ丘団地で、それぞれを鹿児島大学構内遺跡郡元団地、同桜ヶ丘団地と呼称している。

郡元団地は、昭和59年以前までは旧字名などを遺跡の名称として用いており、県立医大遺跡、附属中学校敷地内遺跡、釘田遺跡、水町遺跡などが含まれる。桜ヶ丘団地は、桜ヶ丘団地が位置する付近を含めて、亀ヶ原遺跡という名称を用いられることもあるが、鹿児島大学埋蔵文化財調査室が設置された昭和60年以降、「鹿児島大学構内遺跡宇宿団地」と呼称し、以後、キャンパス名の変更に伴って、同桜ヶ丘団地と変更した。

郡元団地は、標高7mほどで、鹿児島市の沖積平野の中央に位置する。東側は鹿児島湾に向かい、西にはシラス台地が後背地となっている。周辺には、一の宮遺跡²⁾など弥生時代から古墳時代の遺跡が多い。郡元団地でも、これまでの調査によって、弥生時代・古墳時代・中世・近世の遺物包含層が確認されており、特に古墳時代

の住居跡が密集している。住居跡の集中する場所は、理学部から教養部の一带と、教育学部付属小学校・中学校から運動場の南西側一帯の2か所が確認されている。

桜ヶ丘団地は郡元団地から約2.5km南の亀ヶ原台地上に位置する。鹿児島市のシラス台地上の遺跡は、縄文時代早期から後期にかけての遺跡が点在しており、弥生時代や古墳時代の遺跡が少ない。

桜ヶ丘団地では、これまでの調査で団地の東側に縄文時代草創期・早期・弥生時代前期・中期の遺物包含層が存在し、特に縄文時代早期と弥生時代中期前半の住居跡が確認されている。

1.2 調査概要

平成8年度に行った調査は、発掘調査1件、試掘調査1件、立会調査8件である (Tab. 1)。このうち、法文学部講義棟から共通教育棟の間で行われた 96-1、96-B・Cなどの調査で、古墳時代の遺構や遺物を確認した。

96-1は既設の貯水池を地下に埋設する工事に伴う事前の発掘調査である。工事開始当初、貯水池下に包含層が存在している可能性があったため、立会調査を行っていたが、既設貯水池を撤去した結果、その下は無遺物層の砂層が露出しており、その部分については埋蔵文化財

への影響がないことがわかった。しかし、貯水池外側の掘削工事範囲部分に遺物包含層が残存しており、施設部との協議の結果、工事を中断して発掘調査を行った。調査の結果、7軒の古墳時代の住居跡が確認でき、その埋土中に多くの遺物が出土した。住居跡はそれぞれ切り合っており、調査範囲が狭かったため、住居跡全体を確認することはできなかったが、方形プランのものが密集していることが予想される。この周辺は、以前の調査でも古墳時代の住居跡をはじめとする遺構が多数確認されており、その一部であろう。この工事に関連して、周辺環境整備工事に伴う立会調査 (96-B・C) でも、同一の包含層を検出し、その中から土器が多数出土した。

農学部周辺の調査では、表土の下に水田層らしい層を確認しているが、遺物の出土が少ないため、その時期などは不明

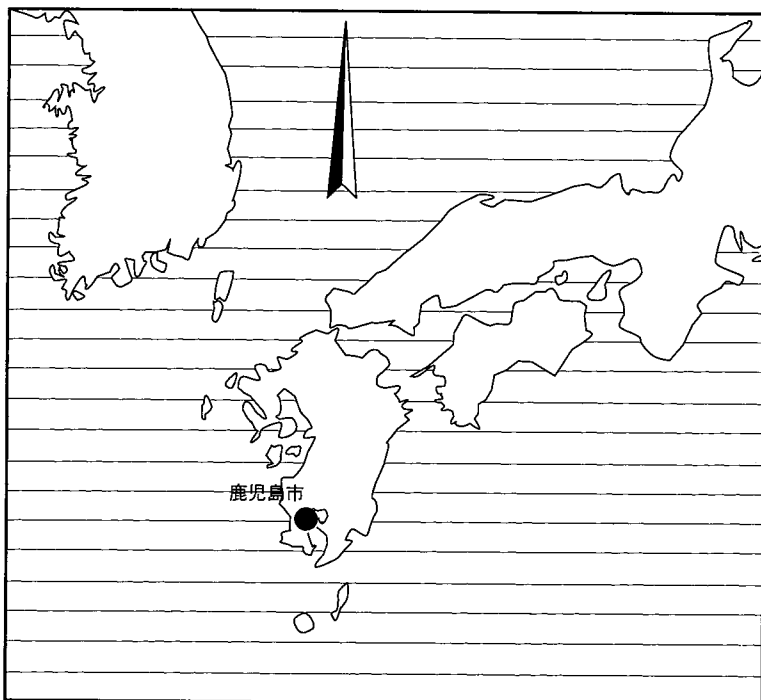


Fig.1 鹿児島市の位置

Tab.1 平成8年度調査一覧表

種類	調査No.	地区	調査・工事名	調査期間	調査面積
発掘調査	96-1	郡元団地 K-5 区	防火水槽取設工事に伴う発掘調査	平成9年6月12日～7月26日	30 m ²
試掘調査	96-2	郡元団地 C-8 区	遺伝子実験施設建設予定地における試掘調査	平成9年3月4日～3月11日	6 m ²
立会調査	96-A	郡元団地 H-9 区	総合情報処理センター建設に伴う掘削工事	平成8年4月15日・5月2日	
	96-B	郡元団地	郡元図書館新営電気設備その他工事	平成8年5月21～24日・6月3・5・6・13日・7月9日・8月5～8日	
	96-C	郡元団地 K-4・5, E・F-4・5 区	排水溝取設工事	平成8年6月24・26日, 7月2・12・23日, 8月6・8日	
	96-D	郡元団地 G-5 区	農学部保存植林倒木の復旧植樹に伴う掘削工事	平成8年7月31日	
	96-E	郡元団地 E-6 区	農学部1号館中庭台風後復旧に伴う焼却物埋蔵工事	平成8年7月24日	
	96-F	桜ヶ丘団地 G-7 区	特高受変電設備工事	平成8年12月24日	
	96-G	郡元団地 N-8 区	教育学部樹木移植工事	平成9年1月10日	
	96-H	郡元団地 D-11・F-12 区	自家給水施設9号井戸水中ポンプ取設その他工事	平成9年3月6・7・14・17～19日	

である。また、農学部東側の立会調査(96-H)では、河川跡と考えられる粗砂や細砂層を確認している。この地点の南側では、地域共同研究センター建設地の発掘調査で確認した河川跡があり(本書付編に掲載)、それにつづくものと考えられる。

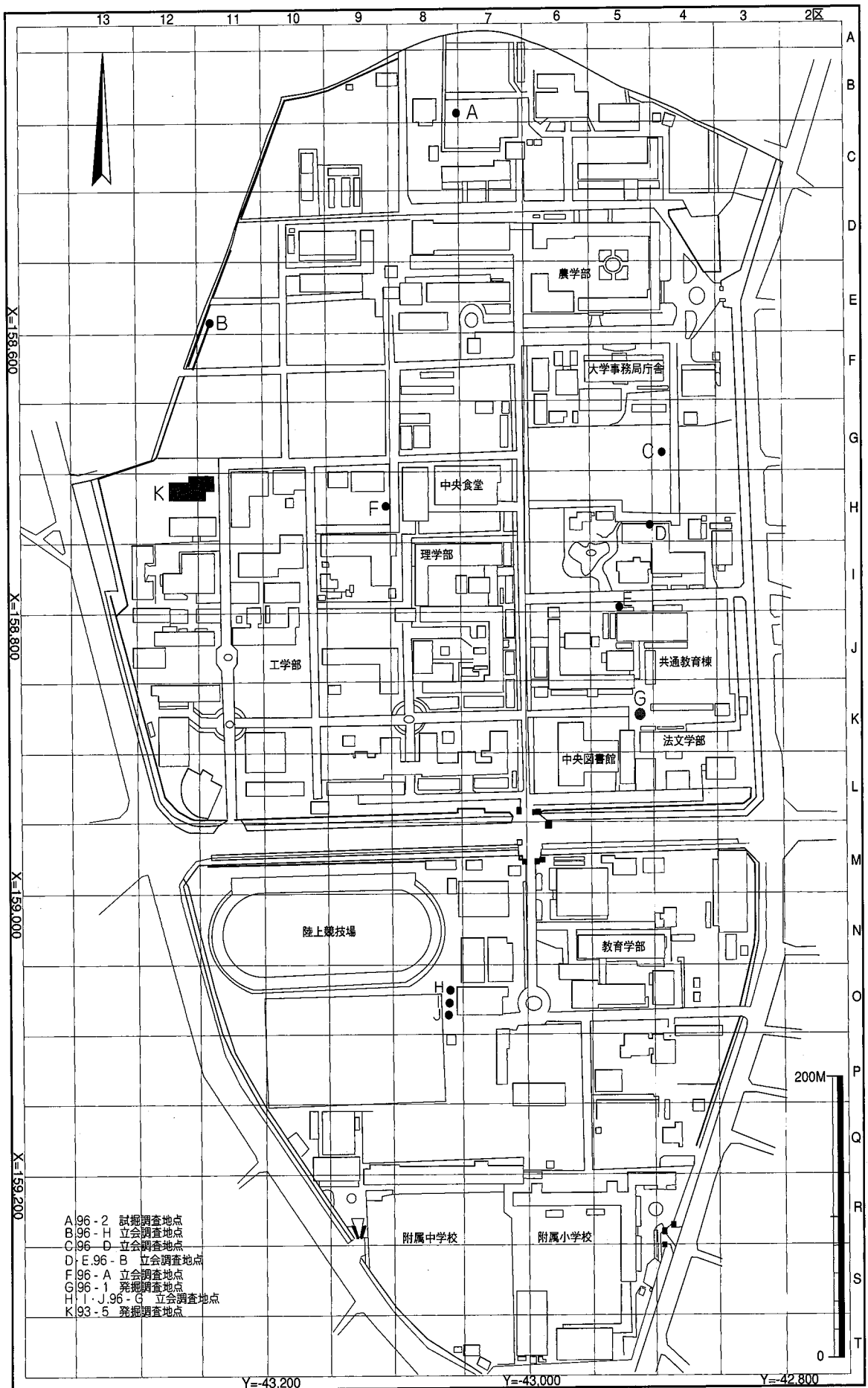
桜ヶ丘団地では、立会調査のみおこなった。96-Fは中央診療棟エレベーター取設に伴う調査であったが、盛土が厚く、掘削範囲ではプライマリーな層に影響はなかった。ただし、掘削部分底面に「チョコ層」が露出していた。「チョコ層」とは、黒褐色のシルト層で、MRI-CT棟建設地の発掘調査³⁾で、石鏃や細石刃が出土しており、旧石器時代から縄文時代草創期の遺物包含層である。今後も埋蔵文化財への注意が必要な地点である。

註

- 1) 松永幸男(1986). 第II章鹿児島大学構内遺跡の位置と環境. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, 1, 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- 2) 河口貞徳(1951). 一の宮遺跡の報告. 考古学雑誌, 37-4.
- 3) 砂田光紀・松永幸男(1990). 第II部第2章鹿児島大学宇宿団地E-8・9区における発掘調査報告. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, 5, 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.



Fig.2 鹿児島大学構内遺跡の位置



- A 96-2 試掘調査地点
- B 96-H 立会調査地点
- C 96-D 立会調査地点
- D E.96-B 立会調査地点
- F 96-A 立会調査地点
- G 96-1 発掘調査地点
- H I J.96-G 立会調査地点
- K 93-5 発掘調査地点

Fig.3 郡元団地構内図 S=1/4000

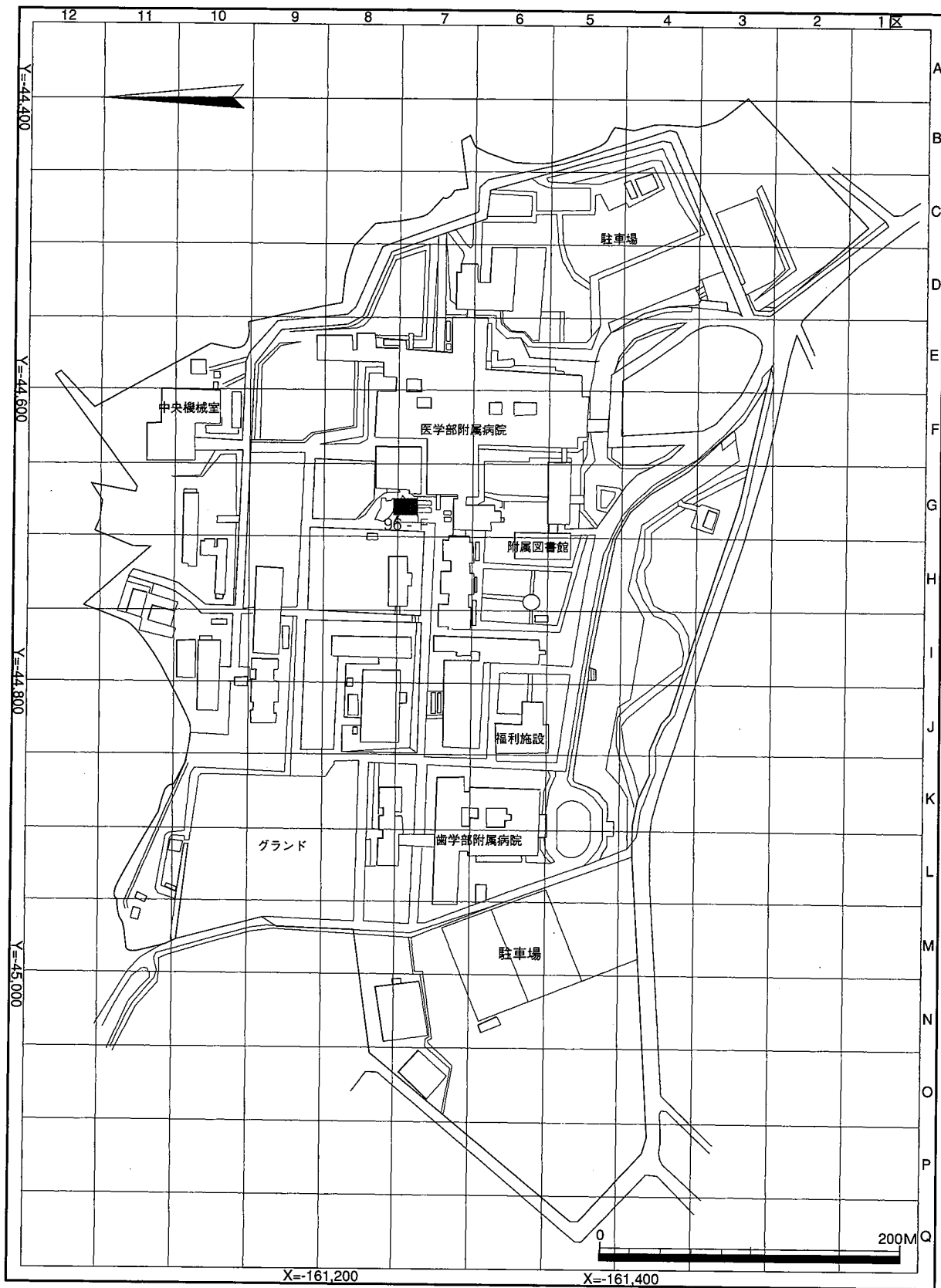


Fig.4 桜ヶ丘団地構内図 S=1/4000

2 郡元団地 C-8 区 (遺伝子実験施設建設予定地) における試掘調査

2.1 調査にいたる経過

鹿児島大学では、郡元団地内に遺伝子実験施設の建設が計画され、郡元団地の北部、RI実験施設の東側が予定地とされた¹⁾ (Fig. 3-A)。本地点の南西部のB~D-9・10区 (農学部温室改築及び実験温室、網室新設地) では昭和58・60年に試掘調査が行われた。調査の結果、中世末~近世にかけての溝や、該期の遺物が確認されている²⁾。また、本地点北西部のB-8区 (RI実験施設) では昭和61年に試掘調査が行われ、河川跡や中世以降の遺物が検出されている³⁾。B-8・9区 (課外活動施設建設予定地) では平成3年に試掘調査が行われ、ピットや土壌が確認され、各時期の遺物が出土している⁴⁾。また、本地点東部のC-6区 (遺伝子実験施設建設予定地) における試掘調査では河川跡および各時期の遺物が出土している⁵⁾。これらのことから、本地点における埋蔵文化財の包蔵が推定された。そこで、埋蔵文化財調査室では遺構および遺物包含層の有無を確認するため、試掘調査を行うことになった。

2.2 調査の体制

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
室長 上村俊雄
調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室
室長 上村俊雄
室員 大西智和・鮎川章子・新原和子
発掘調査作業員 西庄司・矢住純子・中村いつ子・横手浩二郎

2.3 調査の経過

試掘調査は、平成9年3月4日~3月11日にかけて実施した。遺伝子実験施設建設予定地内に、南北3m、東西2mのトレンチを設定した (Fig.5)。

地表下3.8mまで掘り下げたが遺構は検出されなかった。それ以下の層の掘り下げは危険と判断し中止した。層位断面図、プラント・オパール分析のためのサンプルを採取し、埋め戻しを行って調査を終了した。

2.4 層位 (Fig.6)

本調査区では1~6層の基本層位が確認できた。

- 1層 表土・カクラン土および客土をまとめて1層とした。
- 2層 におい黄褐色 (10YR5/3) を呈するシルト質土や細砂がベースとなり、それに褐灰色 (7.5YR6/1・10YR5/1) などを呈するシルト質土がブロック状に入る。粘性をやや帯びており、マンガンの浸透が見られる。1cm大程度までの黄色パミス・白色パミスを含む。
- 3a層 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈するシルト質土層で、粘性をやや帯びる。マンガンの浸透が見られ、1cm大程度までのパミスを含む。
- 3b層 におい黄褐色 (10YR5/3) を呈するシルト質土層で、粘性をやや帯びる。マンガンの浸透がわずかに見られ、1cm大程度までのパミスを含む。
- 4層 灰黄褐色 (10YR5/2)・褐灰色 (7.5YR6/1・10YR4/1) などを呈するシルト質土のブロックから構成されている。ひじょうに軟らかく、ブロックとブロックの間には隙間も見られる。5a層との境界が明らかに不連続面を呈することから、4層は客土と考えられる。
- 5a層 におい黄褐色 (10YR4/3) を呈するシルト質土~細砂層。粘性をわずかに帯び、縦方向のマンガンの浸透が著しい。部分的に灰白色 (10YR7/1) の細砂が見られる。
- 5b層 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈するシルト質土に細砂が少し混じった層。粘性をやや帯びている。マンガンの浸透が著しく、2~3cm大程度までのパミスをわずかに含む。
- 5c層 上部は褐灰色 (10YR4/1) と灰黄褐色 (10YR4/2) の中間の色調を呈するシルト質土層。粘性をやや帯びており、1cm大程度のパミスを含む。
- 5d層 灰黄褐色 (10YR4/2) を呈するシルト質土と細砂

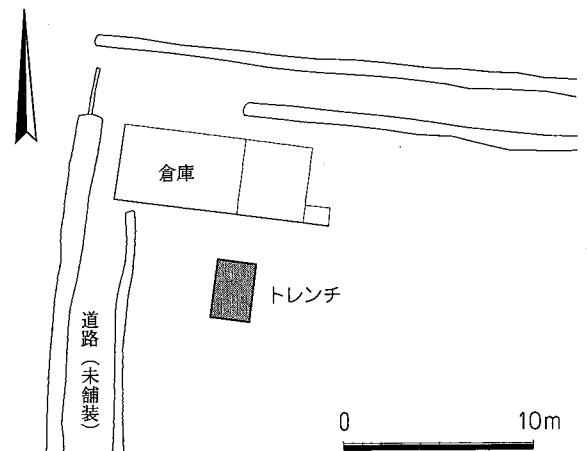


Fig.5 調査地点位置図 S = 1/400

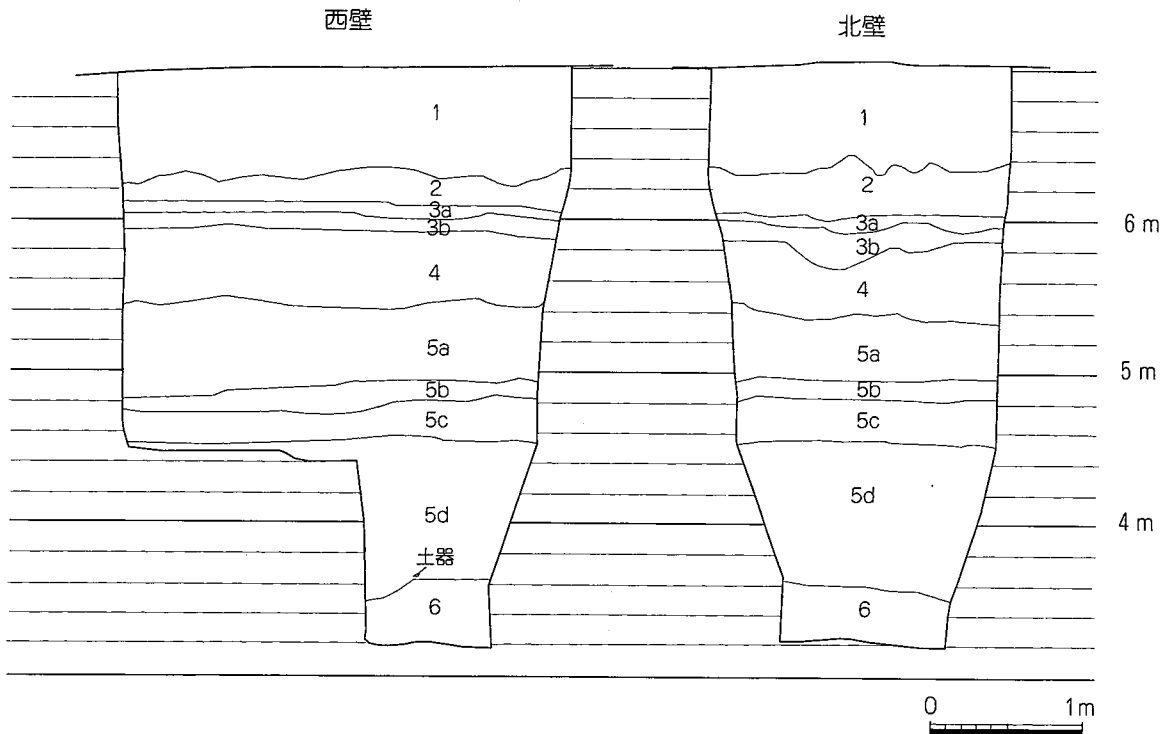


Fig. 6 層位断面図 S = 1/50

からなる。粘性をやや帯びており、2cm大程度までのパミスを含む。部分的に灰黄褐色（10YR6/2）・褐灰色（10YR4/1）を呈するシルト質土のブロックが見られる。

6層 5d層土と細砂とがベースになり、それに粗砂や2～3cm大までのパミスがブロックで含まれる。河の埋土の可能性があるので5d層と分離した。黒色を呈する泥炭のブロックが含まれる。

2.5 遺構

調査区内で遺構は確認されなかった。しかし、6層が河川の埋土の可能性もあり、付近の発掘調査で確認されているような河川の存在は否定できない。また、地表下3.8m以下は未調査であるため、以下に遺構の存在する可能性もある。

2.6 遺物

遺物は総数で約140点出土した。陶器・磁器・土器類がほとんどであるが、瓦・土錘なども見られる。

1層では、古墳時代の土器が下位の層よりも多く含まれているのが注意される。下位に古墳時代の包含層は確認されていないことから、これらの土器は、ほかの場所からもたらされた土壤中に含まれていた可能性も考えられる。

2層からは土器片15点、陶器・瓦・ガラス・磁器が各1点ずつ出土している。

3層からはガラス片が計4点、陶器・瓦各1点が出土している。3層は水田層と考えられるが、ガラスが出土していることから、水田が営まれていた時期はそれほど古くないことがわかる。

4層からは陶器が7点と瓦4点、土器片3点が出土した。

5層からは5a層で陶器12点、磁器3点、素焼き土器片3点が、5c層で陶器2点、素焼き土器片7点が、5d層で素焼き土器片6点が出土している。5層のなかでも下方に向かうにつれ磁器や陶器の出土が見られなくなることから、ある程度の時間幅が認められるようである。

6層から遺物の出土はなかった。

以下は図化が可能であった資料である。

1は1層から出土した染付の碗の口縁部小破片である。

2は5a層から出土した染付の碗の口縁部から体部にかけての小破片である。

3は薩摩焼の徳利と考えられる口縁部小破片で、5a層から出土した。口縁部の約1/4が残り、口径は3.2cmに復元できる。全面に黒釉がかけられている。

4は5a層から出土した薩摩焼の甕の口縁部小破片である。口唇部のみ無釉であるが、一部に、釉のはがれた痕跡があり、重ね焼きの跡を示すものと考えられる。

5は5a層から出土した陶器で口縁部から体部にかけて残る。器壁がひじょうに薄い。内面には播鉢にみられるような櫛目が施されている。外面には褐釉が施されて

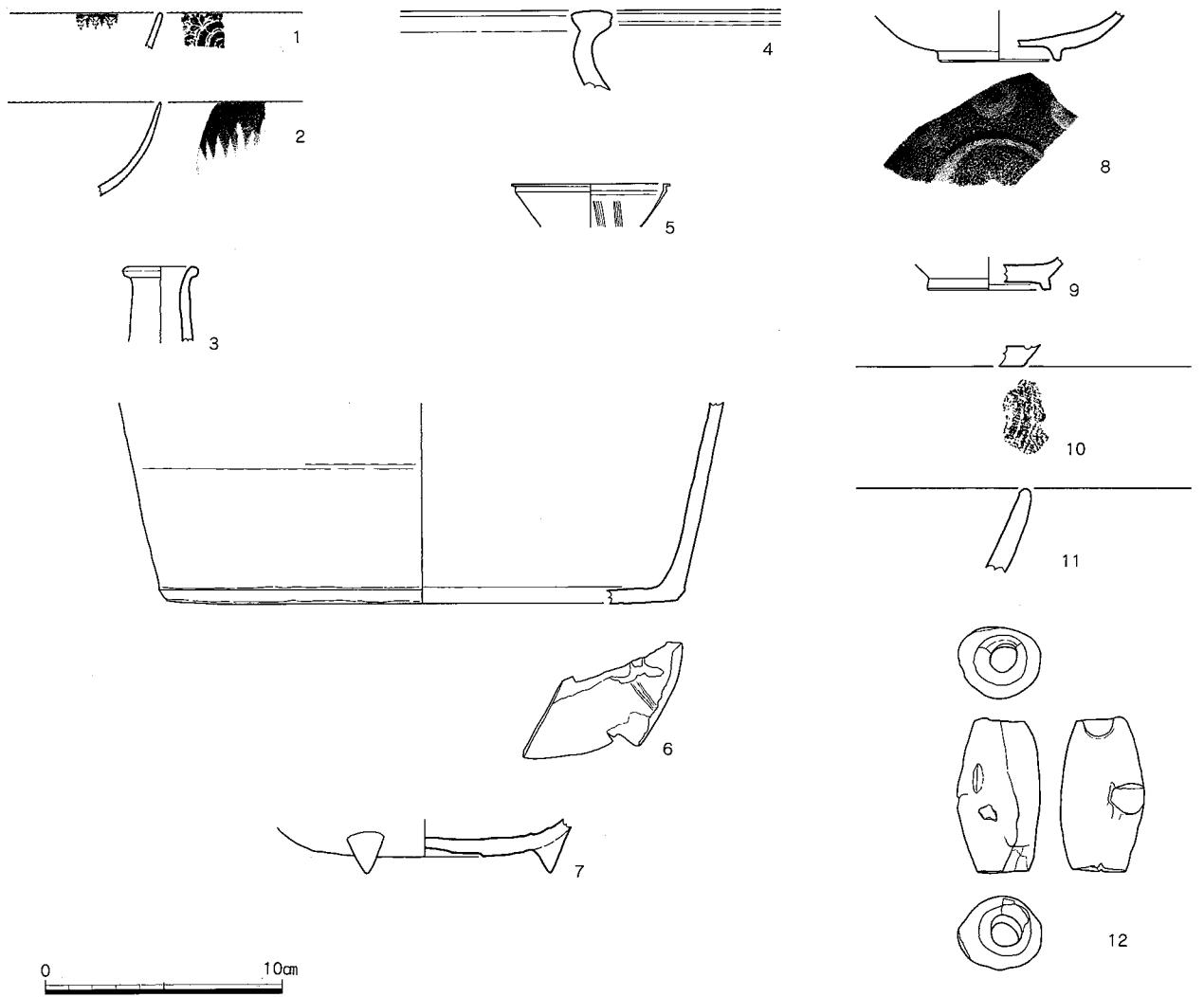


Fig. 7 出土遺物 S=1/3

いる。鳥の餌入れの可能性が考えられる。口径6.6cmを測る。

6は薩摩焼の蒸し器と考えられ、4層から出土した。しかし、底面の残存部に穿孔は見られない。底部径の約1/12が残り、径21.4cmに復元できる。底部外面以外には蕎釉が施されている。底面にはイタヤガイ科の貝によると思われる貝目が1か所残っている。

7は5a層から出土した薩摩焼の茶家の底部である。円錐形の足が1個残存している。

8は2層から出土した陶器の碗の体部から底部にかけての破片である。高台のみ無釉である。円形の文様部のみ盛り上がり、透明釉を厚く施すことによって文様としていると考えられる。内外面には貫入が認められる。

9は陶器の底部から高台にかけての破片で、5a層から出土した。高台の約1/5が残り、径5.2cmに復元できる。外面は無釉であるが、見込には黒色の釉が施され、貫入が見られる。なお、釉は厚い部分で2mmほどある。

10は土師器の底部小破片で、5d層から出土した。外面には糸切によると思われる痕跡が残っている。

11は1層から出土した「成川式」土器の高杯の口縁部小破片である。外面には、おそらく横方向のミガキが施されているが、単位などよくわからなかったため、図示していない。内外面とも赤色顔料が残っているが、内面はほとんど剥落している。

12は1層から出土した土錘である。長さ6.5cm、幅3.5cm、重さ53.81gである。一端がU字形に欠けており、断面は丸みを帯びていることから、使用の痕跡の可能性が考えられる。

2.7 まとめ

今回の調査では遺構の確認はできなかった。2層以下の残り具合は良好で、遺物の出土も見られた。

2,3層はこれまでに構内で行われた発掘調査で確認された層との比較により、水田層であったと判断できる。

Tab.2 出土遺物観察表

№	層	種別	器種	釉調・色調	胎 土	調整・文様	備 考
1	1	染付	碗	透明釉.	白色.	群青色の呉須による施文, スタンプ文.	
2	5a	染付	碗	透明釉. 細かい貫入あり.	白色.	青色の呉須による施文.	
3	5a	薩摩焼	德利	黒褐色10YR3/1.	灰白色2.5Y7/1.		口径 (3.2) cm
4	5a	薩摩焼	甕	暗オリーブ灰色2.5GY3/1.	口縁部上面: 灰赤色2.5YR5/2. 器肉: 赤灰色2.5YR5/1.	口縁部上面: 釉みき取り, 所々附着.	
5	5a	陶器	小鉢 (播鉢模造品)?	褐釉 鈍い赤褐色2.5YR4/4.		回転ナデ. 内面: 櫛目.	口径 (6.6) cm. 残存率1/4. 器壁: 薄いとこで0.6mmほど.
6	4	薩摩焼	甕	外面: 暗灰黄色2.5Y4/2に近い. 内面: まだら.	器肉・底: 灰色N5/に近い. 3mm大までの白色粒子を含む	底部以外施釉. ナデ?	外面沈線から径推定. 底径 (21.4) cm. 底部に貝目跡.
7	5a	薩摩焼	茶家	内面: 灰色5Y6/1. 不透明釉.	外面: にぶい赤褐色2.5Y5/4, 赤灰色10R6/1. 器肉: 橙色2.5YR6/6.	内面: 施釉. ナデ. 外面: 回転ナデ及びナデ.	三足になると考えられる.
8	2	陶器	碗	外面: 鈍い橙色5YR7/3. 内面: 灰黄褐色10YR4/2. 透明釉. 貫入あり.	器肉: 灰オリーブ5Y4/2.	円形の文様. 高台皿付け部分無釉.	
9	5a	陶器	碗?	黒色1.5/. 不透明釉.	褐灰色10YR6/1. 0.5mm大の白色粒子を含む.	外面: 回転ナデ.	高台径 (5.2) cm. 残存率1/5.
10	5d	土師器	皿?	外面: 黄灰色2.5Y5/1. 内面・器肉: 灰白色2.5Y8/2.	砂粒なし.	不明.	底部糸切り痕の可能性
11	1	古墳	高杯	浅黄橙色10YR8/4. 器内内側: 黄灰色2.5Y5/1. 赤色顔料: 赤色10R4/8.		外面: ミガキ? 内面口縁下: ヨコナデ.	内外面とも赤色顔料所々附着.
12	1		土錘	橙色2.5YR6/6.	3mm大までの砂粒を含む.		重量 53.81 g

出土遺物から, 水田が営まれていた時期は近代以降と考えられる。

5層は5a~5d層までほとんど色調に変化がなく, 連続した堆積と考えられること, 5層の上に4層土による埋め立てが行われ, その上に水田層が形成されていることなどから, 低湿地における自然堆積層と推定していた。プラント・オパール分析では, 水田の耕作面と推定されている。

また, 地表下3.8mで掘削を終了したため, 以下の遺構・遺物の存否は不明である。遺伝子実験施設の建設決定の際には, 以下の層に包含される埋蔵文化財の有無についてなんらかの方法で確認し, 本調査の必要性を検討する必要がある。

註

- 1) 以前に, 郡元団地 C-6区がその予定地とされ, 試掘調査が行われている。
大西智和(1997). II.1郡元団地C-6区(遺伝子実験施設建設予定地)における試掘調査. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, 11, 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- 2) 本田道輝(1987). 鹿児島大学郡元団地内遺跡(B~D・9, 10地点)―鹿児島大学農学部温室改築及び実験温室, 網室等新設に伴う試掘調査報告書―, 鹿児島大学法文学部考古学研究室.
- 3) 坪根伸也(1987). 第II部第4章鹿児島大学郡元団地B-8区における試掘調査報告. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, 2, 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- 4) 松永幸男(1992). 第I部第2章鹿児島大学郡元団地B-8・9区(課外活動施設建設予定地)における試掘調査. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, 7, 鹿児島大学埋蔵文化財調査室.
- 5) 註1文献と同じ。

3 郡元団地C-8区における植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

3.1 はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸(SiO_2)が蓄積したものであり、植物が枯れたあとにも微化石(プラント・オパール)となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている(杉山, 1987)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である(藤原・杉山, 1984)。

3.2 試料

分析試料は、C-8区の5a層から6層までの層準から採取された8点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3.3 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法(藤原, 1976)をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥(絶乾)
- 2) 試料約1gに対して直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加
(電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量)
- 3) 電気炉灰化法(550℃・6時間)による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射(300W・42kHz・10分間)による分散
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去
- 6) 封入剤(オイキット)中に分散してプレパラート作成
- 7) 検鏡・計数。

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数(機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重, 単位:10⁻³g)をかけて、単位面積で層厚1cmあた

りの植物体生産量を算出した。イネ(赤米)の換算係数は2.94, ヨシ属(ヨシ)は6.31, ススキ属(ススキ)は1.24, メダケ節は1.16, ネザサ節は0.48, クマザサ属(チシマザサ節・チマキザサ節)は0.75, ミヤコザサ節は0.30である。

3.4 分析結果

分類群

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果をTab. 3およびFig. 8に示した。主要な分類群について顕微鏡写真(PL4・5)を示す。

[イネ科]

機動細胞由来:イネ, ヨシ属, ススキ属型(ススキ属など), ウシクサ族型

穎の表皮細胞由来:イネ, オオムギ族(ムギ類)

[イネ科一タケ亜科]

機動細胞由来:メダケ節型(メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節, ヤダケ属), ネザサ節型(おもにメダケ属ネザサ節), クマザサ属型(チシマザサ節やチマキザサ節など), ミヤコザサ節型(おもにクマザサ属ミヤコザサ節), マダケ属型(マダケ属, ホウライチク属), 未分類等

[イネ科一その他]

表皮毛起源, 棒状珪酸体(おもに結合組織細胞由来), 茎部起源, 未分類等

[樹木]

ブナ科(シイ属), ブナ科(アカガシ亜属?), クスノキ科, マンサク科(イスノキ属), その他

3.5 考察

(1) 稲作跡の検討

水田跡(稲作跡)の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体が試料1gあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また、その層にイネの密度のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稲作が行われて

Tab. 3 鹿兒島大学構内遺跡C-8 区における植物珪酸体分析結果

検出密度 (単位: ×100個/g)		5a層上	5a層下	5b層	5c層	5d層上	5d層中	5d層下	6層
分類群	試料								
イネ科									
イネ		59	51	58	106	84	116	109	137
イネ籾殻(穎の表皮細胞)					7				
オオムギ族(穎の表皮細胞)								7	
ヨシ属						7	14	14	
ススキ属型		52	29		33	21	34	34	57
ウシクサ族型			51	6	13	14	14	41	36
タケ亜科									
メダケ節型				13	7	7			
ネザサ節型		15	14		20			7	
クマザサ属型		7	22	19	13	14			
ミヤコザサ節型		7	7	6	20		7	7	7
マダケ属型		7	22		7				
未分類等		15	36	26	73	21	27	27	14
その他のイネ科									
表皮毛起源		15	29	13	20	14	14	20	7
棒状珪酸体		59	116	64	259	98	178	129	108
茎部起源						7			
未分類等		355	282	231	472	336	403	414	338
樹木起源									
ブナ科(シイ属)		15	14	6	20		55	20	
ブナ科(アカガシ属?)								7	
クスノキ科		7	29	13	7	28	27	7	7
マンサク科(イスノキ属)		7	29	6	13	7	20	41	22
その他		44	22	13	40	28	20	75	7
(海綿骨針)			7						
植物珪酸体総数		665	752	474	1131	686	929	957	740

おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/n²・cm)

イネ	1.74	1.49	1.70	3.13	2.47	3.41	3.19	4.01
ヨシ属					0.44	0.86	0.86	
ススキ属型	0.64	0.36		0.41	0.26	0.42	0.42	0.71
メダケ節型			0.15	0.08	0.08			
ネザサ節型	0.07	0.07		0.10			0.03	
クマザサ属型	0.06	0.16	0.14	0.10	0.10			
ミヤコザサ節型	0.02	0.02	0.02	0.06		0.02	0.02	0.02

いた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて稲作の可能性について検討を行った。

C-8区では、5a層(試料1)から6層(試料8)までの層準について分析を行った。その結果、これらのすべての試料からイネが検出された。このうち、5c層(試料4)、5d層(試料6,7)、6層(試料8)では密度が10,000個/g以上とかなり高い値であり、5a層(試料1,2)、5b層(試料3)でも5,000個/g以上と高い値である。したがって、これらの各層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもオオムギ族(ムギ類

が含まれる)、ヒエ属型(ヒエが含まれる)、エノコログサ属型(アワが含まれる)、ジュズダマ属(ハトムギが含まれる)、オヒシバ属型(シコクビエが含まれる)、モロコシ属型などがある。このうち、本遺跡の試料からはオオムギ族が検出された。

オオムギ族(穎の表皮細胞)は、5d層下部(試料7)から検出された。ここで検出されたのは、ムギ類(コムギやオオムギなど)と見られる形態のもの(杉山・石井, 1989)である。密度は700個/gと低い値であるが、穎(籾殻)は栽培地に残されることがまれであることから、少量が検出された場合でもかなり過大に評価する必要がある。したがって、同層準の時期に調査地点もしくはその近辺でムギ類が栽培されていた可能性が考えられる。

イネ科栽培植物の中には未検討のものもあるため、未

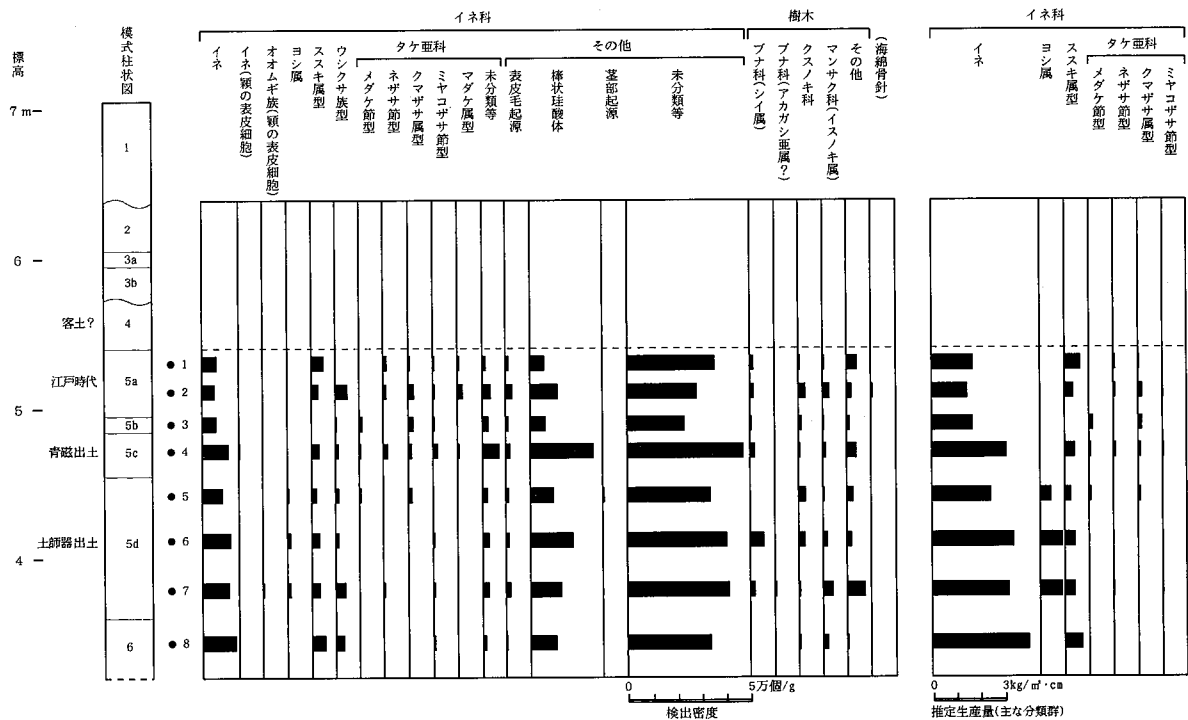


Fig. 8 鹿児島大学構内遺跡C-8区における植物珪酸体分析結果

分類等としたものの中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。

(3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

上記以外の分類群では、全体的にススキ属型やウシクサ族型などが検出され、部分的にヨシ属やネザサ節型なども検出されたが、いずれも少量である。また、ブナ科(シイ属)、クスノキ科、マンサク科(イスノキ属)などの樹木(照葉樹)も少量検出された。おもな分類群の推定生産量によると、各層準ともイネが圧倒的に卓越していることが分かる。

以上のことから、5a層から6層にかけては集約的な稲作が継続的に行われていたと考えられ、イネ科の雑草や野草はあまり見られなかったものと推定される。また、当時の遺跡周辺には、シイ属やクスノキ科、イスノキ属などの照葉樹林が分布していたものと推定される。

3.6 まとめ

分析の結果、5a層から6層までの層準では、イネの植物珪酸体はかなり多量に検出され、集約的な稲作が継続的に行われていたものと推定された。また、5d層下部ではムギ類の栽培が行われていた可能性も認められた。

参考文献

杉山真二(1987) 遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点. 植生史研究, 第2号, p.27-37.
 杉山真二・石井克己(1989) 群馬県子持村, FP直下から検出された灰化物の植物珪酸体(プラント・オパール)分析. 日本第四紀学会要旨集, 19, p.94-95.
 藤原宏志(1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)―数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法―. 考古学と自然科学, 9, p.15-29.
 藤原宏志・杉山真二(1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)―プラント・オパール分析による水田址の探査―. 考古学と自然科学, 17, p.73-85.

4 立会調査

埋蔵文化財調査室では、平成8年度に8件の立会調査を実施した。以下、各調査ごとにその結果を説明する。

96-A 総合情報処理センター建設工事に伴う立会調査 (Fig. 3-F)

埋蔵文化財調査室では、総合情報処理センター建設に伴う発掘調査を平成7年12月～平成8年3月にかけて行ったが、調査後、一部工事変更のため、調査区外に掘削工事が及ぶこととなった。そのため、掘削工事部分について立会調査を実施した。立会調査地点は、発掘調査の東側に当たる。掘削深度は地表下1.4mであった。立会調査の結果、層位は以下に説明するとおりだが、発掘調査時の層位と同様で、土器などの遺物の出土はなかった。

96-B 郡元図書館新営電気設備その他工事に伴う立会調査 (Fig. 3・9・12)

郡元キャンパス内の外灯工事に伴う立会調査は、農学部正門周辺、学生会館周辺、法文学部周辺、教育学部音楽美術科棟周辺におよんだ。

このうち、教育学部では掘削範囲がすべて表土であったため、埋蔵文化財に影響はなかった。農学部周辺では、深さ1.2～1.5mの掘削におよんだが、表土以下は水

田層と考えられる土層で、遺物などの出土はなかった。

農学部では(p～v)、表土の下に、水田層らしい灰色を基調とした層が広がっていたが、遺物などの出土はなかった。

学生会館周辺はマンホール設置部分は深さ1.4m、溝部分は深さ70cmの掘削であったが、溝部分は表土の範囲で埋蔵文化財には影響はなかった。マンホール部分では、Fig. 3-D地点でプライマリーな層まで掘削が達していたが、遺物の出土はなかった。

法文学部周辺では、法文学部講義棟南側 (Fig. 9-e～g) と北側 (Fig. 9-h～k) で古墳時代の遺物包含層にまで掘削がおよび、北側で多くの遺物が出土した。この区域は、古墳時代の住居跡が密集している部分で、住居跡埋土から多くの遺物が出土する。これらの遺物もそれに対応するものと考えられる。

出土遺物 (Fig. 15-1～25)

出土遺物は、ほとんど古墳時代後半期の土器である。いずれも一帯に広がる古墳時代の遺物包含層と同一の黒色土から出土している。

1～3は甕の口縁部である。4は胴部の突帯だが、断面は扁平でつぶれている。5～7は胴部下で、脚部との接合部で欠損している。8～12は脚台部または脚部である。8は脚台内面の天井部が少し突出している。9は低い

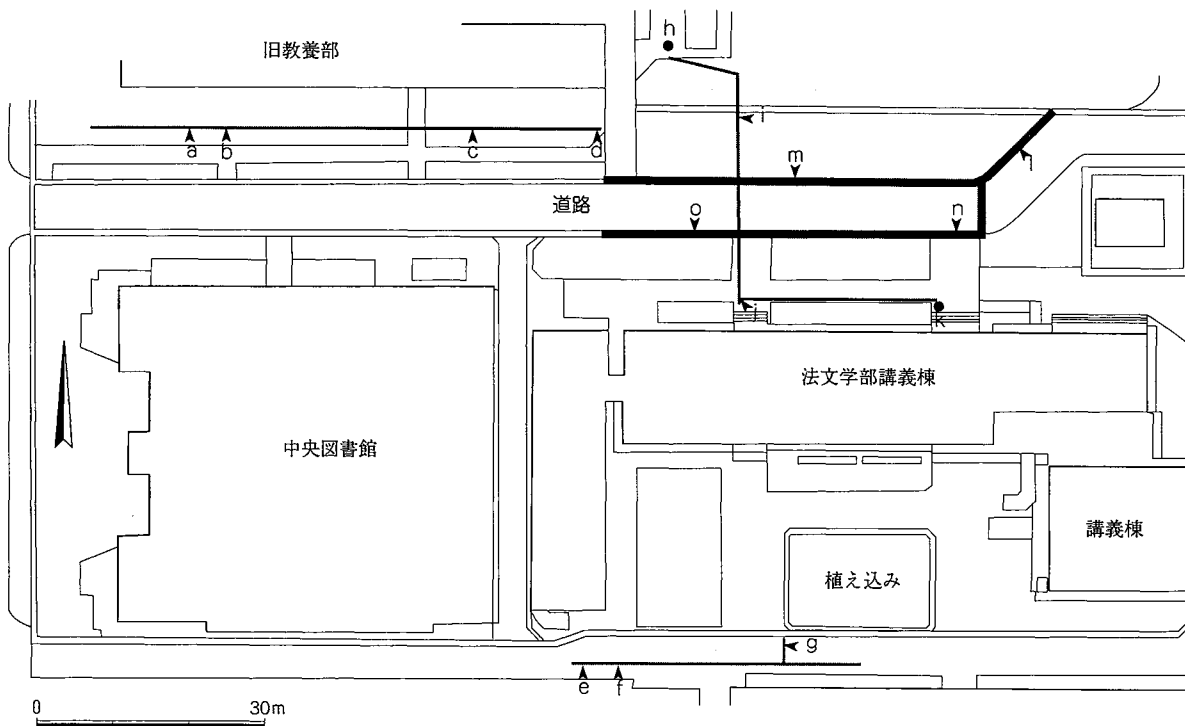


Fig.9 法文学部周辺立会調査地点 S = 1/1000

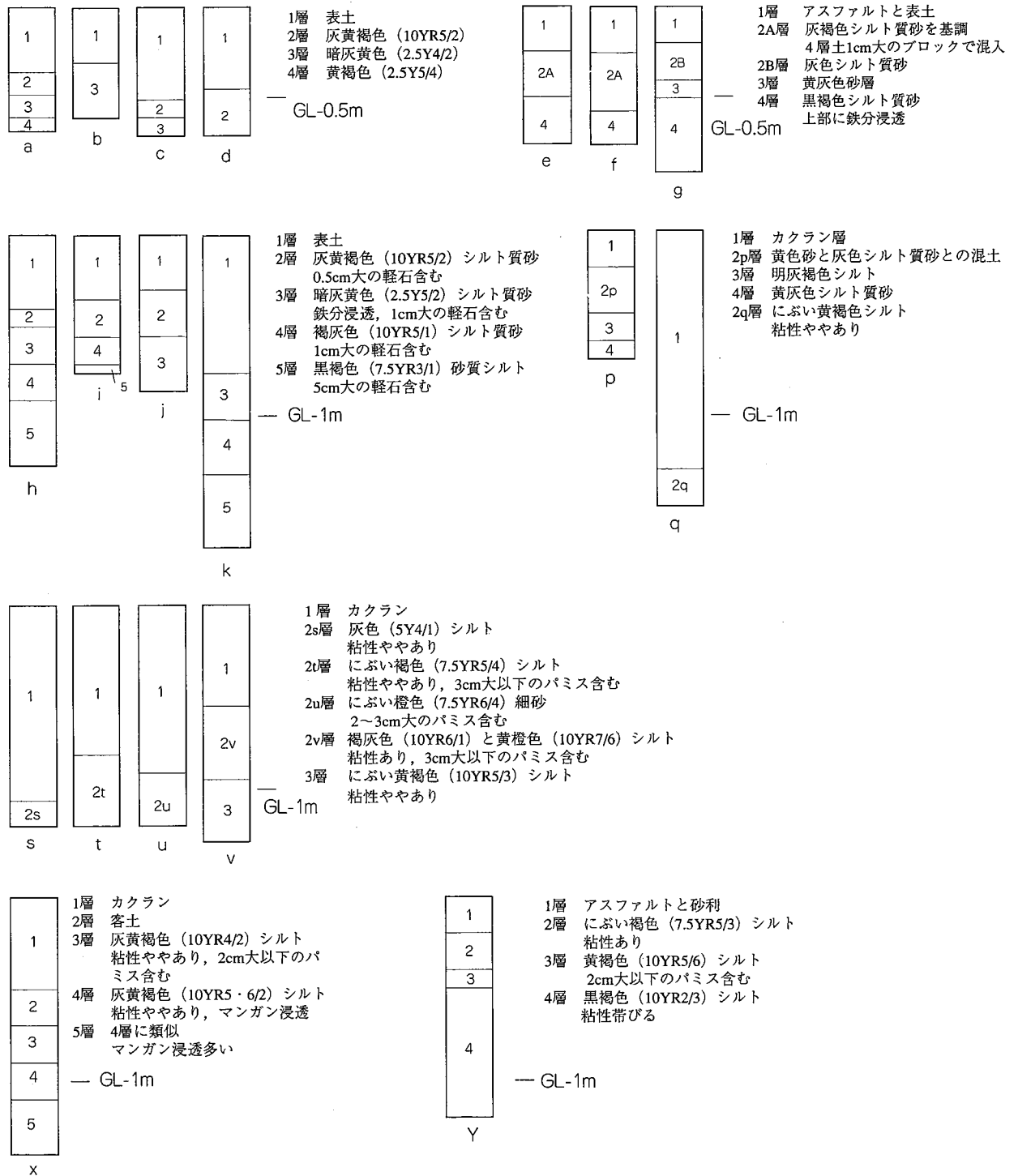


Fig.10 92-B 層位柱状図

脚台で、あるいは鉢の範疇に入るものかもしれない。

13~16は壺である。13・14は頸部だが、14には刻み目突帯が施されている。15は胴部で、断面台形状の刻み目突帯を施している。16は底部で、器壁が厚い。

17~21は高坏である。17は杯部だが、くの字に屈曲し、口縁部が外湾する形態を呈する。18~20は碗形を呈する杯部の一部である。21は脚部だが、胴部がエンタシス状に膨らむ形態を呈する。赤色顔料も施されておらず、薩摩半島でこのタイプは弥生時代終末期から古墳時

代初頭のものに多いが、他の土器が古墳時代後半期であることから、可能性は低い。古墳時代後半期のものだとすると、大隅半島にはこのような脚部が存在しているため、その系統のものである可能性が高い。

22・23は埴である。22は口縁部で、23は肩部である。

24はてづくね土器である。大きさに比べて器壁が厚く、調整も粗雑で口縁部もゆがんでいる。25は鉢ではないかと推定されるものである。口径に比べて器壁が厚く、直立する形態を呈する。

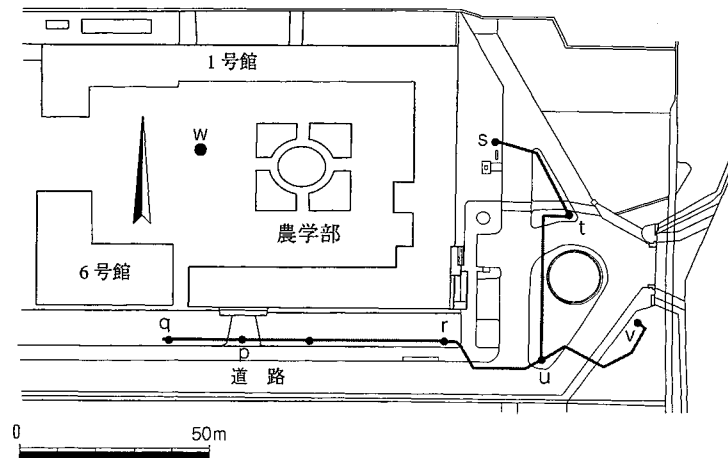


Fig. 11 農学部周辺立会調査地点 S = 1/2000

96-C 郡元団地排水溝取設工事に伴う立会調査 (Fig. 9)

調査地点は、法文学部講義棟北側 (l~o) と、農学部正門西側である。農学部では深さ約1mにわたって調査を行ったが、いずれも表土または攪乱土層の範囲で、埋蔵文化財には影響がなかった。

法文学部北側では、深さ1.2mほどを掘削したが、96-Bと同じく、古墳時代の遺物包含層に掘削が達しており、古墳時代の土器が出土した。これらの土器はほとんどが5層の上部から出土しており、住居跡に付随するというより、それらの埋土中に混ざっていたと考えられるものである。

出土遺物 (Fig. 15-26 ~ 29)

96-B 出土遺物と同じく、一帯に広がる古墳時代の包含層から出土している。26は甕の脚部である。27は壺の胴部で、一条の刻み目突帯を施している。28は高杯の脚部である。29は埴の頸部である。いずれも古墳時代後半期の土器である。

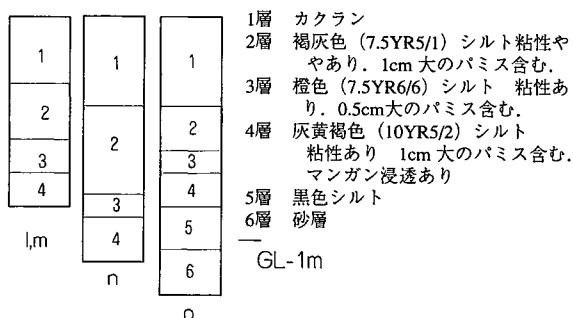


Fig. 12 92-C 層位柱状図

96-D 農学部保存植林倒木の復旧植樹に伴う掘削工事に伴う立会調査 (Fig. 3-C)

農学部では、保存植林の台風による倒木復旧工事を行った。掘削工事は1か所で、深さ90cmにおよんだが、埋蔵文化財に影響はなかった。

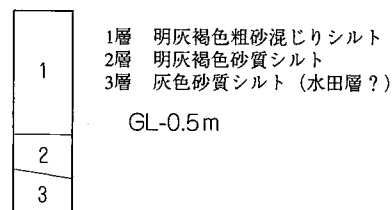


Fig. 13 92-D (w) 層位柱状図

96-E 農学部1号館中庭台風後復旧に伴う焼却物埋蔵工事に伴う立会調査 (Fig. 12-w)

立会調査地点は、南北4m、東西5m、深さ70cmにわたって掘削工事を行った。層位は3層認められたが、上2層は客土のようである。3層は農学部一帯に広がる水田層と類似しているが、遺物の出土などなく、埋蔵文化財には影響がなかった。

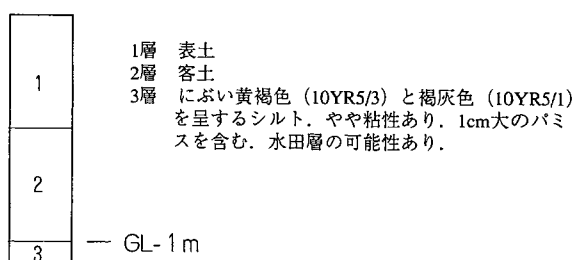


Fig. 14 92-E 層位柱状図

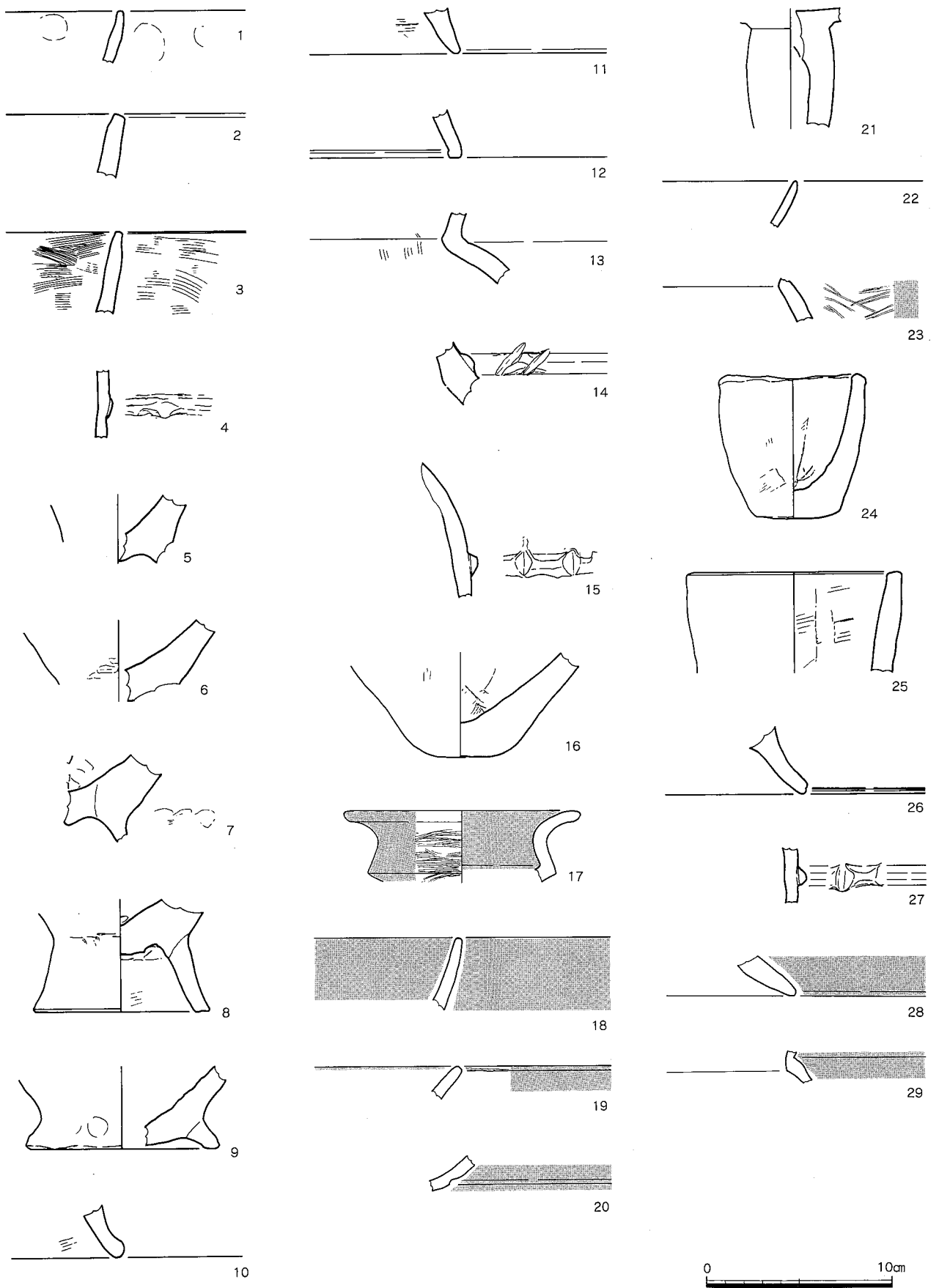


Fig.15 96-B·C出土遺物 S=1/3

Tab.4 96-B・C出土遺物観察表

No.	層	種別	器種	色 調	胎 土	調 整	備 考
1		古墳	甕	外面：(スス付着のため)オリーブ黒5Y3/1。内面：橙色5YR7/8。	粗砂粒・砂粒を多く含む。石英・カクセン石・赤色粒・白色粒。	ナデ。	外面：スス付着。
2		古墳	甕	外面：黒色10YR2/1。内面・器内：橙色10YR6/6。	粗砂粒～細砂粒を含む。白色粒・赤色粒・石英。	ナデ。	
3		古墳	甕	外面・内面：灰白色10YR8/2。器内：黄灰色2.5Y4/1。	粗砂粒を多く含む。石英・赤色粒・白色粒・黒色粒。	ハケ後ナデ。	
4		古墳	甕	外面：灰白色10YR8/2。内面：にぶい黄橙色10YR7/3。	砂粒を多く含む。石英・赤色粒・黒色粒・白色粒。	ナデ。	
5		古墳	甕	外面：灰黄色2.5Y7/2。内面：灰黄褐色10YR5/2。器内・脚台内面：にぶい橙色5YR7/4。	粗砂粒を多く含む。石英・白色粒・赤色粒。	ナデ。	
6		古墳	甕	外面・内面：灰白色10YR8/2。器内：黄灰色2.5Y4/1。	礫～砂粒を多く含む。石英・カクセン石・赤色粒。	外面：ハケ?後ナデ。内面：ナデ。	内面下部：一部剥落
7		古墳	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/2。内面：浅黄橙色7.5YR8/4。	礫～砂粒を多く含む。石英・白色粒・黒色粒。	外面：ナデ。内面：ハケ後ナデ。脚台内面：ナデ。	
8		古墳	甕	外面：橙色7.5YR7/6。内面：灰白色10YR8/2。	礫・砂粒・細砂粒を多く含む。白色粒・石英・黒曜石。	外面：ハケ?後ナデ。内面：ナデ。脚台内面：天井部ナデ。脚部ハケ後ナデ。	脚径(9.6)cm。
9		古墳	甕か鉢	外面：にぶい黄橙色10YR7/4。内面：浅黄橙色10YR8/3。器内：灰色N6/。	砂粒を多く含む。石英・赤色粒・白色粒・黒色粒。	外面・脚台内面：ナデ。内面：剥落のため不明。	内面：一部剥落。脚径(10.6)cm。
10		古墳	甕	外面・内面：浅黄色2.5Y7/3。器内：にぶい橙色7.5YR6/4。	砂粒を多く含む。白色粒・石英・赤色粒・黒色粒。	外面：ナデ。内面：ハケ後ナデ。脚端部：ヨコナデ。	
11		古墳	甕	外面・内面：にぶい黄橙色10YR6/3。器内：にぶい橙色5YR6/4。	粗砂粒・砂粒を多く含む。石英・カクセン石・白色粒・赤色粒。	外面：ナデ。内面：ハケ後ナデ。	
12		古墳	甕	橙色5YR6/6。	粗砂粒を多く含む。石英・カクセン石・赤色粒・白色粒。	ナデ。	
13		古墳	壺	外面・内面：にぶい黄橙色10YR7/3。器内：灰色5Y6/1。	細砂粒を含む。白色粒・石英。	砂粒を含む。石英・カクセン石・白色粒。	
14		古墳	壺	にぶい褐色7.5YR6/3。	礫・粗砂粒を多く含む。石英・赤色粒・カクセン石・白色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
15		古墳	壺	明褐色7.5YR7/2～にぶい橙色7.5YR6/4。	粗砂粒を多く含む。白色粒・カクセン石・石英。	粗砂粒・砂粒を多く含む。カクセン石・石英・白色粒。	
16		古墳	壺	外面：浅黄橙色10YR8/4。一部灰黄褐色10YR5/2。内面：にぶい黄橙色10YR7/3。底面：灰白色2.5Y8/2。	砂粒を多く含む。白色粒・石英・赤色粒。	外面・内面：ハケ後ナデ。底面：ナデ。	底部径(5.6)cm。
17		古墳	高杯	外面～内面屈曲部：(顔料付着のため)赤褐色2.5YR4/6。内面下部：淡黄色2.5YR8/3。器内：黄灰色2.5Y4/1。	細砂粒を含む。白色粒。	横方向のミガキ。	外面：赤色顔料付着。口径(12.8)cm。
18		古墳	高杯	外面・内面：(顔料付着のため)赤褐色2.5YR4/6。器内：灰白色10YR8/2。	細砂粒を含む。白色粒。	外面：ミガキ。内面：ナデ。	外面・内面：赤色顔料付着。
19		古墳	高杯	外面：(顔料付着のため)赤色10R4/6。内面：にぶい橙色7.5YR6/4。	細砂粒を含む。赤色粒・白色粒。	外面：ミガキ。内面：ナデ。	外面～口径部内面：赤色顔料付着。
20		古墳	高杯	外面：(顔料付着のため)にぶい橙色2.5YR4/6。内面：黄灰色2.5Y6/1。	細砂粒を含む。白色粒・赤色粒・石英。	外面：ミガキ。内面：ナデ。	外面：赤色顔料付着。
21		古墳	高杯	にぶい橙色7.5YR7/4。	砂粒・細砂粒を含む。白色粒・赤色粒。	ナデ。	
22		古墳	埴	外面・内面上部：浅黄橙色10YR8/3。内面下部：灰色N6/。	砂粒を含む。赤色粒・白色粒。	ヨコナデ。	
23		古墳	埴	外面：(顔料付着のため)明赤褐色2.5YR5/6。内面：褐灰色10YR6/1。器内：浅黄橙色10YR8/4。	細砂粒を少し含む。白色粒・赤色粒。	外面：ミガキ。内面：ナデ。	外面：赤色顔料付着。
24		古墳	てづくね	外面：橙色7.5YR6/6。(一部黒斑のため)黄灰色2.5Y4/1。内面：にぶい黄橙色10YR7/2。	粗砂粒を多く含む。白色粒・赤色粒。	外面・内面：ハケ後ナデ。底面：ナデ。	口径(8.0)cm。器高7.85～7.6cm。底部径4.5cm。
25		古墳	鉢?	浅黄橙色10YR8/3。内面一部：橙色5YR7/6。	粗砂粒を多く含む。白色粒・石英。	外面：横方向のナデ。端部：ナデ。内面：ハケ後ナデ。	口径(11.6)cm。
26		古墳	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/4。内面：橙色5YR6/6。	礫・粗砂粒を多く含む。石英・白色粒・カクセン石。	ナデ。	
27		古墳	壺	淡黄橙色10YR8/3。	砂粒・細砂粒を含む。白色粒・黒色粒・カクセン石。	ナデ。	
28		古墳	高杯	外面：(顔料付着のため)赤褐色10R5/4。内面：灰白色2.5Y8/2。	細砂粒を多く含む。カクセン石・白色粒・石英。	外面：ミガキ。内面：ナデ。	外面：赤色顔料付着。
29		古墳	埴	外面：(顔料のため)にぶい赤褐色2.5YR4/4。内面：にぶい黄橙色10YR7/4。	細砂粒を少し含む。白色粒。	外面：ミガキ。内面：ナデ。	外面：赤色顔料付着。

96-F 特高受変電設備工事に伴う立会調査

(Fig. 4)

立会調査地点は、医学部中央診療等の西側、エレベーター取設部分である。中央診療等は盛土の上に建設されており、その下の道路のレベルより20~30cm下まで客土であった。その下はシラス(AT火山灰)で、これまでの調査で、この層からの埋蔵文化財は確認されておらず、今回も出土遺物等はなかった。

96-G 教育学部樹木移植工事に伴う立会調査 (Fig. 3-H~J)

教育学部の福利厚生施設EDUCAの西側に樹木移植のため、3か所掘削した。1か所が2.5m四方の範囲で、深さ1~1.5mにわたる。いずれも客土が80cmほどである。層位は、1992年度に行った福利厚生施設建設工事にもなう発掘調査と類似している。その発掘結果から、5層が古墳時代の遺物包含層と考えられるが、遺物は地点の同層から素焼き土器の破片が一点出土している。

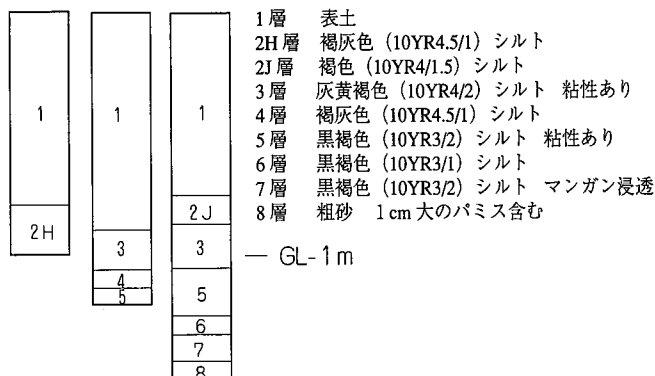


Fig. 16 92-G層位柱状図

96-H 自家給水施設9号井戸水中ポンプ取設その他工事に伴う立会調査 (Fig. 3-B)

農学部実験実習地の西端に井戸取設工事のため南北3.4m, 東西2.8m, 深さ2.2mにわたって掘削工事を行った。また、新設した井戸から手中ポンプまで幅80cm, 深さ1.4mにわたって溝状に掘削を行った。層位は全体に北から南へ傾斜している。6~9層は、河川跡の埋土と考えられ、11層は黒色の泥炭層である。この地点より南には古墳時代から弥生時代の河川跡が確認されており、その層位と類似している。平成5年度に調査を行った地域共同研究センター建設に伴う発掘調査で検出した河川跡は、流路がさらに北に広がっている可能性があり、本地点もその一部である可能性が高い。ただし、今回の調査では出土遺物は確認できなかった。

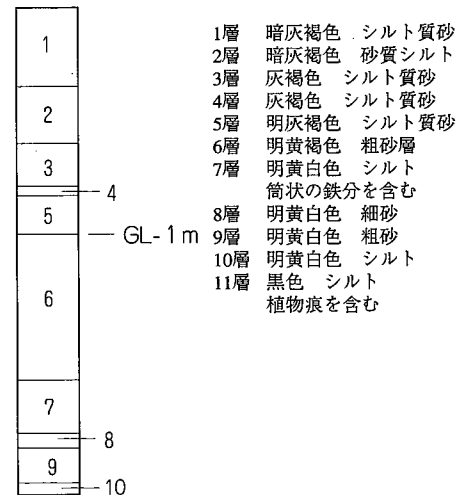


Fig. 17 92-H層位柱状図

鹿児島大学埋蔵文化財調査室要項

鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則

(設置)

第1条 本学に、鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(審議)

第2条 委員会は、本学の施設計画を円滑に行うため埋蔵文化財に関する次の事項を審議する。

(1) 基本計画の策定に関すること。

(2) 調査結果に基づく対策に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1) 学長

(2) 各学部長, 附属図書館長, 医学部附属病院長および歯学部附属病院長

(3) 事務局長

(4) 学生部長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(議事)

第5条 委員会は、委員の3分の2以上の出席をもって成立し、議事は出席委員の3分の2以上をもって決する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査委員会)

第7条 委員会は、本学の埋蔵文化財の調査を行なうため、埋蔵文化財調査委員会(以下「調査委員会」という。)を置く。

第8条 調査委員会は次の事項を審議する。

(1) 調査実施計画に関すること。

(2) 第13条に規定する調査室の室長等の選任に関すること。

(3) 第13条に規定する調査室の予算に関すること。

(4) その他埋蔵文化財及び第13条に規定する調査室の業務に関すること。

第9条 調査委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が任命する。

(1) 各学部の教授, 助教授, 講師の中から選任された者各1名

(2) 第15条2項に規定する調査室長

2 前項第1号の委員の任期は2年とし、委員に欠

員が生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第10条 調査委員会に委員長を置き、前項第1項第1号の委員の中から互選により選出する。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

第11条 調査委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。

第12条 調査委員会が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(調査室)

第13条 調査委員会に、本学の埋蔵文化財の調査に関する業務を行うための埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)を置く。

第14条 調査室は、次の業務を行なう。

(1) 調査実施計画の立案

(2) 発掘調査, 分布調査及び確認調査

(3) 調査報告書の作成

(4) その他必要な事項

第15条 調査室に、室長, 主任及びその他必要な職員を置く。

2 室長は、本学の考古学に関する教官の中から委員会が推薦し、学長が任命する。

3 室長は、調査委員会の定める方針に基づき調査室の業務を掌理する。

4 室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 主任は、調査室の職員の中から、特に埋蔵文化財に関する専門知識を有する者を調査委員会が推薦し、学長が任命する。

6 主任は、室長の命を受けて調査室の業務を処理する。

7 職員は、調査室の業務に従事する。

(その他)

第16条 埋蔵文化財に関する事務は、事務局施設部において行なう。

付 則

1 この規則は、昭和60年4月18日から施行する。

2 この規則の施行後最初に任命される委員及び室長の任期は、第9条第2項及び第15条第4項の規定にかかわらず、昭和62年3月31日までとする。

3 鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会規則(昭和51年1月22日制定)は、廃止する。

・鹿児島大学埋蔵文化財対策委員会(平成8年4月1日現在)

委員長 早坂祥三(鹿児島大学学長)
委員 石田忠彦(法文学部長)
島田俊秀(教育学部長)
堀田 満(理学部長)
田中弘充(医学部長)
吉村 望(医学部附属病院長)
笠原泰夫(歯学部長)
末田 武(歯学部附属病院長)
前田明夫(工学部長)
橋口 勉(農学部長)
茶園正明(水産学部長)
森本雅樹(教養部長)
冨田裕一郎(連合農学研究科長)
北根康志(事務局長)
辰村吉康(学生部長)
荒川 讓(附属図書館長)

・鹿児島大学埋蔵文化財調査委員会委員(平成8年4月1日現在)

委員長 大木公彦(理学部助教授)
委員 渡辺芳郎(法文学部助教授)
日隈正守(教育学部助教授)
秋山伸一(医学部教授)
山下佐英(歯学部教授)
三隅浩二(工学部教授)
松元光春(農学部助教授)
坂田泰造(水産学部助教授)
新田栄治(教養部教授)
上村俊雄(調査室長併任 法文学部教授)

鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長(併) 法文学部教授 上村俊雄
主任(併) 法文学部助手 中村直子
(併) 法文学部助手 大西智和
技術補佐員 鮎川章子
技術補佐員 三浦創一
(平成8年4月1日～平成8年5月28日)
技術補佐員 新原和子
(平成8年8月1日～)

受贈図書目録（1996年4月1日から1997年3月31日まで）

書名	発行所	書名	発行所
単行本			
古代文化叢書2 出雲国風土 記論研究 下巻	島根県古代文化センター	名古屋市博物館だより 第 110号	名古屋市博物館
鹿児島大学教養部史	鹿児島大学教養部	名古屋市博物館だより 第 111号	名古屋市博物館
逐次刊行物		名古屋市博物館だより 第 112号	名古屋市博物館
釧路市立博物館紀要 第20 輯	釧路市立博物館	名古屋市博物館だより 第 113号	名古屋市博物館
釧路市立博物館館報 No351	釧路市立博物館	研究紀要 第5号	三重県埋蔵文化財センター
釧路市立博物館館報 No352	釧路市立博物館	平成7年度 三重県埋蔵文化 財センター年報7	三重県埋蔵文化財センター
釧路市立博物館館報 No353	釧路市立博物館	三重県埋文センター通信 みえ No19	三重県埋蔵文化財センター
紀要XV（平成6年度）	（財）岩手県文化振興事業 団埋蔵文化財センター	三重県埋文センター通信 みえ No20	三重県埋蔵文化財センター
仙台市文化財パンフレット 第38集 大野田遺跡	仙台市教育委員会	三重県埋文センター通信 みえ安濃津の調査	三重県埋蔵文化財センター
歴史人類 第24号	筑波大学 歴史・人類学系	研究紀要 第5号	三重県埋蔵文化財センター
年報15 平成7年度	茨城県 財団法人 茨城県 教育財団	滋賀埋文ニュース 第193号	滋賀県埋蔵文化財センター
研究ノート 5号	茨城県 財団法人 茨城県 教育財団	滋賀埋文ニュース 第194号	滋賀県埋蔵文化財センター
歴史人類 第24号	筑波大学 歴史・人類学系	滋賀埋文ニュース 第196号	滋賀県埋蔵文化財センター
年報No13 平成6年度	君津都市文化財センター	滋賀埋文ニュース 第197号	滋賀県埋蔵文化財センター
きみさらづ第9号	君津都市文化財センター	滋賀埋文ニュース 第198号	滋賀県埋蔵文化財センター
平成6年度 市立市川考古博 物館年報 第23号	市立市川考古博物館	滋賀埋文ニュース 第199号	滋賀県埋蔵文化財センター
千葉県立房総風土記の丘だ より 第32号	千葉県立房総風土記の丘	滋賀埋文ニュース 第200号	滋賀県埋蔵文化財センター
千葉県立房総風土記の丘だ より 第33号	千葉県立房総風土記の丘	滋賀埋文ニュース 第201号	滋賀県埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター 研究論集XV	東京都埋蔵文化財センター	滋賀埋文ニュース 第202号	滋賀県埋蔵文化財センター
資料目録 8	東京都埋蔵文化財センター	滋賀埋文ニュース 第203号	滋賀県埋蔵文化財センター
年報2 平成6年度	財団法人 かながわ考古学 財団	近江出土の中世陶磁	滋賀県埋蔵文化財センター
年報3 平成7年度	財団法人 かながわ考古学 財団	京都府埋蔵文化財情報 第 59号	（財）京都府埋蔵文化財調 査研究センター
かながわの考古学	神奈川県埋蔵文化財センタ ー 財団法人 かながわ考 古学財団	第14回 小さな展覧会	財団法人 京都府埋蔵文化 財調査研究センター
神奈川県立埋蔵文化財セン ター年報14	神奈川県立埋蔵文化財セン ター	高槻市文化財年報 平成6年 度	高槻市教育委員会 高槻市 立埋蔵文化財調査センター
長野県埋蔵文化財センター 紀要4	長野県埋蔵文化財センター	枚方市文化財年報16（1994 年度分）	（財）枚方市文化財研究調 査会
長野県文化財センター年報 12	長野県埋蔵文化財センター	枚方市文化財年報17（1995 年度分）	（財）枚方市文化財研究調 査会
金沢大学考古学紀要 第23 号	金沢大学文学部考古学講座	ひらかた文化財だより第27 号	（財）枚方市文化財研究調 査会
岐阜市歴史博物館 博物館 だより No33	岐阜市歴史博物館	ひらかた文化財だより第28 号	（財）枚方市文化財研究調 査会
岐阜市歴史博物館 博物館 だよりNo34	岐阜市歴史博物館	高槻市文化財年報 平成6年 度	高槻市教育委員会 高槻市 立埋蔵文化財調査センター
岐阜市歴史博物館 博物館 だよりNo35	岐阜市歴史博物館	葦火 61号	（財）大阪市文化財協会
名古屋市博物館 研究紀要 第19巻	名古屋市博物館	葦火 62号	大阪市文化財協会
		葦火 63号	大阪市文化財協会
		葦火 64号	大阪市文化財協会
		葦火 65号	大阪市文化財協会
		葦火 66号	大阪市文化財協会
		ひょうごの遺跡 21号	兵庫県教育委員会埋蔵文化 財調査事務所

書名	発行所
ひょうごの遺跡 22号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
ひょうごの遺跡 23号	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
文化財学報	奈良大学文学部文化財学科
島根県埋蔵文化財ニュース 12号	島根県埋蔵文化財センター
島根県埋蔵文化財ニュース 13号	島根県埋蔵文化財センター
島根県埋蔵文化財ニュース 14号	島根県埋蔵文化財センター
島根県埋蔵文化財ニュース 15号	島根県埋蔵文化財センター
島根県教育庁文化財課埋蔵文化財調査センター年報Ⅳ	島根県教育委員会
八雲立つ風土記の丘研究紀要Ⅲ 御崎山古墳の研究	島根県教育委員会 島根県八雲立つ風土記の丘
しまねの古代文化 第3号 古代文化記録集	島根県古代文化センター
古代文化研究 第4号	島根県古代文化センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報 第14号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
岡山大学埋蔵文化財調査研究センター報第15号	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター
自然科学研究所研究報告第21号	岡山理科大学
草戸千軒 No234	広島県立歴史博物館
歴風 第14号	広島県立歴史民俗資料館
歴風 第15号	広島県立歴史民俗資料館
広島県立歴史博物館ニュース 第26号	広島県立歴史博物館
広島県立歴史博物館ニュース 第27号	広島県立歴史博物館
広島県立歴史博物館ニュース 第28号	広島県立歴史博物館
地域文化研究 第11号	梅光女学院大学地域文化研究所
まいぶん えひめ No24	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター
熊本大学埋蔵文化財調査室年報2—1995—年度	熊本大学埋蔵文化財調査室
大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 39	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 40	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
大分県宇佐風土記の丘歴史民俗資料館ニュース 41	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
大分市歴史資料館ニュース No34	大分市歴史資料館
大分市歴史資料館ニュース No35	大分市歴史資料館
鹿児島県文化財調査報告書第42集	鹿児島県教育委員会
平成7年度 未来を創る文化財ウォッチング活動の成果	鹿児島県教育委員会
ミュージアム知覧紀要 第2号	ミュージアム知覧

書名	発行所
南九州の城郭 第1号	南九州城郭談話会
南九州の城郭 第2号	南九州城郭談話会
鹿児島大学総合情報処理センター広報No10	鹿児島大学情報処理センター
鹿児島大学南西地域研究資料センター 第56号	鹿児島大学南西地域研究資料センター
鹿児島大学法文学部紀要 人文学科論集 第44号	鹿児島大学法文学部
南九州文化研究所叢書21 徳之島採集手帖—徳之島民俗の聞き取り資料—	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
南日本文化研究所叢書22 屋久島国有林施業案内説明書—屋久島大林区署—	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
南日本文化 第29号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
薩琉文化 第54号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
薩琉文化 第55号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
薩琉文化 第56号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
薩琉文化 第57号	鹿児島短期大学附属南日本文化研究所
川内市歴史資料館要覧	川内市歴史資料館
川内市歴史資料館年報	川内市歴史資料館
南九州の城郭 第1号	南九州城郭談話会
南九州の城郭 第2号	南九州城郭談話会
資料館だより No29	読谷村立歴史民俗資料館
沖縄県立博物館年報 No29	沖縄県立博物館
沖縄県立博物館紀要 第22号	沖縄県立博物館
沖縄県立博物館紀要 第22号	沖縄県立博物館
調査報告書	
調査年報7	北海道埋蔵文化財センター
調査年報8	北海道埋蔵文化財センター
岩崎台地遺跡群発掘調査報告書(第1分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩崎台地遺跡群発掘調査報告書(第2分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩崎台地遺跡群発掘調査報告書(第3分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
岩崎台地遺跡群発掘調査報告書(第4分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
上村遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
馬場館遺跡・小吹野遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
本内Ⅰ遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
上野々遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
柳上遺跡発掘調査報告書(第1冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
柳上遺跡発掘調査報告書(第2分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

書名	発行所	書名	発行所
柳上遺跡発掘調査報告書(第2分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	山崎遺跡	茨城県道路公社財団法人 茨城県教育財団
柳上遺跡発掘調査報告書(第3分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	馬場遺跡 行人遺跡	住宅都市整備公団つくば開発局 財団法人 茨城県教育財団
志羅山遺跡第14・25次発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	甚五郎崎遺跡 下高井向原I遺跡下高井向原遺跡	住宅とし整備工団首都圏都市開発本部 財団法人 茨城県教育財団
荒田Ⅲ・荒田Ⅳ遺跡第1次発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	上入野遺跡 青木遺跡 後側遺跡 前側遺跡	茨城県 財団法人 茨城県教育財団
大渡Ⅱ遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	木崎城跡	茨城県 財団法人 茨城県教育財団
田代Ⅳ・田代Ⅵ遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	下村田城跡	茨城県 財団法人 茨城県教育財団
本宮熊堂B遺跡第1次発掘調査報告書	盛岡市 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	右羽貝塚東遺跡 内路地台遺跡 念代遺跡平坪遺跡	茨城県 財団法人 茨城県教育財団
上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書分冊1(住居跡・住居跡内出土遺物)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	常磐新線建設工事地内埋蔵文化財調査報告書1 原, 沼崎遺跡	日本鉄道建設公団関東支社 財団法人茨城県教育財団
上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書分冊2(住居跡以外の遺構・遺構外出土遺物・まとめ)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県八日市場市 生尾遺跡	八匠水道企業団 財団法人東総文化財センター
上八木田Ⅰ遺跡発掘調査報告書分冊3(写真図版)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県八日市場市 矢摺泥炭遺跡。	千葉県八日市場市建設課 財団法人東総文化財センター
上米内遺跡発掘調査報告書(第1分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県八日市場市 矢摺泥炭遺跡I	千葉県八日市場市建設課 財団法人東総文化財センター
上米内遺跡発掘調査報告書(第2分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県八日市場市 小高遺跡	八日市場市 財団法人東総文化財センター
西田東遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	1996発掘 寺方遺跡	光町・(財)東総文化財センター
水吉Ⅳ遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	台木A遺跡	上総新研究開発土地地区画整理組合・財団法人 君津郡市文化財センター
大畑Ⅰ・大畑Ⅱ遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	山ノ下製鉄遺跡	上総新研究開発土地地区画整理組合・財団法人 君津郡市文化財センター
松屋敷遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県君津市一郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 本編	小糸川沿岸土地改良区・財団法人 君津郡市文化財センター
土場遺跡発掘調査報告書	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	千葉県君津市一郡遺跡群発掘調査報告書Ⅱ 写真図版編	小糸川沿岸土地改良区・財団法人 君津郡市文化財センター
猪川館跡遺跡発掘調査報告書(第1分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	大竹遺跡群発掘調査報告書Ⅳ	君津郡市文化財センター
猪川館跡遺跡発掘調査報告書(第2分冊)	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター	市宿横穴墓群発掘調査報告書	君津郡市文化財センター
東北大学埋蔵文化財調査年報6	東北大学埋蔵文化財調査委員会	中尾遺跡群1 石神横穴墓群, 石上古墳群, 石上遺跡	君津郡市文化財センター
東北大学埋蔵文化財調査年報7	東北大学埋蔵文化財調査委員会	泉遺跡発掘調査報告書1 高砂遺跡	君津郡市文化財センター
梶内遺跡	建設省財団法人茨城県教育財団	兔谷, 上時田, 下時田, 向台木, 台木B遺跡	君津郡市文化財センター
東山遺跡	住宅・都市整備公団つくば開発局財団法人茨城県教育財団	上の山A, B, 下根田A, B, 御所塚遺跡	君津郡市文化財センター
中台遺跡(上巻)	茨城県住宅供給公社 財団法人 茨城県教育財団	奥中谷古墳群発掘調査報告書	君津郡市文化財センター
中台遺跡(中巻)	茨城県住宅供給公社 財団法人 茨城県教育財団	大井戸八木25号墳, 大井戸八木遺跡	君津郡市文化財センター
中台遺跡(下巻)	茨城県住宅供給公社 財団法人 茨城県教育財団	谷の台遺跡 [B地点]	君津郡市文化財センター
差込遺跡	建設省財団法人 茨城県教育財団	清水沢遺跡発掘調査報告書	君津郡市文化財センター
小坂宮方遺跡	茨城県 財団法人 茨城県教育財団	南子安金井崎遺跡	君津郡市文化財センター

書名	発行所
千葉県旭市坊ノ場遺跡	旭市教育委員会 財団法人東総文化財センター
千葉県海上群海上町 蛇園猪鹿か野遺跡	財団法人 東総文化財センター
千葉県銚子市 仲有戸遺跡	財団法人 東総文化財センター
佐野原北遺跡 荒野台遺跡 粟島台遺跡	東京電力株式会社
千葉県銚子市 新農遺跡	財団法人 東総文化財センター 銚子観光開発株式会社
千葉県海上郡海上町 岩井安町遺跡	財団法人 東総文化財センター 海上町教育委員会
千葉県旭市坊ノ場遺跡	旭市教育委員会 財団法人東総文化財センター
1996発掘 寺方遺跡	光町・(財)東総文化財センター
千葉県海上群海上町 蛇園猪鹿か野遺跡	財団法人 東総文化財センター
千葉県八日市場市 小高遺跡	八日市場市 財団法人東総文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第22集 多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告3	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第23集 多摩ニュータウン遺跡	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第24集 多摩ニュータウン遺跡	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第25集 多摩ニュータウン遺跡	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第26集 多摩ニュータウン遺跡	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第27集 多摩ニュータウン遺跡	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第28集 多摩ニュータウン遺跡	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
汐留遺跡 旧汐留貨物駅跡地内遺跡発掘調査概要Ⅱ	東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査概要Ⅳ	東京都埋蔵文化財センター
尾張藩上屋敷遺跡Ⅰ	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第31集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター年報16	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
東京都埋蔵文化財センター調査報告第33集 多摩ニュータウン遺跡	東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡 先行調査報告4	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡先行調査報告5	東京都教育委員会 東京都埋蔵文化財センター
多摩ニュータウン遺跡No457遺跡	東京都埋蔵文化財センター

書名	発行所
青野原バイパス関連遺跡(第二分冊)	財団法人 かながわ考古学財団
吉岡遺跡群Ⅰ旧石器時代1	財団法人 かながわ考古学財団
吉岡遺跡群Ⅱ旧石器時代1	財団法人 かながわ考古学財団
宮ヶ瀬遺跡群Ⅵ	財団法人 かながわ考古学財団
宮ヶ瀬遺跡群Ⅶ 馬場 (No3) 遺跡	財団法人 かながわ考古学財団
宮ヶ瀬遺跡群Ⅷ 宮ヶ瀬ダム建設に伴う発掘調査	財団法人 かながわ考古学財団
池子遺跡群Ⅲ No1-C地点 池子米軍家族住宅建設にともなう発掘調査 (1)本文・付編	財団法人 かながわ考古学財団
池子遺跡群Ⅲ No1-C地点 池子米軍家族住宅建設にともなう発掘調査 (2)観察表・図版	財団法人 かながわ考古学財団
長津田遺跡群Ⅱ 長津田地区特定土地区画整理事業にともなう発掘調査	財団法人 かながわ考古学財団
本入こざつ原遺跡 県立体育館センター第1体育館改築にともなう発掘調査	財団法人 かながわ考古学財団
小南遺跡 東北久保 鳥居松遺跡	財団法人 かながわ考古学財団
海老名本郷 [X-1]	富士ゼロックス株式会社 本郷遺跡調査団
海老名本郷 [X-2]	富士ゼロックス株式会社 本郷遺跡調査団
海老名本郷 [X-3]	富士ゼロックス株式会社 本郷遺跡調査団
海老名本郷 [X-4]	富士ゼロックス株式会社 本郷遺跡調査団
海老名本郷 [X1-1]	富士ゼロックス株式会社 本郷遺跡調査団
海老名本郷 [X1-2]	富士ゼロックス株式会社 本郷遺跡調査団
海老名本郷 14	富士ゼロックス株式会社 本郷遺跡調査団
神奈川県立埋蔵文化財センター 年報15 平成7年度	神奈川県立埋蔵文化財センター
伊勢原上粕屋団地内遺跡	伊勢原上粕屋団地内遺跡調査団
神奈川県 埋蔵文化財調査報告38	神奈川県教育委員会
帝京大学山梨文化財研究所研究報告 第1~6集	帝京大学山梨文化財研究所
岡本山横穴墓 主要地方道多治見・白川線県単現道構造改築工事に伴う緊急発掘調査報告書	財団法人 岐阜県文化財保護センター
岡前遺跡	財団法人 岐阜県文化財保護センター
西乙原遺跡 勝更白山神社周辺遺跡 東海北陸自動車道建設に伴う緊急発掘調査報告書	財団法人 岐阜県文化財保護センター
下巾上遺跡 国道156号線道路拡幅工事に伴う緊急発掘調査報告書	財団法人 岐阜県文化財保護センター
牧野小山遺跡発掘調査概報	財団法人 岐阜県文化財保護センター
岐阜県吉城群宮川村 堂ノ前遺跡発掘調査報告書	岐阜県宮川村教育委員会

書名	発行所	書名	発行所
伊賀町文化財調査報告4 霊山山頂遺跡発掘調査報告	伊賀町教育委員会	京都埋蔵文化財情報 第60号	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
一般国道475線東海環状自動車道 埋蔵文化財発掘調査概報Ⅱ	三重県埋蔵文化財センター	京都府埋蔵文化財情報 第61号	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
一般国道42号松坂・多気バイパス 埋蔵文化財調査概報Ⅵ	三重県埋蔵文化財センター	京都府埋蔵文化財情報 第62号	財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財調査概報Ⅶ	三重県埋蔵文化財センター	枚方市の社寺建築	枚方市教育委員会
居敷遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	枚方市民俗文化財調査報告4 旧川越村(村野・茄子作・山之上・田宮)	枚方市教育委員会 (財)枚方市文化財研究調査会
多気遺跡発掘調査報告Ⅲ	三重県埋蔵文化財センター	東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告-1993年度-	財団法人 東大阪市文化財協会
溝端遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	若江遺跡第38次発掘調査報告	財団法人 東大阪市文化財協会
松坂城三の丸五曲口跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書 -第1冊分-	東大阪市教育委員会 財団法人 東大阪市文化財協会
大鼻遺跡	三重県埋蔵文化財センター	宮ノ下遺跡第1次発掘調査報告書 -第2冊分-	東大阪市教育委員会 財団法人 東大阪市文化財協会
多気遺跡群発掘調査報告2	三重県埋蔵文化財センター	鬼虎川遺跡26次・西ノ辻遺跡18~20次調査概要報告	大阪府教育委員会 財団法人 東大阪市文化財協会
奈可切遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	西ノ辻遺跡9次調査報告	大阪府教育委員会 財団法人 東大阪市文化財協会
伊賀国府跡第4次発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	西ノ辻遺跡22次調査報告書	大阪府教育委員会 財団法人 東大阪市文化財協会
井尻遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	西ノ辻遺跡27次・鬼虎川遺跡第33次調査報告書	財団法人 東大阪市文化財協会
曾祢崎遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	西ノ辻遺跡30次発掘調査報告	財団法人 東大阪市文化財協会
長者屋敷遺跡、峯城跡、中富田西浦遺跡	三重県埋蔵文化財センター	井ノ内稲荷塚古墳	大阪大学稲荷塚古墳発掘調査団
北野遺跡〔第5次〕発掘調査概報	三重県埋蔵文化財センター	平成7年度 (財)八尾市文化財調査研究会事業報告	財団法人 八尾市文化財調査研究会
火山遺跡、山上遺跡、良福寺跡、高寺南遺跡	三重県埋蔵文化財センター	大阪市天王寺区四天王寺旧境内内遺跡発掘調査報告Ⅰ	財団法人 大阪市文化財協会
一般国道42号松坂・多気バイパス建設地内発掘調査報告Ⅰ 明気窯跡群・大日山古墳群 甘糟遺跡・巢護遺跡	三重県埋蔵文化財センター	大阪市平野区長原遺跡発掘調査報告Ⅳ	財団法人 大阪市文化財協会
敷伝遺跡(第2次)発掘調査報告-鈴鹿市徳居町字敷伝-	三重県埋蔵文化財センター	大阪市平野区長原・瓜破遺跡発掘調査報告Ⅶ	財団法人 大阪市文化財協会
相可出張遺跡発掘調査報告-多気郡多気町相可出張-	三重県埋蔵文化財センター	古曾部、芝谷遺跡 本文編	高槻市教育委員会
一般国道42号松坂・多気バイパス建設地内発掘調査報告書Ⅱ 上ノ垣外遺跡	三重県埋蔵文化財センター	古曾部、芝谷遺跡 図版編	高槻市教育委員会
一般国道42号松坂・多気バイパス建設地内発掘調査報告書Ⅴ 朱中遺跡・朱中古墳群	三重県埋蔵文化財センター	森の宮遺跡	大阪市文化財協会
一般国道23号中勢道路 埋蔵文化財調査概報Ⅷ	三重県埋蔵文化財センター	池上曾根遺跡を掘る 100年の軌跡 みえてきた弥生都市	
岩出地区内遺跡群発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	難波宮址の研究第十一後期難波宮大極殿院地域の調査-	財団法人 大阪市文化財協会
大古曾遺跡、山籠遺跡、宮ノ前遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	平成7年度 年報	兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
古川遺跡・山口遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	水上群埋蔵文化財分布調査報告書 [3]	奈良大学 考古学研究室
石薬師東古墳群・石薬師東遺跡(第4次)発掘調査概報	三重県埋蔵文化財センター	平城京左京四条三坊十一坪発掘調査報告書	奈良大学 考古学研究室
天花寺丘陵内遺跡群発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	上淀廃寺	鳥取県淀江町教育委員会
次郎六郎東遺跡発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	百塚遺跡群Ⅴ 百塚第7遺跡3区発掘調査報告書	鳥取県淀江町教育委員会
切山瓦窯跡・浦ノ山中世墓(旧萩原裏ノ山遺跡)発掘調査報告	三重県埋蔵文化財センター	上淀廃寺	鳥取県淀江町教育委員会
		志津見ダム建設予定地内埋蔵文化財調査報告書3 門遺跡	鳥根県教育委員会

書名	発行所	書名	発行所
岡山大学構内遺跡調査研究年報13	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	福音寺地区の遺跡	松山市教育委員会
岡山大学構内遺跡発掘調査報告書第10冊 津島岡大遺跡7-第11次調査-	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	東本遺跡4次調査 枝松遺跡4次調査	松山市教育委員会
加計学園埋蔵文化財調査室発掘調査報告書1 津島東3丁目遺跡第1地点・清水谷遺跡	加計学園埋蔵文化財調査室	松山大学構内遺跡 I I 第3次調査	松山市教育委員会
広島大学文学部 帝釈峡遺跡群発掘調査室年報Ⅸ	広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室	来住廃寺 第19次調査	松山市教育委員会
広島大学文学部 帝釈峡遺跡群発掘調査室年報Ⅹ	広島大学文学部帝釈峡遺跡群発掘調査室	松山市埋蔵文化財調査年報8	松山市教育委員会
広島県立歴史博物館ニュース第29号	広島県立歴史博物館	葉左池古墳 一横穴式石室の世界一	松山市教育委員会
草戸千軒 No235	広島県立歴史博物館	来住廃寺 第19次調査	松山市教育委員会
府中市内遺跡1	府中市教育委員会	等覚寺修験道遺跡群	荇田町教育委員会
府中市内遺跡2	府中市教育委員会	金林4号墳・葛川遺跡 I I -A ~C地区	荇田町教育委員会
備後国府跡 推定地にかかる1990年度調査	府中市教育委員会	平清経塚	荇田町教育委員会
備後国府跡 推定地にかかる1991年度調査概報	府中市教育委員会	南原遺跡群A・C・H地区	荇田町教育委員会
埋もれていた府中	府中市教育委員会	新津原山古墳群	荇田町教育委員会
備後国府と太宰府；西日本の国府	府中市教育委員会	史跡整備記念 番塚古墳出土品展図録	荇田町教育委員会
海の道から中世をみる11商人たちの瀬戸内	広島県立歴史博物館	九州文化史研究所紀要	九州大学大学院比較社会文化研究科九州文化史資料室
柳瀬遺跡 奇兵隊陣屋跡	山口県教育委員会	富地原神屋崎 福岡県宗像市富地原所在遺跡の発掘調査報告	宗像市教育委員会
本郷遺跡	山口県教育委員会	熊本県本渡市文化財調査報告書第7集 菅原遺跡	熊本県本渡市教育委員会
平原遺跡	山口県教育委員会	人吉城跡Ⅶ	人吉市教育委員会
山口大学構内遺跡調査研究年報8	山口大学埋蔵文化財資料館	1995年度 中津地区遺跡群発掘調査概報 [Ⅷ] 中津市文化財調査報告 第17集 沖代地区条理跡 福島遺跡東入垣地区	中津市教育委員会
[四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告] 5日吉谷遺跡	徳島県埋蔵文化財センター	宇佐風土記の丘歴史民俗資料館年報	大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館
[四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告] 6北原~大法寺	徳島県埋蔵文化財センター	九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 [5] 机張原遺跡 女狐近世墓地 庄ノ原遺跡群	大分県教育委員会
[四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告] 7上喜来蛭子~中佐古遺跡	徳島県埋蔵文化財センター	岩崎横穴墓	大分県教育委員会
[四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告] 8古城遺跡	徳島県埋蔵文化財センター	徳瀬遺跡 日田市県営住宅改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書	大分県教育委員会
[四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告] 10柿谷遺跡 葛蒲谷西山B遺跡 山田古墳群	徳島県埋蔵文化財センター	府内城三ノ丸北口跡	大分県教育委員会
一般国道196号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	横手遺跡群	大分県教育委員会
一般国道11号重信道路埋蔵文化財発掘調査報告書 竹ノ鼻遺跡 表川東遺跡 保免遺跡	財団法人愛媛県埋蔵文化財調査センター	大分県埋蔵文化財年報4 平成6年度版	大分県教育委員会
妙見山古墳群1号墳整備概報1995~1996	愛媛県越智郡大西町教育委員会	岩崎横穴墓	大分県教育委員会
糸大谷遺跡-来島大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告書 第2集-	財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター	九州自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書 [5] 机張原遺跡 女狐近世墓地 庄ノ原遺跡群	大分県教育委員会
		北薩・伊佐地区埋蔵文化財分布調査報告書 (V)	鹿児島県教育委員会
		南薩地域の道筋	鹿児島県教育委員会
		牛之原遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター
		火ノ上山遺跡	鹿児島県立埋蔵文化財センター

書名	発行所	書名	発行所
大口市埋蔵文化財発掘調査報告書 [15] 馬場A遺跡 辻町1遺跡 辻町2遺跡	鹿児島県大口市教育委員会	上高津貝塚ふるさと歴史の広場第2回企画展 土浦の遺跡I	上高津貝塚ふるさと歴史の広場
大口市埋蔵文化財発掘調査報告書 (16) 星ヶ峰遺跡・原之後遺跡	大口市教育委員会	塩津山1号墳が語る古代の出雲	島根県教育委員会
大口市埋蔵文化財発掘調査報告書 (17) 東山遺跡・松之元遺跡・米置遺跡	大口市教育委員会	タイムスリップひがしいずも	建設省松江国道工事事務所 島根県教育委員会
大口市埋蔵文化財発掘調査報告書 (18) 並木口遺跡	大口市教育委員会	かんだの流れ 津見ダム建設予定地内の遺跡(2)	島根県教育委員会 (埋蔵文化財センター)
谷平 (VI) 遺跡—霧島ヶ丘公園造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	鹿屋市教育委員会	平成8年度考古企画展 古代の炎と器—すえきインひろしま—	広島県立歴史民俗資料館
山ノ上B遺跡—小野原町無線基地局建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	鹿屋市教育委員会	広島県立歴史博物館 第二回 新収蔵資料展	広島県立歴史博物館
木屋堀遺跡—畑地帯総合整備事業 (葭川地区) に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—	鹿屋市教育委員会	安芸国楽音寺	広島県立歴史博物館
柗原貝塚 (平成7年度調査)	垂水市教育委員会	春の企画展 海の道から中世をみる I 中世の湊町	広島県立歴史博物館
大隅町文化財調査概報 (第4集) 鳴神遺跡	大隅町教育委員会	等覚寺の松会	菊田町・菊田町教育委員会
大隅町文化財調査概報 (第5集) 宮田遺跡	大隅町教育委員会	宗像市文化財ガイドブック 宗像の歴史	宗像市教育委員会
大隅町文化財調査概報 (第6集) 炭床 I 遺跡	大隅町教育委員会	壱岐・原の辻遺跡 魏志倭人伝の世界 一支国の中心集落	長崎県教育委員会
大隅町文化財発掘調査報告書 (7) 番屋下中段遺跡	大隅町教育委員会	平成6年度秋季特別展 よみがえる古代Ⅱ—薩摩の中心・川内—	川内市歴史資料館
大隅町文化財発掘調査報告書 (8) 立馬遺跡Ⅱ	大隅町教育委員会	川内市歴史資料館資料目録 (8) 《歴史資料Ⅰ》	川内市歴史資料館
地蔵免遺跡=町民プール公園建設工事に伴う=埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿児島県曾於郡末吉町教育委員会	川内市歴史資料館資料目録 (9) 《歴史資料Ⅱ》	川内市歴史資料館
塚ヶ段遺跡=県営特殊農地保全整備事業に伴う=埋蔵文化財発掘調査報告書	鹿児島県曾於郡末吉町教育委員会	平成7年度秋季特別展 橋木 (おうてき) 資料の世界	川内市歴史資料館
保存管理計画策定報告書 知覧城跡	知覧町教育委員会	研究成果報告	
中種子町埋蔵文化財調査報告書(2) 鳥ノ峯遺跡	中種子町教育委員会 鳥ノ峯遺跡発掘調査団	激動の古代東アジア —6. 7 帝塚山考古学研究所世紀を中心に—	帝塚山考古学研究所
糸満市文化財調査報告書第12集 真栄里貝塚ほか発掘調査報告	糸満市教育委員会	古代寺院の移建と再建を考える	帝塚山考古学研究所
大木、牧原、長田の民話	読谷村立歴史民俗資料館	渡来系氏族と古代寺院	帝塚山考古学研究所
読谷村立歴史民俗資料館紀要第20号	読谷村立歴史民俗資料館	考古学における計量分析	帝塚山考古学研究所
読谷村立歴史民俗資料館紀要第21号	読谷村立歴史民俗資料館	朝鮮の古瓦を考える	帝塚山考古学研究所
部瀬名貝塚	ブセナリゾート株式会社 名護市教育委員会	第8回 考古学におけるパーソナルコンピュータ利用の現状	帝塚山考古学研究所
図録・目録		山口大学考古学：地理学オンラインミュージアム創設に関する研究	山口大学埋蔵文化財資料館
釧路市立博物館収蔵資料目録 (XVII) 昆虫標本目録(3)	釧路市立博物館	書陵部紀要第47号抜刷 (平成8年3月) 埴輪胎土に見られる砂礫種 平成六年度陵墓関係調査概要	宮内庁書陵部陵墓課
第2回 埋蔵銭の物語—出土銭から見た中世の世界—	神高津貝塚ふるさと歴史の広場	名古屋市立博物館調査研究報告「明治期博覧会出品七宝工総覧」	名古屋市博物館
		国際文化交流シンポジウム シャーマニズムと民族文化	奈良大学文学部文化財学科
		平成7年度鹿児島大学工学部 ファカルティ・デイベロップメントに関する報告書 (平成8年3月)	鹿児島大学工学部 ファカルティ・デイベロップメント委員会

付編 郡元団地H-11区 (地域共同センター建設地) における発掘調査

1 調査にいたる経過

鹿児島大学では地域共同研究センターの建設が計画され、郡元団地の西部、工学部情報工学科棟の北側がその予定地とされた(Fig. 3-K)。鹿児島大学埋蔵文化財調査室では、平成4年2月に本地点において試掘調査を行っている。調査では、河川跡などが検出され、その埋土中からは土器や木杭などが確認されたり。また、すぐ南側の工学部情報工学科建設予定地における発掘調査でも、複数の河川跡が検出され、その埋土からは土器などが多数出土している²⁾。

これらの結果をふまえ、埋蔵文化財調査室では本建設予定地において、発掘調査を実施することになった。

2 調査の体制

本発掘調査は以下の体制で行った。

調査主体者 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

調査担当 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

室長 上村俊雄

室員 大西智和・前幸男・松村みどり・中村直子・峰山

いづみ・古澤生

発掘調査作業員 池口洋人・岩戸エミ子・岩戸トシ子・岩戸ミツ子・坂元裕子・末吉ナミ・谷口テル・末吉ミヤ・野下ヨシ江・脇トシ子・脇ツルエ・野下チリ子・安倍松伊都子・寺光ミツ子・松下ミキ・谷口ノリ・末吉サチ子・石谷トキエ・新海ミチ子・横山アヤ子・野下カズ子・上床久美子・広岡寿・岩切良子・松本定幸・野頭妙子・荒田文子・松井貴子・宇崎芳子・田代佳子・花田まち子・増森博子・天目石由美子・牧之内久子・内村康子・川路代志子・松山隆夫・本坊美千代・重信乃武子・牧島知子・菅村弘子・甲斐光代・西中川泉・小八重睦子・小島早智子・村上涼子・横手浩二郎・鮎川章子・床次孝子・陣内高志・米沢英昭・松村恵子・平野美幸・趙国興

調査参加者 中村真寿美・永野明子・下村浩子・福永裕暁

3 調査の経過

調査は平成5年12月20日から平成6年4月16日にかけて実施した。まず、重機によって表土層を除去した後、調査区内の周囲に幅1mの先行トレンチを設けて掘り下

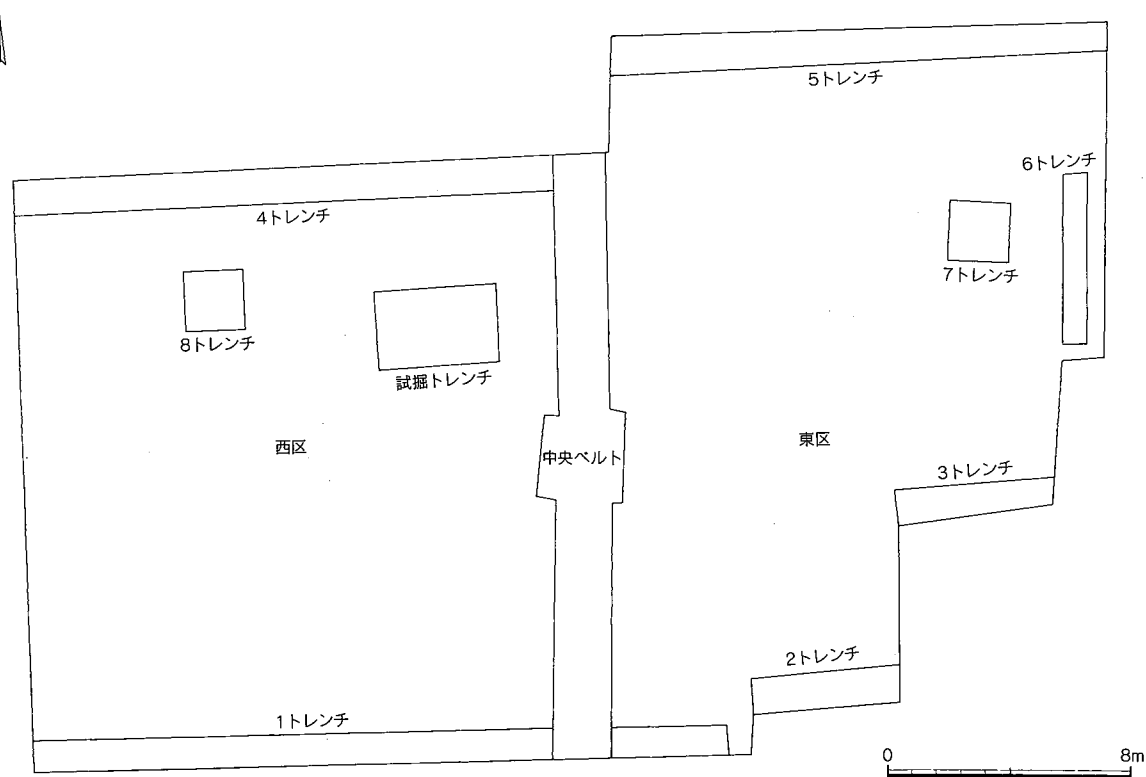


Fig.18 トレンチ配置図 S=1/250

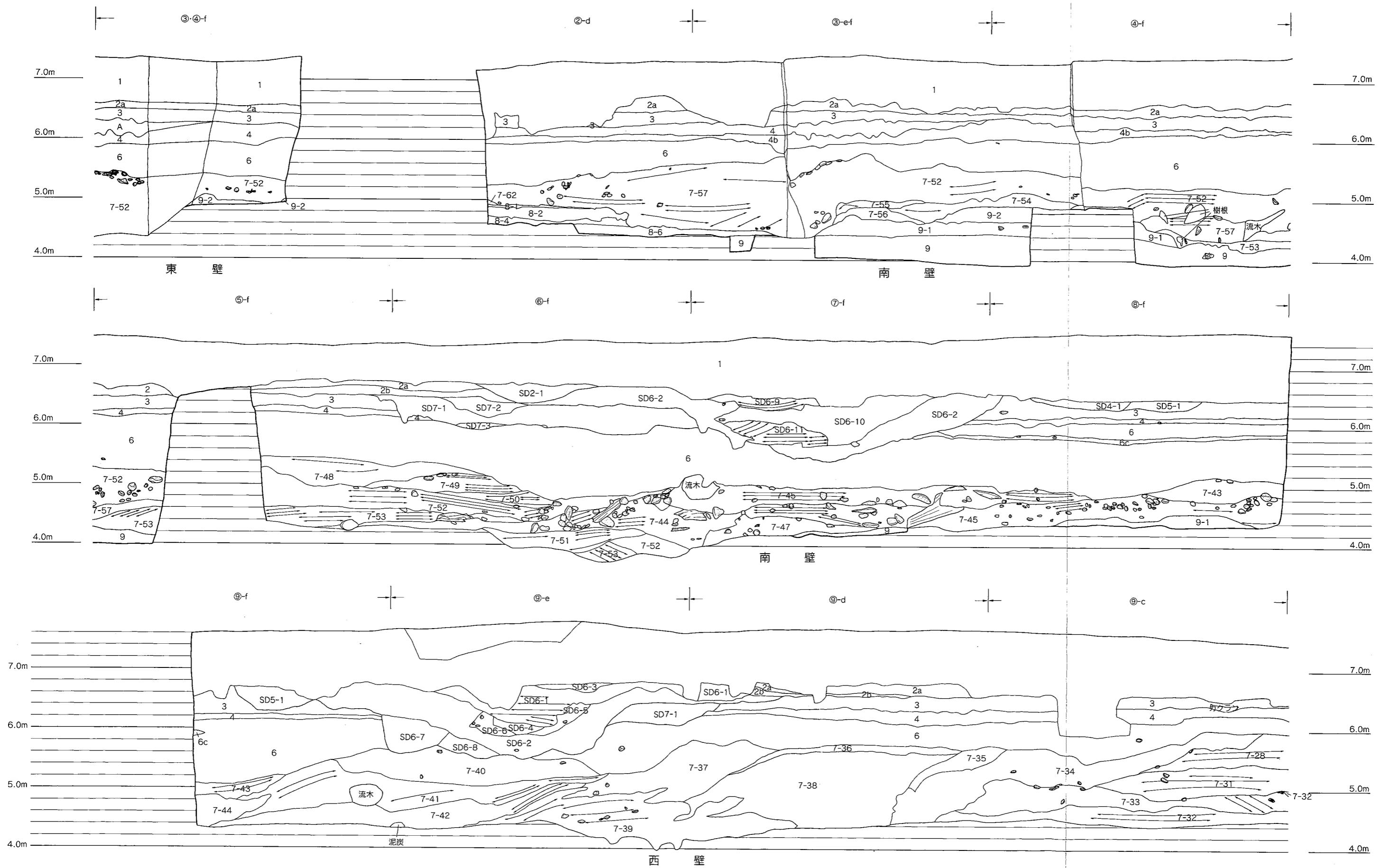
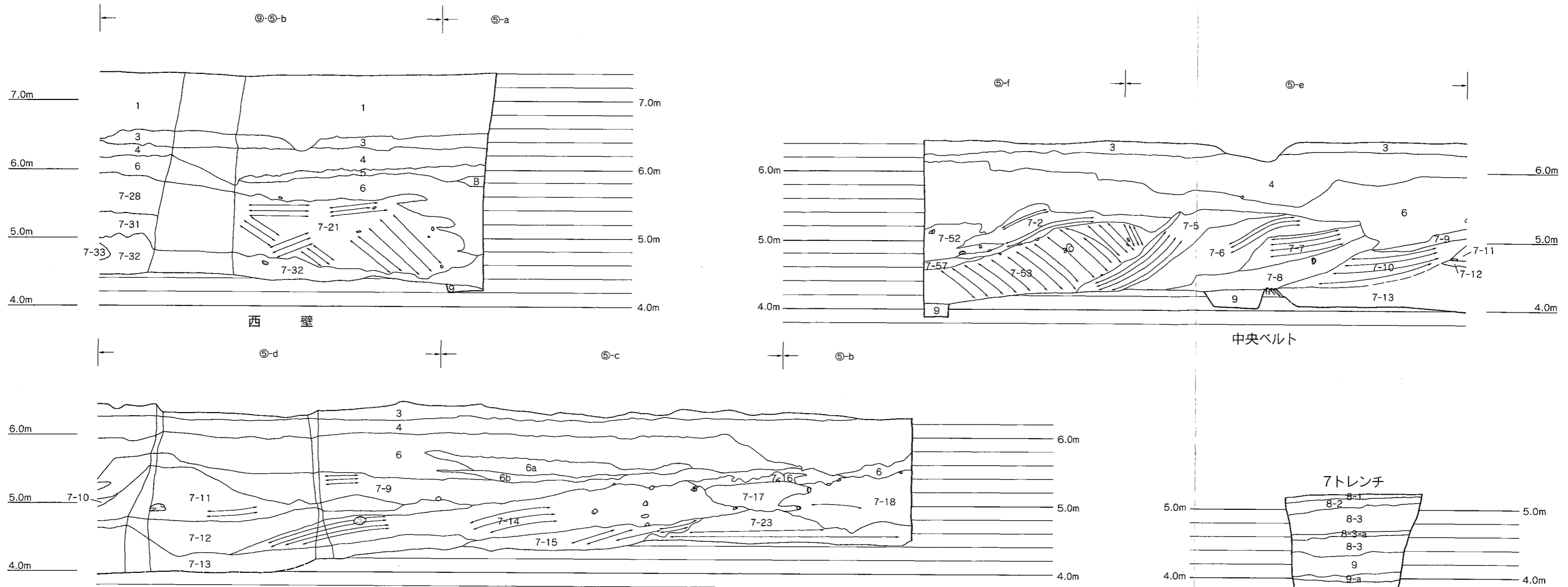


Fig.20 層位断面図(2) S=1/60



6a層 にごい黄褐色 (10YR5/3) を呈するシルト質～細砂層で粘性はあまりない。マンガンの沈着が若干認められ、パミスはほとんど見られない。

6b層 灰黄褐色 (10YR6/2) を呈するシルト質～細砂層で粘性はあまりない。パミスは含まない。

6c層 にごい黄褐色 (10YR7/3) を呈するシルト～粘土層で粘性をやや帯びる。マンガンの浸透が見られる。

7-1層 灰黄褐色 (10YR6/2) など呈する粗砂層で色調は一定していない。20 cmを越えるパミスも見られる。流木を包含する。

7-2層 灰褐色 (5YR5/2) を呈する細砂がベースとなり、一部は灰黄褐色 (10YR4/2) を呈する細砂と構状に堆積している。

7-3層 にごい黄褐色 (10YR5/3) を呈する細砂～粗砂層で5 cmまでのパミスを少量含む。

7-4層 にごい褐色 (10YR5/3) など呈する粗砂層で色調は一定していない。2 cm大のパミスを多く含む部分があり、15 cm大までのパミスも見られる。

7-5層 暗灰黄色 (2.5YR5/2) を呈する細砂～粗砂層。下方では粗砂とパミスが交互に堆積している。

7-6層 灰オリーブ色 (5Y6/2) を呈する細砂や黒褐色 (7.5YR3/2) を呈するシルト質土などが構状に堆積した層。パミスはほとんど見られない。

7-7層 灰オリーブ色 (5Y6/2) を呈する細砂や黒褐色 (7.5YR3/2) を呈するシルト質土が交互に堆積した層。7-6層に比べ黒褐色シルト質土の割合が高い。

7-8層 黒褐色 (10YR2/2) シルト質層で粘性をやや帯びている。一部にごい黄褐色 (10YR6/4) を呈する細砂が構状に入っている。10 cm大のパミスがわずかに見られる。

7-9層 褐色 (7.5YR4/1) を呈するシルト質層で粘性を帯びる。細砂をブロックで含み、3 cm大までに5 cm大のパミス若干含む。

7-10層 黒褐色 (10YR3/2) を呈するシルト質土と暗灰黄色 (2.5Y5/2) を呈する細砂などが交互に堆積している。木杭列を包含している。

7-11層 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈する細砂層がベースとなり一部灰黄褐色 (10YR4/2) を呈するシルト質土と構状に堆積している。5 mmほどのパミスと粗砂が密集する部分がある。まれに20 cm大までのパミスが見られる。

7-12層 灰黄褐色 (10YR5/2) など呈する粗砂～細砂層で色調は一定していない。3 cm大までのパミスを多く含む部分あり。流木を包含している。

7-13層 オリーブ褐色 (2.5Y4/3) を呈する粗砂などからなる層で10 cmくらいまでのパミスを含む。木杭列を包含している。

7-14層 SK3の埋土。灰白色 (10YR8/1) と褐色 (7.5YR4/6) を呈する粗砂層。1 cm大までのパミスを多く含む。泥炭のブロックが含まれている。

7-15層 赤褐色 (2.5YR)・灰黄褐色 (10YR6/2) など呈する粗砂層で色調は一定していない。1 cmくらいまでのパミスを多く含む。泥炭をブロックで包含している。

7-16層 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈する細砂層で、粘性はあまりない。5 cm大までのパミス少量含む。

7-17層 灰黄褐色 (10YR6/2) に類似した色調を呈する細砂～粗砂層。10 cm大までのパミスをわずかに含み、泥炭をブロックで包含している。

7-18層 灰白色 (10YR1/2) を呈する、やや粒子が粗い細砂層。2 mm～1 cmくらいのパミスを少量含む。

7-19層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) を呈し、泥炭層にきわめて近い土質であるが、粘性はあまり帯びていない。5 cm大のパミスを少量含む。

7-20層 灰白色 (N7) を呈する粗砂層がベースで、下部に黄褐色 (2.5Y5/6) を呈する1～5 cm大のパミスを多量に包含している。

7-21層 灰白色 (5Y7/1) を呈する粗砂などからなる層で、色調は一定していない。10 cmくらいまでのパミスが密集している部分がある。

7-22層 上部では灰白色 (5YR8/1) を呈する細砂と灰白色 (5YR8/1)～褐色 (7.5YR7/6) を呈する2～5 cm大のパミスが交互に重なっており、8 cm程度のパミスが見られる。中部は灰白色 (7.5YR8/2) を呈する粗砂と前述のパミスとが交互に重なっている。下部は粗砂とパミスが混じっており、最下部は赤褐色 (5YR4/8) を呈する1～5 mm大のパミス層である。

7-23層 上部は黒色 (10YR1/7-1) を呈する泥炭層、下部は灰黄褐色 (10YR4/2) を呈する粘質土やにごい黄褐色 (10YR7/4) を呈するシルト質・細砂・粗砂からなる層。3 cm大のパミスが密集する部分があり、シルト質の部分は粘性を帯びる。

7-24層 にごい黄褐色 (10YR6/3)・浅黄褐色 (7.5YB/3) など呈する細砂～粗砂層。パミスの一部ブロック状に含む部分があるが、その他の場所ではパミスはあまり見られない。細砂部分は6層土に類似している。上部はにごい黄褐色 (10YR7/3) を呈するよじまった細砂層。上部には灰白色 (10YR8/1) を呈する粗砂層がラミナを形成している。下部はにごい黄褐色 (10YR5/3) を呈するやや粘質を帯びた土で3 cm程度のパミス少量含む。

7-25層 灰白色 (10YR7/1) を呈する粗砂と、明黄褐色 (10YR6/6) を呈するパミスが交互に重なり、5～10 cm大のパミスを多く含む。また、部分的に7-25層と同様の細砂層がラミナを形成して入り込んでいる。下部には7-23層最下部と同様に赤褐色 (5YR4/8) のパミス層が構状に堆積している。

7-26層 にごい黄褐色 (10YR5/3) を呈する、7-25層よりやや粗くて粘性を帯びる細砂と、1～5 cm大のパミスを多量に含む粗砂層とが混在している。ところどころに鉄分の浸透が見られ、細砂層中には泥炭が部分的に混じっている。

7-27層 黒褐色 (10YR3/2) を呈するやや粘性を帯びたシルト質土などからなる層で、色調は一定していない。黄褐色 (2.5Y5/3) を呈する細砂や2～3 cm大までのパミス、泥炭などを含んでいる。

7-28層 暗褐色 (10YR3/3) などの粗砂層で、色調は一定していない。1 cm大までの礫を多く含み、1 cm大までのパミスをはじょうに多く含む。15 cm大程度までのパミスも見られる。

7-29層 7-33層のブロック。

7-30層 褐色 (10YR4/6)・灰黄褐色 (10YR5/2) など呈する粗砂、一部細砂層で色調は一定していない。下部には5 mm大までの礫が含まれる。5 mm大くらいのパミスを多く含む部分があり、5 cm大までのパミスが見られる。7-31層と類似している。

7-31層 暗褐色 (10YR3/3)・暗灰黄褐色 (2.5Y4/2) など呈する粗砂層で、色調は一定していない。1 cmくらいまでの礫を含み、10 cm大くらいまでのパミスも見られる。7-30層と類似している。

7-32層 にごい黄褐色 (10YR4/3) など呈する細砂～粗砂層で、10 cm大くらいまでのパミスを含む。流木を包含している。

7-33層 灰黄褐色 (10YR4/3) など呈する粗砂層で、2～3 cm大までのパミスを構状に含む。1 cm大までの礫を含む。

7-34層 にごい赤褐色 (5YR4/3) を呈する粗砂層で、1 cm大程度のパミスが若干見られる。

7-35層 黒褐色 (10YR3/2) を呈するシルト質層。

7-36層 暗灰黄色 (2.5Y4/2) を呈する細砂層。

7-37層 灰褐色 (7.5YR5/2) を呈する細砂層。

7-38層 にごい褐色 (7.5YR5/3) の細～粗砂層。泥炭をブロックで含む。

7-39層 褐色 (10YR6/1) と灰黄褐色 (10YR6/2) が混じったような色調を呈する粗砂層。1 cm大くらいまでの礫、10 cm大くらいまでのパミスを含む。

7-40層 にごい黄褐色 (10YR6/3) を呈する細砂～粗砂層で、10 cmくらいまでのパミスを含む。

7-41層 灰黄褐色 (10YR6/2) を呈する細砂～粗砂層。灰褐色 (5YR4/2) を呈する細砂層と交互に堆積している。流木を包含している。

7-42層 灰白色 (10YR7/1) と明黄褐色 (10YR6/6) など呈する粗砂層。3 cm大程度のパミスを構状に含む。

7-43層 灰白色 (10YR7/1) など呈する細砂～粗砂層で、10 cm大くらいまでのパミスを含む。灰黄褐色 (10YR4/2) を呈する細砂と交互に堆積している部分がある。

7-44層 にごい黄褐色 (10YR7/2) など呈する粗砂層。20 cm大くらいまでのパミスを多く含む、2 cm大くらいまでの礫を含む。

7-45層 灰白色 (10YR7/1) など呈する粗砂層。にごい黄褐色 (10YR5/3) を呈する細砂と交互に堆積している。10 cm大までのパミスを含む。

7-46層 9-1層に相当すると思われる。

7-47層 灰黄褐色 (10YR4/2) など呈する粗砂層。1 cm大までの礫を多く含む。10 cm大くらいまでのパミスを多く含む。

7-48層 にごい褐色 (7.5YR5/3) など呈する粗砂～粗砂層。3 cm大程度のパミスを含み、5 cm大くらいまでのパミスも少量見られる。黒褐色 (7.5YR3/2) を呈する細砂と交互に堆積している。

7-49層 にごい黄褐色 (10YR6/3)・灰白色 (2.5Y7/1) など呈する粗砂層。20 cm大までのパミスを含む。黒褐色 (10YR3/2) を呈する細砂～粗砂と交互に堆積している。

7-50層 灰黄褐色 (10YR6/2)・にごい黄褐色 (10YR5/3) など呈する細砂～粗砂層。黒褐色 (7.5YR3/1) の細砂層と交互に堆積している。5 mm大までのパミスからなる層を帯状に包含している。

7-51層 にごい黄褐色 (10YR7/2)・黒色 (7.5YR1.7/1)・褐色 (7.5YR4/4) など呈する粗砂層で、色調は一定していない。3 cm大くらいまでのパミス及び、3 cm大くらいまでの礫を含む。

7-52層 にごい黄褐色 (10YR7/2) など呈する粗砂層で、色調は一定していない。10 cm大くらいまでのパミスを含み、まれに20 cm大のパミスを含む。1 cm大くらいまでの礫を含み、1 cm大までのパミスを含む。

7-53層 黒褐色 (7.5YR2/2)・灰白色 (10YR8/1)・褐色 (10YR4/1) など呈する粗砂層で、色調は一定していない。ラミナの形成が著しい。

7-54層 にごい黄褐色 (10YR5/3) など呈するシルト～細砂層で、色調は一定していない。5 mmくらいまでのパミスを多く含む。パミスが密集している部分は他の部分と色調が異なっている。

7-55層 褐色 (10YR4/1) を呈するシルト質層で、粘性をやや帯びている。1 cm大までのパミスを含む。

7-56層 にごい黄褐色 (10YR5/2) など呈するシルト～細砂～粗砂層で、5 mm大くらいまでのパミスを含む。暗赤褐色 (5YR3/2) を呈するシルト質層と交互に堆積している。

7-57層 灰黄褐色 (10YR6/2) など呈する粗砂層で、色調は一定していない。5 mm大くらいまでの礫を含む。1 cm大までのパミスが密集する部分があり、10 cm大くらいまでのパミスも見られる。

7-58層 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈する細砂混じりシルト質層。5 mm大までのパミスと粗砂をブロックで含む。

7-59層 にごい黄褐色 (10YR5/3) など呈する粗砂層。2 cm大くらいまでのパミス帯状に含む。

7-60層 にごい褐色 (7.5YR5/3) など呈する細砂～粗砂層。3 cm大くらいまでのパミスが密集する部分も見られる。

8-1層 黄褐色 (2.5Y5/3) を呈する粘質が強い粘土層。鉄分の浸透が見られる。

8-2層 黒色 (N2) を呈する泥炭層。鉄分の浸透が全体に見られる。R1の層になっている。

8-3層 暗灰黄色 (2.5Y5/2) を呈する細砂層で、2～3 cm大のパミスを多量に含む。

8-3a層 灰黄褐色 (10YR6/2) を呈する細砂層。

8-4層 灰黄色 (2.5Y6/2) を呈する細砂と8-3層と同様のパミスを多量に含む層とが交互に重なっている。最下部に黄褐色 (10YR5/8) を呈する2～5 mm大のパミスを多量に含む粗砂層が見られる。

8-5層 8-2層と同様の泥炭層に、褐色 (10YR4/1) を呈するやや粘性を帯びた細砂層が混じる。R1の層に相当する。

8-6層 黒褐色 (7.5YR3/2) を呈するやや粘質を帯びるシルト質層。D層と同様の灰黄色 (2.5Y) の砂層が混入している。黒色を呈する泥炭層をブロックで含む。

9-1層 9層に類似するが、間に9-2層を挟むことから区別できる。9層よりもやや明るい黒色を呈する。色調は黒色 (7.5YR1.7/1) を呈し、粘性を帯びる。

9-2層 黒褐色 (7.5YR3/2) を呈する泥炭層で粘性を帯びる。にごい褐色 (7.5YR5/3) など呈するシルト～細砂層を構状に含んでいる。

9-a層 黒褐色 (5YR2/1) を呈する泥炭層で粘性は小さい。

A層 褐色 (7.5YR4/4) を呈するシルト質～細砂～粗砂層。5 mm大くらいまでのパミス少量含む。水田状遺構の埋土。

B層 黒褐色 (7.5YR3/1)～灰黄褐色 (10YR4/2) を呈する細砂シルト層。シルト質の部分は粘性を帯びる。パミスはほとんど含まれない。

B-1層 6層と同様の細砂層。

C層 黒褐色 (7.5YR3/2) を呈するシルト質層。粘性は帯びない。3 mm～3 cm大のパミスを多く含む。下部はにごい黄褐色 (10YR7/3) を呈する。

D層 R1の埋土。灰黄色 (2.5Y) を呈する細 (粗) 砂が主で、褐色 (7.5YR7/6) を呈する細 (粗) 砂も見られる。6層よりもやや粗く、2 mm～1 cm大のパミス少量含む。また東側は5～10 cm大のパミスを多量に含んでいる。

SD2-1層 にごい褐色 (7.5YR5/3) など呈するシルト～粗砂層で、色調は一定していない。5 cm大までのパミスと5 mm大くらいまでの礫を含む。

SD4-1層 灰褐色 (7.5YR5/2) など呈するシルト質層。5 mm大までのパミスを含む。

SD5-1層 にごい赤褐色 (5YR4/4)・灰褐色 (7.5YR6/2) など呈する細砂～粗砂層。1 cm大までのパミスを含む。

SD6-1層 黄褐色 (10YR6/2) など呈するシルト～粗砂層。3 cm大までのパミスが若干見られる。

SD6-2層 灰褐色 (10YR5/2) など呈するシルト質層。

SD6-3層 褐色 (7.5YR4/3) など呈する粗砂～細砂層で、色調は一定していない。3 cm大くらいまでのパミスを含む。

SD6-4層 にごい黄褐色 (10YR5/3) など呈する粗砂層で、色調は一定していない。3 cm大くらいまでのパミスを含む。

SD6-5層 にごい褐色 (7.5YR5/4) など呈する粗砂～粗砂層で、色調は一定していない。10 cm大くらいまでのパミスを含む。

SD6-6層 灰黄褐色 (10YR5/2) など呈する粗砂層。1 cm大までのパミスを多く含む、まれに10 cm大くらいまでのものも見られる。

SD6-7層 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈するシルト質層。1 cm大くらいまでのパミス、5 mm大の礫を含む。

SD6-8層 灰黄褐色 (10YR4/2) を呈するシルト質層。3 cm大くらいまでのパミスを含む。

SD6-9層 にごい黄褐色 (10YR4/3) など呈するシルト質～細砂～粗砂層。1 cm大くらいまでの礫を含む。

SD6-10層 にごい黄褐色 (10YR5/3) のシルト質～粗砂層。3 cm大程度までのパミス少量含む。

SD6-11層 褐色 (10YR4/4) などの細砂～粗砂層。10 cm大くらいまでのパミスを構状に含む部分がある。

SD7-1層 にごい褐色 (7.5YR5/3) を呈するシルト～粗砂層。マンガンの浸透が見られる。

SD7-2層 灰黄褐色 (10YR6/2)・明赤褐色 (5YR5/6) など呈するシルト～細砂～粗砂層。2 cm大までのパミスを含む。

SD7-3層 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈する粗砂混じりシルト質層で粘性は帯びていない。3 cm大までのパミスを含む。

Fig.21 層断面図(3) S=1/60

げた (Fig. 18 1~5トレンチ)。上部には水田層や遺物包含層が存在し、その上面で溝状遺構を確認した。その下には細砂層が広がり、さらにその下には粗砂層が堆積し、粗砂層中からは遺物が比較的多く出土した。これは河川の埋土であると考えられることから、調査区のほぼ全域が河川跡 (RI1) であるという見通しを得ることができた。また、河川跡の底は泥炭層であることがわかった。

調査区の東半分を泥炭層の上面まで掘り下げた結果、北東部隅においてRI1の肩を切っている河川跡 (RI2) を検出した。さらに、河川跡 (RI1・2) の肩を形成している細砂・粗砂層 (8層) も河川跡の埋土であると判断できたため、この埋土を有する河川跡をRI3とした。

調査区東側の調査により、2層の水田層から6層の細砂層までは、ほとんど遺物が含まれていないことが確認でき、調査区の西半分についてはSD2~7を調査した後、重機を用いて6層の細砂層までを除去した。

河川跡 (RI1) の埋土を掘り下げる過程で多くの木杭を検出した。また、RI1の底には4つの大型の土坑があり、そのうちの1つ (SK3) からは組合せ式の木製鋤が出土した。

河川跡を完掘した後、3か所のトレンチ (Fig. 18 6~8トレンチ) を設定して、遺物包含層の有無を確認したが、遺物は出土しなかったため、以下の掘り下げは行わ

なかった。木杭列の実測、調査区壁面および層位観察用ベルトの断面実測を行い、調査を終了した。

4 層位 (Fig. 19・20・21)

ここでは基本的な層位についてのみ説明を行う。

- 1層 表土層、カクランなどをまとめて1層とした。
- 2a層 におい褐色 (7.5YR5/3) を呈するシルト質層。0.5~1cm大のパミスを含み、マンガンの浸透が見られる。粘性をやや帯びている。
- 2b層 灰褐色 (7.5YR5/2) を呈するシルト質層。0.5~1cm大のパミスを含み、0.5cm大までの礫を少量含んでいる。マンガンの浸透はあまり見られない。2a層よりも少し暗い色調を呈し、粘性をやや帯びている。
- 3層 黄褐色 (10YR5/6)・灰黄褐色 (10YR6/2) を呈するシルト質層。0.5~1cm大くらいまでのパミスを含み、マンガンの浸透が見られる。粘性をやや帯びている。
- 4層 褐灰色 (10YR6/1) を呈するシルト質層。マンガンの浸透が見られ、粘性を帯びた、緻密で固い層である。
- 5層 灰黄褐色 (10YR6/2)・におい黄褐色 (10YR5/3)などを呈する細砂~粗砂層。1cm大までのパミスを含む。
- 6層 褐色 (7.5YR4/3) を呈する細砂層。パミスなどはほ



Fig.22 2~4層検出遺構全図 S = 1/250

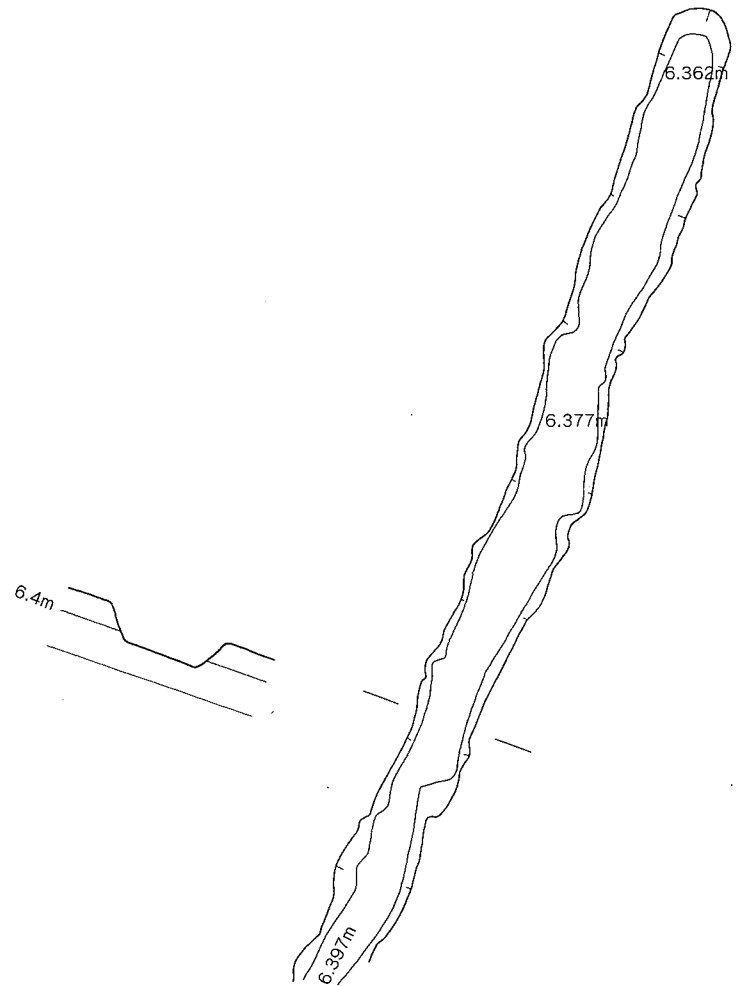
とんど見られない。マンガンの浸透が見られる部分もある。河川の氾濫によってもたらされ堆積したと考えられる。

7層 粗砂層で、河川跡(RI1)の埋土である。

8層 河川跡(RI1・2)の肩になっている層で、調査区北東部で検出された。上部は泥炭層、下部は細砂～粗砂層。下部については河川跡(RI3)の埋土である。

9層 黒褐色(7.5YR1.7/1)を呈する泥炭層で、大部分において河川跡の底面は9層である。トレンチ内から遺物の出土は確認できなかった。

10層 灰色(7.5YR4/1)を呈する粗砂層。10cm大くらいまでのパミスを含む。地山の層に相当する。トレンチ内から遺物の出土は確認できなかった。



5 遺構と遺構出土の遺物³⁾

(1) 溝状遺構 (Fig. 22)

SD1 (Fig. 23)

調査区のやや東よりの3層上面で検出され、方向は北東-南西向きである。長さ約14mにわたって確認することができ、幅約0.6m、深さ約0.2mを測る。底面のレベルを比較すると、北東部の方が南西部よりも12cmほど低くなっている。しかし、SD1の両端は切れており、深さも浅いことから、溝として機能していなかった可能性も残る。埋土からは青磁や磁器などが出土した。

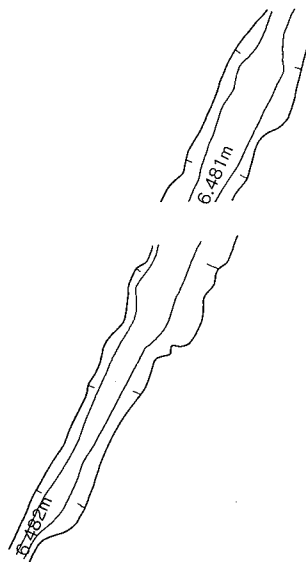


Fig.23 SD1 S=1/60

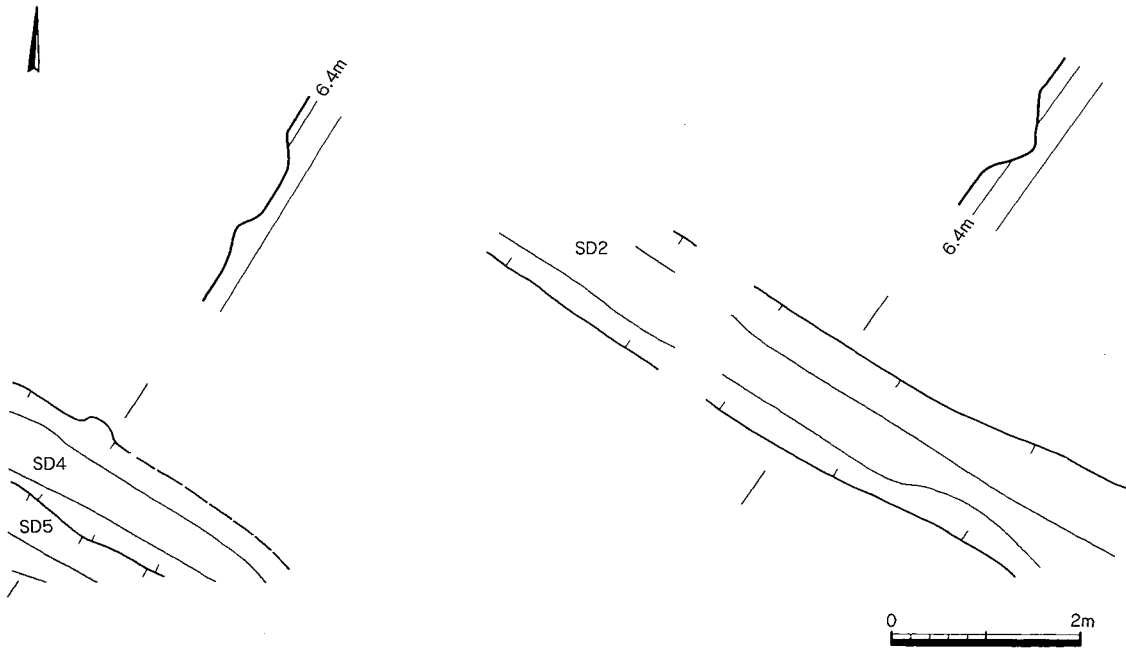


Fig.24 SD2・4・5 S=1/80

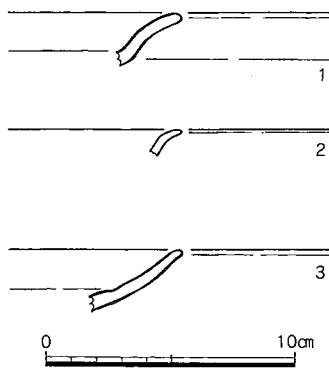


Fig.25 SD1・2出土遺物 S=1/3

出土遺物 (Fig. 25)

1は青磁で、下方に屈曲部が見られることから、皿であると考えられる。2も青磁で口縁端部付近で外方に屈曲している。小皿であると考えられる。1・2とも内外面に貫入が見られる。

SD2 (Fig. 24)

調査区の南西隅に位置し、北西-南東向きである。2a層とSD6を切っている。幅約1.3m、深さ約0.3mを測る。

遺物は白磁1点が出土している。

出土遺物 (Fig. 25)

3は白磁の皿で、体部下方の内面に屈曲が見られる。

SD3

調査区の南西隅で検出したが、掘り下げの結果、SD6の埋土の一部であることが判明したため、SD6に含めた。

SD4 (Fig. 24)

調査区の南西隅に位置し、北西-南東向きである。3層とSD5を切っている。幅約1m、深さは約0.15mを測る。遺物は出土していない。

SD5 (Fig. 24)

調査区の南西隅に位置し、北西-南東向きである。3層を切っているが、SD4に切られている。残存部の幅は約1m、深さ約0.4mを測る。遺物は出土していない。

SD6 (Fig. 26)

調査区の南西隅で検出され、北西-南東向きである。3層とSD7を切っている。断面の形態は緩やかなU字状を呈し、幅は最大部で約5.4m、深さはもっとも深いところで約1.2mを測る。溝の中央部の埋土は粗砂、両端部は

Tab.5 SD1・2 遺物観察表

No	層	種別	器種	釉調	色調	調整	備考
1	SD1	青磁	皿	釉調：明オリーブ灰色5GY7/1・透明釉・貫入あり。	磁胎：灰白色・ぶい黄橙色10YR7/2（下部）。		
2	SD1	青磁	小皿	釉調：灰色7.5Y6/1・半透明釉・貫入あり。	磁胎：灰白色。		
3	SD2	白磁	椀	釉調：灰白色5Y7/1透明釉。	磁胎：灰白色。	回転ナデ。	

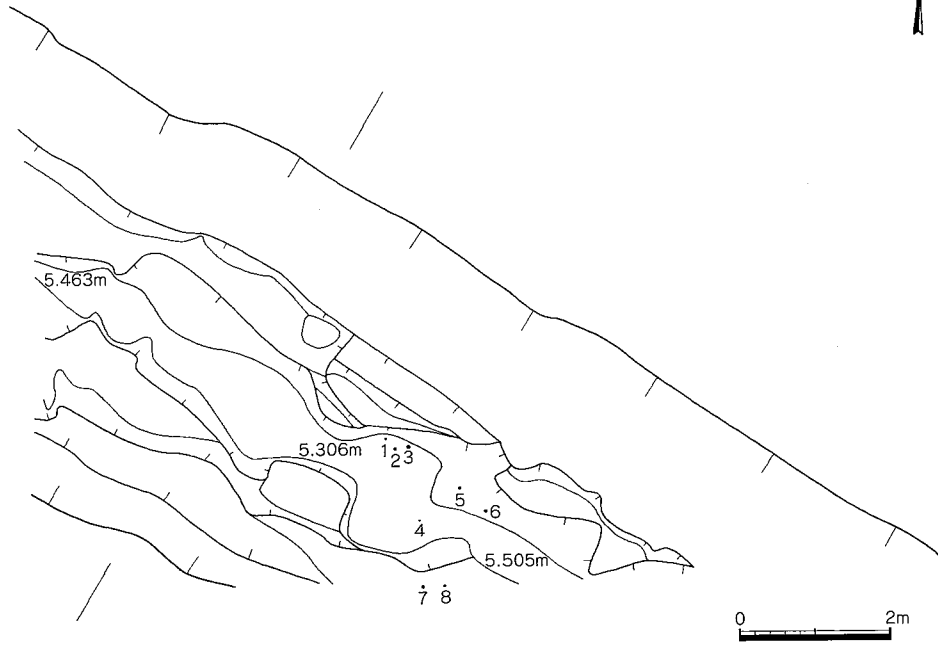
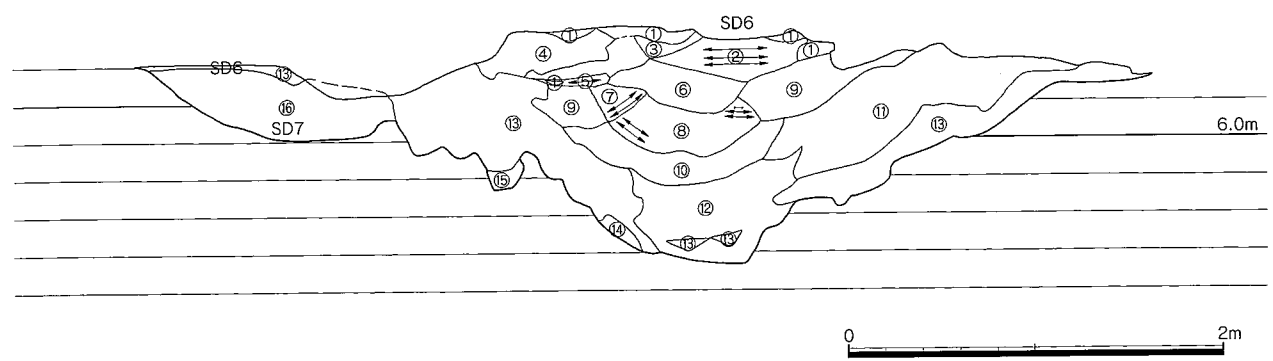


Fig.26 SD6 S=1/100



SD6・7層位

- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧
- ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧

- ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯
- ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯

Fig.27 SD6・7埋土 S=1/40

シルトからなる (Fig. 27)。粗砂ではラミナの形成が観察できた。埋土中から縄文時代～近代の土器などが出土した。

SD6の底から木杭およびその痕跡が8か所で確認された (Fig. 26-1~8)。木杭の直径は2~5cm, 確認できた木杭跡7・8の深さについてはそれぞれ, 32cm・19cmであった。木杭跡の断面を見ると先端は尖っている。木杭の直径も小さいことから, 直接打ち込まれたものと考えられる。木杭の痕跡の並びは水の流れと平行するもの, 直交するもの両者が認められる。

出土遺物 (Fig. 28・29)

4は縄文時代晩期の深鉢である。口縁部直下の突帯に

は指頭による大きな刻みが施されている。

5は弥生土器の甕の口縁部から胴部の破片である。口唇部は面を有し, 口縁部上面はやや窪んでいる。口縁部内面側の上方は突出しており, 胴部には絡縄突帯が3条施されている。6・7は甕の口縁部小破片で, 口唇部に窪みが見られる。6の口縁部上面はやや窪んでいる。7の口縁部は断面形が長方形に近く, かなり突出している。また, 口縁部内面もわずかに突出している。8・9は壺の口縁部小破片で, 口唇部は窪んでいる。9の口縁部上面には貼付け文が施されている。10は壺の胴部破片である。突帯にはハケ工具による刻み目が施されている。

11は土師器の椀と考えられる口縁部小破片である。

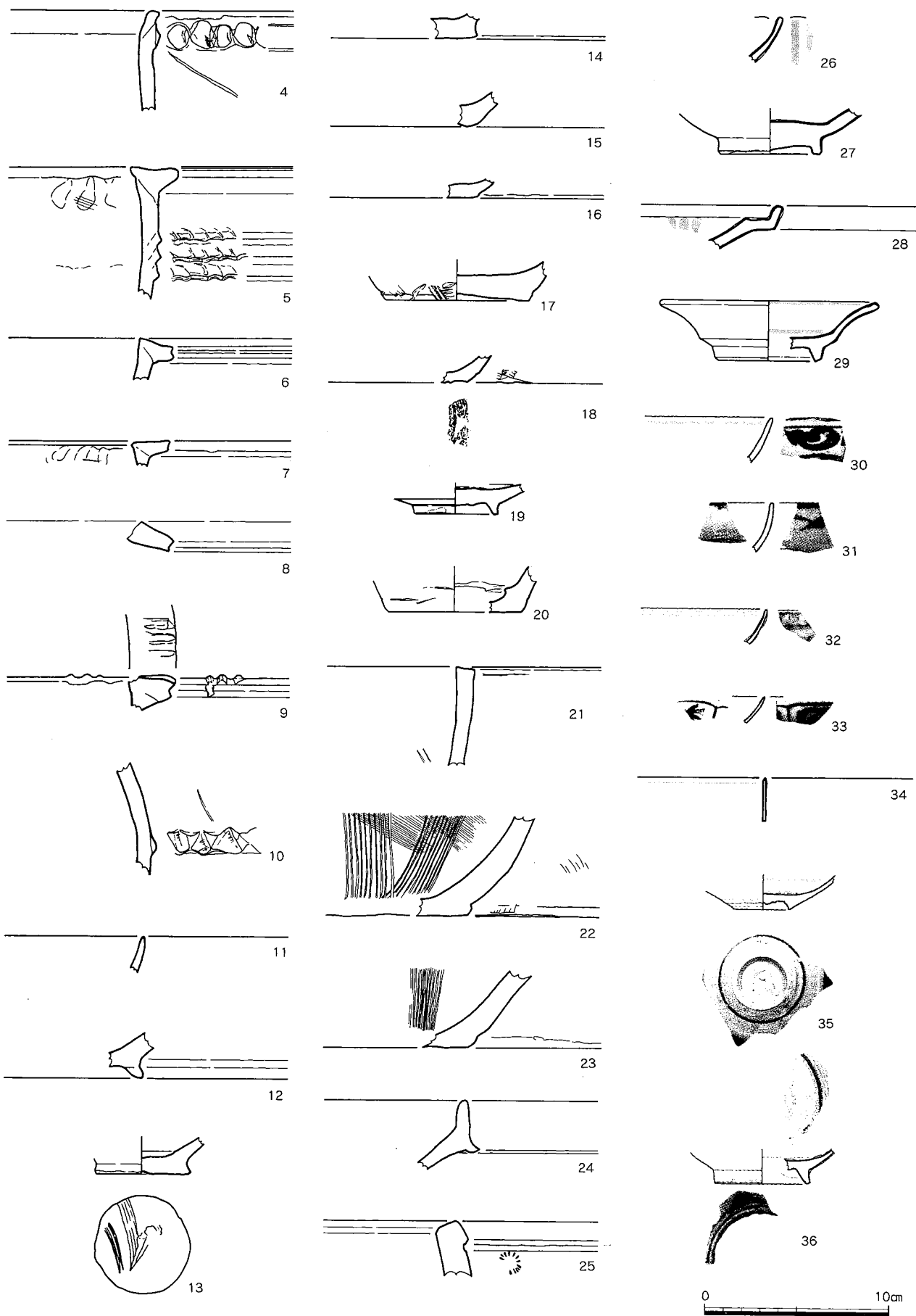


Fig.28 SD6 出土遺物(1) S=1/3

Tab.6 SD6 出土遺物観察表(1)

No	層	種別	器種	色調・釉調	胎土	調整	備考
4	SD6	縄文	深鉢	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：灰褐色10YR5/1。	砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒・角閃石。	ナデ	
5	SD6	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2～褐灰色10YR5/2。内面：黄灰色2.5Y4/1。	砂粒を含む。透明粒・黒色粒・軽石・赤茶色の粒。	口縁部上面～外面突部上：ヨコナデ。内面：ナデ。	
6	SD6	弥生	甕	口縁部上面～外面：7.5YR4/2。内面：橙色2.5YR6/6。器肉：にぶい橙色7.5YR7/4。	礫少し・砂粒を含む。透明粒。	ヨコナデ。外面口縁下：ナデ。	
7	SD6	弥生	甕	口縁部上面：にぶい橙色7.5YR7/4。内外面：にぶい赤褐色5YR5/4。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒。	ヨコナデ。	
8	SD6	弥生	壺	上面：にぶい褐色7.5YR5/3。下面：にぶい褐色7.5YR5/4。	粗砂粒・粗砂粒を含む。軽石・金色の雲母・白色粒。	ナデ。	
9	SD6	弥生	壺	口縁部上面～内面：にぶい橙色7.5YR7/4。口縁部下面：灰黄褐色10YR5/2。	粗砂粒・砂粒をやや含む。透明粒・角閃石。	ナデ?	
10	SD6	弥生か古墳	壺	外面：にぶい黄褐色10YR6/3。鈍い橙色7.5YR7/4。	砂粒を含む。角閃石・黒色粒。	ナデ	
11	SD6	土師器	椀	鈍い橙色7.5YR7/4。	微砂粒を含む。	ナデ?	
12	SD6	土師器	椀	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。内面：灰黄褐色10YR6/2。	砂粒少し・細砂粒を含む。黒色粒・透明粒。	外面：ヨコナデ・ナデ。内面：ナデ?。	
13	SD6	土師器	杯	外面：浅黄褐色10YR8/3。内面：浅黄褐色10YR8/4。	砂粒をわずかに含む。軽石・赤茶色の粒。	内面：回転ナデ。外底部：ナデ・工具痕。	底径5.1cm。
14	SD6	土師器	杯	外面：灰白色10YR8/2。内面：浅黄褐色10YR8/3。	微砂粒をわずかに含む。	ナデ?	磨滅している。
15	SD6	土師器	杯	浅黄褐色7.5YR8/4。	微砂粒を含む。赤茶色の粒。礫。	ナデ?	磨滅している
16	SD6	土師器	皿	浅黄褐色10YR8/3。	微砂粒を含む。	ナデ?	やや磨滅している。
17	SD6	土師器	杯	浅黄褐色10YR8/3。鉄分等附着のため詳細は不明。	微砂粒をわずかに含む。	外面：ハケのちナデ?。内面：ナデ?。底面：糸切り。	底径(8)cm。
18	SD6	土師器	杯か皿	外面：にぶい黄褐色10YR7/4。内面：浅黄褐色10YR8/4。	砂粒を含む。茶色の粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。外底部：糸切り。	
19	SD6	陶器	椀	にぶい黄褐色10YR7/3。釉調：白色不透明釉。	微砂粒を含む。黒色粒。	内面：回転ナデ・見込み部分は無釉。高台内：削り出し高台・無釉。	内外面：1条ずつ圏線。底径4.7cm。
20	SD6	瓦器か陶器		外面：にぶい褐色5YR6/3。外底部：にぶい黄褐色10YR5/3。内面：灰色5Y5/1。	粗砂粒を含む。白色粒が多い。	ヨコナデ。外面・底面：ヘラ状工具痕残る。	
21	SD6	陶器か瓦質	擂鉢?	オリーブ灰色2.5GY6/1。	微細な白い粒を含む。	内外面上部：ヨコナデ。下部：ナデ。	
22	SD6	瓦質	擂鉢	内外面：灰色N4/・灰色5Y6/1。器肉：灰白色2.5Y8/1(外)。灰色N4/(中)		外面：ハケのちナデ。内面：ハケ状の痕跡。	
23	SD6	陶質	擂鉢	外面：にぶい赤褐色5YR5/3。外底部：褐灰色5YR5/1。内面：黄灰色2.5YR5/1。	粗砂粒・砂粒を含む。白色粒。	外面：ヨコナデ。底面：ナデ。内面：ナデ・カキメ。	
24	SD6	陶器	擂鉢	内外面：橙色2.5YR6/6。器肉：灰色N4/・にぶい橙色7.5YR6/4。	粗砂粒・砂粒を含む。白色粒が多い。	ヨコナデ。	
25	SD6	瓦器	火鉢	黄灰色2.5Y5/1。にぶい黄褐色10YR7/3(上部)。	細砂粒をわずかに含む。赤茶色の粒。	ヨコナデ。	
26	SD6	青磁	椀	釉調：明オリーブ灰色5GY7/1・半透明釉。磁胎：白色。		細連弁文。	
27	SD6	青磁	椀	釉調：明オリーブ灰色5GY7/1・半透明釉・貫入あり。磁胎：灰白色。		高台量付け部・高台内：釉ふき取り。	底径(5.4)cm。
28	SD6	青磁	盤	釉調：緑灰色7.5GY6/1・半透明釉・貫入あり。磁胎：灰白色。		内面：連弁文。	
29	SD6	青磁	皿	釉調：オリーブ灰色5GY6/1・透明釉・貫入あり。磁胎：灰色。		内面：口唇部下と見込み部分に圏線あり。	底径(5.1)cm。
30	SD6	染付	椀か皿	釉調：透明釉。大きめの貫入あり。磁胎：白色。		暗青灰色の呉須による文様。	
31	SD6	染付	椀か皿	釉調：灰白色7.5Y7/2・半透明釉。磁胎：白色。		緑灰色の呉須による文様・圏線。口唇部：鉄釉。	
32	SD6	染付	椀か皿	釉調：透明釉。磁胎：白色。		明るい青色の呉須による文様・圏線。	
33	SD6	染付	椀か皿	釉調：無色透明釉。磁胎：白色。		紺色の呉須による文様。	
34	SD6	染付	椀か皿	釉調：無色透明釉。磁胎：白色。		うすい青色の呉須による圏線。	傾き不明。
35	SD6	染付	椀か皿	釉調：透明釉。磁胎：灰白色。	微砂粒をわずかに含む。	うすい青色の呉須による文様・圏線。内面見込みと外底部：無釉。	底径2.8cm。
36	SD6	染付	椀か皿	釉調：灰白2.5GY8/1・透明釉・貫入あり。磁胎：黄みを帯びた灰白色。	微砂粒を含む。	内面：見込み部分蛇の目状に釉ふき取り。高台量付けから高台内：無釉・一部釉垂れ。	底径5.2cm。

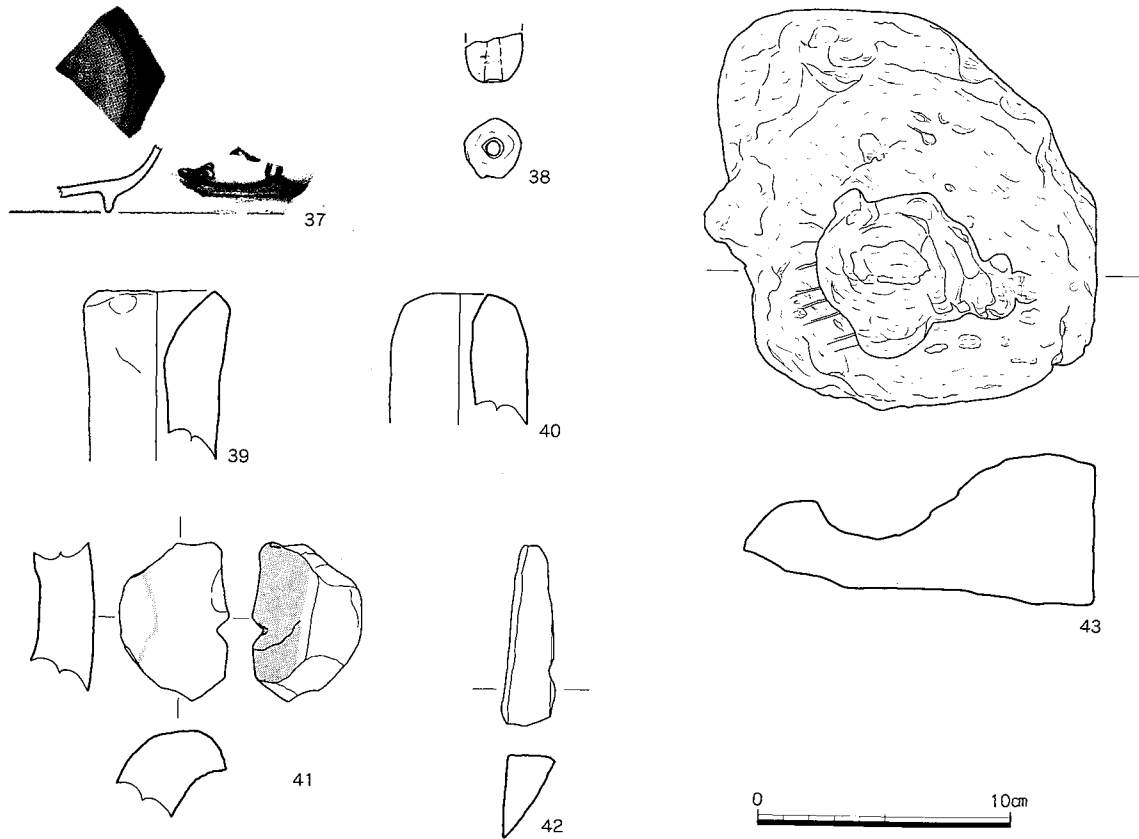


Fig.29 SD6 出土遺物 (2) S = 1/3

Tab.7 SD6 出土遺物観察表 (2)

No	層	種別	器種	釉調・色調	胎 土	調整・文様	備考
37	SD6	染付	碗	釉調：明青灰色半透明釉。 磁胎：白色。		紺色の呉須による文様。 高台 豊付け以外施釉。	
38	SD6		土錘	にぶい褐7.5YR5/3.	微砂粒を含む。		重量：9.36g.
39	SD6		碗の羽 口	外面・器内：：灰白2.5Y8/1～灰 黄2.5Y7/2・一部灰色。 内面：にぶい 褐7.5YR6/4.	砂粒・微砂粒を含む。	ナデ。	口径（4.4）cm.
40	SD6		碗の羽 口	外面：灰色N4/・暗灰色N3/。 内面・器内：灰 白2.5Y8/1～灰黄2.5Y7/2・一部灰色。 割れ口 付近一部にぶい橙色7.5YR7/4.	微砂粒を含む。		外面：ガラス質の 付着物あり。
41	SD6		碗の羽 口	褐灰色10YR5/1. 浅黄色2.5Y7/3. 一部褐灰 色5YR5/1.	粗砂粒（軽石）を含む。		緑や白のガラス質 の付着物あり。
42	SD6	石器	砥石	使用面：黄灰色2.5Y6/1～5/1. 自然面：灰黄 褐10YR6/2.			石材：砂岩。 重 量：40.23g
43	SD6	軽石加 工品？					石材：軽石。 重 量：375.5g.

12は土師器碗の高台部破片である。13は土師器の杯あるいは碗と考えられ、底面には工具痕が残る。14・15は土師器の杯、16は土師器の皿と考えられる。17は土師器の杯と考えられ、底面には糸切りの痕跡が残る。18は土師器の皿または杯と考えられ、底面に糸切りの痕跡が残る。

19は陶器の碗で、内外面に圈線が見られる。見込みと高台内部は無釉であるが、高台内部にはまだらに釉が見

られる。20は瓦器あるいは陶器と考えられる底部だが器種は不明である。内面に段が見られる。

21は須恵質あるいは瓦質の擂鉢と考えられる。22は擂鉢の胴部から底部の破片である。櫛目は2.7cm幅に10本を1つの単位として施されている。内外面にハケ状の痕跡が見られる。23も擂鉢の胴部から底部にかけての破片で、櫛目は1.8cm幅に10本を1つの単位として施されている。24は陶器の擂鉢と考えられる口縁部の破片

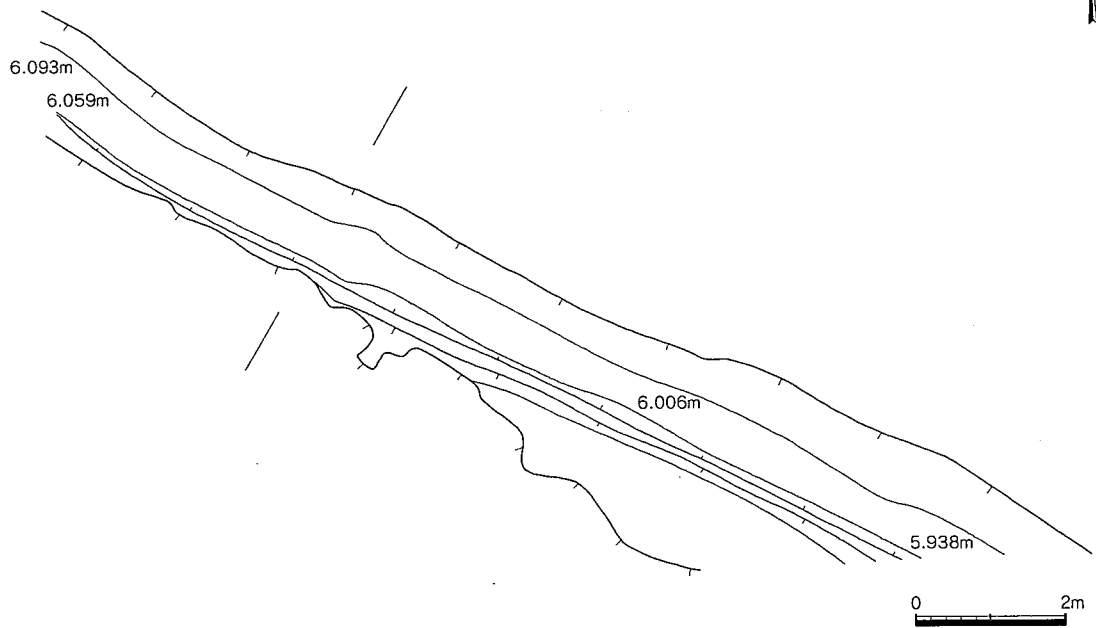


Fig.30 SD7 S=1/100

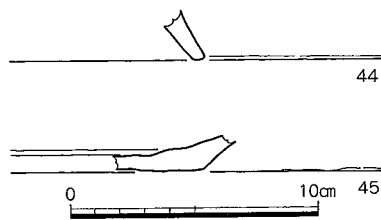


Fig.31 SD7 出土遺物 S=1/3

で、胎土に白色の粒子が多く含まれている。内外面は橙色を呈し、釉の可能性が考えられるが、光沢はまったく見られない。25は瓦器の火鉢と考えられる。内湾気味に立ち上がり、口縁部は外方にやや突出し、直下にわずかな窪みが見られる。その下にスタンプ文が施されている。

26は青磁の椀と考えられるが、内面に弱い屈曲があり、皿の可能性も否定できない。外面に細い蓮弁が見られる。27は青磁の椀で、高台と高台内は釉を掻き取っている。内外面に貫入が見られる。28は青磁の盤と考えられる。内外面に貫入が、内面には蓮弁状の文様が見られる。29は青磁の皿である。高台内は無釉、内外面に貫入が見られる。内面の口縁端部付近と体部下端に圈線が

施されている。30~33は染付の椀と考えられるが、皿の可能性も否定できない。30には釉がひじょうに厚くかけられている。34は染付であるが、傾きおよび器種は不明である。口唇部の外面は釉が厚くかけられており、わずかに肥厚している。35・36は染付の椀または皿と考えられる。35の高台は削り出しによるもので、見込みおよび高台と高台内は無釉である。36の見込みには蛇ノ目釉剥ぎがあり、高台内は無釉、内外に貫入が見られる。37は染付の椀と考えられ、畳付のみ無釉である。

38は土錘で、端部が1か所わずかにくびれており、紐ずれの可能性が考えられる。39~41はフイゴの羽口である。40の外面、41の内外面（図中網掛け部）にはススおよびガラス質の付着が見られる。42は砥石の破片で、石材は砂岩である。43は軽石で、中央よりややずれた位置に直径6cm、深さ2.4cmの略円形を呈する穴が見られるが、人為的にあけられたのか、自然によるものなのか判断できない。下面はほぼ平坦な面を有する。

SD7 (Fig. 30)

調査区の南西隅に位置し、北西-南東向きである。3層を肩にするが、かなりの部分をSD6に切られている。埋土はシルト質土である (Fig. 27)。残存部の最大部幅

Tab.8 SD7 出土遺物観察表

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
44	SD7	弥生か古墳	甕?	にぶい黄橙10YR7/3. 橙色2.5YR6/6.	砂粒を含む。透明粒・角閃石・白色粒。	ナデ。	
45	SD7	土師器	杯?	外面：浅黄橙色10YR8/4. 内面：にぶい橙路7.5YR7/4.	細砂粒を含む。	内外面：ヨコナデ。外底部：ナデ。	

は約2.9m、深さは残りのよいところで約0.55mを測る。底面のレベルを比較すると南東の方が北西部よりわずかに低くなっている。底面はほぼ平らであるが、中程に幅約15cm、高さ10cm程度の高まりがあり、溝状遺構と平行する形で連続している。

出土遺物 (Fig. 31)

44は甕の脚台部の小破片である。45は土師器の杯の底部である。底部は篋切りによると思われるが、磨滅しており断定はできない。

(2) 水田状遺構

調査区の南東隅の4層上面で検出した。その範囲はFig. 22に示している。約20cmの落ち込みとなっており、埋土は褐色(7.5YR4/4)を呈するシルト質・細砂・粗砂層で、5mm大くらいまでのパミス少量含んでいて、明らかに3層の土とは異なっている。底部には多数の足跡状の落ち込みがあり、その深さは数cmから10cm程度である(PL. 10-4)。同様の遺構は郡元団地O-7区(福利厚生施設建設地)⁴⁾や平成9年度に発掘調査が行われたJ・K-10・11区(工学部校舎建設地)などで確認されている。多数の足跡状の落ち込みは、踏み耕によるものと考えられ、足跡状の落ち込みが密な部分は区画された水田の内部であることを表していると考えられる⁵⁾。

(3) 河川 (Fig. 32)

RI1

RI1は6層の直下で検出し、調査区のはほぼ全域を占める。調査区の北東部隅で北西-南東向きの落ち込みの肩を検出した。さらに、埋土掘り下げの過程で、肩のすぐ西側からはほぼ南北に延びる段落ち部を確認した。また、調査区の南西隅の底面で北西-南東に延びる深まりを検出した。その他の底面については、土坑状の落ち込み部分を除くとほぼ平坦であるが、レベルを比較すると北西部が南東部よりもわずかに高い。RI1の南西側の肩は調査区外に存在すると考えられ、RI1はこの範囲の中を、時代によって幅や流路を変えながら流れていたものと考えられる。埋土の厚さは平均で約1mほどである。7層が埋土に相当し、ラミナの形成がいたるところで観察(Fig. 19・20・21に矢印で表示)されたことから、大規模な氾濫によってもたらされた土砂が堆積したものと考えられる。

南西隅で検出された落ち込みは幅約1.8m、深さ約1.2mを測る。一部袋状に張り出しており最大部の幅は約2.6mである。流れがかなり激しかったと考えられ、その向きは、底部のレベルから北西→南東であったと推定できる。

木杭列 (Fig. 33)

調査区のはほぼ中央部で、長さ約15m幅2mにわたって木杭列を検出した。並びの方向は北西-南東向きである。木杭は下端が尖っており、ほとんどの木杭は北東方向への力を受けて倒れた状態で出土した。

倒れた木杭列の北東側に川底である泥炭層に突き刺さった状態の木杭が存在することから、これらの木杭が組み合わされていた可能性は否定できない。

木杭の中には抉りの見られるものもあることから、これらの木杭は何らかの形で組み合わされて用いられていたものと考えられる。これらの木杭列の性格としては、井堰または護岸施設の可能性が考えられるが、性格についてはまとめて検討したい。

また、木杭列の上(Fig. 33網かけ部分)から植物の茎と繊維の束が検出されている(Fig. 34・PL. 14-2)。上面からの観察では編まれた状態は確認できない。木杭の間から水が漏れないようにするための用途が想定でき、木杭と組み合わせて用いられた可能性が高い。

出土遺物 (Fig. 35～38)

木杭列の範囲で、木杭が検出されたのとはほぼ同じレベルのものを木杭列出土遺物とした。

46～54は縄文土器である。46・47は口縁部の小破片で、口唇部にも連点が施されている。47の下部は沈線である。曾畑式と考えられる。48～52は連点文系の土器である。51には細沈線も見られる。いずれも前期のものと考えられる。53は連点文の施された細い突帯と細沈線が見られる。深浦式土器である。54は浅鉢の口縁部小破片である。口縁部が肥厚しており、黒川式と考えられる。

55～113は弥生土器である。55～57は弥生時代前期の甕または鉢と考えられる。55は磨滅が激しく本来の形を保っていない可能性がある。57はゆがみが大きく、口縁部の形態も一様ではない。

58～97は甕である。58は胴部に1条の突帯が巡らされる。口唇部と突帯の先端には刻みが施されている。59は口唇部に細かい刻みが施される。

60・61は口縁部は略台形を呈するが口唇部は明瞭な面を持たない。60の胴部には3条の沈線が施されている。

62～67は口縁端部が台形を呈し、口唇部には窪みが見られる。62・63の口唇部には刻みが施されている。64は胴部に1条の絡縄突帯が残っている。

68・69は口縁部上面に稜を有するものである。口唇部は面を有し、68には刻みが施され、69はヨコナデによって窪んでいる。

70～78は口縁部上面が水平なものである。70の口縁部内面上部はわずかに突出し、胴部には低い突帯が1条確認できる。71の胴部には3条の沈線が施されている。

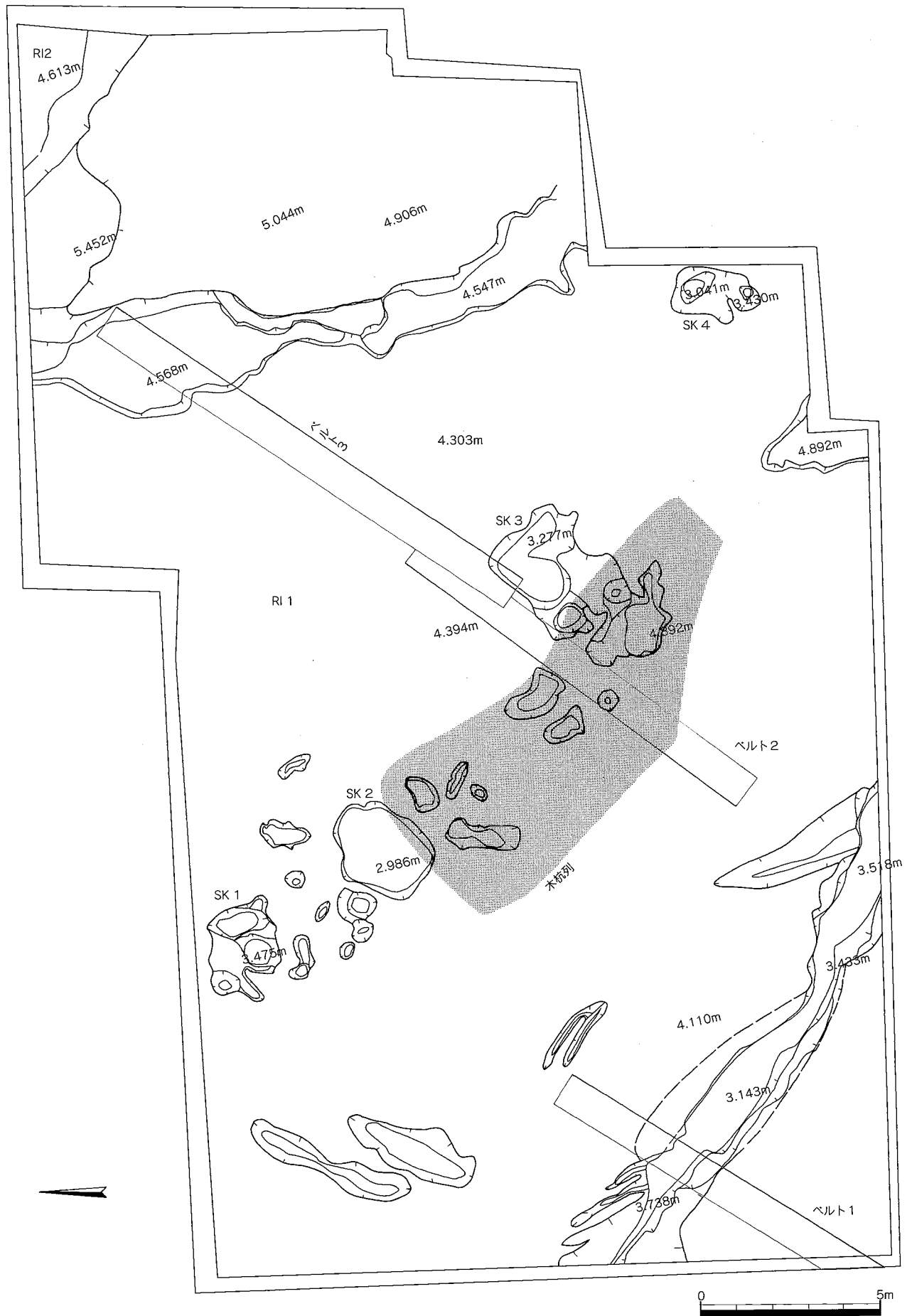


Fig.32 河川跡 S=1/150

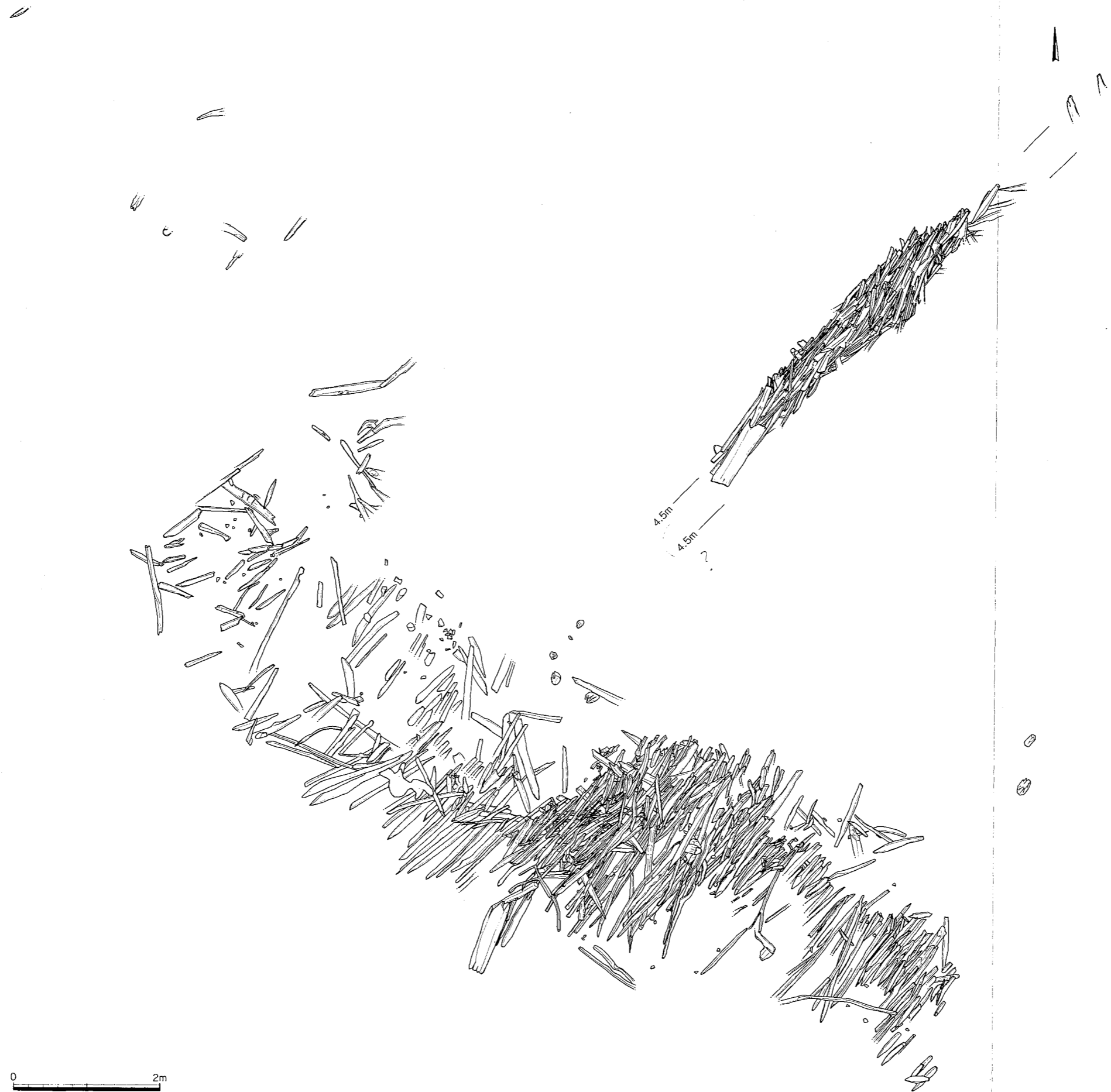


Fig.33 木杭列 S=1/60

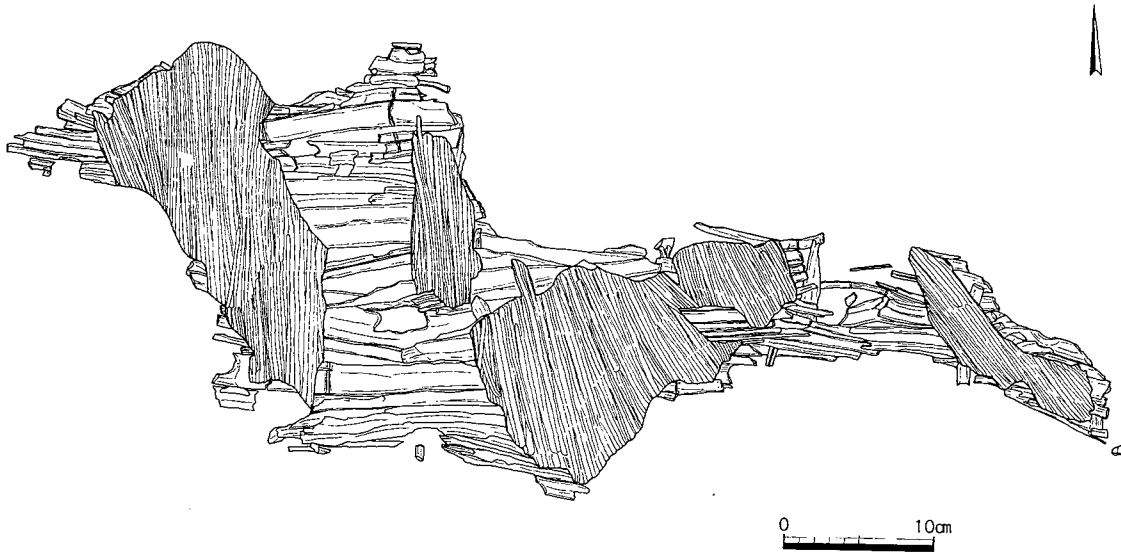


Fig.34 木杭列出土の茎と繊維束 S=1/5

72・77の口縁部はL字状に外へ突出する。78の口縁部下面はわずかに肥厚する。

79～84は口縁部の形態が長方形に近いものである。79は口唇部に面を有するが、ヨコナデによる窪みは見られず、口縁部内面が突出している。80～83は口唇部に窪みが見られ、80は刻みが施されている。82はゆがみが大きく、胴部には1条の絡縄気味の突帯が残る。83の口縁部はよく整った長方形を呈する。口縁部内面上部がわずかに突出している。84の作りは粗雑で、接合痕が残っており、口縁部上面と口縁部下面にはユビオサエの痕跡が明瞭に残っている。口縁部上面はわずかに窪んでおり、口縁部内面はやや突出する。

85は完形に復元することができた。口縁部が斜め上方に立ち上がり、下方が厚い。口唇部には窪みが見られ、胴部に3条の突帯が巡らされる。胎土に金色のウンモが含まれる。86も85と同様の口縁部形態で、胎土には金色のウンモが見られる。87も口縁部が斜め上方に立ち上がるが、口縁部の厚みは一様である。全面ナデ調整でハケメは残っていない。

88・89の口縁部はまっすぐに立ち上がる。88は口縁部上面に平坦な面を有し、89は丸みを帯びる。

90は甕の胴部突帯で、突帯上には平面が三角形を呈するやや大きめの刻みが施されている。91も甕の胴部突帯である。突帯はかなり突出するが、先端に施されている刻みは小さくて浅い。92～94も甕の胴部片である。93には沈線が、94には5条を1つの単位とする櫛描き波状文とその下に押し引き状の文様が見られる。95～97は甕の底部である。

98～101は壺の口縁部である。98の口唇部には小さい刻みが施され、頸部との境にわずかに稜線が見られる。外面は磨かれているが、頸部にはハケメがわずかに残っている。99の口唇部はわずかに窪んでいる。102は壺の口縁部と考えられるが、小破片のため断定できない。103は壺の口縁部から頸部の破片で、口縁部上面にはストロー状の原体によって施された刺突文が二重に巡っている。104・105も壺である。104の口唇部は窪んでいる。105の口縁部上面には6条を1つの単位とする沈線が施されている。106・107は小破片のため断定できないが壺の破片であると考えられる。

108は内湾しながら立ち上がっており、口縁部が内側に肥厚する。無頸の壺であると考えられる。

109～111は壺の頸部である。109は口縁部と頸部の境界に稜が見られる。110と111には沈線が施されている。

112は壺の頸部から底部にかけてである。胴部と底部は接合はしないが同一個体と考えられる。胴部上方の調整はミガキである。胎土には金色のウンモが見られる。113は壺の底部と考えられる。

土坑 (SK1～SK4)

これらは木杭列の北東側に木杭列とほぼ平行して位置している。その他にも多数の落ち込みが検出されたが、大型で深いものについてのみ、北西側から南東側に向かって順にSK1～SK4とした (Fig. 32)。

これらの土坑が形成された要因としては、流れの作用による、井堰から落ちる水の作用による、あるいは、水を得るために人為的に掘られた、などの可能性が考えられるが、現時点で結論を下すことはできない。

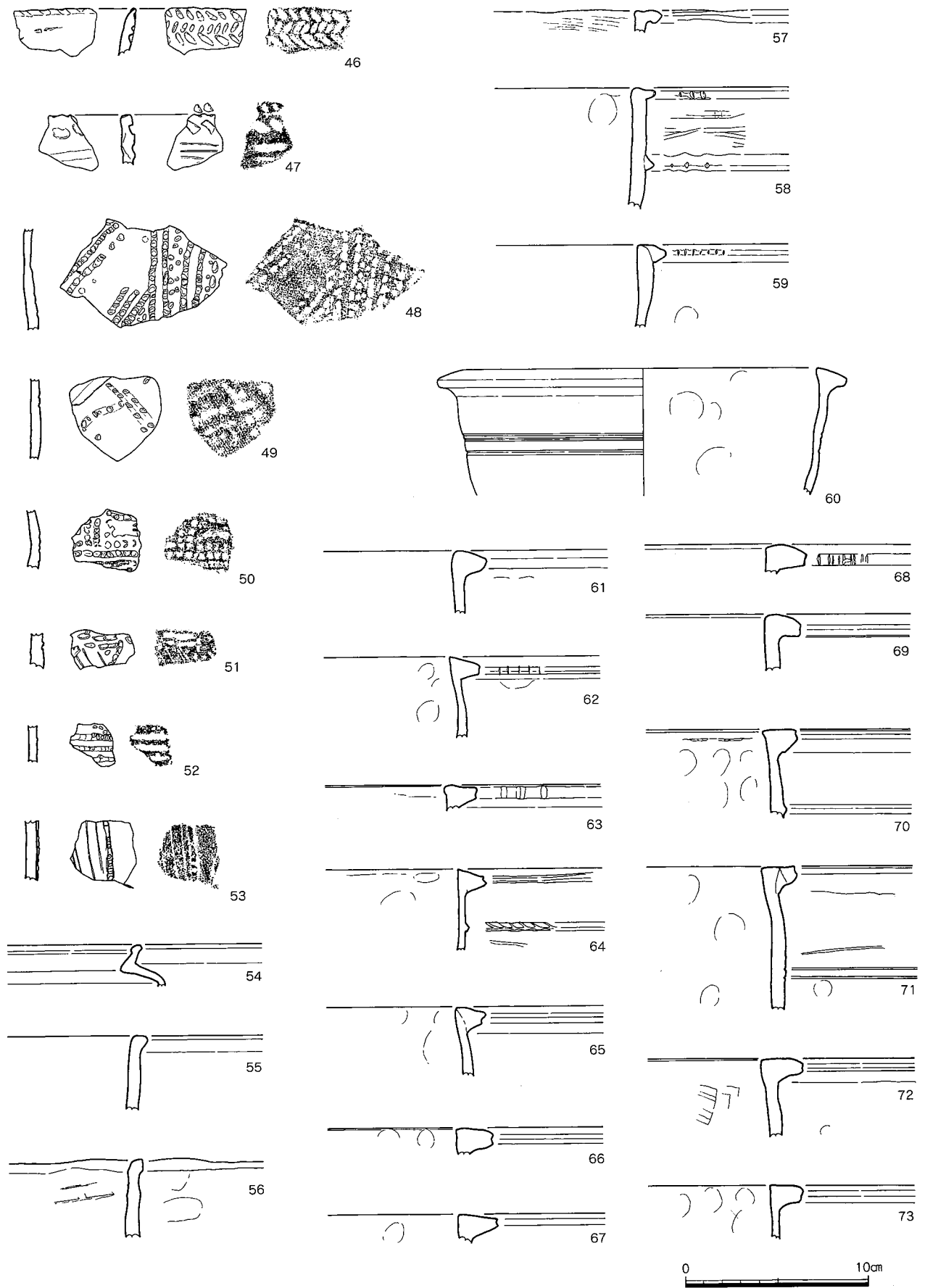


Fig.35 木杭列出土遺物 (1) S=1/3

Tab.9 木杭列出土遺物観察表(1)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	調整・文様	備考
46	杭列	縄文		褐灰色7.5YR6/1。内面：鉄分付着のため不明。	砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	外面：連点文。	
47	杭列	縄文		外面：浅黄橙色10YR8/3。内面：灰黄褐色10YR6/2。	細砂粒を含む。		やや磨滅している。
48	杭列	縄文		外面：灰白色2.5Y7/1～黄灰色2.5Y6/1。内面：黄灰色2.5Y6/2。器肉：黒色。	砂粒・細砂粒を含む。	外面：貝殻連点文。内面：条痕のちナデ。	
49	杭列	縄文		外面：にぶい黄橙色10YR6/3・暗黄灰色2.5Y5/2。	砂粒を含む。軽石・黒色粒。	外面：連点文。	磨滅している。
50	杭列	縄文		外面：鈍い橙色5YR6/4。内面：灰黄褐色10YR6/2。器肉：灰色。	砂粒を多く含む。黒色粒。	外面：連点文。	上下左右不明。
51	杭列	縄文		鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。	外面：連点文。	
52	杭列	縄文		外面：橙色7.5YR6/6。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。	砂粒・細砂粒を含む。	外面：押し引き状連点文？	
53	杭列	縄文		にぶい黄褐色10YR6/4。	砂粒を多く含む。透明粒・黒色粒。	外面：突帯・沈線。	鉄分付着。
54	杭列	縄文	浅鉢	外面：灰白色2.5Y7/1・灰色5Y5/1。内面：灰色5Y5/1・灰色5Y4/1。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	ナデ。	
55	杭列	弥生	甕か鉢	鉄分付着のため不明。器肉：褐灰色10YR4/1。	礫を含む。透明粒。	ナデ？	磨滅している。
56	杭列	弥生	甕か鉢	外面：黄灰色2.5Y4/1。内面：黒褐色7.5YR3/2。	礫をわずかに含む。	ナデ？	鉄分付着。
57	杭列	弥生	甕か鉢	鉄分など付着のため不明。	細砂粒を含む。5mm大の礫。	ナデ。内面：ハケのちナデ？	
58	杭列	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。	細砂粒を含む。透明粒・白色粒。	外面：ハケのちミガキ？内面：ナデ。	
59	杭列	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR5/1・暗灰色N3/。内面：灰褐色7.5YR6/2。	砂粒を含む。角閃石・透明粒。	ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
60	杭列	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/3。内面：にぶい褐色7.5YR5/4。	砂粒を多く含む。	ナデ。	磨滅している。
61	杭列	弥生	甕	橙色7.5YR6/6。	礫を少し粗砂粒を含む。	磨滅しているため不明。	鉄分付着。
62	杭列	弥生	甕	外面：灰白色10YR7/1。内面：にぶい黄褐色10YR7/2・一部黒色5Y2/1。口縁部上面：黒色。	粗砂粒・砂粒を含む。白色粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
63	杭列	弥生	甕	浅黄褐色10YR8/4。鉄分付着のため詳細不明。	礫・粗砂粒をわずかに含む。	ヨコナデ。	
64	杭列	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：にぶい褐色7.5YR5/4。	砂粒を含む。透明粒。	外面・口縁部上面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
65	杭列	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR5/3。内面：にぶい褐色7.5YR5/3。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・茶色の粒。	ナデ。	
66	杭列	弥生	甕	口縁部上面～内面：にぶい黄褐色10YR5/3。下面：褐灰色10YR4/1。	細砂粒を含む。礫（透明粒）。	ヨコナデ。	
67	杭列	弥生	甕	灰褐色7.5YR5/2。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の大きめの粒・角閃石。	ヨコナデ。内面下部：ナデ。	鉄分付着。
68	杭列	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR7/3。	粗砂粒・砂粒を含む。透明・黒色粒。	鉄分付着。	
69	杭列	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR6/3。	礫～細砂粒を多く含む。黒色粒・白色粒。	ナデ。	
70	杭列	弥生	甕	褐灰色7.5YR4/1。	砂粒・微砂粒を含む。赤茶色の粒・角閃石。	外面・口縁部上面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
71	杭列	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR5/4。鉄分付着のため詳細は不明。内面：褐色7.5YR4/3。	粗砂粒を含む。透明粒・白色粒。	口縁部付近：ヨコナデ。鉄分付着のため不明。	
72	杭列	弥生	甕	鉄分多付着のため不明。	砂粒を含む。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
73	杭列	弥生	甕	外面：黄灰色2.5YR5/1。内面：灰黄褐色10YR6/2。	粗砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	磨滅している。

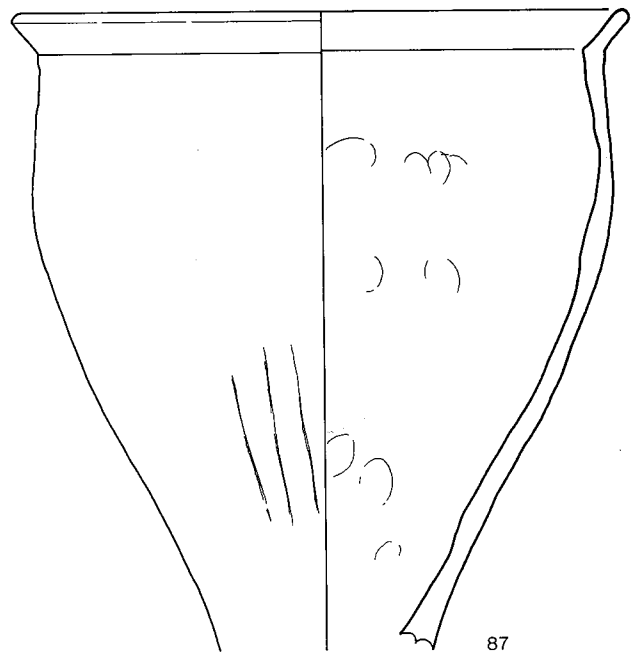
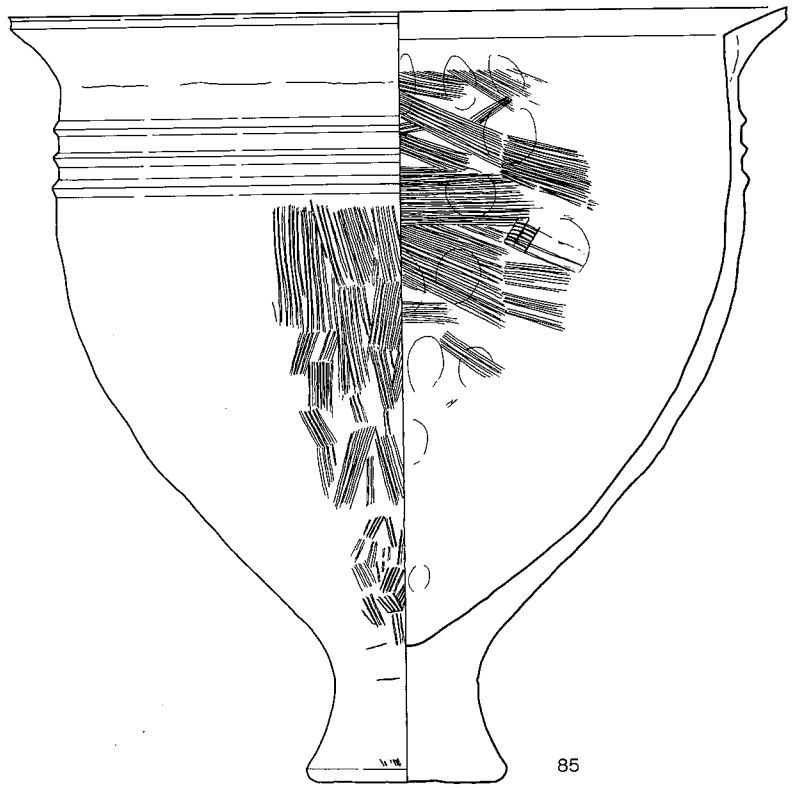
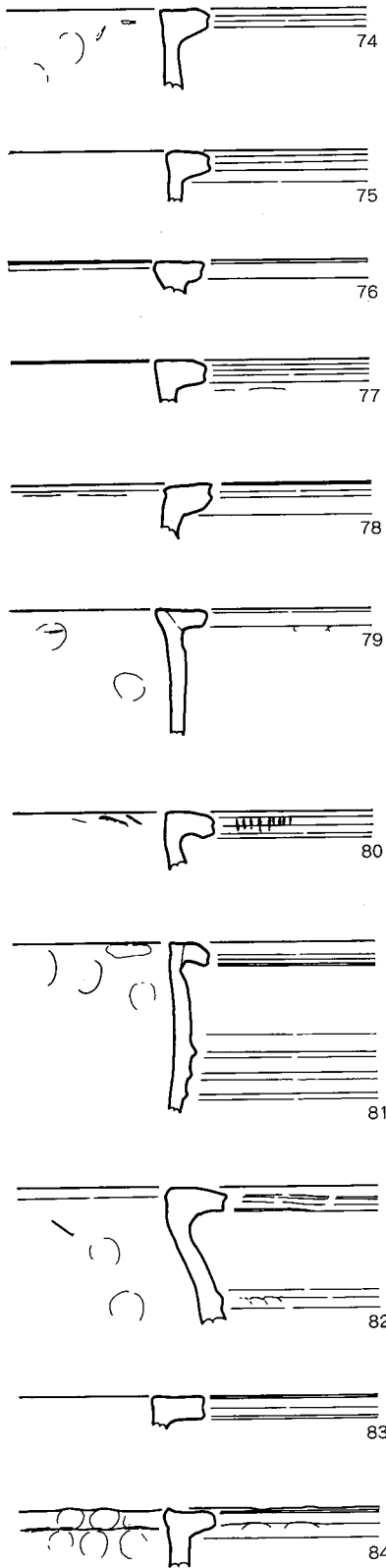


Fig.36 木杭列出土遺物(2) S=1/3

Tab.10 木杭列出土遺物観察表(2)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	調 整	備考
74	杭列	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR5/3. 鉄分付着のため詳細は不明.	粗砂粒・砂粒を含む. 軽石・角閃石.	ナデ?	
75	杭列	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR5/4.	粗砂粒・砂粒を含む. 透明粒・角閃石.	ヨコナデ.	
76	杭列	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR6/3. 褐灰色10YR4/1.	細砂粒を含む.	口縁部上面:ヨコナデ. ほかは鉄分付着のため不明.	
77	杭列	弥生	甕	外面:にぶい赤褐色5YR5/4 (赤色顔料). 内面:にぶい褐色7.5YR5/4. 器肉:灰白色10YR8/2.	細砂粒を含む.	ナデ?	
78	杭列	弥生	甕	鉄分付着のため不明..	砂粒を含む.	鉄分付着のため不明..	
79	杭列	弥生	甕	灰褐色7.5YR6/2. 口縁部上面~内面付近:にぶい橙色5YR7/3.	細砂粒を含む.	ナデ. 突帯下面:ヨコナデ.	鉄分付着.
80	杭列	弥生	甕	外面:褐灰色10YR4/1. 内面:褐灰色10YR5/1.	砂粒を含む. 透明粒・白色粒.	口縁部上下面:ヨコナデ. 内面:ナデ.	
81	杭列	弥生	甕	外面:褐灰色10YR6/1・褐灰色10YR6/1. 内面:灰白色10YR8/2・褐灰色10YR6/1. 器肉:暗灰色.	砂粒を含む.	外面:ヨコナデ. 口縁部上面・内面:ナデ.	
82	杭列	弥生	甕	鉄分付着のため不明..	砂粒を含む.	鉄分付着のため不明.	
83	杭列	弥生	甕	灰黄色2.5Y7/2.	砂粒を含む.	ヨコナデ.	鉄分付着.
84	杭列	弥生	甕	黒褐色2.5Y3/1. 器肉:灰黄色2.5Y7/2.	粗砂粒・砂粒を多く含む. 白色粒・透明粒.	ナデ.	
85	杭列	弥生	甕	外面:(上部)褐灰色10YR5/1・10YR6/1. (下部)にぶい橙色7.5YR7/3. 脚台:浅黄褐色7.5YR8/3・淡赤褐色2.5YR7/4. 内面:(上部)にぶい橙色7.5YR7/4. (下部)黒褐色2.5Y3/1・黒色N2/.	砂粒・細砂粒を含む. 金色の雲母.	外面:(口縁部から胴部突帯付近)ヨコナデ. (胴部突帯より下)縦方向のハケ. (脚台付近)ハケのちナデ. 口縁部上面:ヨコナデ. 内面:(上部)横方向ハケ. (下部)ハケのちナデ.	内底面:スス付着. 口径(30.8)cm. 底径7cm.
86	杭列	弥生	甕	外面:灰褐色7.5YR5/2. 内面・器肉:にぶい橙色7.5YR6/4.	礫を少し・砂粒を含む. 金色の雲母・白色粒.	ヨコナデ.	
87	杭列	弥生	甕	外面:(上部)黒色N2/. (下部)灰褐色7.5YR6/2.・灰褐色5YR6/2. 内面:(上部)明褐灰色7.5YR7/2.・にぶい橙色5YR7/3 (下部)黒褐色2.5Y3/1.	細砂粒・微砂粒を含む. 軽石.	外内面口縁部付近:ヨコナデ. 外面胴部:ハケのちナデ. 内面胴部:ナデ.	

SK1は長辺2.4m, 短辺2m, 深さ約0.8mを測る。

SK2は長辺3m, 短辺2.4mの隅丸長方形を呈し, 深さは約1.2mを測る。

SK3は長辺5.2m, 短辺2.6m, 深さ約1.1mを測る。なお, SK3の埋土中からは, 組合せ式の木製鋤先(PL. 15-3・4)や柄が出土した。なお, 木製鋤先など木製品についての個別の報告は来年度の年報で行う予定である。

SK4は長辺2.4m, 短辺1.3m, 深さ約1.3mを測る。

いずれの土坑の埋土もRIIの埋土と同様の粗砂であった。

土坑の埋土中から土器が出土したが, 調査時は遺構と認識していなかったため, 多くはRII出土遺物として取り上げた。

SK3 出土遺物 (Fig.39)

114は甕の胴部と考えられ, 絡縄突帯が2条残る。115は壺で, 口縁部はわずかに肥厚している。

116は壺の胴部から底部付近にかけてであるが, 底面は残っていない。下端部が接合痕であるとするれば, 円盤状の底がはめ込まれていたと考えられる。

RII 埋土出土遺物

RIIの調査に際しては, 3か所の土層観察用のベルトを設けて掘り下げた(位置についてはFig. 32, ベルトの層位断面図はFig. 40)。まず, ベルトから出土した資料を層ごとに紹介する。

ベルト1 (Fig. 41)

⑤層出土遺物

117・118は甕の口縁部, 立ち上がりの角度がかなり急である。弥生時代後期以降のものと考えられる。

⑥層出土遺物

119~121は縄文土器である。119は縄文土器の胴部片で, 斜め方向の連点文と沈線文が施されている。120は波状口縁の市来式土器で, 口縁部上面外側には刺突文が施されている。121は縦方向の条痕が見られる。

122~126は弥生土器の甕である。122は口唇部に刻みが施されている。123の口唇部はかなり突出し, 面を持たない。胴部にはやや不整形な突帯が4条巡らされている。124の口縁部はやや斜め上方に立ち上がり, 口唇部はわずかに窪んでいる。125は口縁部上面がわずかに窪

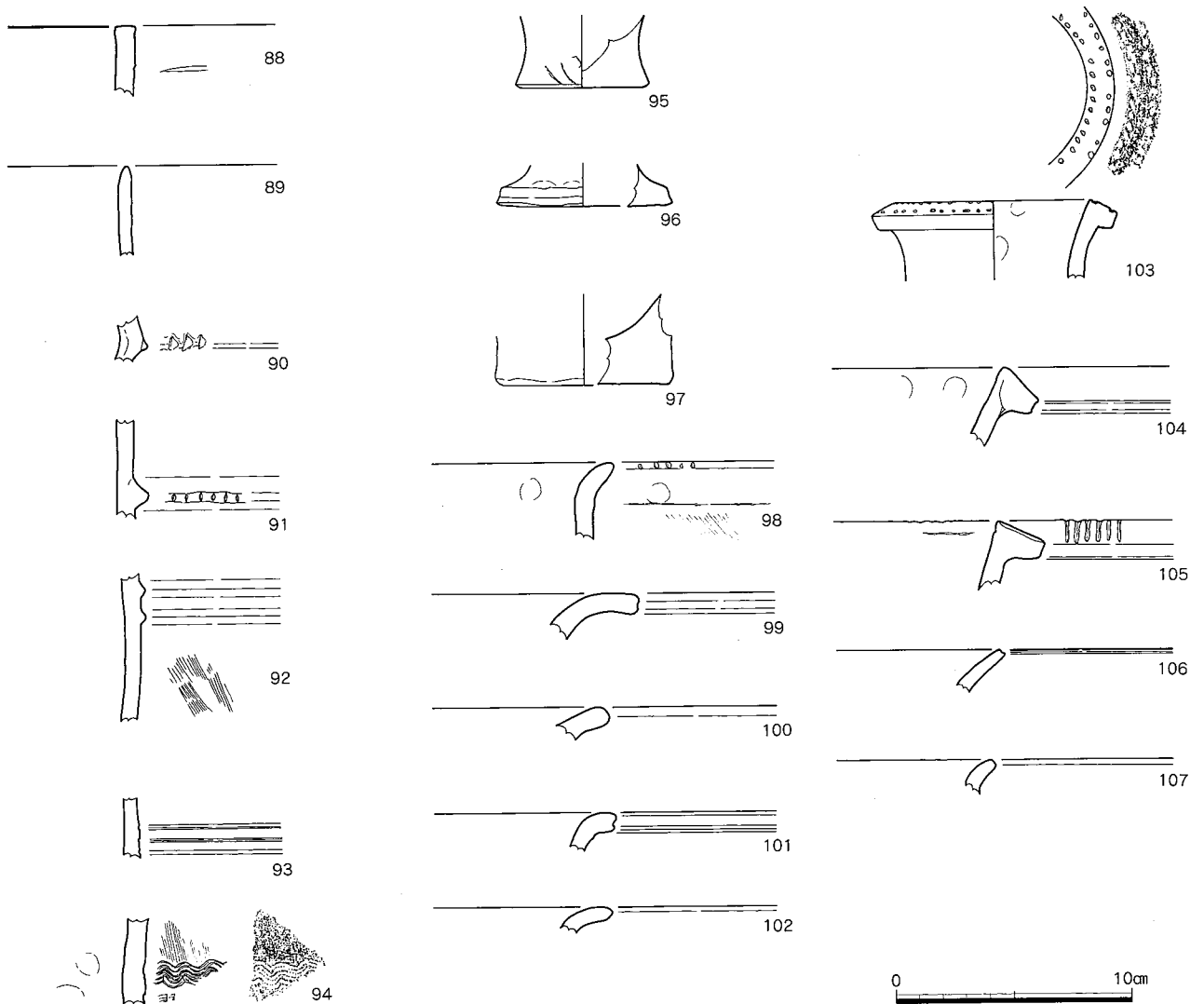


Fig.37 木杭列出土遺物 (3) S = 1/3

んでおり、口唇部が丸みを有する。口縁部内面は突出し、接合痕が残る。黒髪式に属する。126の口縁部は斜め上方にほぼ同じ厚さで立ち上がる。口唇部は面を有し、口縁部下面はわずかに肥厚する。甕あるいは鉢と考えられ、凹線文土器の影響も否定できない。127は甕の口縁部と考えられ、口縁部下面がわずかに肥厚する。128は壺の口縁部と考えられる。

ベルト2 (Fig. 41・42)

①層出土遺物

129～132は甕である。129は内湾気味に立ち上がり、口縁部上面外面側がやや下がっている。口縁端部には刻みが施されている。130には金色のウンモが多く含まれている。131・132は脚台部である。

133は鉢の口縁から胴部にかけてで、かなり強い横方向のナデ調整が行われている。

②層出土遺物

134は縄文土器で、口縁部上面には刺突が施され、外

面には連点文が施されている。

③層出土遺物

135は縄文土器で、口縁部はやや肥厚している。外面には貝殻による刺突文が施されている。136は縄文土器と考えられるが、磨滅しており、断定はできない。

137～142は甕である。137は断面三角形の口縁部で1条のシャープな三角形を呈する突帯を有する。突帯は口縁部の高さと同様で、口唇部と突帯の先端部には刻みが施されている。138は口縁部の接合痕が口縁部下面と口縁部上面に見られ、口縁部は不整形である。また、胴部にユビオサエの痕跡が多く残り、胴部の厚みが一定していないなど、粗雑な作りの土器である。139の口縁部は斜め上方に立ち上がり、略長方形を呈する。口唇部は窪みを有し、口縁部上面も窪んでいる。口縁部内面は突出し、口縁部下面はやや肥厚する。胴部には2条の絡縄突帯が巡らされ、薩摩半島東海岸部に分布する一の宮式と考えられる。140には金色のウンモが見られ

Tab.11 木杭列出土遺物観察表 (3)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	調 整	備考
88	杭列	弥生	甕	にぶい黄橙色10YR6/4.	砂粒を含む。透明粒。	内外面：ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
89	杭列	弥生	甕	褐灰色10YR4/1と黒褐色10YR3/1の中間。	細砂粒を含む。	外面・内面上部：ヨコナデ。内面下部：ナデ。	外面口縁部付近にスス付着。
90	杭列	弥生	甕	灰白色2.5Y8/2・にぶい黄橙色10YR7/3。器肉：灰色5Y4/1。	砂粒・細砂粒を多く含む。角閃石・白色粒。	ナデ。	
91	杭列	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明。内面：にぶい橙7.5YR7/4。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒。	ナデ？	
92	杭列	弥生	甕	外面：黒褐色2.5Y3/1。内面：灰黄褐色10YR5/2。	粗砂粒を含む。角閃石。	外面突帯付近：ヨコナデ。外面胴部：ハケのちナデ。内面：ナデ。	鉄分付着。
93	杭列	弥生	甕	外面：黒色N2/。内面：にぶい黄橙色10YR7/3。	粗砂粒・砂粒・細砂粒を多く含む。赤色粒・角閃石・白色粒。		
94	杭列	弥生	甕		砂粒・細砂粒を含む。角閃石・赤色粒・白色粒。		
95	杭列	弥生	甕	褐灰10YR4/1。	礫・粗砂粒を多く含む。白色粒・黒色粒。	外面：ハケのちナデ。	底径 (5.6) cm.
96	杭列	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR4/3。	礫・粗砂粒を含む。白色粒。	ナデ。	底径 (5.4) cm.
97	杭列	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4と橙色7.5YR6/6の中間。内面・器肉：にぶい黄褐色10YR6/4。	礫・砂粒を含む。軽石・透明粒・白色粒。	ナデ。	底径 (7.4) cm.
98	杭列	弥生	壺	外面：黒色10YR2/1。内面：褐灰色10YR4/1。	細砂粒を含む。透明粒。	外面：ミガキ。ハケあり。内面：ナデ。	
99	杭列	弥生	壺	外面：にぶい黄橙10YR7/3。内面：灰黄褐色10YR6/2。	砂粒・粗砂粒を含む。角閃石。	ナデ。	
100	杭列	弥生	壺	外面：灰褐色7.5YR6/2。内面・器肉：にぶい黄褐色10YR7/4。	礫・細砂粒を含む。白色粒。	ナデ。	
101	杭列	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR7/2。	微砂粒を含む。礫わずかにある。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
102	杭列	弥生	壺？	外面：褐灰色10YR5/1。内面・器肉：にぶい黄褐色10YR7/2。	粗砂粒を含む。透明粒・白色粒。	ナデ。	
103	杭列	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/3。内面：灰褐色7.5YR6/2。	礫・粗砂粒を含む。赤茶色の粒。角閃石。	口縁部上面：ナデ。刺突文。内外面：ナデ。	口径 (8) cm.
104	杭列	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR6/4。内面：灰黄褐色10YR5/2。	礫・粗砂粒を含む。角閃石・白色粒。	口縁部付近・内面：ヨコナデ。外面：ナデ。	
105	杭列	弥生	壺	にぶい褐色7.5YR5/4。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。	
106	杭列	弥生	壺？	にぶい黄褐色10YR5/3。	粗砂粒・細砂粒を含む。	ナデ？。	
107	杭列	弥生	壺？	内外面：にぶい褐色7.5YR5/4。器肉：明黄褐色10YR7/6。	細砂粒を含む。透明粒。		

る。141の口唇部は丸みを帯びており、口縁部上面は窪む。口縁部内面上部は突出し、これらの特徴から黒髪式と考えられる。142の口縁部は斜め上方にかなり急な角度で立ち上がる。口縁部の厚みはほぼ一定である。

143は甕または鉢と考えられ、口唇部には細かい刻みが施される。144は鉢と考えられる。斜め上方に立ち上がり、口唇部は丸みを帯びる。

145は壺で、口唇部は窪んでおり、口縁部上面には2条からなる波状文が施される。口縁部内面とその下部に2条の突帯が巡らされている。146・147は壺と考えられる。

148は軽石加工品で、上面と下面2か所が円形状に窪

んでいる。上面の窪みは直径6.5cm、深さ2.8cm、下面の窪みは直径5cm、深さ1cmを測る。

⑥層出土遺物

149は口縁部付近に3条の横方向の沈線が見られる。縄文土器と考えられる。150は連点文系の縄文土器である。

151～157は弥生土器の甕である。151の口縁部は磨滅しており、口唇部に刻みが施されていたかどうかは不明。胴部の突帯には細かい刻みが施される。152の口縁部は断面が台形に近いが、口唇部は丸みを帯び、細かい刻みが施される。153は器壁が薄いため、口縁部の突出が際だっている。口唇部は面を持たず、口縁部内面上部が

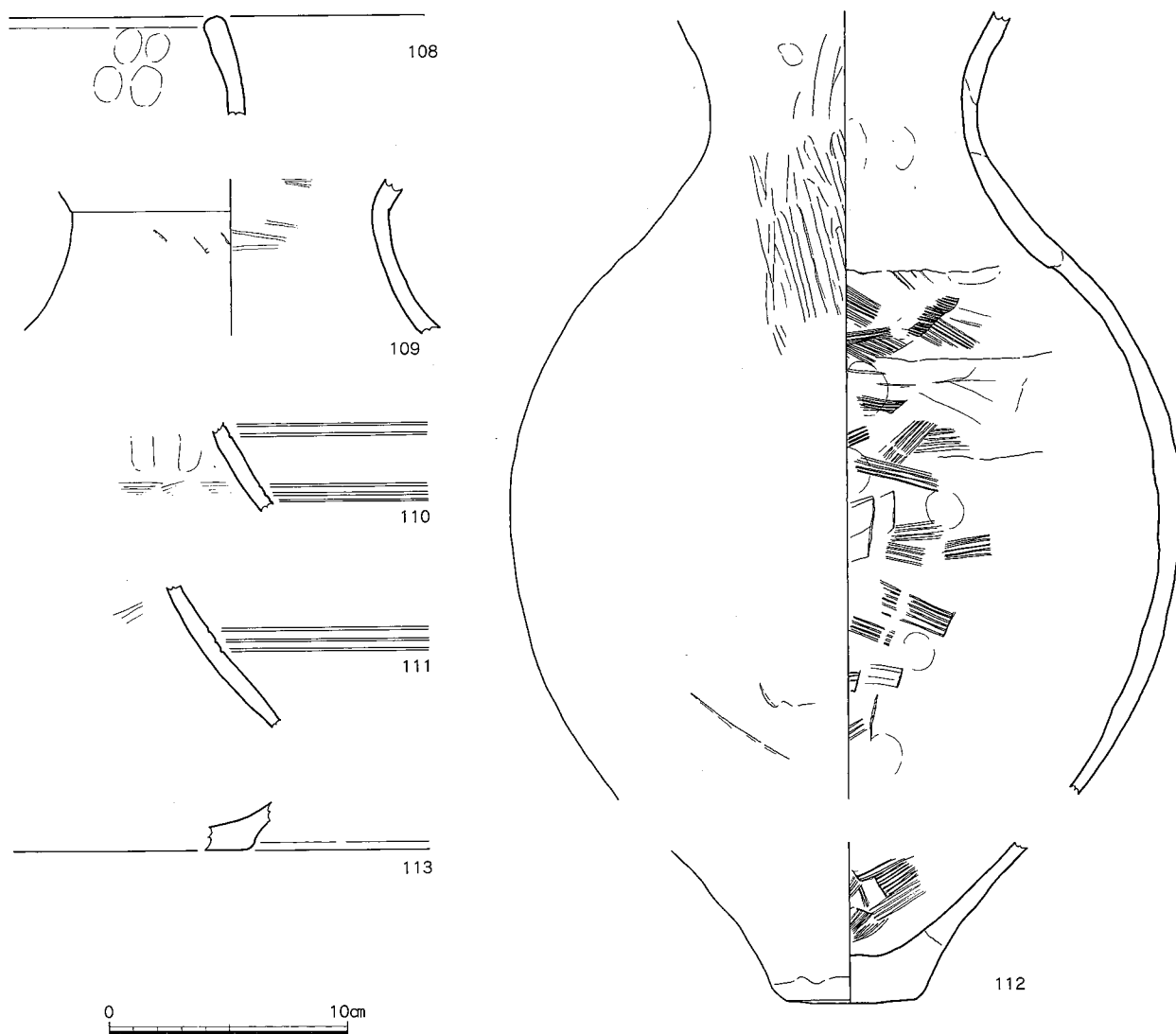


Fig.38 木杭列出土遺物(4) S=1/3

Tab.12 木杭列出土遺物観察表(4)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
108	杭列	弥生	壺	灰白色10YR8/2と浅黄橙色10YR8/3の中間.	礫・細砂粒を含む, 軽石・黒色粒.		
109	杭列	弥生	壺	にぶい黄橙色10YR6/3とにぶい黄褐色5/3の中間. 器肉: 灰色5Y4/1.	粗砂粒・砂粒を含む, 石英・赤色粒・白色粒・角閃石.	外面: ハケのちナデ. 内面: ヨコナデ. (虫食い状剥落)	
110	杭列	弥生	壺	鉄分など付着物のため不明.	付着物のため不明.	外面: 付着物のため不明. 内面: (上部) ナデ. (下部) ハケのちナデ.	
111	杭列	弥生	壺	外面: にぶい黄橙色10YR7/2. 内面: 鉄分付着のため不明.	礫・砂粒を含む, 白色粒・角閃石.	外面: ナデ?. 内面: (上部) ハケのちナデ. (下部) ナデ.	
112	杭列	弥生	壺	外面: 明褐色7.5YR7/2. 鈍い橙色7.5YR6/4. 外面胴部一部: 黒褐色2.5Y3/1. 内面: 褐灰色10YR5/1.	礫・粗砂粒~細砂粒を含む, 金色の雲母・軽石.	外面: (口縁~頸部) ハケのちナデ. (頸部から肩部) ミガキ. 内面: (口縁~頸部) ナデ. (胴部) ハケのちナデ.	
113	杭列	弥生	壺?	外面: 橙色7.5YR6/6. 内面: にぶい黄橙色.	細砂粒を含む, 角閃石・白色粒・透明粒.	ナデ?	

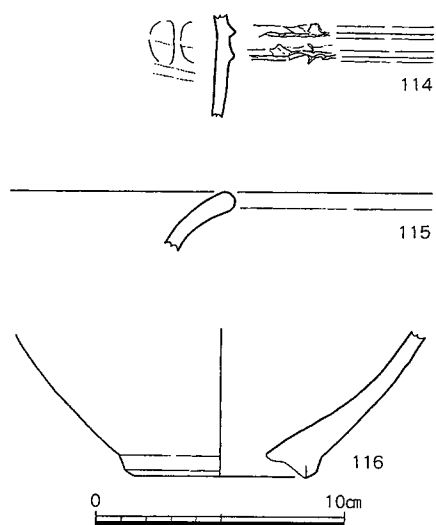


Fig.39 SK3出土遺物 S=1/3

わずかに突出する。154・155の口縁部は台形を呈し、口唇部に窪みが見られる。156・157は口唇部が丸みを帯び、口縁部上面が窪んで、口縁部内面が突出している。157の口縁部の突出は著しい。いずれも黒髪式である。

158は鉢と考えられる。斜め上方にほぼ直線的に立ち上がり、口縁部外面はヨコナデにより、わずかに窪んでいる。

159は壺の口縁部から胴部にかけてで、口唇部は丸みを有する。160は壺と考えられ、口唇部が窪んでいる。161・162は甕または壺の底部である。

⑦層出土遺物

163は壺の口縁部と考えられ、外反しながら立ち上がり、口唇部は面を有する。

⑧層出土遺物

164・165は甕である。164は口唇部に窪みがあり、口縁部上面も窪んでいて、口縁部内面は突出している。165は胴部から脚台にかけてで、内面には炭化物が付着している。脚台取り付け部の径が大きいことから、古墳時代のものと考えられる。

166は甕または鉢と考えられる。口縁部は三角形を呈するが、突出は小さい。167は鉢の口縁部から胴部で、口唇部は丸みを有する。

168・169は壺と考えられる。いずれも口唇部は面を有

する。170はほぼ直立し、口縁部外面がわずかに肥厚する。器種は不明。

ベルト3 (Fig. 43)

⑨層出土遺物

171は甕で、口唇部は面を有する。

⑩層出土遺物

172は甕で、口唇部は面を有する。口縁部は長方形に近く、口唇部には窪みがあり、口縁部内面上部はわずかに突出している。

ベルト以外出土遺物 (Fig. 44～72)

173～277は縄文土器である。

173は貝殻による刺突文と、横方向の貝殻条痕が施されており、早期の吉田式と考えられる。

174は上部に刺突、下部には突帯が見られる。轟式の可能性も考えられる。175は突帯による文様が見られる。轟系統の土器と考えられる。176は口唇部に刺突連点、外面と口縁部内面に沈線が施されている。177は口縁部上面を竹管状の原体で刺突し、同じ原体で外面と内面に沈線を施している。178は上端、下端とも擬口縁である。179～187は縦・横・斜め方向の沈線が施されている。176～187はいずれも曾畑式である。188は口唇部・口縁部内面・口縁部外面に刺突文が施され、その下には斜め方向の沈線が見られるが、磨滅しており、詳細は不明。189は横方向の沈線と一部縦方向の沈線が見られるが、縦方向の沈線は不明瞭である。190～194は横・斜め方向の沈線が施されている。

195は斜め方向の沈線に加え、貝殻によると考えられる波状沈線が見られる。196は斜め方向の、197は縦と横方向の、198は縦方向の沈線が施されている。188～198は曾畑式の可能性が考えられる。

199～209は細い突帯を貼り付けた後刻みが施されているが、刻みの見られないものもある。突帯の他、沈線が施されるものもある。199・200の口唇部には刺突が施され、内面には連点文が見られる。200の口縁部は波状を呈する。突帯が取り付けられた後に沈線が施されている。202は押し引き連点文の施された後に突帯が取り付けられている。突帯の残存部に刻みは見られない。203の突帯上の刻みは原体幅が広いため、2条同時に施さ

Tab.13 SK3 出土遺物観察表

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
114	SK3	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR4/2。内面：褐灰色10YR5/1。	細砂粒を含む。軽石・角閃石。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
115	SK3	弥生	壺	にぶい黄橙色10YR6.5/4。	細砂粒を含む。	ヨコナデ。	
116	SK3	弥生	壺	にぶい黄橙色10YR7/3。	粗砂粒・砂粒を多く含む。	ナデ。	

れている。内面には連点文が見られる。206は沈線のあと突帯が貼り付けられている。連点文も施されているが沈線との前後関係は不明。207は沈線の後連点文が施され、さらに突帯が貼り付けられたと考えられるが、破片が小さいため断定はできない。208は内外面とも押し引き状の連点文が施されている。外面にはわずかな高まりが帯状に見られることから、突帯が貼り付けられていたと考えられる。209は細沈線と曲線状の突帯が見られる。199～209は深浦式およびその可能性が考えられるものである。

210～240は連点文系の土器である。210は口縁部で、口唇部は丸みを帯びる。211には押し引き状の貝殻刺突文が横方向に施され、器壁はひじょうに薄い。212も外面は横方向の押し引き状貝殻刺突文が施され、内面には横方向の条痕が見られる。213の外面も211と同様。214には横・縦方向に貝殻による連点文が施されている。215は口縁部で、山形の突起を有する。内外面には横方向の連点文が施されているが、磨滅が激しく断定できない。216の口唇部は丸みを有し、外面には押し引き状の連点文が施される。217～223の外面には横方向の押し引き状連点文が施される。224～226の外面は縦方向の押し引き状連点文が施されている。227～231の外面には斜め方向の押し引き状連点文が施される。232は連点の施された方向は不明で、内面には貝殻条痕が残る。234の外面には横方向の連点文が施される。内面には棒状の原体による沈線もしくは条痕が残る。235の外面に見られる連点文はややばらけている。236～239は連点文の他、沈線も見られる資料である。236は上方では沈線の後に連点文が施されているが、下方では連点文を施した後に沈線が施されている。237は連点文の後沈線が施されたようである。238は沈線の後連点文が施されている。210～239は縄文時代前期のものと考えられる。240は貝殻による刺突文が施されている。

241は口縁部が内湾し、口縁部上面には押し引き状の刺突文が施されており、内面には条痕が残っている。春日式である。

242の口縁部は波状で、口唇部と外面には貝殻刺突文が施される。内面には短い沈線が数か所見られる。市来式と考えられる。243は口唇部に刻みが施され、外面には1条の凹線、その下に低い突帯が取り付けられ、上側に斜め方向の刺突文が施されている。244の口縁部外面には斜め向きの刺突文が施されている。243・244は市来式の可能性が考えられる。245は口縁部外面下部に粘土を貼り付けて肥厚させ、上面に連続する刺突が施されている。市来式である。

246～254は条痕が見られる。246は口縁部がわずかに肥厚し、247の口唇部は丸みを有する。248・249は内外面

ともに条痕が見られる。248の内面には比較的大きな窪みがあり、輪積みの単位の可能性が考えられる。250の内面には接合痕が明瞭に残っている。251の内面には平行の沈線が施されている。252は内外面に条痕が施されるが、外面はその後ナデ調整されている。253は条痕の後平行の沈線が斜め方向に施されている。内面の条痕は横方向にかなり強く施されている。

255～259は晩期の浅鉢である。255の口縁部は外方に屈曲する。256の口縁部は外方に肥厚し、端部は丸みを有する。257の口縁部も肥厚しており、端部は丸みを有する。258・259の調整は横方向のミガキであるが、外面は判然としない。259の上面は擬口縁である。

260～269は晩期の刻み目突帯文土器である。口縁部直下に突帯が取り付けられている。いずれの突帯もあまり高くなく、先端に大きめの刻みが施されているものが多い。260～262・265・268の刻みは指頭によると考えられる。263は突帯と突帯の間に複線の山形文が施される。266・267の刻みはひじょうに小さくて浅い。269の突帯は小さいが磨滅による可能性が高い。

270は組織痕土器で、傾きから底部に近い部分と考えられる。271の底部は網代と考えられる痕跡が残る。272は底部の厚さが比較的一定していることや、立ち上がりの角度が急なことなどから、縄文後期の深鉢の底部と考えられる。

273には斜め方向の沈線が施されている。274は口縁部で、外面には短沈線が施される。275は条痕の後、浅い沈線が施されている。276の外面には沈線が、内面には条痕が施されている。273～276の型式は不明。

277は土器片を略円形に加工した土製加工品である。両面とも文様は見られない。

278～758は弥生時代から古墳時代の土器で、278～614は甕と考えられる資料である。

278は如意形口縁で、口唇部下側に刻みが施される。

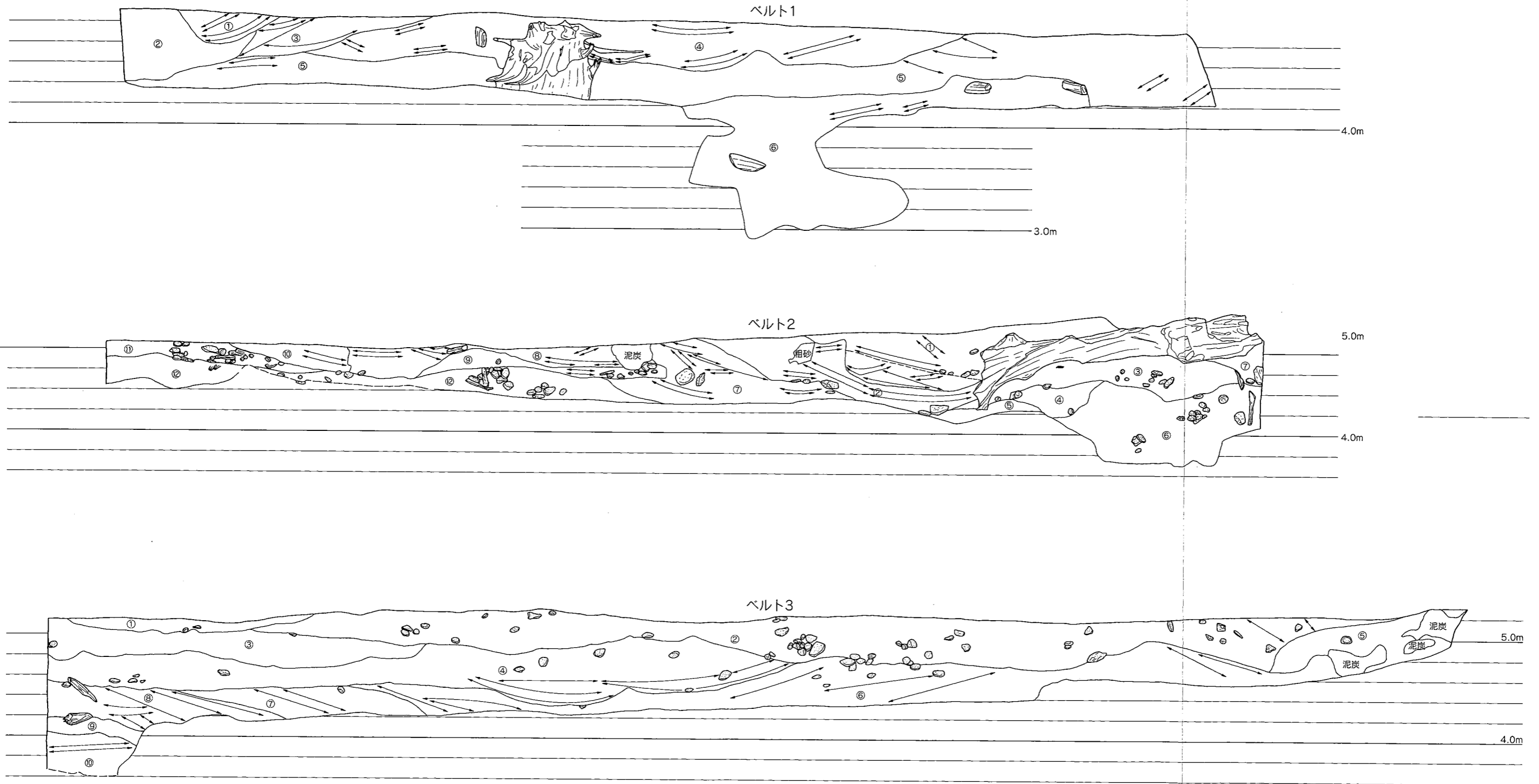
279～281の口縁部上面外面側は下がっていて、いずれも細かめの刻みが施される。

282・283の口縁上面外面側は下がっており、その直下に突帯が付けられる。口唇部および突帯の先端には刻みが施されるが、282の刻みは密であり、283の刻みは疎らである。

284は口縁部が外方に突出し、直下に突帯が巡らされ、刻み状の浅い窪みが見られる。

285は口縁部が外方にわずかに突出し、口縁部下に断面三角形の突帯が巡らされる。

286～291は口縁部上面が下方に下がる形態である。286は口縁部下に突帯が巡り、口唇部および突帯の先端にはやや大きめの刻みが施される。287も286と同様であるが、刻みは小さめである。口縁部と突帯の間には斜



RI1 ベルト1

- ① 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈する細砂層。1cm大までのパミスを含む。6層に同じ。
- ② 暗灰黄色 (10YR5/2) を呈する粗砂層。2cm大までの礫、15cm大までのパミスを含む。
- ③ 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈する細砂を基調とし、3cm大までのパミスをわずかに含む。下部の細砂の粒子はさらに細かい。6層と同じものと考えられる。
- ④ 南側は灰色 (5Y6/1) を呈する粗砂層で、3cm大までのパミスを含む。北側は灰黄褐色 (10YR4/2) とにぶい黄褐色 (10YR5/1) を呈する粗砂が交互に堆積しており、5mm大までのパミスを含む。流木を包含している。
- ⑤ 明褐灰色 (5YR7/1)・褐灰色 (10YR5/1) などを呈する粗砂層。20cm大までのパミスを含み流木を包含している。北側に2cm大までのパミスを非常に多く含む部分が見られる。
- ⑥ にぶい黄褐色 (10YR6/4) と褐灰色 (10YR5/1) を呈する粗砂が交互に堆積した層。3cm大程度のパミスをひじょうに多く含み、まれに10cm大のパミスも含む。

RI1 ベルト2

- ① 灰褐色 (7.5YR5/2) を呈する細砂～粗砂層。5cm大までのパミスを多く含む部分がある。上部には10cm大くらいのパミスが含まれる。下部には流木が包含されている。
- ② にぶい黄褐色 (10YR5/3) と灰褐色 (7.5YR4/2) を呈する細砂が交互に堆積した層。
- ③ 褐灰色 (10YR6/1) を呈する粗砂層。礫とパミスを非常に多く含む部分がある。流木を包含している。
- ④ 灰黄褐色 (10YR4/2) と暗灰黄色 (2.5Y5/2) を呈する細砂が相互に堆積した層。
- ⑤ 褐灰色 (10YR5/1) などを呈する粗砂層で、色調は一定していない。
- ⑥ にぶい黄褐色 (10YR5/4)・灰色 (5Y5/1) などを呈する粗砂層。15cm大までのパミスを含み、流木を包含している。

- ⑦ オリーブ褐色 (2.5Y4/3) を呈する粗砂であるが、粒子は細かめである。パミスをわずかに含んでいる。
- ⑧ 灰褐色 (5YR4/2) 細砂がベースで、ほかの色調の細砂が縞状に堆積している。流木を包含する。
- ⑨ 灰褐色 (7.5YR6/2) を呈する粗砂層で、3cm大程度までのパミスを多く含む部分が見られる。10cm大までのパミスも見られ、流木を包含している。
- ⑩ 褐灰色 (7.5YR4/1) を呈するシルト質層と灰黄褐色 (10YR4/2) を呈する細砂層が交互に堆積している。木の葉や植物の茎・流木を包含している。
- ⑪ 黒褐色 (7.5YR3/2) を呈するシルト～細砂層。杭列の付近には15cm大くらいまでの大きなパミスを含む部分がある。
- ⑫ にぶい褐色 (7.5YR5/3) と明褐灰色 (7.5YR7/1) などを呈する粗砂層で、2cm大くらいまでのパミスを多く含む部分が見られる。まれに10cm大程度までのパミスも含む。

RI1 ベルト3

- ① 褐灰色 (10YR4/1) を呈するシルト質層。3cm大までのパミスをわずかに含む。細砂が含まれる部分がある。
- ② 明黄褐色 (10YR7/4)・灰白色 (2.5YR7/1) などを呈する粗砂層。一部細砂の部分も見られる。3cm大までのパミスが密に見られる部分があり、10cmくらいまでのパミスも多く含む。泥炭層をブロックで含んでいる。
- ③ 灰黄褐色 (10YR5/2) を呈する細砂～粗砂層。粗砂の部分には5cm大までのパミスも含まれる。
- ④ にぶい黄褐色 (10YR6/3) などを呈する粗砂層で、色調は一定していない。褐色 (7.5YR6/4) を呈する粗砂・10cm大程度までのパミスや泥炭のブロックを含む。
- ⑤ 灰褐色 (7.5YR5/2) を呈する細砂層。やや明るい色調の泥炭をブロックで含む。2cm大程度までのパミスを多く含む、10cm大まで程度のもので見られる。
- ⑥ 褐灰色 (7.5YR6/1)・暗赤褐色 (5YR3/6) などを呈する粗砂が基本で、10cm大くらいまでの比較的大きなパミス

- ⑦ スガの密集した部分が見られる。褐色 (7.5YR4/4) などを呈する粗砂層で、色調は一定していない。1cm大までのパミスをひじょうに多く含む。
- ⑧ 灰黄褐色 (10YR5/2) などを呈する粗砂層で、色調は一定していない。2cm大までのパミスを含み、まれに10cm大くらいのもも見られる。流木を包含する。
- ⑨ 黄褐色 (2.5YR5/3) などを呈する粗砂層で、色調は一定していない。1cm大までのパミスをとくに多く含むが、5cmまでのパミスも見られる。SK3の埋土である。
- ⑩ にぶい褐色 (7.5YR5/4) などを呈する粗砂が縞状に堆積した層で流木を包含する。SK3の埋土である。



Fig.40 RI1埋土 S=1/40

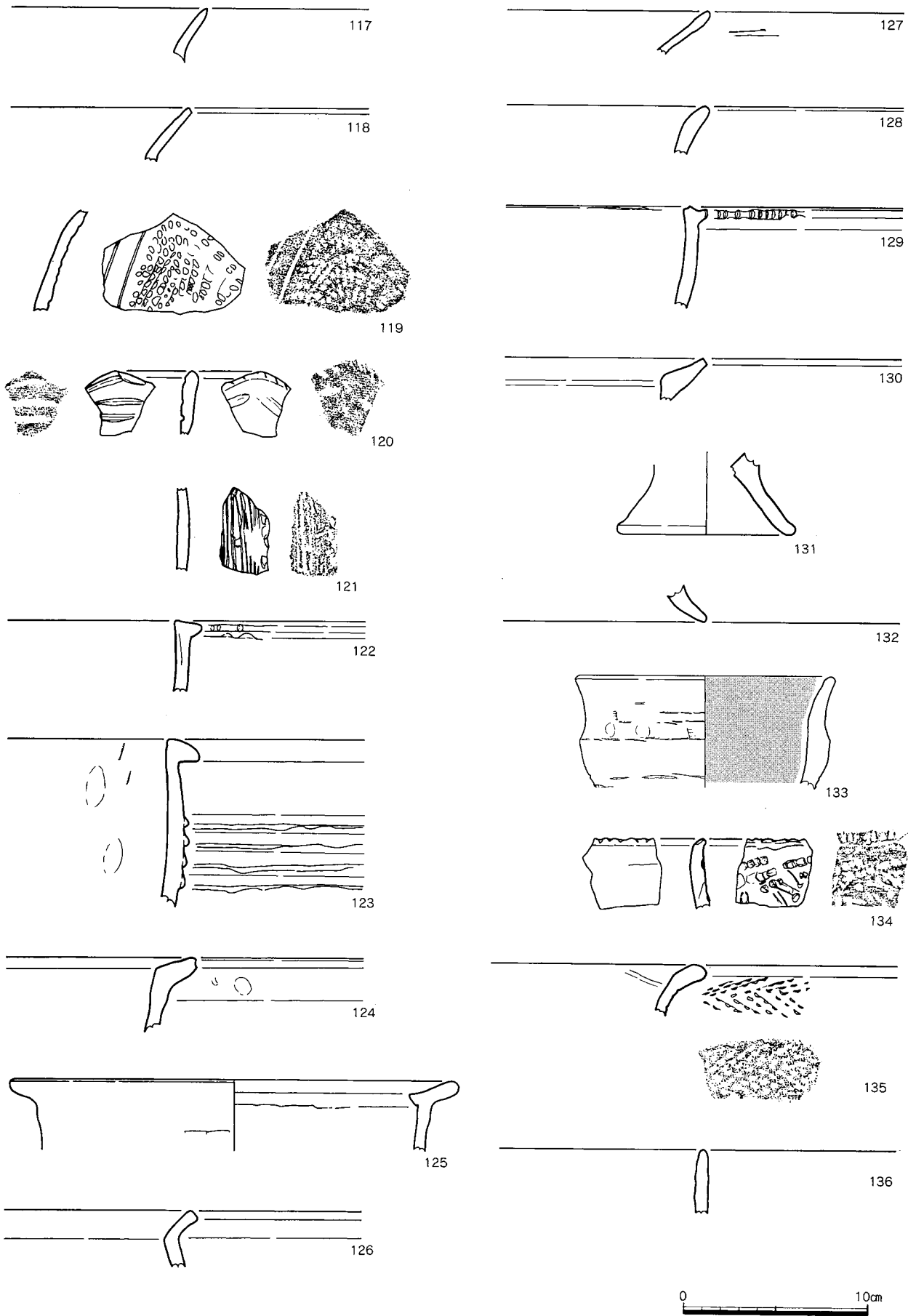


Fig.41 ベルト1・2出土遺物 S=1/3

Tab.14 ベルト1・2 出土遺物

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
117	ベルト1 ⑤	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR6.3・灰黄褐色10YR5/2。内面：灰白色2.5Y8/1・浅黄褐色7.5YR8/3。	細砂粒を含む。透明粒・茶色の粒。	ナデ。	
118	ベルト1 ⑤	弥生	甕	にぶい黄橙色10YR7/3。器肉：灰色N4/。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	ヨコナデ?	
119	ベルト1 ⑥	縄文		外面：にぶい黄橙色10YR7/3。内面：浅黄褐色2.5Y7/2。一部灰色5Y5/1。	粗砂粒・砂粒を含む。軽石・赤茶色の粒・角閃石・半透明粒。	外面：連点文・沈線。内面：ナデ。	
120	ベルト1 ⑥	縄文		にぶい黄褐色10YR6/4。鉄分付着のため詳細は不明。	砂粒を含む。透明粒。	鉄分付着と磨滅のため不明。	
121	ベルト1 ⑥	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR7/2と褐灰色10YR6/1の中間。内面：黄灰色2.5Y5/1。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒多。	外面：条痕。	
122	ベルト1 ⑥	弥生	甕	外面：波威喝7.5YR5/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。	細砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤色粒。	ナデ。	
123	ベルト1 ⑥	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2。口縁部付近：にぶい黄褐色10YR7/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。	砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒(3mm大から)・透明粒・角閃石。	外面：ヨコナデ。口縁部上面：ナデ。内面：(ハケのち)ナデ。	
124	ベルト1 ⑥	弥生	甕	外面：暗灰色N3/。にぶい黄褐色10YR6/3。内面・器肉：暗灰色N3/。	微砂粒を含む。	ナデ。	
125	ベルト1 ⑥	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR4/1。口縁部上面：鉄分付着のため不明。内面：オリーブ黒色5Y3/1。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径(23.8)cm。残存率：約1/8。
126	ベルト1 ⑥	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR4/1。(口縁下部)黒褐色2.5Y3/1。内面：鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。	外面：ナデ。内外面口縁部付近：ヨコナデ。	
127	ベルト1 ⑥	弥生	甕?	外面：灰色N4/。内面：にぶい黄褐色7.5YR6/4。器肉：灰白色10YR7/1。	砂粒・微砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ヨコナデ。	
128	ベルト1 ⑥	弥生	壺?	外面：灰色5Y5/1。内面：橙色7.5YR6/6。器肉：にぶい橙色7.5YR7/4。	粗砂粒・微砂粒を含む。白色粒。	ヨコナデ。	
129	ベルト1 ①	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR5/1。内面：灰黄褐色10YR6/2。器肉：灰色N4/。	粗砂粒・砂粒を含む。軽石・透明粒・茶色の粒。	ナデ。突帯付近：ヨコナデ。	
130	ベルト1 ①	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR5/4に類似。器肉：にぶい黄褐色10YR7/2。	砂粒を含む。金色の雲母多・白色粒。	ヨコナデ。	
131	ベルト1 ①	弥生	甕	脚台外面：灰白色10YR8/2と浅黄褐色10YR8/3の中間。脚台内面：灰黄色2.5Y7/1。内面：灰色N5/に近い。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石・黒色粒・赤茶色の粒。	ナデ。	底径(9.4)cm。
132	ベルト2 ①	弥生	甕	橙色5YR7/6。脚台先端部：灰白色2.5Y8/2。	砂粒・粗砂粒を含む。赤茶色の粒。	ナデ。	
133	ベルト2 ①		鉢	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。内面：明赤褐色5YR5/6(赤色顔料)。一部灰色5Y5/1。器肉：灰白色2.5YR8/2。	砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒・赤色粒。	内外面口縁部～肩部・外面下部：ヨコナデ。内外面胴部：ナデ。	口径(14)cm。
134	ベルト2 ②	縄文		外面：褐灰色10YR4/2。内面：褐灰色10YR4/1。	礫～細砂粒を含む。透明粒。	ナデ。外面：押し引き連点文。	
135	ベルト2 ③	縄文		外面：にぶい橙色7.5YR6/4。内面：にぶい黄褐色10YR5/3。	礫・粗砂粒を含む。半透明粒・白色粒。内面器壁に目立つ。	外面：貝殻刺突文。内面：条痕。	割れ口磨滅している。
136	ベルト2 ③	縄文		灰黄褐色10YR4/2。	礫・粗砂粒を含む。半透明粒・白色粒。	ナデ。	

め方向の沈線が3条見られる。288も286と同様であるが、刻みは小さい。289は口縁部内面がわずかに窪んでいる。口唇部には刻みが施され、口縁部直下にはヨコナデによる窪みが見られる。290・291も口唇部に小さな刻みが施される。

292は直立しながら立ち上がり、口縁部付近からやや外反する。口縁部は外方に突出するが、口縁部内面もわずかに肥厚している。口唇部には小さな刻みが施される。形態的には如意形口縁に類似している。

293～303は口縁部が外方にやや突出するものである。293～295は口唇部に刻みが施される。296・297は口唇部がやや尖り気味であり、298～303は口唇部が丸みを有す

る。303は口縁部下に刻みが施された1条の突帯が付けられている。口唇部にも刻みが施されていたかどうかは、残存部分が少ないため不明である。

304以下は口縁部の突出がさらに大きくなっている。304・305は口唇部がやや尖り気味で細かい刻みが施されている。口縁部下の突帯の先端にも同様の刻みが施されている。

306は口唇部が丸みを帯び、刻みが施されている。口縁部上面はやや歪んでいる。307～309は口縁部が三角形を呈し、口唇部には刻みが施される。309の刻みはひじょうに小さい。

310は口縁部上面が外方に向かって下がり、口唇部に

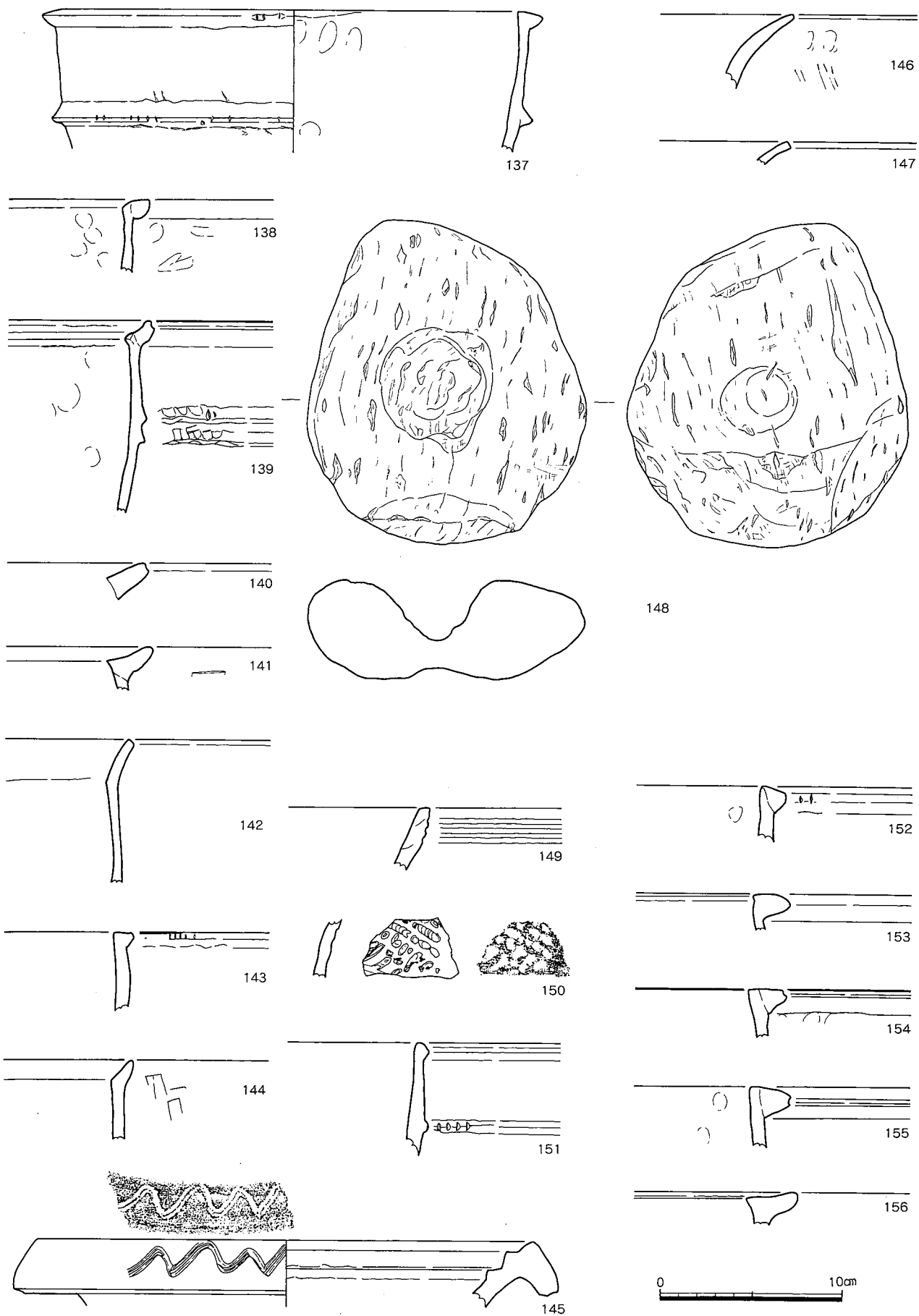


Fig.42 ベルト2 出土遺物 S=1/3

Tab.15 ベルト2 出土遺物観察表

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
137	ベルト2 ③	弥生	甕	外面：にぶい橙色5YR6/4・浅黄橙色7.5YR8/3。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。口縁部付近：10YR8/2。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。軽石・赤茶色の粒・透明粒・黒色粒。	ナデ。	
138	ベルト2 ③	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：褐灰色10YR4/1。	砂粒・粗砂粒を含む。橙・角閃石・白色粒。	ナデ? ユビオサエ。	
139	ベルト2 ③	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR6/1。内面：褐灰色5YR5/1。	砂粒を含む。角閃石・白色粒。	内外面：ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
140	ベルト2 ③	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR5/3。	砂粒・細砂粒を含む。金色の雲母・白色粒。	ナデ。	
141	ベルト2 ③	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR6/3。内面・口縁部上面：浅黄褐色10YR8/3。	細砂粒・微砂粒をわずかに含む。	外面：ナデ。内面・口縁部上面：ヨコナデ。	
142	ベルト2 ③	弥生か古墳	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2。内面：灰褐色7.5YR6/2。	砂粒を含む。透明粒・軽石・角閃石。	ナデ。	やや鉄分付着。
143	ベルト2 ③	弥生	甕か鉢	外面：褐灰色10YR4/1。内面：黄灰色2.5YR4/1。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	内外面：ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
144	ベルト2 ③	弥生	鉢?	外面：にぶい褐色7.5YR5/3。内面：にぶい黄褐色10YR5/3。	微砂粒を含む。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
145	ベルト2 ③	弥生	壺	にぶい赤褐色5YR5/3。	礫・粗砂粒を多く含む。軽石・半透明粒・黒色粒・白色粒。	口縁部上面：ハケのちナデ・波状文。外面口縁部下部・内面突帯付近：ヨコナデ。内面：突帯付近ヨコナデ。	口径 (27.2) cm。
146	ベルト2 ③		壺?	外面：にぶい黄褐色10YR7/2。内面：灰白色2.5Y8/2+黄灰色2.5Y6/1。	礫・粗砂粒～微砂粒を含む。透明粒・軽石・赤茶色の粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
147	ベルト2 ③		壺?	にぶい黄褐色10YR6.5/4。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒・白色粒。	ナデ?。	
148	ベルト2 ③	軽石加工品?					石材：軽石。重量：495 g。
149	ベルト2 ⑥	縄文		鉄分など付着物ため不明。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	鉄分など付着物ため不明。	
150	ベルト2 ⑥	縄文		外面：黄灰色2.5Y5/1。にぶい黄褐色10YR7/4。内面：暗黄灰色2.5Y4/2。	粗砂粒を含む。透明粒・角閃石・白色粒。	ナデ? 外面：連点文。	
151	ベルト2 ⑥	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1。内面：にぶい黄褐色10YR5/4。	粗砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	
152	ベルト2 ⑥	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/4。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。	
153	ベルト2 ⑥	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR7/3。	礫～細砂粒を多く含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒・黒色粒。	ナデ?	鉄分付着。
154	ベルト2 ⑥	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR5/3。口縁部上面・内面：灰黄褐色10YR6/2。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
155	ベルト2 ⑥	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/1。内面：にぶい橙色7.5YR6/4。	礫を少し・砂粒・粗砂粒を含む。透明粒。	口縁部上面・外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
156	ベルト2 ⑥	弥生	甕	外面：黄灰色2.5Y6/1・5/1。内面：黄灰色2.5Y7/2・黄灰色2.5Y6/1。器肉：灰白色2.5Y8/2。	砂粒・細砂粒を含む。半透明粒・黒色粒。	ナデ。	
157	ベルト2 ⑥	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	礫・粗砂粒を含む。白色粒。	ナデ? 鉄分付着のため詳細不明。	口径 (27.2) cm。
158	ベルト2 ⑥		鉢?	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。内面黒斑・器肉：N3/。	礫を含む。軽石・半透明粒。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
159	ベルト2 ⑥	弥生か古墳	壺	外面：鉄分付着のため不明。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。器肉：暗灰色N3/。	細砂粒を含む。	ナデ。内面頸部：ハケ。	頸部径 (9.6) cm。
160	ベルト2 ⑥		壺?	外面：にぶい橙色7.5YR6/4。内面：にぶい橙色5YR7/4。器肉：灰色5Y5/1。	粗砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
161	ベルト2 ⑥	弥生	甕か壺	外面：にぶい赤褐色5YR5/4。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。器肉：褐灰色10YR5/1～10YR4/1。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石・赤茶色の粒。	ナデ。	底径 (8.4) cm。
162	ベルト2 ⑥	弥生	甕か壺	外面：にぶい橙色5YR7/4。灰黄褐色10YR6/2。	細砂粒を含む。黒色粒。	ナデ。	
163	ベルト2 ⑦		壺?	外面：浅黄褐色7.5YR8/3。内面：灰白色10YR8/2。	粗砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	ナデ?	鉄分付着。

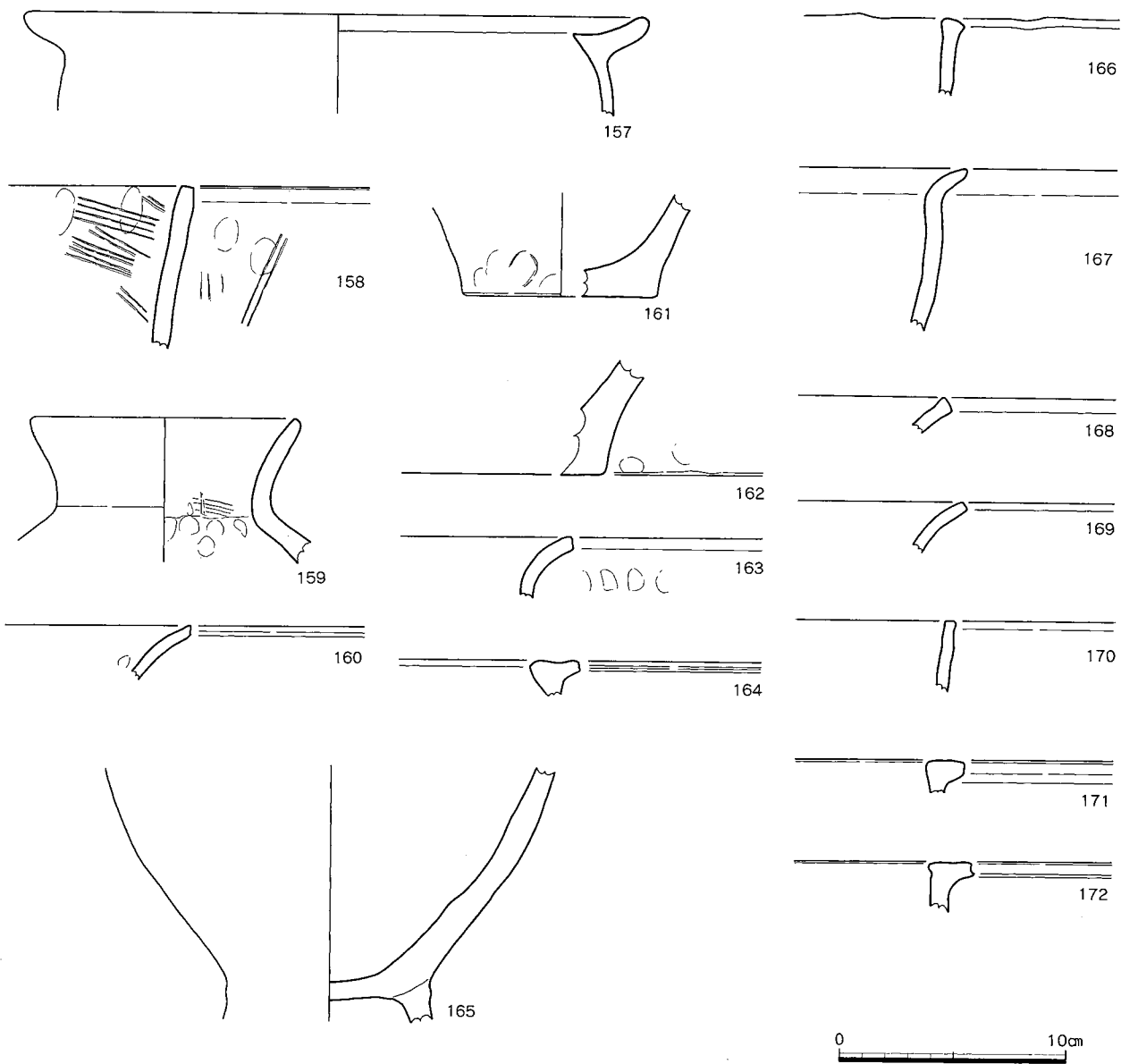


Fig.43 ベルト2・3 出土遺物 S = 1/3

大きめの刻みが施される。形態的には 279～281のものに類似している。

311～313は口縁部上面が下がりながら口唇部に至るもの。いずれの口唇部にも刻みが施されている。311はやや白っぽい色調を呈する。

314の口縁部は台形を呈するが、突出はそれほど大きくない。口唇部にはかなり密に刻みが施されている。

315～318は口縁部が三角形を呈し、口唇部には刻みが施される。315はやや白っぽい色調を呈する。316は口縁部と胴部との境界の外面に工具痕が残る。ハケの原体によるものと考えられるが、外面にハケメはまったく観察されないことから、口縁部と胴部を接合する際の工具痕である可能性も考えられる。

319は口唇部が丸みを帯び、刻みが施されている。内面には縦方向のユビオサエの痕跡が残り、やや白っぽい

色調を呈する。

320～326は口縁部が三角形を呈する。321の口縁部内面はやや窪んでいる。325の口縁部下には1条の低い突帯が巡らされる。その上下が窪んでいるため、つまみ出しによって成形された可能性も考えられる。

327～343は口唇部が丸みを帯び、刻みが施されている。329は鉢の可能性も考えられる。330の口縁部上面はわずかに窪んでいる。331の口縁部上面も窪んでおり、口縁部内面がわずかに突出している。

332～337は口縁部が三角形を呈するもので、口唇部には刻みが施されている。334・337の口縁部上面は窪んでいる。335の口縁部内面はわずかに突出している。336の口縁部の突出はかなり大きい。

338～340・343は口唇部が丸みを帯び、刻みが施されている。338の口縁部の突出はかなり大きく、口縁部下

Tab.16 ベルト2・3 出土遺物観察表

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
164	ベルト2 ⑫	弥生	甕	にぶい黄橙色10YR7/3に類似.	粗砂粒を含む. 透明粒・黒色粒.	ヨコナデ?	鉄分付着.
165	ベルト2 ⑫	古墳	甕	外面: 灰白色10YR8/2. 外底面: にぶい橙色7.5YR7/4. 褐灰色10YR14/1.	砂粒・粗砂粒を含む. 角閃石・白色粒・黒色粒・金色の雲母.	外面: ナデ. (脚部付け根付近) ヨコナデ. 内面上部: 付着物のため不明. 内底面: ナデ.	
166	ベルト2 ⑫		甕か鉢	灰黄色2.5Y7/2. 器肉: N2/.	細砂粒を含む. 透明粒.	ヨコナデ?.	かなりゆがんでいる.
167	ベルト2 ⑫		鉢	鉄分など付着物のため不明.	砂粒・細砂粒を含む.	鉄分など付着物のため不明.	
168	ベルト2 ⑫	弥生	壺?	にぶい黄橙色10YR7/2.	細砂粒を含む. 黒色粒. 赤茶色の粒 (4mm大から).	ナデ.	
169	ベルト2 ⑫		壺?	鉄分付着のため不明.	粗砂粒・細砂粒を含む.	鉄分付着のため不明.	
170	ベルト2 ⑫			褐灰色10YR4/1. 鉄分付着のため詳細不明.	礫・細砂粒を含む.	なで.	
171	ベルト3 ②	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR5/3. 器肉: にぶい黄橙色10YR7/4.	砂粒・細砂粒を含む. 角閃石.	ヨコナデ.	
172	ベルト3 ⑥	弥生	甕	外面: 橙色7.5YR6/6. 内面: 橙色5YR7/6.	礫・粗砂粒を含む. 赤茶色の粒.	口縁部上面・外面: ヨコナデ. 内面: ナデ.	

には低い突帯が1条残る。338・339の口唇部に施された刻みはひじょうに細かい。340の口縁部の突出もかなり大きく、口唇部にはやや大きめの刻みが施されてる。口縁部下面は丸みを帯びている。343は口縁部内面が突出している。

341・342・344～347は口縁部が三角形を呈する。341の口唇部には刻みが施され、器表は白っぽい色調を呈する。342の口唇部にも刻みが施され、口縁部上面はわずかに窪んでいる。346の口唇部は尖っている。

348～355は口縁部が三角形を呈するが、口唇部は丸みを帯びる。348・350・353はやや白っぽい色調を呈する。355は口縁部のすぐ下に突帯が見られる。356の口縁部はかなり突出が大きく口唇部は丸みを帯びる。357は口唇部が丸みを帯びた三角形で、口縁部上面も丸みを有し、口縁部上面のゆがみはかなり大きい。口縁部下に2条の突帯が残っている。残存部が少ないため図面では口径の復元は行っていないが、口径40cm程度のかかなり大型品であったと考えられる。

358～360の口縁部は突出がかなり大きく、口唇部にはいずれも刻みが施されている。358の胴部には1条の突帯が巡らされるが、口縁部の高さに比べてかなり低く、先端には刻みが施されている。360の口縁部上面はわずかに窪んでいる。やや白っぽい色調を呈する。

361・362の口縁部は略台形を呈し、361の口唇部には刻みが施され、胴部には断面三角形の突帯が2条巡らされている。口縁部の高さに比べると突帯はかなり低い。

363・364・366は口縁部の突出がかなり大きく、口唇部が丸みを帯びる。363の口唇部には刻みが施される。364の胴部には3条の縦方向の突帯が残っている。やや白っ

ぽい色調を呈する。

365・368・369・371は口縁部が略台形を呈する。365の胴部には低い突帯が1条残る。369は口縁部内面がやや突出している。367・370は口縁部が三角形を呈する。

372～376は口縁部が短く、長方形もしくはそれに近い形態を呈するものである。372の胴部には2条の沈線が残る。374は口縁部内面が突出している。372～375はやや白っぽい色調を呈する。376には低い突帯が3条残る。

377の口縁部は台形に近いが、口唇部は丸みを帯びる。口縁部上面と口唇部の境に窪みが見られる。

378は口唇部が丸みを帯び、口縁部下面が肥厚する。口縁部上面には細沈線が施されている。

379～495は基本的に口縁部が台形を呈し、口唇部に窪みが見られるものである。

379は口縁部上面が窪み、口縁部内面が突出している。胴部には6条からなる沈線が施されている。380は口縁部下面が丸みを帯びる。382の胴部に2条の突帯が巡らされる。口縁部直下と、それぞれの突帯の直下には炭化物が付着している。383・384は現状では口唇部の窪みは見られないが、かなり磨滅しているため、もともと窪んでいた可能性は否定できない。385の口唇部の窪みは全周していなかったようである。口縁部内面の下半部をヨコナデすることによってその上部を突出させている。胴部にはやや絡縄気味の突帯が2条残っている。386の口縁部上面はわずかに窪んでいる。387の口縁部内面上部はわずかに突出し、胴部には低い突帯が2条残る。388の口縁部下面にはユビオサエの跡が明瞭で、胴部には2条の絡縄突帯が残る。389の口縁部内面上部はわずかに



Fig.44 RI1 出土遺物(1) S=1/3

Tab.17 RI1 出土遺物観察表(1)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	調整・文様	備考
173	RI1	縄文		鉄分付着のため不明.	礫・粗砂粒を含む. 黒色粒.	貝殻刺突文. 貝殻条痕.	ひじょうに磨滅している.
174	RI1	縄文		外面: にぶい黄褐色10YR5/3. 内面: 灰黄褐色10YR6/2とにぶい黄褐色10YR6/3の中間.	礫~粗砂粒を多く含む. 白色粒多・軽石・金色の雲母.	刺突文. 突帯文.	ひじょうに磨滅している. 上下不明.
175	RI1	縄文		外面: 褐灰色10YR4/1・にぶい橙色7.5YR7/3. 内面: にぶい橙色7.5YR7/3.	砂粒・粗砂粒を含む. 角閃石・軽石.	ナデ. 外面: 突帯.	
176	RI1	縄文	深鉢?	外面: 橙色7.5YR7/6. 内面: にぶい黄褐色10YR7/4.	粗砂粒・細砂粒を含む. 角閃石・透明粒.	内外面: 沈線文. 口唇部: 刺突連点文.	
177	RI1	縄文		外面: にぶい黄褐色10YR4/3. 内面: 灰黄褐色10YR4/2.	細砂粒を含む.	内外面: 竹管状の原体による沈線文. 口唇部: 同原体による刺突文.	傾き不明.
178	RI1	縄文		外面: にぶい橙色7.5YR6/4. 内面: 黄灰色2.5Y4/1.	粗砂粒・細砂粒を含む. 白色粒.	ナデ. 外面: 沈線文.	上下橋: 擬口縁.
179	RI1	縄文		外面: 灰黄褐色10YR5/2. 内面: にぶい黄褐色10YR5/3.	砂粒~細砂粒を含む.	外面: 沈線文. 内面: ナデ.	
180	RI1	縄文		鉄分付着のため不明.	粗砂粒を含む.	外面: 沈線文.	
181	RI1	縄文		外面: 黄灰色2.5Y5/1. 内面: 灰黄色2.5Y7/2.	細砂粒・微砂粒を含む.	沈線文.	
182	RI1	縄文		外面: 灰色5Y4/1. 内面: 暗灰黄色2.5Y4/2.	砂粒・細砂粒を含む.	外面: 沈線文.	
183	RI1	縄文		外面: 7.5YR5/3. 内面: 褐色7.5YR4/4.	砂粒・粗砂粒を含む. 黒色粒.	沈線文.	
184	RI1	縄文		灰黄色2.5Y7/2.	細砂粒を含む.	外面: 沈線文.	
186	RI1	縄文		外面: にぶい黄褐色10YR5/3. 内面: にぶい黄褐色10YR7/2.5.	粗砂粒・細砂粒を含む. 透明粒・白色粒・角閃石.	外面: 沈線文.	磨滅している.
185	RI1	縄文		外面: 灰黄褐色10YR6/2. 内面: 付着物のため不明.	礫・粗砂粒を含む. 角閃石・赤茶色の粒.	外面: 沈線文.	
187	RI1	縄文		外面: にぶい黄褐色10YR6/3. 内面: 灰黄褐色10YR5/2. 器肉: 灰色N4/.	砂粒・粗砂粒を含む. 透明粒・黒色粒.	外面: 沈線文.	
188	RI1	縄文		外面: 黄灰色2.5Y4/1. 内面: 付着物のため不明.	細砂粒を含む.		
189	RI1	縄文		鉄分付着のため不明.	細砂粒を含む.	外面: 沈線文.	
190	RI1	縄文		外面: にぶい黄褐色7.5YR6/4. 内面: 灰白色2.5Y8/2・黄灰色2.5Y5/1.	粗砂粒・細砂粒を含む.	外面: 沈線文.	ひじょうに磨滅している.
191	RI1	縄文		外面: にぶい黄褐色10YR6/3. 内面: にぶい褐色7.5YR5/3.	砂粒・粗砂粒を含む. 透明粒.	沈線文.	
192	RI1	縄文		黄色がかった黒色N2/ (Y) .	細砂粒・微砂粒を含む.	外面: 沈線文.	
193	RI1	縄文		鉄分など付着物のため不明.	礫・粗砂粒・細砂粒を含む.	外面: 沈線文. 内面: 条痕.	
194	RI1	縄文		外面: 灰黄褐色10YR5/2. 鉄分付着のため詳細不明. 内面: 褐灰色10YR5/1.	礫・細砂粒を含む. 白色粒・半透明粒.	内面: 沈線文.	
195	RI1	縄文		鉄分付着のため不明.	微砂粒を含む.	外面: 押し引き文・貝殻腹縁文.	

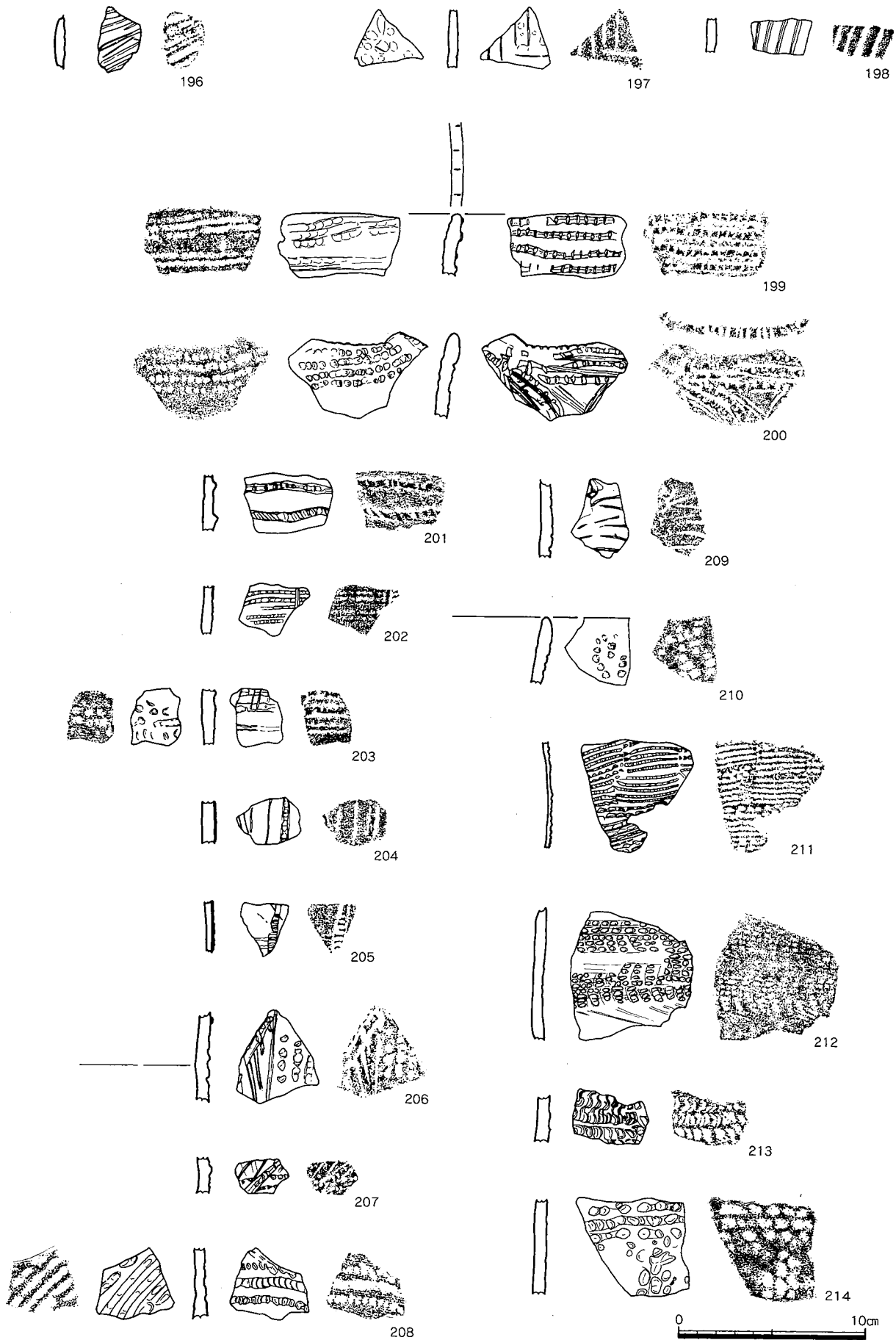


Fig.45 R11 出土遺物 (2) S=1/3

Tab.18 RI1 出土遺物観察表(2)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
196	RII	縄文		褐色7.5YR4/3.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	外面：沈線文。	
197	RII	縄文		外面：灰黄色2.5Y6/2。内面：灰黄色2.5Y6/1.		外面：沈線文。	上下不明。
198	RII	縄文		外面：にぶい褐色7.5YR5/4。内面：灰黄褐色10YR5/2.	粗砂粒・細砂粒を含む。	外面：沈線文。	
199	RII	縄文	深鉢?	外面：褐灰色10YR6/1。内面：褐灰色10YR5/1.	砂粒～細砂粒を含む。黒色粒。	外面：ナデ。張り付け突帯文。内面：押し引き状連点文。口唇部：刺突文。磨滅している。	
200	RII	縄文	深鉢?	外面：にぶい黄褐色10YR6/2。突帯部：黒褐色10YR6/1。内面：にぶい黄褐色10YR5/3.	粗砂粒・細砂粒を含む。	ナデ? 外面：沈線文・張り付け突帯。内面：押し引き状連点文。口唇部：刺突文。	
201	RII	縄文		外面：灰色5Y4/1。内面：灰色5Y6/1.	粗砂粒を含む。軽石・透明粒。		鉄分付着。
202	RII	縄文		外面：鉄分付着のため不明。器肉：黒色N2/.	砂粒を含む。	鉄分付着のため不明。外面：押し引き状連点文。	
203	RII	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR6/3。内面：褐灰色10YR5/1と灰黄褐色10YR5/2の間。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒・軽石。	外面：張り付け突帯。	やや磨滅している
204	RII	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR6/3。内面・器肉：褐色がかかった暗灰色N3/ (YR)。	粗砂粒・細砂粒を含む。角閃石・軽石・白色粒多。	外面：ナデ。沈線文。	
205	RII	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR5/4。内面：にぶい黄褐色10YR5/3.	粗砂粒・砂粒を含む。角閃石。	ナデ。外面：張り付け突帯文。	
206	RII	縄文		外面：褐灰色10YR4/1。内面：灰黄褐色10YR5/2.	礫・砂粒・細砂粒を含む。白色粒・赤茶色の粒・透明粒。	外面：沈線文・連点文・張り付け突帯文。	
207	RII	縄文		外面：黄灰色4/1。内面：にぶい黄褐色10YR7/2.	細砂粒を含む。	ナデ? 外面：沈線文・突帯。	
208	RII	縄文		内面：褐灰色10YR6/1。内面：にぶい黄褐色10YR5/4.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒・白色粒。	押し引き状連点文。	
209	RII	縄文		灰黄褐色10YR6/2。器肉：灰色5Y4/1.	砂粒を含む。角閃石・赤茶色の粒。	ナデ? 外面：沈線文。	内面：鉄分付着。
210	RII	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR7/3。内面：黄灰色2.5Y4/1.	粗砂粒を含む。	ナデ。外面：連点文。	
211	RII	縄文		外面：黄灰色2.5Y4/1。にぶい黄褐色10YR5/3。内面：にぶい褐色7.5YR5/4.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石。	外面：押し引き状貝殻刺突文。磨滅している。	
212	RII	縄文		外面：黄灰色2.5Y4/1。内面：黄灰色2.5Y5/1。鉄分付着のため詳細不明。	砂粒・細砂粒を含む。白色粒・透明粒・金色の雲母少し。	外面：押し引き状の貝殻刺突文。内面：条痕。	
213	RII	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR5/3。内面：灰黄褐色10YR6/2.	砂粒を含む。角閃石・透明粒・白色粒。	外面：貝殻刺突文。	
214	RII	縄文		外面：灰白色10YR8/2+10YR7/1。内面：灰白2.5Y7/1。器肉：灰色5Y4/1.	粗砂粒・細砂粒を含む。	外面：貝殻による連点文。磨滅しているため詳細不明。	

突出しており、胴部には3条からなる沈線が施されている。394の口唇部には窪みが見られない。396～398の口縁部内面は突出している。396は白っぽい色調を呈する。399には口縁部上面に4条からなる細沈線が「ハ」の字状に施されている。400・401は口縁部下面がやや丸みを帯びる。402は口縁部上面が丸みを帯び、胴部には1条の突帯が残っている。内面にはエビオサエの痕跡が明瞭に残る。403～405は口縁部上面と下面が丸みを帯びる。403・404の胴部には2条の突帯が残っている。404は白っぽい色調を呈する。405の胴部には3条の絡縄突帯が取り付けられている。406の口縁部上面はやや丸みを帯びる。口縁部直下に2か所の焼成前穿孔があり、内面には紐ずれの痕跡が残る。胴部には3条からなる沈線が施される。

407・410～423は口縁部上面に弱い稜が見られるものである。407の口縁部内面はやや突出している。408・409の口縁部上面は丸みを帯び、408の口縁部下面は肥厚している。410～413の口縁部内面上部はわずかに突出する。416の胴部には3条の突帯が巡らされている。418の口縁部内面はわずかに突出する。419・420の口縁部上面と口縁部下面は丸みを帯びる。421・422の口縁部内面はやや突出し、422の口縁部はかなり厚い。423の口縁部上面外側と口縁部下面にはエビオサエの痕跡が明瞭に残っている。

424～438は口縁部上面がほぼ平坦なものである。424の口縁部下面は肥厚しており、胴部には突帯が1条残っている。426の口縁部内面上部はやや突出している。428の口唇部はやや丸みを帯びており、口縁部上面には窪み

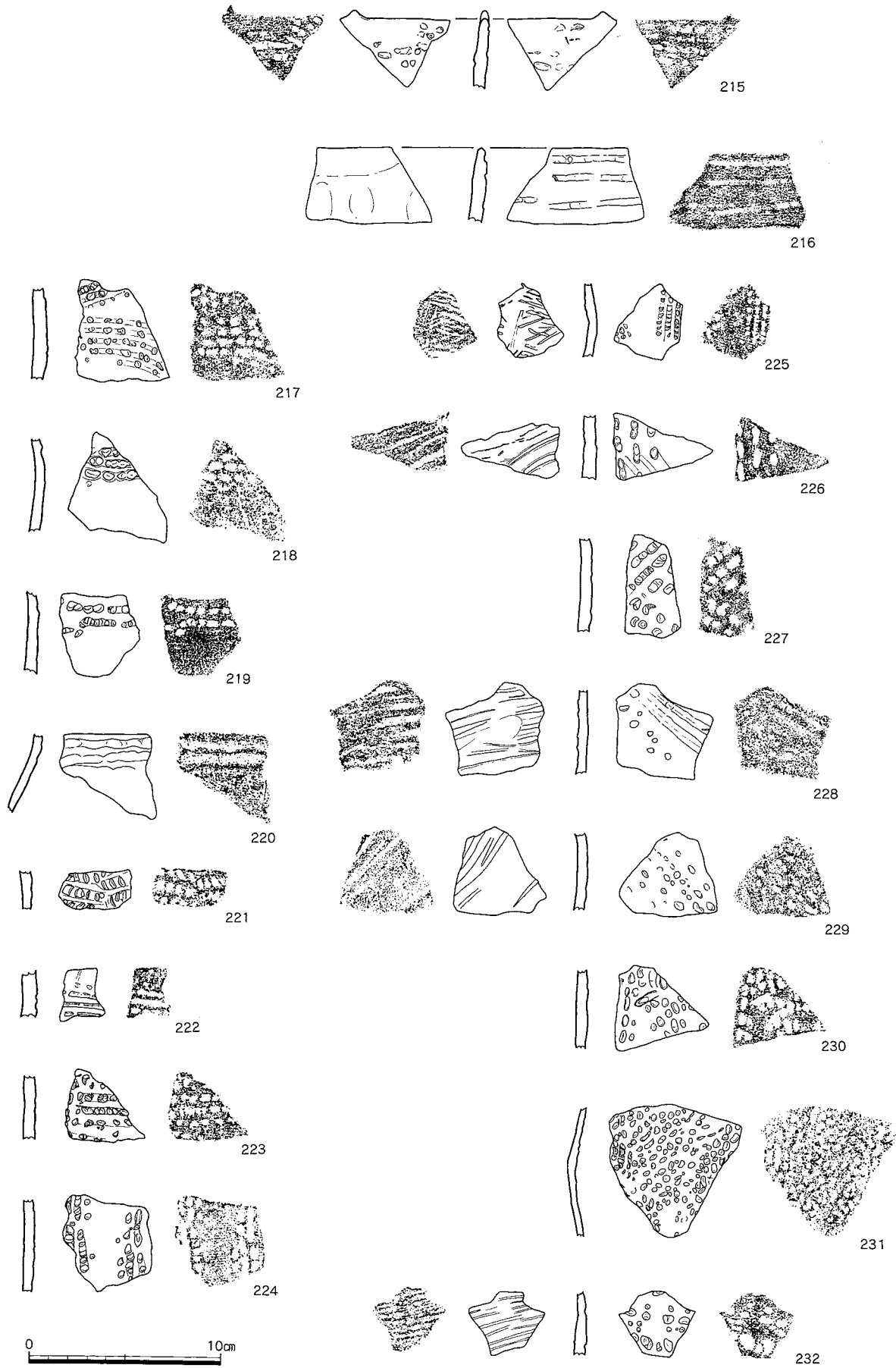


Fig.46 RI1 出土遺物 (3) S=1/3

Tab.19 RI1 出土遺物観察表 (3)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整・文様	備考
215	RI1	縄文		外面：灰黄褐色10YR7/2。 内面：にぶい黄褐色10YR5/4。	粗砂粒を含む。	連点文。	
216	RI1	縄文		外面：黄灰色2.5Y4/1。 内面：灰黄褐色5/2・黄灰色2.5Y4/1。	砂粒・細砂粒を含む。 軽石・透明粒。	ナデ。 外面：押し引き状連点文。	
217	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR6/3。 内面：にぶい黄褐色10YR5/3。 器肉：褐灰色4/1。	粗砂粒・細砂粒を含む。 透明粒・軽石。	貝殻による連点文。 磨滅しているため詳細は不明。	
218	RI1	縄文		鉄分付着のため不明。 器肉：黒色N2/。	微砂粒を含む。	外面：貝殻による連点文。	磨滅している。
219	RI1	縄文		外面：褐灰色10YR5.5/1。 内面：にぶい黄褐色10YR6/3。 器肉：灰色5Y4/1。	砂粒・細砂粒を含む。 軽石・角閃石・透明粒。	ナデ? 外面：貝殻による連点文。	
220	RI1	縄文		外面：橙色5YR6.5/6。 内面：鉄分付着のため不明。	粗砂粒～細砂粒を含む。 透明粒・角閃石。	外面：連点文。	磨滅している。
221	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR6/3。 内面：褐灰色10YR6/1。 器肉：黒色N2/。	礫・細砂粒を含む。 白色粒・透明粒。	外面：貝殻刺突文押し引き連状。	
222	RI1	縄文		にぶい褐色7.5YR5/4。	細砂粒を含む。	外面：貝殻による刺突状の連点文。	
223	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR7/3。 内面：灰白2.5Y7/1と黄灰色2.5Y6/1の間。 器肉：黒色N2/ (Y)。	粗砂粒・細砂粒を含む。 白色粒・透明粒。	外面：押し引き状連点文。 内面：ナデ。	
224	RI1	縄文		外面・器肉：黄灰色2.5Y4/1。 内面：灰褐色7.5YR4.5/2。	細砂粒を含む。 角閃石・白色粒。	外面：貝殻による押し引き状の連点文。 内面：ナデ。	
225	RI1	縄文		外面：にぶい橙色5YR6/4。 内面：黄灰色2.5Y5/1。	砂粒・細砂粒を含む。	押し引き連状文。	
226	RI1	縄文		外面：にぶい褐色7.5YR6/3。 内面：にぶい黄褐色10YR7/2。	細砂粒・微砂粒を含む。 透明粒。	外面：貝殻押し引き状連点文。 内面：条痕。	
227	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR7/2。 内面：黄灰色2.5Y7/2。 器肉：灰色N4/に近い。	砂粒・粗砂粒を含む。 赤茶色の粒・透明粒・軽石。	外面：貝殻による連点文。 磨滅しているため詳細不明。	
228	RI1	縄文		鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。	貝殻条痕。 磨滅しているため詳細不明。	
229	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR5/3。 内面：オリブ黒色5Y3/2。	砂粒・細砂粒を含む。 白色粒。	外面：貝殻による押し引き連点文。 磨滅しているため詳細は不明。	
230	RI1	縄文		外面：灰褐色7.5YR6/2・黒褐色7.5YR3/1。 内面：にぶい橙色7.5YR6/4。 器肉：灰色5Y4/1。	砂粒を含む。	外面：貝殻による押し引き状連点文。	
231	RI1	縄文		外面：鉄分付着のため不明。 内面：灰黄褐色10YR4/2。	砂粒を含む。 透明粒・白色粒。	外面：貝殻刺突による連点文。	
232	RI1	縄文		付着物のため不明。	細砂粒を含む。	外面：連点文。 内面：条痕。	

が見られる。口縁部下面は丸みを帯び、口縁部内面はわずかに突出している。430の口縁部上面と口縁部下面にはユビオサエの痕跡が明瞭に残り、口縁部内面上部はわずかに突出している。やや白っぽい色調を呈する。431の口唇部と口縁部下面は丸みを帯び、胴部には断面三角形の低い突帯が1条残っている。432の口縁部上面はやや丸みを帯びる。433の口唇部はやや丸みを帯びている。434の口縁部は厚く、口縁部内面はやや突出している。435の口縁部下面はわずかに肥厚し、白っぽい色調を呈する。436の口縁部上面内面側にはわずかな窪みが見られ、口縁部下面はやや肥厚する。437の口縁部上面はやや丸みを帯びる。438の口縁部内面はかなり突出し、下方には沈線状の窪みが見られる。

439～450は口縁部上面が外方に向かって下がっている。439の口縁部上面はやや丸みを帯び、口縁部内面は

かなり突出している。440も口縁部上面がやや丸みを帯びる。口唇部には窪みが見られ、細かい刻みが口唇部幅いっぱいには施されている。441の胴部には3条の突帯が残っているが下段の突帯は残りが悪い。443の胴部には2条の沈線が施されている。上下の沈線の間隔は部位により異なっている。445は口縁部下面中程に弱い稜が見られる。446は口縁部上面にやや窪みが見られ、口縁部内面上部はわずかに突出する。447の口唇部の窪みはひじょうに大きく、胴部外面にはハケ工具を打ち込んだあるいは止めた痕跡が残る。449・450は口縁部内面上部がやや突出しており、口縁部下面は丸みを帯びる。449には金色のウンモが含まれる。

451～456は口縁部上面に弱い稜が見られるもの。456は口縁部下面が肥厚している。

457～482は口縁部上面がほぼまっすぐに延びるもの

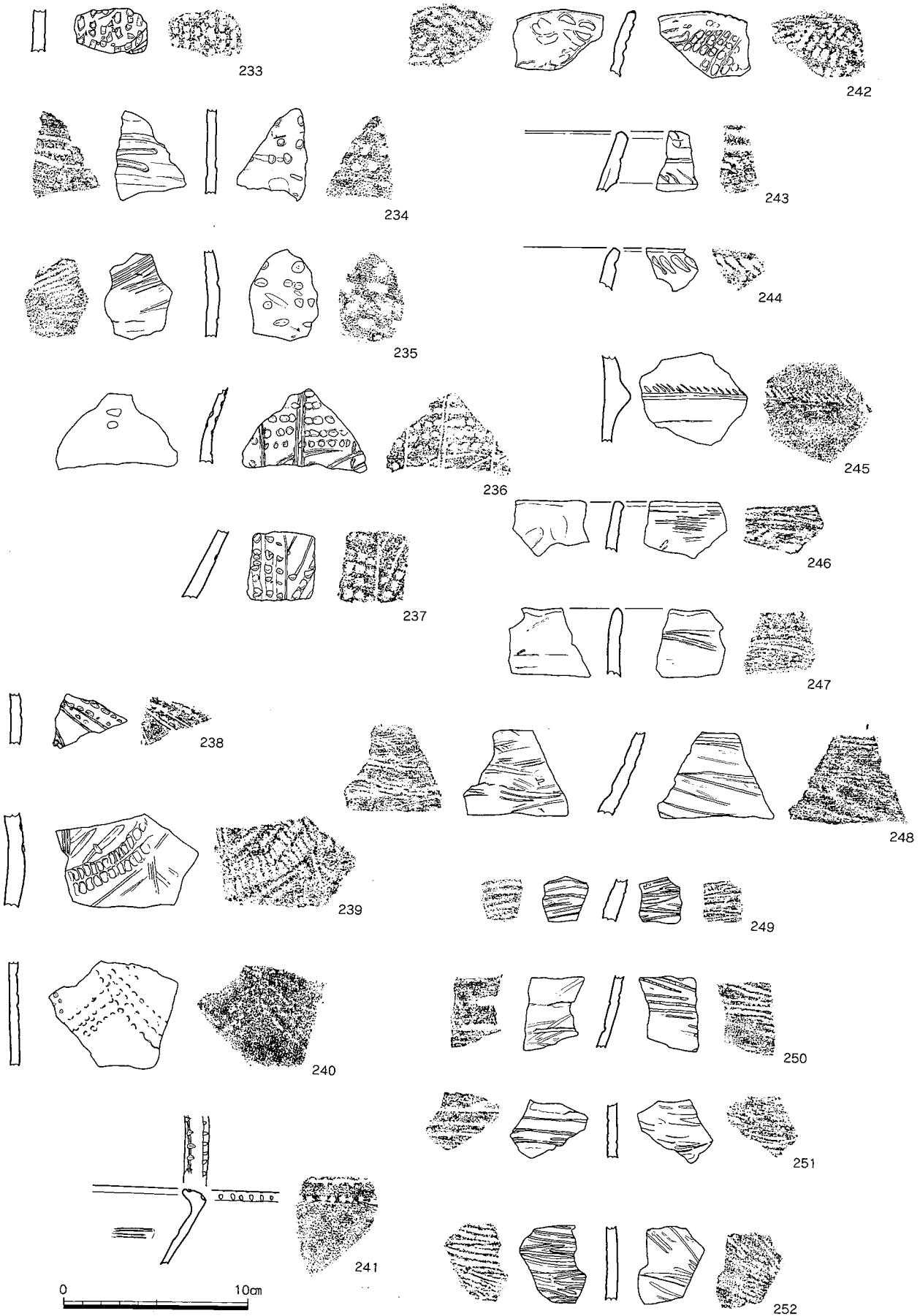


Fig.47 R11 出土遺物 (4) S = 1/3

Tab.20 RI1 出土遺物観察表(4)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整・文様	備考
233	RI1	縄文		外面：鉄分付着のため不明。内面：にぶい黄褐色10YR4/3.	礫・砂粒を含む。角閃石・白色粒.	外面：連点文。内面：貝殻条痕.	
234	RI1	縄文		褐色10YR4/1. 鉄分付着のため詳細不明.	砂粒をわずかに含む.	貝殻刺突文.	
235	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR4.5/3. 内面：灰黄色2.5Y6/2.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・白色粒.	外面：連点文。内面：条痕.	外面：黒斑あり.
236	RI1	縄文		外面：橙色5YR6/6. 内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・角閃石.	外面：連点文。内面：条痕.	磨滅している.
237	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR5/4. 内面：にぶい黄褐色10YR6/3.	礫～粗砂粒を含む。透明粒・白色粒.	外面：連点文・沈線.	
238	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR7/3・黄灰色2.5Y5/1. 内面：灰白色2.5Y8/2. 器肉：褐色がかった灰色N4/ (YR) .	粗砂粒・細砂粒を含む。白色粒.	外面：連点文・沈線.	
239	RI1	縄文		外面：灰黄褐色10YR5/2. 内面：にぶい黄褐色10YR6/4. 器肉：暗灰色N3/.	砂粒・粗砂粒を含む。白色粒.	外面：沈線文・連点文.	
240	RI1	縄文		外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 内面：にぶい黄褐色10YR7/4. 器肉：黄色がかった灰色N4/ (Y) .	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・軽石・黒色粒.	外面：貝殻刺突文。内面：ナデ?	
241	RI1	縄文		外面：にぶい褐色7.5YR7/4. 内面：黄灰色2.5Y6/1. 付着物のため詳細は不明.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・白色粒.	外面：貝殻刺突文。内面：条痕.	
242	RI1	縄文		にぶい褐色7.5YR5/4.	細砂粒・微砂粒を含む。透明粒.	内面：沈線。口唇部・内面：貝殻刺突文.	磨滅している.
243	RI1	縄文		外面：褐色10YR4/1. 内面：黒色2/.	砂粒を含む。透明粒・角閃石.	口唇部：刻み.	
244	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR6/4. 内面：にぶい褐色7.5YR6/3. 器肉：灰色5Y5/1.	砂粒を含む。透明粒・白色粒.	ナデ.	
245	RI1	縄文		外面：(上部) にぶい橙色7.5YR6/4. (下部) 灰黄褐色10YR6/2. 内面：灰黄褐色10YR6/2.	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・軽石・黒色粒.	ナデ.	
246	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR6/3. 内面：にぶい黄褐色10YR7/2.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石.	外面：条痕。内面：ナデ.	鉄分付着.
247	RI1	縄文		外面：褐色10YR5/1. 内面：付着物のため不明.	砂粒・細砂粒を含む.	条痕.	
248	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR7/3・にぶい橙色7.5YR6/4. 内面：灰黄色2.5Y7/2. 器肉：灰色N4/.	砂粒を含む。透明粒・白色粒.	貝殻条痕.	
249	RI1	縄文		外面：黄灰色2.5Y4/1. 内面：灰黄褐色10YR5/2.	細砂粒を含む。黒色粒.	貝殻条痕.	
250	RI1	縄文		外面：黄灰色2.5Y5/2. 内面：灰黄褐色10YR6/2.	細砂粒を含む.	外面：貝殻条痕.	内面：接合痕.
251	RI1	縄文		外面：灰黄褐色10YR5/2. 内面：黄灰色2.5Y5/1.	細砂粒を含む。角閃石.	外面：条痕のちナデ。内面：沈線.	鉄分付着.
252	RI1	縄文		灰色5Y4/1. 鉄分付着のため詳細不明.	微砂粒を含む.	外面：条痕のちナデ。内面：条痕.	

である。457は口唇部下半に刻みが施されている。口縁部上面がやや窪んでおり、口縁部内面が突出する。胎土に黒曜石が含まれる。458の口縁部上面はわずかに窪んでおり、胴部には3条の突帯が巡らされる。459の口縁部内面はやや突出する。461の口縁部内面はわずかに突出し、口縁部下面はやや丸みを帯びている。463の口縁部はかなり薄い。466の口縁部は長方形に近い。467の口縁部上面はわずかに窪み、口縁部下面は丸みを帯びる。469の内面と口縁部下面にはユビオサエの痕跡が残る。外面のハケメ状の調整痕はヨコナデによる可能性も考えられる。470の口縁部上面はわずかに窪んでおり、口縁部内面上部はやや突出している。口縁部下面はやや

肥厚する。471の口縁部上面はわずかに窪んでおり、口縁部内面はやや突出する。かなり白っぽい色調を呈する。472・473の口縁部上面はわずかに窪み、口縁部内面がわずかに突出する。口縁部下面は丸みを帯びている。473の胴部には2条の突帯が残る。474の口縁部内面上部はやや突出し、口縁部下面は丸みを帯びる。475の口唇部には刻みが施され、口縁部上面には2条の貼付け文が見られる。口縁部内面上部はやや突出し、ユビオサエの痕跡が残る。胴部には断面三角形の突帯が3条巡らされている。476の口縁部上面にも475と同様の貼付け文が見られ、口縁部内面上部がわずかに突出する。477の口縁部上面はやや丸みを帯びており、口縁部内面はやや突

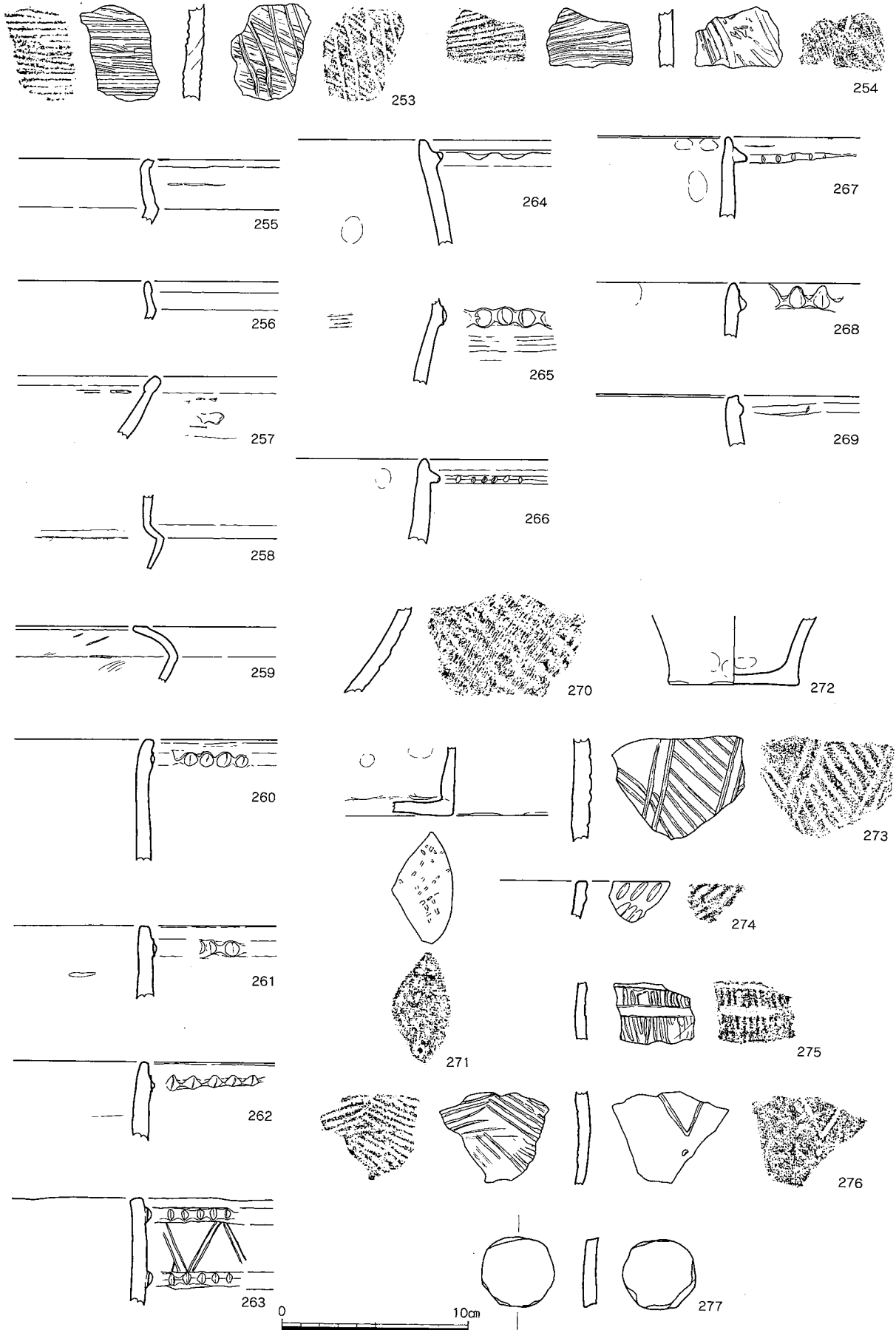


Fig.48 RI1 出土遺物 (5) S=1/3

Tab.21 RI1 出土遺物観察表 (5)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	調整・文様	備考
253	RI1	縄文		外面：にぶい橙色7.5YR6/4に近い。内面：鉄分付着のため不明。	粗砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	外面：条痕・沈線文。内面：条痕。	
254	RI1	縄文		外面：灰黄褐色10YR6/2・黄灰色2.5Y5/1。内面：灰黄色2.5Y6/2。	砂粒を含む。	外面：条痕のちナデ。内面：条痕。	
255	RI1	縄文	浅鉢	黒褐色2.5Y3/1。鉄分付着物のため詳細不明。	砂粒を含む。	外面：ハケのちヨコナデ。内面：鉄分付着物のため不明。	
256	RI1	縄文	浅鉢	外面：褐灰色10YR4/1。内面：暗灰黄色2.5Y5/2。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	
257	RI1	縄文	浅鉢	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：黄灰色2.5Y4/1。	砂粒を含む。透明粒・軽石。		
258	RI1	縄文	浅鉢	外面：(上部)灰色7.5Y4/1。(下部)灰黄色2.5Y6/2。内面：(上部)灰色5Y6/1。(下部)にぶい黄色2.5Y6/3。器肉：暗灰色N3/。	細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ。内面下部：ハケのちナデ。	
259	RI1	縄文	浅鉢	鉄分付着のため不明。器肉：暗灰色N3/。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	接合面がわかる。
260	RI1	縄文	深鉢	外面：にぶい褐色7.5YR5/3。内面：にぶい黄橙色10YR7/2。	砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ。	付着物あり。
261	RI1	縄文		外面：にぶい褐色7.5YR6/3。内面：橙色7.5YR6/6。	礫・砂粒を含む。	ナデ。	付着物あり。
262	RI1	縄文		外面：黒褐色2.5Y3/1。内面：灰黄褐色10YR5/2。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	ヨコナデ。	
263	RI1	縄文		外面：にぶい橙色7.5YR6/4。内面：にぶい黄褐色10YR5/3。器肉：灰色5Y4/1。	砂粒を含む。透明粒・白色粒。	ナデ。	
264	RI1	縄文		口縁付近：暗灰色N3/。内外面：鉄分付着のため不明。	礫・砂粒を含む。金色の雲母・軽石・白色粒。	外面突帯付近：ヨコナデ。内面：ナデ？	
265	RI1	縄文		外面：橙色7.5YR6/6。内面：灰黄褐色10YR6/2。	礫・粗砂粒を多く含む。透明粒・半透明粒・角閃石・軽石。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
266	RI1	縄文		外面：褐灰色7.5YR4/13。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。	礫・砂粒を含む。軽石・角閃石。	ナデ。突帯付近：ヨコナデ。	
267	RI1	縄文		外面：にぶい橙色5YR6/4。内面：にぶい褐色7.5YR5/4。	粗砂粒・砂粒を含む。白色粒・透明粒・軽石。	ナデ。	
268	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR7/2。内面：にぶい黄褐色10YR6/4。器肉：灰色5Y4/1。	細砂粒を含む。軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
269	RI1	縄文		外面：灰黄褐色10YR4/2。突帯部：橙色5YR6/6。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。	粗砂粒・微砂粒を含む。角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
270	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR7/3・黄灰色2.5Y4/1。内面：黒色5Y2/1。	砂粒を含む。透明粒・軽石・黒色粒。	外面：組織痕。内面：ナデ。	
271	RI1	縄文	深鉢	にぶい橙色7.5YR6/3。	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石。	ナデ。	網底の可能性。
272	RI1	縄文	甕	鉄分付着のため不明。	粗砂粒・砂粒を含む。白色粒・透明粒。	鉄分付着のため不明。	底径 (7) cm。
273	RI1	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR6/4。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。器肉：灰色5Y4/1。	砂粒を含む。透明粒・軽石・角閃石。	ナデ。外面：沈線。	
274	RI1	縄文		外面：黄灰色2.5Y4/1。内面：灰白色2.5Y7/1と灰黄色2.5Y7/2の間。	砂粒を含む。		
275	RI1	縄文		鉄分など付着物のため不明。	粗砂粒を含む。角閃石。		上下不明。
276	RI1	縄文		外面：にぶい橙色5YR6/4。内面：にぶい黄褐色10YR5/3。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	内面：条痕。	
277	RI1	縄文	メンコ？	表面：黒色7.5Y2/1。裏面：にぶい黄褐色10YR7/2。	粗砂粒・細砂粒を含む。軽石。	ナデ。	

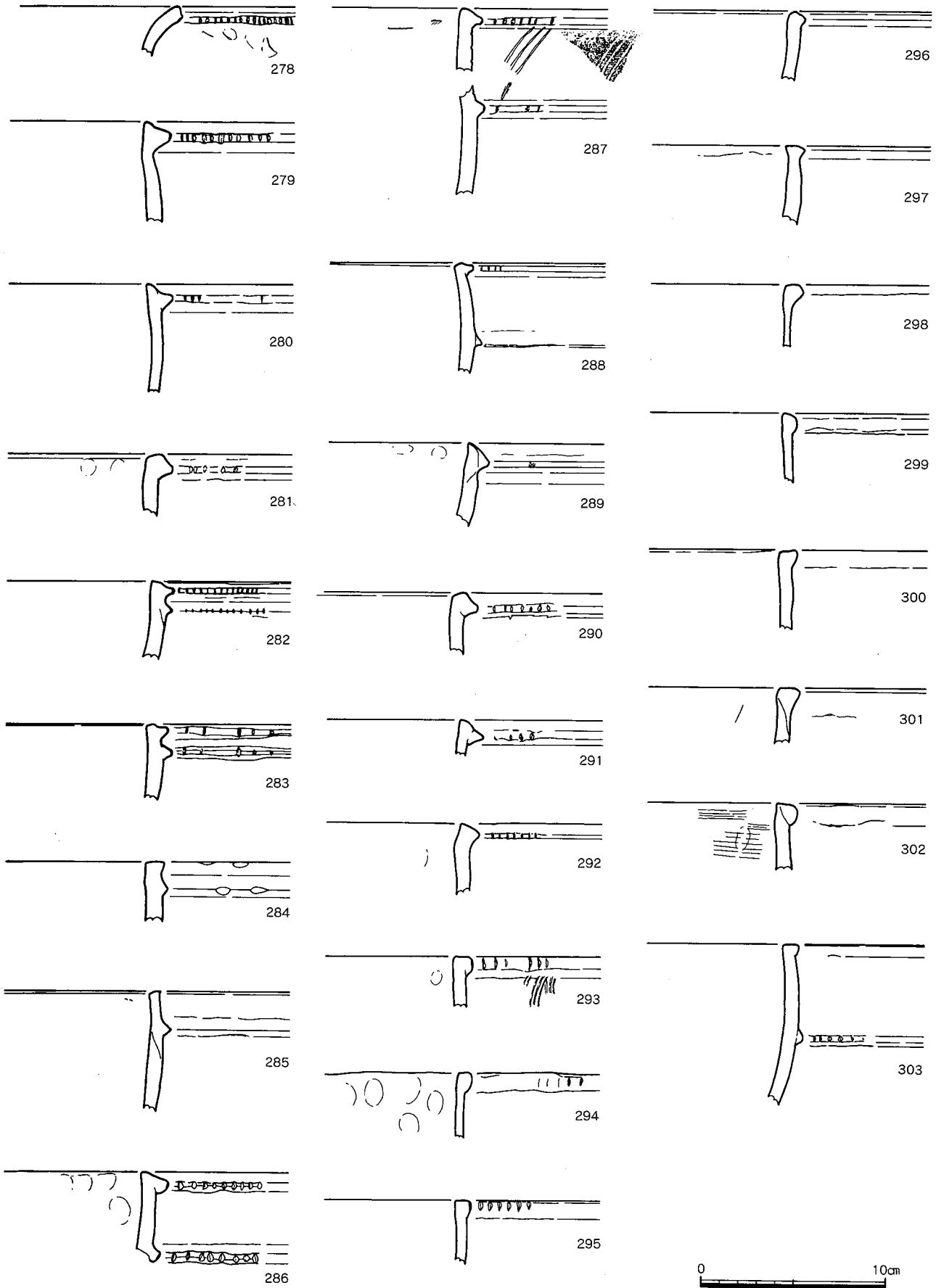


Fig.49 RI1 出土遺物 (6) S = 1/3

Tab.22 R11 出土遺物観察表(6)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	調 整	備考
278	R11	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2。内面：にぶい橙色7.5YR6/4。	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・黒粒・赤茶色の粒・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
279	R11	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明。突帯部：暗灰色N3/。内面：黄灰色2.5Y6/1。一部暗灰色N3/。	礫若干・細砂粒を含む。	内外面口縁・突帯部付近：ヨコナデ。内外面下部：ナデ。	
280	R11	弥生	甕	外面突帯から下：褐色10YR4/1。外面突帯上・内面：にぶい橙色7.5YR6/4。器肉(外面剥落部)：灰褐色7.5YR5/2。	粗砂粒を含む。透明粒・茶色粒。	内外面口縁部付近・突帯部：ヨコナデ。内面下部：ナデ。	
281	R11	弥生	甕	外面：橙色2.5YR6/6。内面：にぶい橙色7.5YR6/4。	粗砂粒をわずかに含む。白色粒。	ヨコナデ。	
282	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2。突帯部：黒褐色2.5Y3/1。内面：鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。透明粒。	口縁部上面・外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
283	R11	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。にぶい橙色2.5YR6/4。口縁部上面：浅黄褐色10YR8/3。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。器肉：灰色N4/。	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・白色粒・軽石。	外面・内面上部：ヨコナデ。内面：ナデ。	
284	R11	弥生	甕	外面：黄灰色2.5Y4/1。内面：にぶい褐色7.5YR6/3。	礫～細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ。	
285	R11	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明。内面：にぶい黄褐色10YR4/3。	礫・細砂粒を含む。軽石。	ナデ。突帯付近：ヨコナデ。	
286	R11	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR5/4。内面：鉄分付着のため不明。	細砂粒をわずかに含む。	ナデ?	
287	R11	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR6/3。内面：明黄褐色10YR6/6。	礫若干・砂粒を含む。透明粒・黒色粒・白色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。内外面下部：ナデ。	
288	R11	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/2。内面：浅黄褐色10YR8/3。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	
289	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2。突帯部：黒褐色10YR3/1。口縁部上面・内面：にぶい褐色7.5YR5/3。	礫・砂粒を含む。軽石・透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
290	R11	弥生	甕	外面：赤褐色10YR6/6。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。	礫～砂粒を含む。軽石・透明粒・角閃石・赤茶色の粒。	ナデ?	
291	R11	弥生	甕	外面突帯部から下：黄灰色2.5Y5/1。口縁部上面・内面：にぶい橙色7.5YR7/4。	粗砂粒を含む。軽石・半透明粒。	口縁部上面：ナデ。内外面：ヨコナデ。	
292	R11	弥生	甕	外面：黒褐色2.5Y3/1。内面：灰褐色7.5YR5/2。	礫若干・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ。	鉄分付着。
293	R11	弥生	甕	外面：にぶい橙色5YR6/3。突帯部：褐色10YR4/1。内面：にぶい橙色7.5YR7/3。	砂粒を含む。透明粒・角閃石。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
294	R11	弥生	甕	外面：褐色10YR5/1。内面：鉄分付着のため不明。	礫若干・砂粒を含む。透明粒。	ナデ?	ひじょうに磨滅している。
295	R11	弥生	甕	外面：褐色10YR4/1。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。	粗砂粒・砂粒を含む。角閃石・軽石。	ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
296	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR6/3。内面：浅黄褐色10YR8/3。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石。	ナデ。	
297	R11	弥生	甕	付着物のため不明。	細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	付着物のため不明。	
298	R11	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/2。褐色10YR6/1。内面：灰白色2.5Y8/1。	粗砂粒・砂粒をやや多く含む。角閃石・黒色粒。	ナデ?	ひじょうに磨滅している。
299	R11	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/3。内面：灰白色10YR8/2。	礫～細砂粒をやや多く含む。軽石・透明粒・赤茶色の粒・角閃石。	ナデ?	ひじょうに磨滅している。
300	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。	礫若干・細砂粒を含む。	ナデ?	磨滅している。
301	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。	礫・砂粒を含む。	ナデ。	
302	R11	弥生	甕	内面：褐色10YR4/1。口縁部上面：灰色5Y4/1。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。灰色5Y4/1。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・軽石。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
303	R11	弥生	甕	外面：(上部)にぶい褐色7.5YR5/3。(下部)灰褐色7.5YR4/2。内面：にぶい褐色7.5YR5/4。	礫・砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒。	ナデ。	

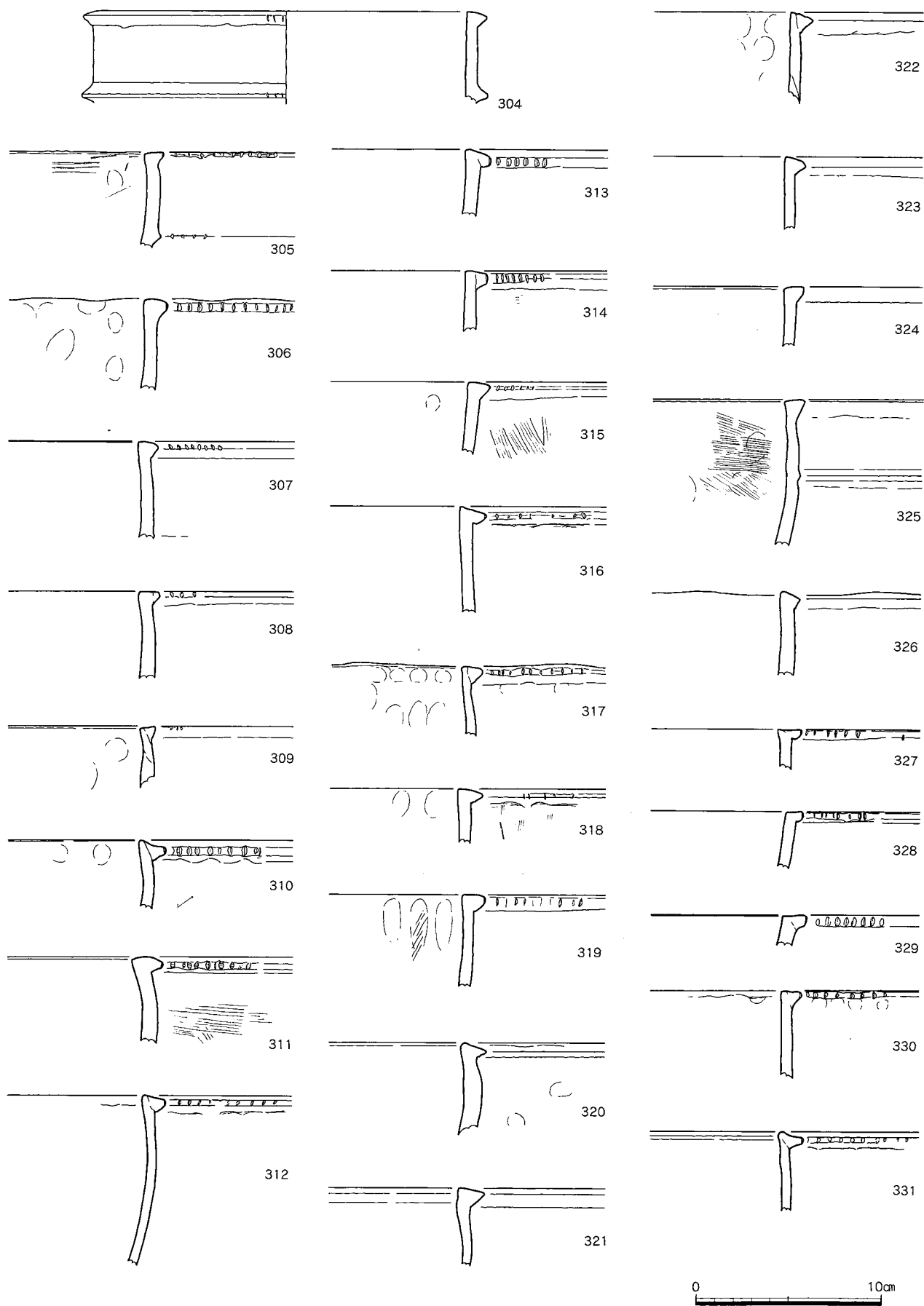


Fig. 50 R11 出土遺物(7) S=1/3

Tab.23 RI1 出土遺物観察表(7)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
304	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4. 突帯部：褐灰色7.5YR4/1. 内面：橙色7.5YR7/6.	粗砂粒～細砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石.	ナデ.	口径(19.8)cm.
305	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR4/1. 内面：にぶい褐色7.5YR5/4・黒褐色10YR3/1.	砂粒・細砂粒を含む。白色粒・軽石・角閃石.	外面：ナデ. 突帯付近：ナデ. 内面：ハケのちナデ.	
306	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1. 内面：にぶい黄橙色10YR6/3.	礫若干・細砂粒を含む。透明粒・軽石.	ナデ.	口縁部ゆがんでいる.
307	RI1	弥生	甕	外面：黄灰色2.5Y6/1. 内面：にぶい黄橙色10YR6/3. 器内：褐色がかった灰色N3/(YR).	礫若干・細砂粒をわずかに含む。透明粒・白色粒.	ナデ. 突帯付近：ヨコナデ.	
308	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR5/1. 内面：鉄分付着のため不明.	細砂粒・微砂粒を含む。角閃石.	ナデ.	
309	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/1+暗灰色N3/. 内面：褐灰色10YR4/1. 器内：にぶい橙色5YR7/4.	砂粒を含む。透明粒.	内外面口縁部付近：ヨコナデ. 内外面下部：ナデ.	
310	RI1	弥生	甕	外面：灰色N4/. 内面：鉄分付着のため不明.	砂粒を含む。軽石・透明粒.	ナデ. 突帯付近：ヨコナデ.	
311	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/4. 内面：にぶい黄橙色10YR7/3.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒.	口縁部上面・外面上部：ヨコナデ. 外面下部：ハケのちナデ. 内面：ナデ.	
312	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色5YR4/1. 内面・器内：灰黄褐色10YR6/2.	粗砂粒～細砂粒を含む。軽石・透明粒.	ナデ?	ひじょうに磨減している.
313	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/2. 内面：鉄分付着のため不明.	細砂粒をわずかに含む.	鉄分付着のため不明.	
314	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR5/1. 突帯部：褐灰色10YR5/1. 内面：明褐灰色7.5YR7/2.	細砂粒を含む。角閃石.	外面：ハケのちヨコナデ. 突帯付近：ヨコナデ. 内面：ナデ.	鉄分付着.
315	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/3. 内面：にぶい赤褐色2.5YR4/4・(黒斑)黒色N2/.	4mm大赤茶色の塊・砂粒・細砂粒を含む。軽石・角閃石・赤茶色の粒.	外面：ハケのちナデ. 内面：ナデ.	
316	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色5YR4/2. 内面：にぶい赤褐色5YR4/4. 鉄分付着のため詳細不明.	細砂粒・微砂粒を含む。透明粒・軽石.	内外面口縁部付近：ヨコナデ. 内外面下部：ナデ.	
317	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1. 内面：褐灰色10YR5/1.	砂粒を含む。軽石・透明粒.	ナデ.	
318	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR6/3. 内面：にぶい橙色7.5YR7/3.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒.	外面：ハケのちナデ. 口縁部上面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	やや磨減している.
319	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色5YR7/4. 内面：橙色5YR7/6.	砂粒・細砂粒を含む。軽石.	外面：ナデ. 内面：ハケのちナデ.	ひじょうに磨減している.
320	RI1	弥生	甕	外面：暗灰色N3/. 内面：褐灰色7.5YR5/1.	粗砂粒・細砂粒を含む。白色粒.	ナデ? 口縁部上面：ヨコナデ.	鉄分付着.
321	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色5YR5/2. 内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	砂粒を含む。軽石・角閃石・透明粒.	ナデ.	
322	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1. 内面：褐灰色7.5YR4/1.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石・角閃石.	ナデ. 口縁部突帯付近：ヨコナデ.	
323	RI1	弥生	甕	にぶい黄橙色10YR7/2.	砂粒を含む。半透明粒・軽石.	ナデ?	ひじょうに磨減している.
324	RI1	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/3.	砂粒を含む。軽石・角閃石・透明粒.	ナデ?	ひじょうに磨減している.
325	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR4/1. 内面：(上部)にぶい橙色7.5YR6/4. (下部)褐灰色10YR4/1.	礫・砂粒を含む含む。透明粒・軽石・赤茶色の粒・角閃石.	外面：ナデ. 内面：ハケのちナデ.	
326	RI1	弥生	甕	灰白色2.5Y7/1.	礫・粗砂粒を含む。白色粒・軽石.	ナデ?	磨減している.
327	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/3. 内面：にぶい黄橙色10YR7/2. 器内：暗灰色N3/.	微砂粒を含む.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
328	RI1	弥生	甕	外面：灰黄色2.5Y6/2. 内面：灰白色2.5Y7/1. 器内：暗灰色N3/.	礫・細砂粒を含む。軽石・透明粒.	ナデ.	
329	RI1	弥生	甕	にぶい赤褐色5YR4/4.	砂粒を含む。透明粒・角閃石.	ナデ?	
330	RI1	弥生	甕	外面：暗灰色N3/. 内面：鉄分付着のため不明.	微砂粒を含む.	ナデ?	
331	RI1	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色2.5YR5/3. 内面：橙色2.5YR6/6.	砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒.	内外面口縁部付近：ヨコナデ. 内外面下部：ナデ.	

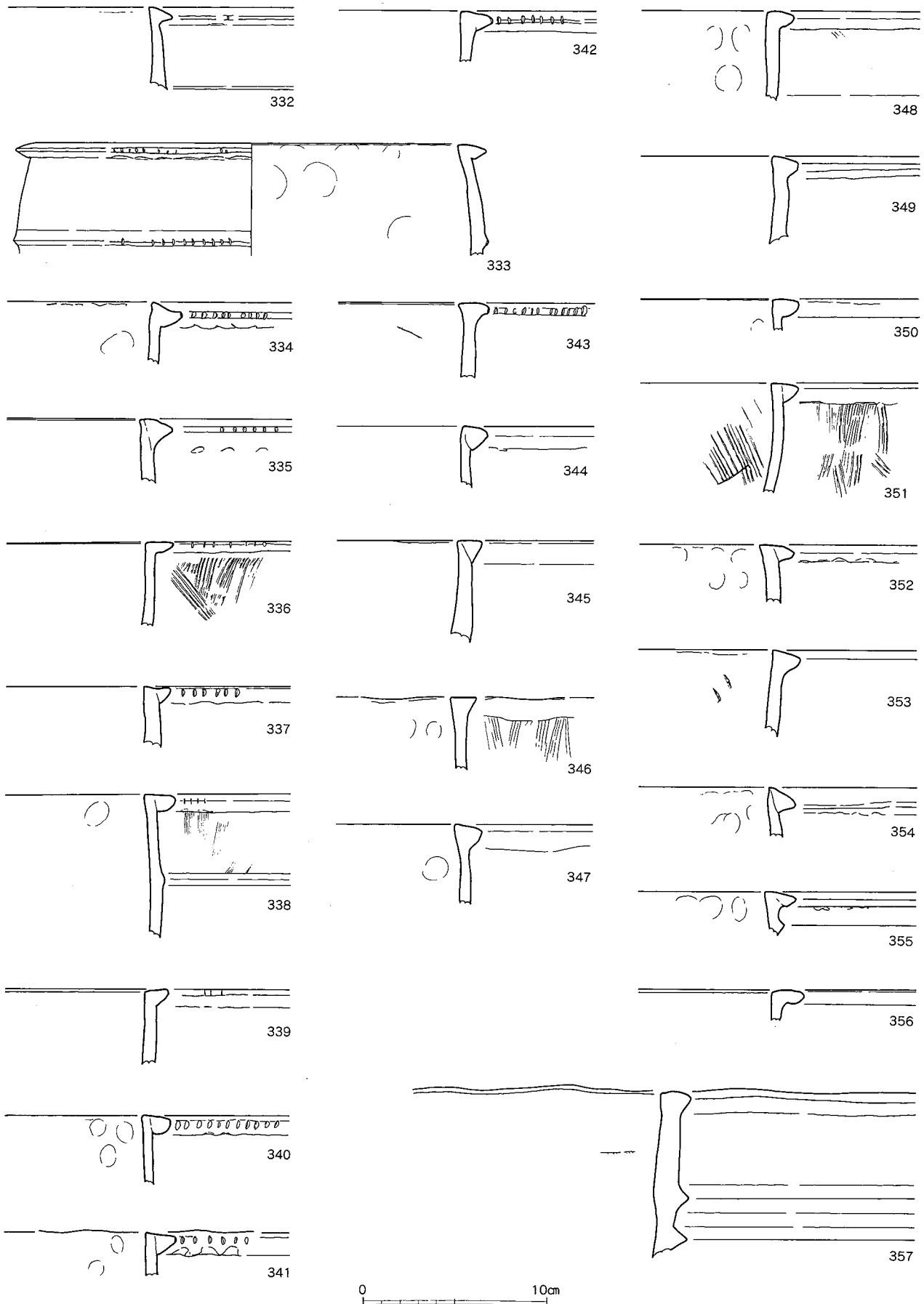


Fig. 51 RI1 出土遺物 (8) S=1/3

Tab.24 R11 出土遺物観察表(8)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
332	R11	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2. 内面：にぶい橙色7.5YR7/4.	砂粒を含む。3mm大赤茶色の粒・透明粒。	口縁部上面・外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
333	R11	弥生	甕	突帯部：褐灰色10YR4/1. ほかは鉄分付着のため不明。	粗砂粒を含む。	外面：ヨコナデ? 内面：ナデ?	口径(22.6)cm. 残存率1/7.
334	R11	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR5/4. 突帯部：黒褐色2.5Y3/1.	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
335	R11	弥生	甕	灰白色10YR4/1.	砂粒を含む。透明粒・白色粒。	内外面口縁付近：ヨコナデ。内外面下部：ナデ。	
336	R11	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色2.5YR4/4. 灰褐色7.5YR4/2.	砂粒を含む。透明粒。	外面：ハケのちナデ。口縁部上面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
337	R11	弥生	甕	外面：黒褐色2.5Y3/1. 内面：にぶい褐色7.5YR6/3. 器肉：褐色がかった灰色N4/.	細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ。突帯付近：ヨコナデ。	
338	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2. 内面：灰黄褐色10YR6/2.	3mm大茶色の塊・礫～細砂粒を含む。透明粒・軽石・赤茶色の粒。	外面：(突帯上)ハケのちナデ。(突帯付近)ヨコナデ。(突帯上)ナデ。内面：(口縁下)ヨコナデ。(下部)ナデ。	
339	R11	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR7/2.	砂粒を含む。半透明粒。	ナデ?	磨滅している。
340	R11	弥生	甕	口縁付近：褐灰色7.5YR4/1. ほかは鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。角閃石・軽石。	ナデ?	磨滅している。
341	R11	弥生	甕	外面・口縁部上面：にぶい黄褐色10YR7/3. 内面：暗灰色N3/.	砂粒を含む。透明粒・黒色粒・赤茶色の粒。	ナデ。	
342	R11	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/3. 突帯端部：黒褐色10YR3/1. 内面：橙色5YR6/6. 器肉：灰色N4/.	砂粒を含む。白色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
343	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：浅黄褐色7.5YR8/4.	砂粒・細砂粒をわずかに含む。透明粒・角閃石。	外面：(突帯付近)ヨコナデ。(下部)ナデ。内面：ハケのちナデ。	
344	R11	弥生	甕	外面：灰黄2.5Y6/2. 内面：にぶい黄褐色10YR7/3.	礫・粗砂粒を多く含む。透明粒。	ナデ?	ひじょうに磨滅している。
345	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 内面：にぶい褐色7.5YR7/4. 器肉：灰色N4/.	礫・砂粒を含む。軽石。	外面・口縁部上面・内面口縁付近：ヨコナデ。内面下部：ナデ。	
346	R11	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR4/2. 内面：にぶい褐色7.5YR7/4.	砂粒・細砂粒を含む。軽石・角閃石。	外面：ハケのちナデ。口縁部上面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
347	R11	弥生	甕	外面：明褐色7.5YR7/2. 内面：灰褐色7.5YR5/2.	粗砂粒・砂粒を含む。軽石・角閃石。	ナデ。	ひじょうに磨滅している。
348	R11	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/4. 内面：灰黄褐色10YR5/2.	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒。	ナデ。	磨滅している。
349	R11	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明。内面：灰褐色5YR6/2.	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒。	ナデ。	
350	R11	弥生	甕	浅黄褐色7.5YR8/4.	礫・砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。突帯付近：ヨコナデ。	
351	R11	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1. 内面：にぶい褐色7.5YR6/3.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	ハケのちナデ。口縁部突帯：ヨコナデ。	
352	R11	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR6/2. 突帯端部：黒褐色7.5YR3/1. 内面：褐灰色5YR6/1.	細砂粒をわずかに含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
353	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：浅黄褐色10YR8/3.	細砂粒を含む。角閃石・透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
354	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2. 内面：にぶい黄褐色10YR5/3.	礫～砂粒をやや多く含む。軽石・透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
355	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR7/4. 内面：灰褐色7.5YR6/2.	砂粒・細砂粒をやや多く含む。茶色の粒・角閃石・透明粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
356	R11	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR6/3に類似。内面：褐灰色10YR6/1.	砂粒・粗砂粒を含む。角閃石・黒色粒・透明粒。	ヨコナデ。	
357	R11	弥生	甕	橙色5YR6/6.	礫・砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ? 付着物のため詳細不明。	

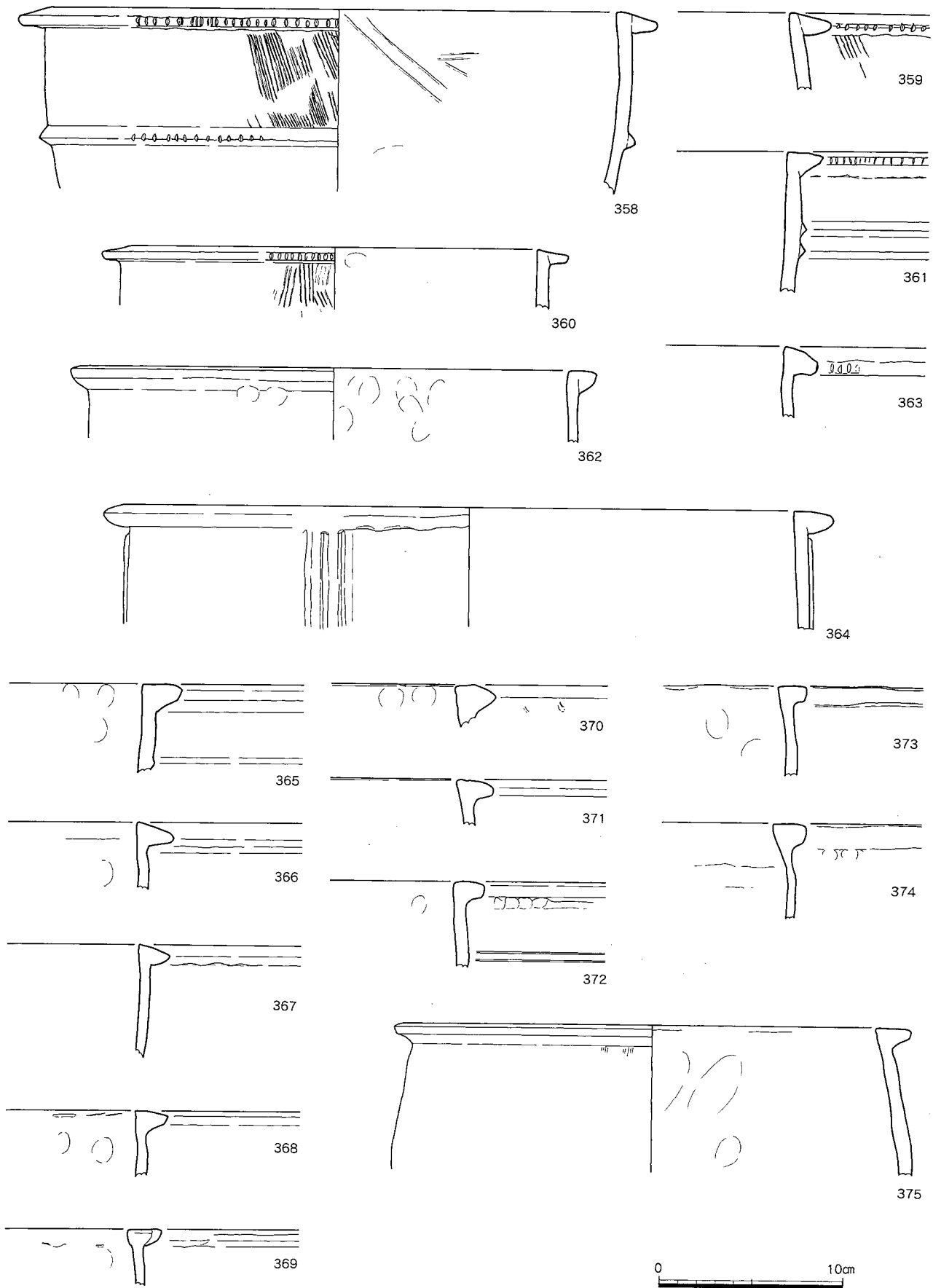


Fig.52 RI1 出土遺物(9) S=1/3

Tab.25 RI1 出土遺物観察表 (9)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
358	RI1	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/4. 内面：にぶい橙色5YR6/3.	砂粒・細砂粒を含む.	外面：ハケのちナデ. 口縁部上面・突帯付近：ヨコナデ. 内面：ナデ.	口径 (30.2) cm. 残存率1/8.
359	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色2.5Y3/1. 内面：黒褐色7.5YR4/1.	粗砂粒をわずかに含む.	口縁部上面：ヨコナデ. 外面：ハケのちナデ. 内面：ナデ.	
360	RI1	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/4.	砂粒を含む. 透明粒・角閃石・赤茶色の粒・黒色粒.	外面：ハケのちナデ. 口縁部上面・内面：ナデ.	口径 (12) cm.
361	RI1	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR4/4. 内面：にぶい褐色7.5YR5/3.	粗砂粒・細砂粒を含む. 軽石・透明粒.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
362	RI1	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2. 内面：灰黄褐色10YR5/2.	砂粒を含む. 角閃石・透明粒・黒色粒・軽石.	ナデ.	口径 (25.6) cm.
363	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明.	礫・粗砂粒を含む. 白色粒.	鉄分付着のため不明.	
364	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 内面：にぶい橙色5YR7/4.	礫・砂粒を含む. 透明粒・軽石・黒色粒.	ナデ.	口径 (33.4) cm. 残存率1/12.
365	RI1	弥生	甕	外面：黄灰色2.5Y4/1・灰黄色2.5Y6/2. 内面：灰黄色2.5Y6/2.	粗砂粒・砂粒を含む. 透明粒・角閃石.	口縁部上面・外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	鉄分付着.
366	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色5YR5/2. 内面：灰褐色5YR6/2.	砂粒を含む.	ナデ. 突帯下付近：ヨコナデ.	
367	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明.	砂粒を含む. 角閃石・黒色粒.	ナデ?	磨滅している.
368	RI1	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 内面：にぶい褐色5YR6/3.	礫・砂粒を含む. 角閃石・白色粒.	ナデ.	
369	RI1	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：にぶい黄褐色10YR7/2.	細砂粒を含む.	ナデ. 口縁突帯付近：ヨコナデ.	
370	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色5YR3/1・褐灰色5YR4/1. 内面：灰褐色7.5YR3/1.	砂粒・粗砂粒を含む. 角閃石・茶色の粒.	ナデ.	
371	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR6/2. 鉄分付着のため詳細不明. 内面：暗灰色N3/.	細砂粒・微砂粒を含む. 角閃石.	外面：ヨコナデ? 内面：ナデ	
372	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 内面：にぶい褐色7.5YR6/4.	砂粒・細砂粒を含む. 透明粒・角閃石・黒色粒・赤茶色の粒.	ナデ.	やや減している.
373	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR6/1. 内面：鉄分付着のため不明.	砂粒・細砂粒を含む. 軽石・角閃石・赤茶色の粒.	ナデ?	ひじょうに磨滅している.
374	RI1	弥生	甕	外面：灰白色7.5YR8/2. 内面：灰白色10YR8/2. 器内：灰色N4/.	礫 (軽石) ・砂粒を含む. 白色粒.	ナデ?	ひじょうに磨滅している.
375	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/3. 内面：浅黄褐色7.5YR8/4.	砂粒・細砂粒を含む. 角閃石・透明粒・黒色粒.	外面：(突帯下付近) ヨコナデ. (上部) ハケのちナデ. (下部) ナデ. 内面：ヨコナデ・ナデ.	

出する。胴部には断面三角形の突帯が3条残る。478の口縁部上面にはヨコナデによると考えられる弱い段が残る。480の口縁部内面上部はわずかに突出する。481の口縁部は薄い。482の口縁部上面には「ハ」の字形の沈線が施される。口縁部内面はかなり突出し、胴部には断面三角形の低い突帯が1条残る。

483～495の口縁部は長方形に近い形を呈する。486の口縁部上面はやや丸みを帯び、口縁部内面上部はわずかに突出する。口縁部下面もやや丸みを帯び、胴部には絡縄気味の低い突帯が2条残る。489・490の口縁部上面は丸みを帯びる。489には胴部に2条の沈線が、490には3条の沈線が残る。491の口縁部上面には貫通しない直径2mmほどの小さな刺突が2か所残っている。492の口縁部上面はわずかに窪んでおり、口縁部下面は肥厚する。胴部には2条の絡縄突帯が残る。493の口唇部の窪みは

ひじょうに大きく、口縁部上面はやや窪んでいる。494の口縁部内面は突出している。495の口縁部上面はわずかに丸みを帯びる。

496～503は口縁部がかなり長い長方形を呈し、口唇部には窪みが見られる。496は口唇部に刻みが施され、口縁部上面にごくわずかな窪みが見られる。口縁部内面はやや突出する。497は胴部に断面三角形の突帯が3条取り付けられている。498は口縁部内面上部が突出し、胴部に3条の突帯が残る。499は口縁部内面上部がわずかに突出し、口縁部下面の胴部側に2条の沈線が巡る。胴部に1条の突帯が取り付けられている。500の口縁部上面と口縁部下面は丸みを帯び、口縁部内面はわずかに肥厚する。胴部には絡縄気味の突帯が3条取り付けられている。501の口縁部上面はやや窪んでいる。口縁部下面と胴部の境界部分もヨコナデによりやや窪んでい

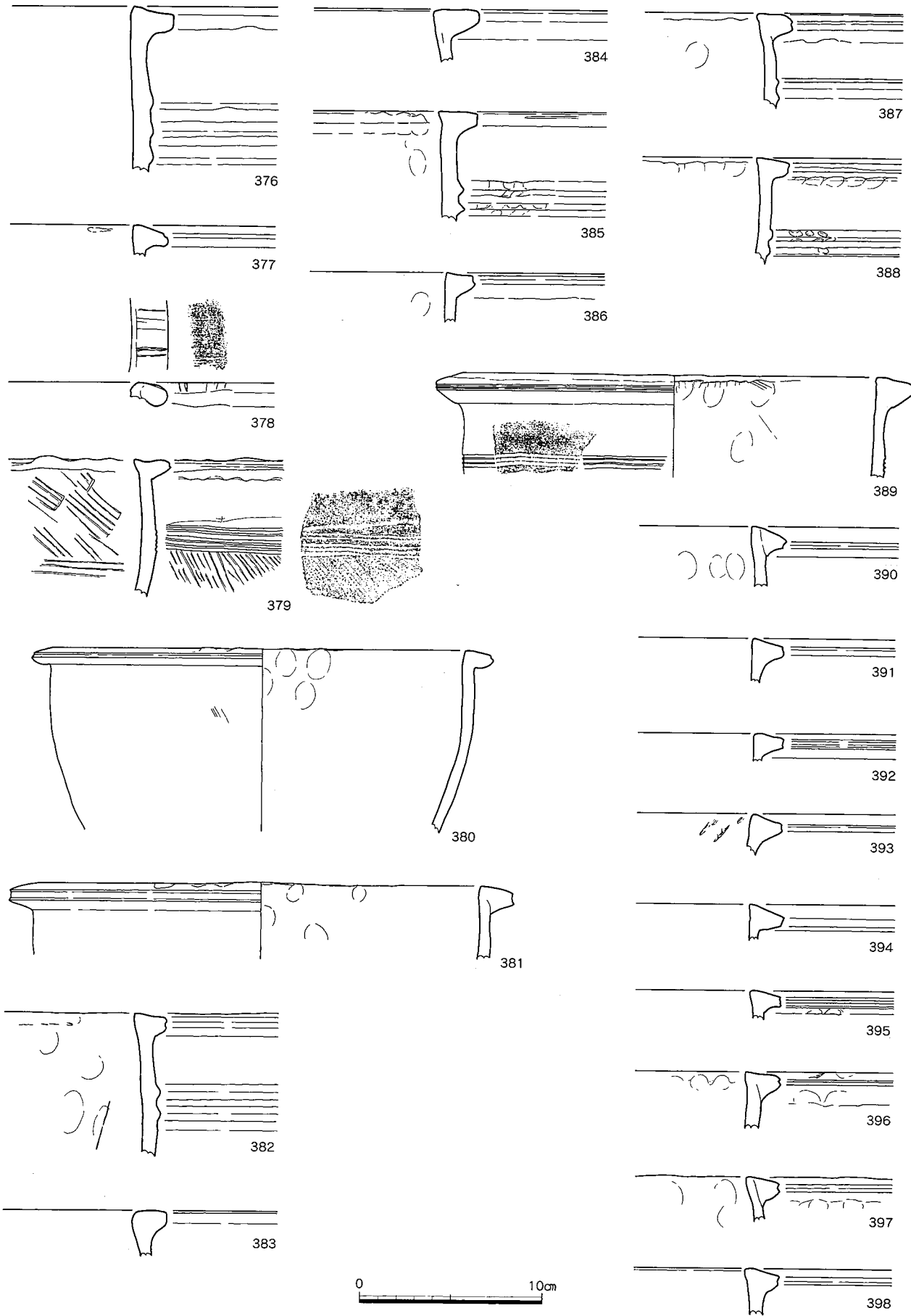


Fig.53 RI1 出土遺物(10) S=1/3

Tab.26 RI1 出土遺物観察表(10)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
376	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR6/1. 内面：灰色N4/.	粗砂粒・細砂粒を含む。軽石・黒色粒。	ナデ?	磨滅している。
377	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒。	ヨコナデ?	
378	RI1	弥生	甕	上面：灰黄褐色10YR4/3. 下面：にぶい赤褐色5YR4/3. 器肉：黒色N2/.	砂粒を含む。角閃石・軽石。	ナデ。	
379	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR4/2. 内面：黒褐色2.5Y3/1.	粗砂粒・砂粒を含む。軽石。	外面：(上部)ヨコナデ。(下部)ハケのちナデ。内面：ハケのちナデ。	
380	RI1	弥生	甕	外面：灰色N4/+にぶい黄橙色10YR7/2. 内面：にぶい黄橙色10YR5/3.	砂粒を含む。	口縁部突帯付近：ヨコナデ。内面：ナデ。付着物のため詳細不明。	
381	RI1	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 内面：にぶい黄橙色10YR6/4.	砂粒を含む。角閃石・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径(24.1)cm. 残存率1/8.
382	RI1	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2. 内面：浅黄褐色7.5YR8/4.	礫・粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・角閃石・茶色の粒。	口縁部上面・外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
383	RI1	弥生	甕?	にぶい黄褐色10YR6/3.	礫・砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。	
384	RI1	弥生	甕	黄灰色2.5Y4/1. 器肉：明褐灰色5YR7/2.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・軽石。	ヨコナデ。	
385	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/2. 内面：にぶい赤褐色5YR4/4.	砂粒を含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ? 付着物のため詳細不明。	
386	RI1	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR5/4. 砂など付着のため詳細は不明。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒。	口縁部上面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
387	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	3mm大茶色の粒。細砂粒・微砂粒を含む。	ナデ。	
388	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/3・口縁付近：褐灰色10YR5/1. 内面：にぶい黄褐色10YR5/3.	礫・細砂粒を含む。軽石。	外面：ヨコナデ? 内面：ナデ。	
389	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色7.5Y3/1. 内面：灰褐色5YR5/2.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	口径(22)cm. 残存率1/6.
390	RI1	弥生	甕	暗灰色N3/・灰白色2.5Y7/1.	細砂粒・微砂粒を含む。	ヨコナデ。	
391	RI1	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR7/3に類似。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	ヨコナデ。	
392	RI1	弥生	甕	灰黄褐色10YR5/2.	砂粒・細砂粒を含む。金色の雲母・軽石・白色粒。	ナデ。	
393	RI1	弥生	甕	外面：付着物のため不明。口縁部上面・内面：にぶい黄褐色10YR7/2.	砂粒を含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
394	RI1	弥生	甕	にぶい赤褐色10YR6/4.	礫・細砂粒を含む。	ヨコナデ。	
395	RI1	弥生	甕	にぶい橙色5YR6/4.	粗砂粒を含む。透明粒。	ヨコナデ。	
396	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR6/2・黒色N2/。口縁部上面・内面：明褐灰色7.5YR7/2~褐灰色5YR4/1.	礫・砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
397	RI1	弥生	甕	にぶい赤褐色5YR4/3. 鉄分など付着物のため詳細は不明。	礫若干・細砂粒を含む。	ヨコナデ。	
398	RI1	弥生	甕	浅黄褐色10YR8/3.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。	

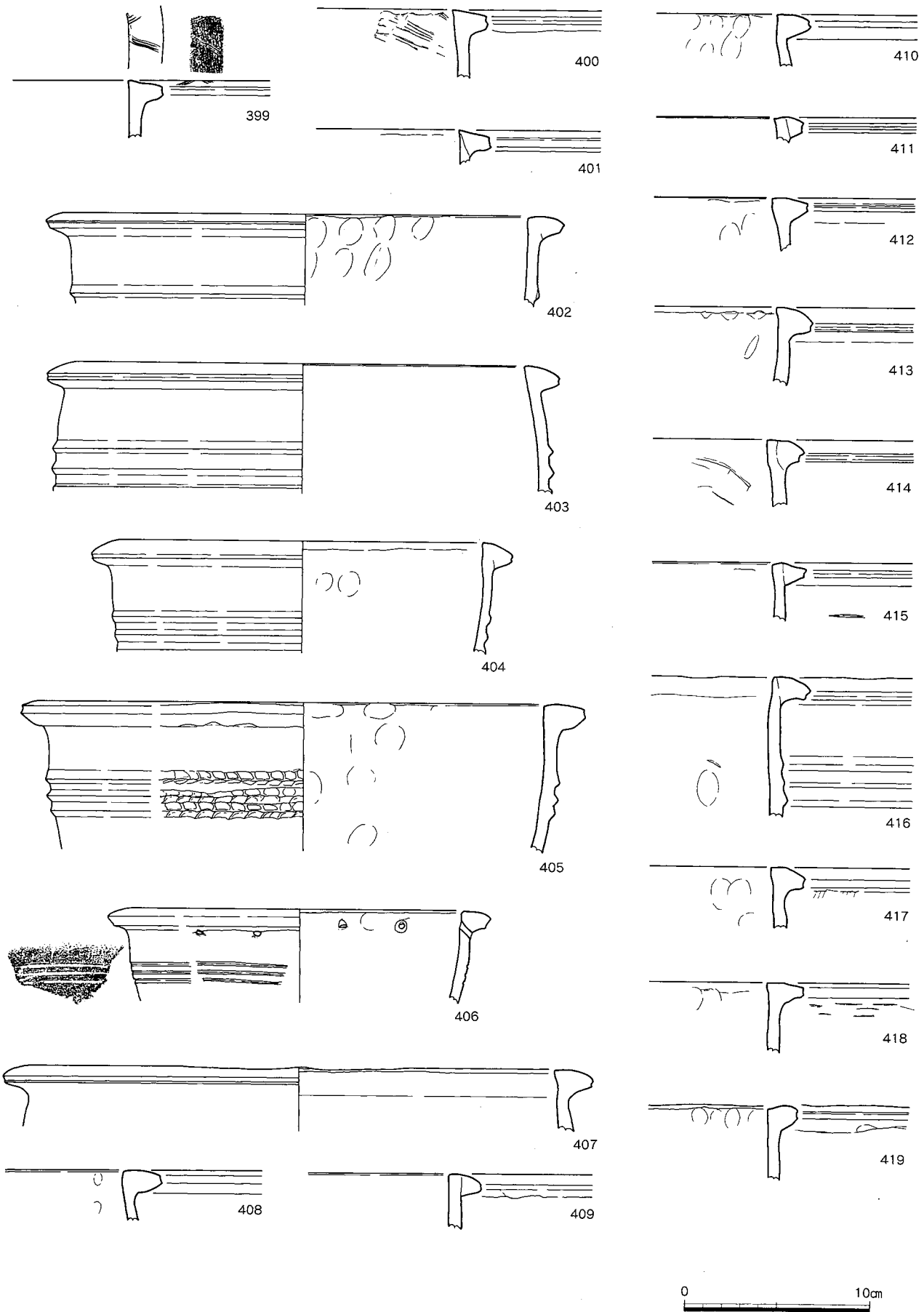


Fig.54 RI1 出土遺物 (11) S=1/3

Tab.27 RI1 出土遺物観察表(11)

№	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
399	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4. 内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	粗砂粒～細砂粒を含む。赤茶色の粒・透明粒・角閃石.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
400	RI1	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/3 内面：にぶい赤褐色5YR5/4.	細砂粒を含む。角閃石.	外面：ヨコナデ. 内面：ハケのちナデ.	
401	RI1	弥生	甕	灰黄褐色10YR6/2.	細砂粒を含む.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
402	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/1. 内面：灰褐色5YR5/2.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石.	ヨコナデ.	口径(22.4) cm. 残存率1/9.
403	RI1	弥生	甕	外面：付着物のため不明. 内面：にぶい橙色7.5YR7/4.	砂粒をわずかに含む.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	口径(24.2) cm.
404	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/2. 内面：にぶい黄褐色10YR6/4.	粗砂粒・砂粒を含む。黒色粒・透明粒・赤茶色の粒.	ナデ.	口径(19.8) cm.
405	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/2. 内面：灰褐色7.5YR5/2.	細砂粒を含む。角閃石.	ヨコナデ. 内面下部：ナデ.	
406	RI1	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/1. 内面：灰黄褐色10YR4/2.	砂粒をわずかに含む.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	口径(18) cm.
407	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1. 内面：にぶい褐色7.5YR5/4. 器肉：暗灰色N3/.	細砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	口径(28) cm.
408	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR4/2. 口縁部上面・内面：にぶい橙色7.5YR6/4・一部灰色N5/.	砂粒を含む。透明粒・角閃石.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
409	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR6/2. 内面：浅黄褐色10YR8/4.	粗砂粒～細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒.	ナデ. 突帯付近：ヨコナデ.	
410	RI1	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 内面：にぶい赤褐色5YR5/3.	礫・砂粒・細砂粒を含む。白色粒・黒色粒.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
411	RI1	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/4.	礫・砂粒を含む。透明粒.	ヨコナデ?	
412	RI1	弥生	甕	外面・器肉：暗灰色N4/. 口縁部上面・内面：にぶい黄褐色10YR7/4.	礫・砂粒を含む。角閃石・透明粒・白色粒.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
413	RI1	弥生	甕	外面：暗灰色N3/. 内面・器肉：にぶい橙色5YR6/3.	細砂粒を含む.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
414	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石.	外面：ナデ? 内面：ハケのちナデ.	
415	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2. 内面：黒褐色2.5Y3/1.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒.	ヨコナデ.	
416	RI1	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR6/4.	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒・軽石.	ナデ.	やや磨減している。
417	RI1	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2. 内面：褐灰色10YR5/1.	細砂粒を含む。角閃石・白色粒.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
418	RI1	弥生	甕	灰黄褐色10YR5/2.	粗砂粒～細砂粒を含む。角閃石多・透明粒・3mm大赤茶色の粒.	外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	
419	RI1	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR4.	礫・細砂粒を含む。角閃石・透明粒.	口縁部上面・外面：ヨコナデ. 内面：ナデ.	

る。502の口縁部上面はわずかに窪んでおり、口縁部内面は突出している。503の口縁部内面はわずかに突出する。

504～509は口縁部がやや上向きに立ち上がり、口唇部には窪みが見られるものである。504は小型品で、口縁部上面は丸みを帯び、口縁部内面上部がやや突出する。505は口縁部上面が窪み、口縁部下面が丸みを帯びる。口縁部内面はかなり突出し、胴部には3条の絡縄突帯が貼付けられている。506の口縁部上面内面側はやや窪んでおり、胎土に金色のウンモが多く含まれる。507

の口縁部上面内側はわずかに窪んでおり、口縁部内面が突出する。508は口縁部下面が丸みを帯び、口縁部内面がかなり突出する。509の口縁部上面はやや窪んでおり、胎土に金色のウンモが含まれる。

510～523は口縁部が斜め上方に立ち上がり、胴部側が口唇部よりも厚いものである。510・511・518は口唇部に窪みが見られ、他のものは丸みを帯びている。510の口縁部内面はやや突出し、胎土には金色のウンモが含まれる。口縁部の長さは511以降のものに比べるとやや短い。511は口縁部上面が丸みを帯びる。接合線がはっきり

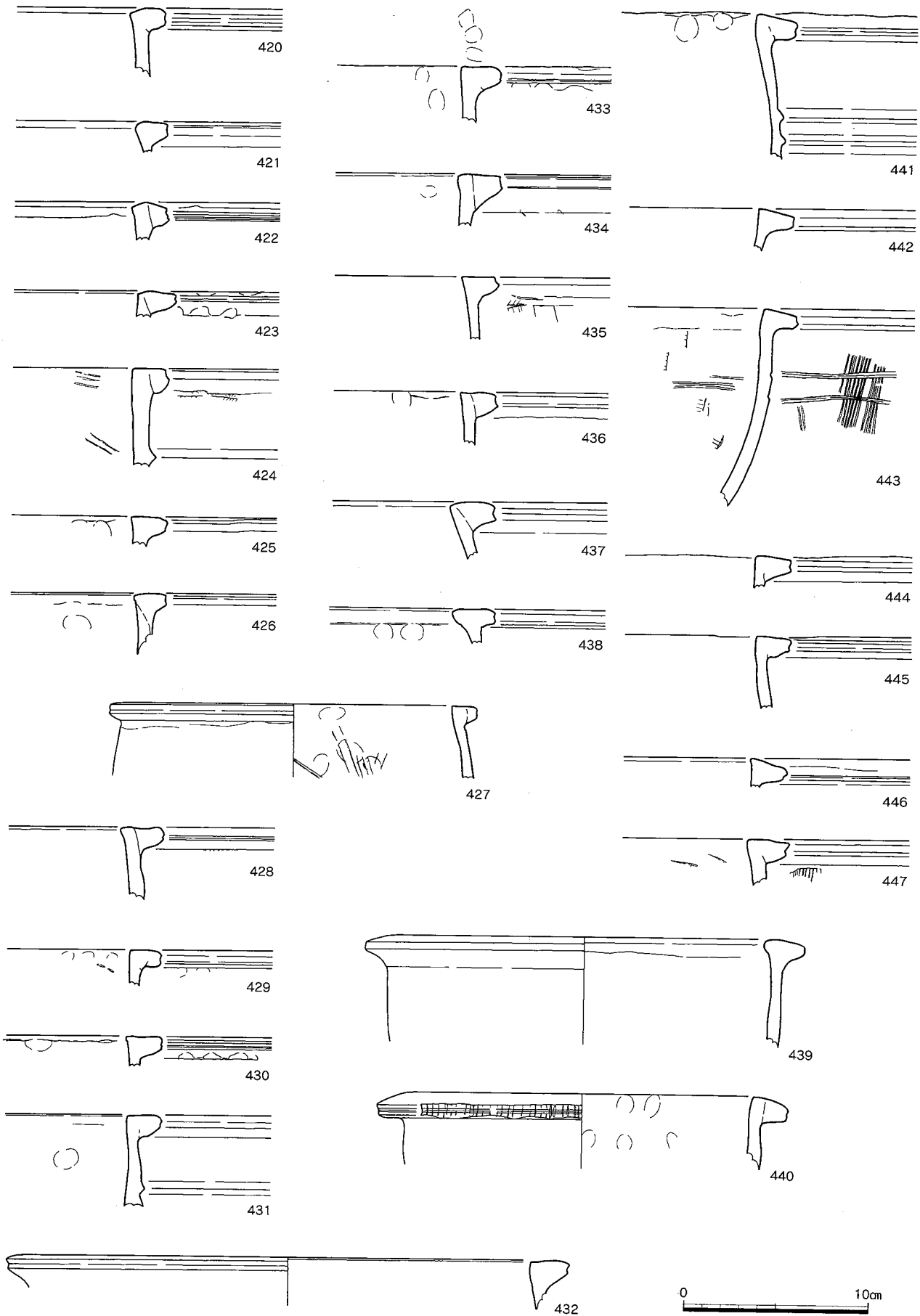


Fig.55 RI1 出土遺物 (12) S=1/3

Tab.28 R11 出土遺物観察表 (12)

No	層	種別	器種	色調	器種	調整	備考
420	RII	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR6/3. 内面：にぶい黄橙色10YR5/3. 器肉：一部灰色N4/.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒・軽石。	ヨコナデ。	
421	RII	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	砂粒を含む。	ナデ。	
422	RII	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2. 内面：褐色10YR5/1.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒。	ヨコナデ。	
423	RII	弥生	甕	口縁部上面・内面：鉄分付着のため不明。下面：褐色7.5YR5/1.	細砂粒を含む。角閃石・黒色粒。	ナデ。	
424	RII	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 内面：にぶい黄橙色10YR6/4.	砂粒・粗砂粒を含む。角閃石多・透明粒・白色粒。	外面：ハケのちヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	
425	RII	弥生	甕	外面：褐色7.5YR4/1. 内面：にぶい赤褐色5YR5/4.	砂粒を含む。透明粒・角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
426	RII	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR6/3. 内面：にぶい黄褐色10YR7/2.	5mm大赤茶色の粒。粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
427	RII	弥生	甕	暗灰色N3/.	砂粒を含む。軽石。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	口径 (17.4) cm.
428	RII	弥生	甕	外面：黄灰色2.5Y4/1. 内面：にぶい褐色7.5YR6/3.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
429	RII	弥生	甕	外面：褐色7.5YR4/1. 内面：褐色7.5YR4/3.	粗砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	
430	RII	弥生	甕	灰褐色7.5YR6/2. 器肉：灰色N4/.	細砂粒を含む。黒色粒・白色粒。	ナデ。	
431	RII	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR6/3. 器肉：黄灰色2.5Y4/1.	砂粒を含む。透明粒・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
432	RII	弥生	甕	外面：褐色10YR4/4.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ヨコナデ。	口径 (30.8) cm. 残存率1/12.
433	RII	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 口縁部上面・内面：灰褐色7.5YR4/2.	礫～砂粒を含む。白色粒・黒色粒。	ナデ。	
434	RII	弥生	甕	外面：灰褐色5YR4/2. 口縁部上面：にぶい赤褐色2.5YR4/3. 内面：橙色7.5YR6/6.	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒・透明粒。	ヨコナデ。	
435	RII	弥生	甕	浅黄褐色10YR8/3. 器肉：灰色N4/.	砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒。	突帯付近：ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
436	RII	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR6/4. 内面：にぶい褐色7.5YR6/4. 器肉：黄色がかった灰色N4/ (Y) .	細砂粒・微砂粒を含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
437	RII	弥生	甕	口縁部上面：にぶい黄褐色10YR7/3. ほかは鉄分付着のため不明。	砂粒を含む。	ナデ?	
438	RII	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明。口縁部上面・内面：浅黄褐色10YR8/3.	砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ?	磨滅している。
439	RII	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/1. 内面：褐色7.5YR4/1.	礫・粗砂粒を含む。軽石。	口縁突帯付近：ヨコナデ。下部：ナデ。	口径 (20) cm. 残存率約1/7.
440	RII	弥生	甕	外面：褐色7.5YR4/3. 内面：にぶい褐色7.5YR5/4.	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒・白色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (18.6) cm.
441	RII	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
442	RII	弥生	甕	灰黄褐色10YR6/2.	粗砂粒・細砂粒を含む。	ナデ?	磨滅している。
443	RII	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/4. 内面：褐色7.5YR5/1.	5mm大～赤茶色の粒・細砂粒を含む。透明粒。	ハケのちナデ。	
444	RII	弥生	甕	口縁部上面・内面：にぶい褐色7.5YR6/4. 下面：褐色7.5YR5/1. 口縁部上面・内面：にぶい褐色7.5YR6/4.	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
445	RII	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：灰黄褐色10YR6/2.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
446	RII	弥生	甕	にぶい赤褐色5YR5/4. 突帯端部：褐色5YR4/1.	砂粒・細砂粒を含む。金色の雲母・白色粒。	ヨコナデ。	
447	RII	弥生	甕	にぶい赤褐色5YR4/3.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	突帯付近：ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。	

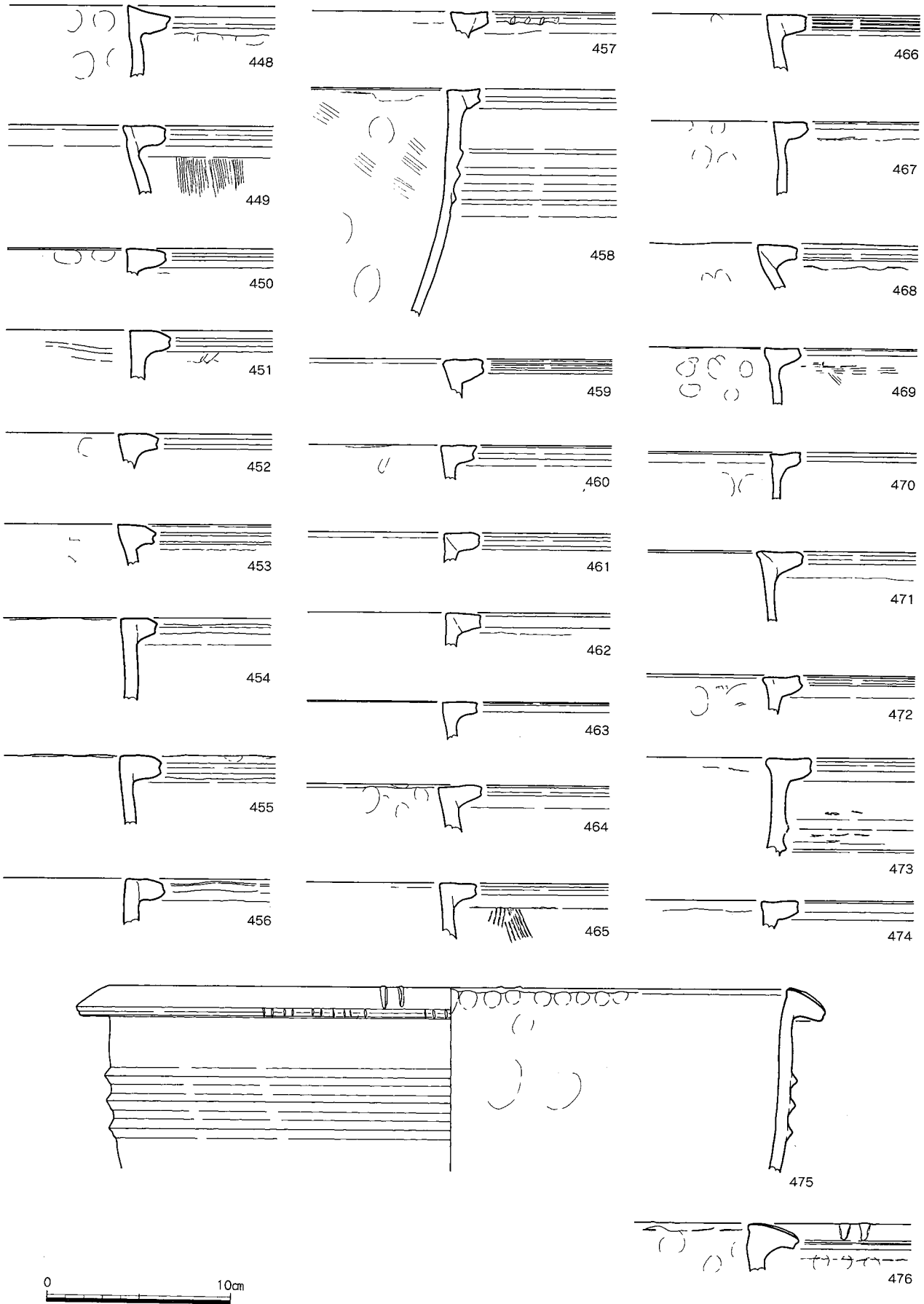


Fig.56 RI1 出土遺物 (13) S=1/3

Tab.29 R11 出土遺物観察表(13)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
448	R11	弥生	甕	外面：にぶい橙色2.5YR6/4。内面：にぶい褐色7.5YR5/3。	細砂粒を含む。角閃石・透明粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
449	R11	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/4。内面：にぶい橙色2.5YR6/4。	細砂粒を含む。金色の雲母・軽石。	外面：ハケのちナデ。口縁部上面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
450	R11	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	ヨコナデ。	
451	R11	弥生	甕	褐灰色10YR4/1。	礫・砂粒を含む。透明粒。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
452	R11	弥生	甕	灰黄褐色10YR6/2。器肉：灰色N6/。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ。	
453	R11	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR5/1。内面：にぶい褐色7.5YR5/3。	礫・砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒・茶色の粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
454	R11	弥生	甕	外面：褐灰色5YR4/1。内面：灰黄褐色10YR6/2。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
455	R11	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1。内面：灰黄褐色10YR5/2。	砂粒を含む。透明粒・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
456	R11	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1。内面：褐色7.5YR4/3。	砂粒を含む。透明粒・角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
457	R11	弥生	甕	外面：黒褐色10YR3/1。内面・器肉：にぶい褐色7.5YR6/4。	礫・細砂粒を含む。黒色粒・軽石・透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ？	
458	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR4/2。内面：褐色7.5YR4/3。	砂粒を含む。透明粒。	外面：(上部)ヨコナデ。(下部)ナデ。内面：ハケのちナデ。	
459	R11	弥生	甕	橙色7.5YR7/6と褐色7.5YR6/6の間。	砂粒を含む。	ヨコナデ。	
460	R11	弥生	甕	褐色5YR6/6。突帯端部：灰褐色7.5YR6/2。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ヨコナデ。	
461	R11	弥生	甕	外面：褐灰色10YR6/1。内面：灰褐色5YR6/2。	砂粒を含む。	ナデ？	磨滅している。
462	R11	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR4/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/4。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。	
463	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3。口縁部上面：黄灰色2.5Y5/1。内面：にぶい褐色7.5YR6/4。	細砂粒を含む。透明粒。	外面：口縁部上面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
464	R11	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。器肉：暗灰色N3/。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・角閃石・茶色の粒・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
465	R11	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR5/3。内面：明褐色7.5YR7/2。	砂粒を含む。	口縁部突帯：ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
466	R11	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	礫・細砂粒をわずかに含む。	ナデ？	
467	R11	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR6/2。内面：にぶい褐色7.5YR6/3。	礫～砂粒を多く含む。透明粒・角閃石・白色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
468	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR7/4。内面：褐色7.5YR7/6。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
469	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3。内面：褐色7.5YR6/6。	礫・細砂粒を含む。白色粒・黒色粒・透明粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
470	R11	弥生	甕	外面：黄灰色2.5Y4/1。内面：灰黄褐色10YR4/2。	砂粒をわずかに含む。	ヨコナデ。	
471	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2。にぶい黄褐色10YR7/3。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。	粗砂粒・砂粒を含む。半透明粒。	口縁突帯付近：ヨコナデ。下部：ナデ。	
472	R11	弥生	甕	外面：黒褐色2.5Y3/1。内面：にぶい黄褐色10YR7/4。	礫・粗砂粒・砂粒を含む。黒色粒・白色粒。	外面：ヨコナデ？ 内面：ナデ。	
473	R11	弥生	甕	外面：褐色7.5YR6/6。内面：灰褐色7.5YR4/2。器肉：黄灰色2.5Y4/1。	6mm大赤茶色の粒。粗砂粒を含む。透明粒・軽石。	口縁突帯付近：ヨコナデ。	
474	R11	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR6/3。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。	粗砂粒・細砂粒を含む。白色粒・軽石・角閃石。	ナデ。	
475	R11	弥生	甕	鉄分付着のため詳細不明。部分的に、にぶい黄褐色10YR7/2。にぶい褐色7.5YR7/3。	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径(36.6) cm。
476	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：褐色7.5YR6/6。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	

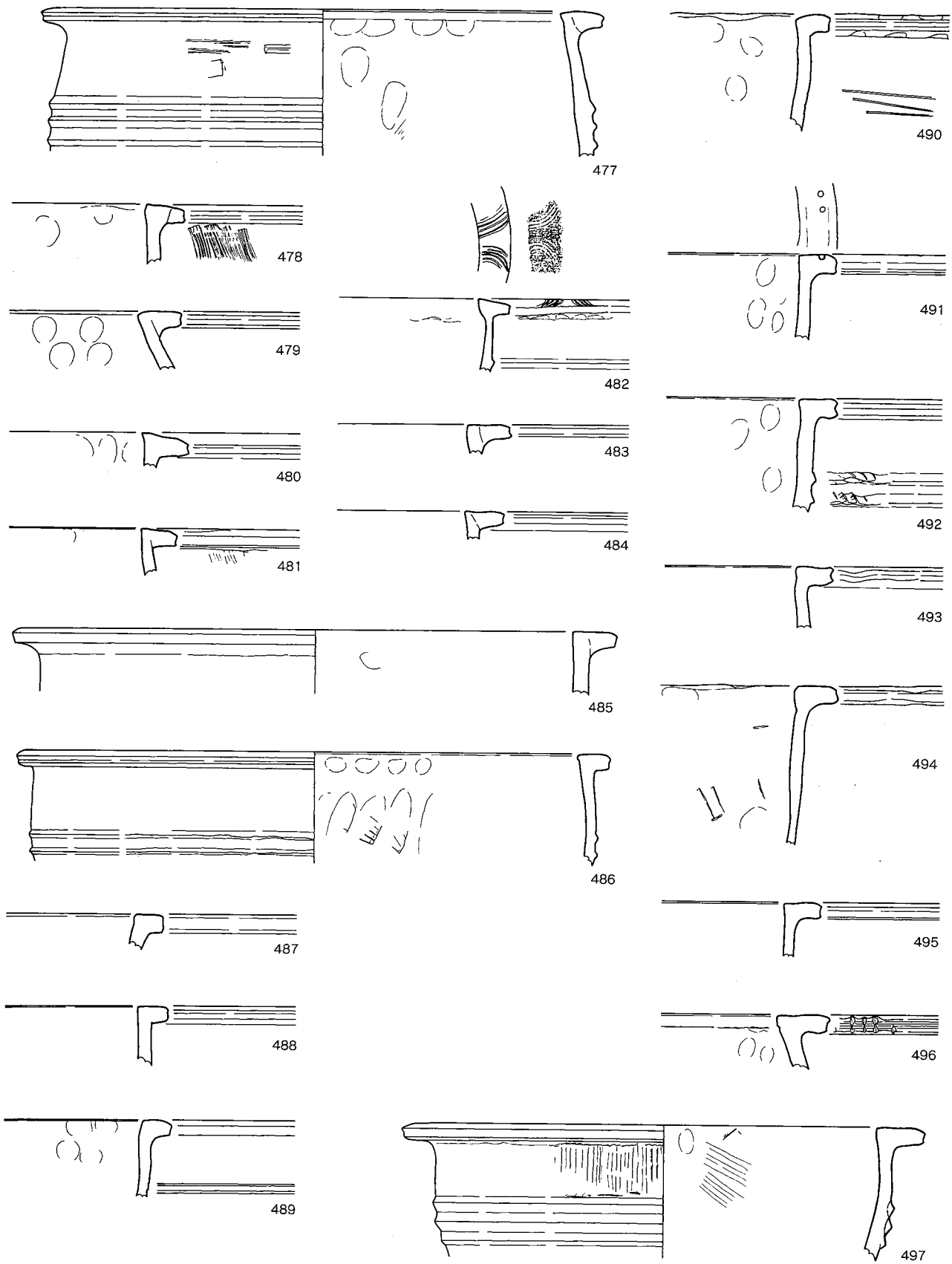


Fig.57 RI1 出土遺物 (14) S=1/3

Tab.30 RI1 出土遺物観察表 (14)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
477	RI1	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2. 内面：褐色7.5YR4/3.	粗砂粒～細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (25.4) cm.
478	RI1	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR6/3.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒.	外面：ハケのちナデ。口縁部上面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
479	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR5/1. 内面：にぶい黄橙色10YR7/2.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒.	ナデ。突帯付近：ナデ。	
480	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR5/1. 内面：明褐灰色7.5YR7/2.	砂粒を含む。	ヨコナデ?	
481	RI1	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/4. 内面：橙色7.5YR7/6.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石.	外面：ハケのちナデ。口縁部上面・内面：ナデ。	
482	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色5YR6/3. 内面：にぶい橙色2.5YR6/4.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
483	RI1	弥生	甕	口縁部上面：灰黄褐色10YR6/2. 外面：鉄分付着のため不明。内面：黄灰色2.5Y5/1.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒.	ナデ。	
484	RI1	弥生	甕	橙色7.5YR6/6.	砂粒を含む。透明粒.	ヨコナデ。	
485	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR5/4. 内面：にぶい橙色7.5YR7/4.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・黒色粒.	ナデ。	
486	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色7.5YR4/1. 内面：灰褐色7.5YR5/2.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石.	外面：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	口径 (18) cm.
487	RI1	弥生	甕	黄灰色2.5Y5/1・にぶい黄色2.5Y6/3.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒.	ナデ。	傾き不明。
488	RI1	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR4/2. 内面：鉄分付着のため不明.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
489	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明.	砂粒を含む。透明粒.	口縁突帯付近：ヨコナデ。内外面下部：ナデ。	
490	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明.	粗砂粒・細砂粒を含む。	ナデ?	
491	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2. 内面：灰黄褐色10YR6/2.	礫・細砂粒を含む。赤茶色の粒・軽石・黒色粒.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口縁部上面：黒斑あり。
492	RI1	弥生	甕	外面：褐色7.5YR4/3. 内面：灰褐色7.5YR4/2.	粗砂粒～細砂粒を含む。黒色粒・赤茶色の粒.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
493	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR6/2. 内面：褐灰色10YR5/1.	細砂粒をわずかに含む。角閃石.	ヨコナデ。	
494	RI1	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR5/3・暗灰色N3/	細砂粒を含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
495	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明.	砂粒を含む。透明粒・角閃石.	ナデ?	
496	RI1	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/4.	細砂粒を含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
497	RI1	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2. 内面：にぶい褐色7.5YR6/3.	粗砂粒～細砂粒を含む。角閃石・黒色粒・透明粒.	ハケのちナデ。口縁部上面：ナデ。	口径 (22.8) cm. 残存率1/11.

り見え、口縁部が貼り合わせられて作られたことがわかる。512はかなり磨耗している。513の口縁部上面はかなり窪んでおり、胴部に1条の突帯が残る。かなり磨滅が激しい。514はやや白っぽい色調を呈する。515の口縁部内面はわずかに突出し、胎土には金色のウンモが含まれている。518の口縁部内面は突出し、胎土には金色のウンモが含まれる。519は口縁部直下に1条の突帯が残る。胎土には金色のウンモが含まれている。520の口縁部直下には突帯状のわずかな突出が見られる。521の口唇部には窪みの見られる部分がある。口縁部上面外面側は

わずかに窪んでいる。522の口縁部上面外面側はわずかに窪み、胎土には金色のウンモが含まれる。523の下端は擬口縁になっている。

524～566は口縁部が斜め上方あるいは垂直に立ち上がり、口縁部の厚みは胴部側と口唇部側とがほぼ同じものである。524～526は口唇部に窪みが見られるもの。530の口唇部は面を有し、器壁が薄い。やや白っぽい色調を呈する。531～534の口唇部は丸みを帯びる。535・536・538・539・543は口唇部が面を有する。535の内外面にはハケメが明瞭に残る。543の内面にはヨコハケ、外

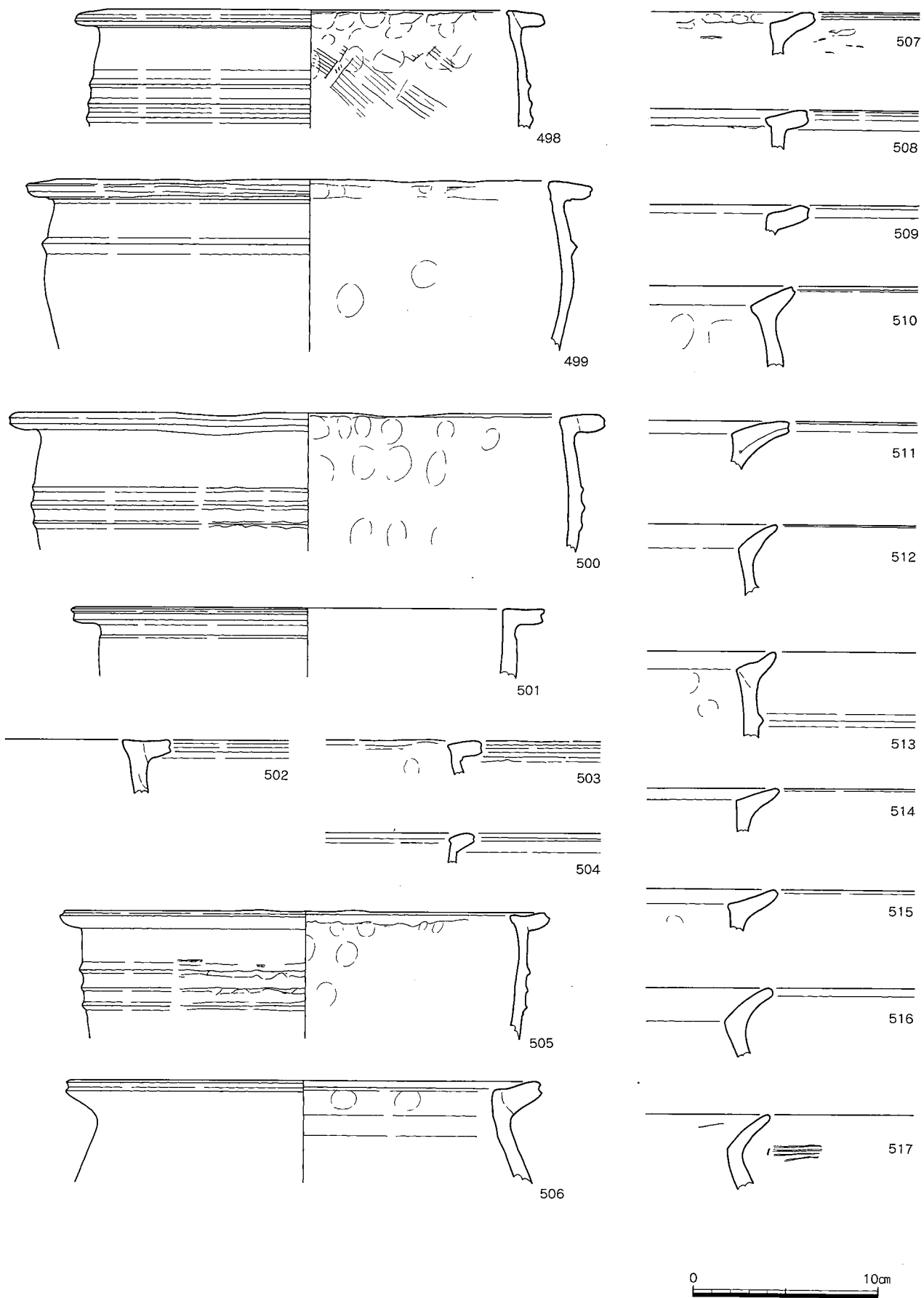


Fig.58 RI1 出土遺物 (15) S=1/3

Tab.31 R11 出土遺物観察表 (15)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
498	R11	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/4. 内面：にぶい赤褐色5YR5/3.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒.	外面：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	口径 (21.6) cm. 残存率1/7.
499	R11	弥生	甕	外面：灰褐色5YR4/2. 内面：灰褐色5YR5/2.	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・軽石.	ナデ。	口径 (26.2) cm.
500	R11	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/3・褐灰色7.5YR4/1. 内面：にぶい橙色5YR6/3. 器肉：暗灰色N3/.	4mm大～軽石・砂粒を含む。透明粒・黒色粒.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (27.5) cm.
501	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR4/2. 内面：にぶい褐色7.5YR5/4.	砂粒を含む。透明粒・角閃石.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (21.4) cm. 残存率1/9.
502	R11	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR4/3. 内面：灰褐色5YR5/2.	砂粒を含む。透明粒・黒色粒.	外面：ヨコナデ? 内面：ナデ。	
503	R11	弥生	甕	にぶい橙色7.5YR7/4. 器肉：暗灰色N3/.	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・軽石.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
504	R11	弥生	甕	にぶい橙色2.5YR6/4.	細砂粒を含む。透明粒・角閃石.	ヨコナデ。	
505	R11	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR4/2. 内面：灰褐色7.5YR5/2.	砂粒を含む。透明粒・角閃石・黒色粒.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (22.4) cm. 残存率1/7.
506	R11	弥生	甕	にぶい黄橙色10YR5/4.	砂粒を含む。金色の雲母・黒色粒.	ヨコナデ。	口径 (25) cm.
507	R11	弥生		鉄分付着のため不明.	砂粒・微砂粒を含む.	ヨコナデ。	
508	R11	弥生	甕	外面：褐灰色5YR4/1. 内面：にぶい赤褐色5YR5/3.	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・黒色粒・白色粒.	ヨコナデ。	
509	R11	弥生	甕	上面：にぶい黄褐色10YR6/3. 下面：にぶい褐色7.5YR6/3.	砂粒～微砂粒を含む。金色の雲母・白色粒.	ヨコナデ。	
510	R11	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2. 内面：灰褐色7.5YR6/2.	粗砂粒・砂粒を含む。金色の雲母・軽石・黒色粒.	外面：ナデ。内面：ヨコナデ。	やや磨滅している。
511	R11	弥生	甕	灰黄褐色10YR6/2.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒・軽石.	ナデ?	外面：一部剥落。
512	R11	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR6/4.	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒.	ナデ?	磨滅している。
513	R11	弥生	甕	灰黄褐色10YR6/2. 鉄分多付着のため詳細不明.	砂粒をわずかに含む。角閃石.	ナデ?	磨滅している。
514	R11	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/3とにぶい黄褐色10YR6/3の間。内面：明褐灰色7.5YR7/2.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
515	R11	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/4. 内面：付着物のため不明.	砂粒を含む。金色の雲母.	ナデ。	
516	R11	弥生	甕	にぶい黄褐色10YR7/4.	粗砂粒・細砂粒を含む。軽石.	ヨコナデ。	
517	R11	弥生	甕	外面：にぶい透明粒10YR7/3・灰黄褐色10YR5/2. 内面：にぶい透明粒10YR7/3.	砂粒を含む。赤茶色の粒・透明粒.	外面：ヨコナデ。一部ハケ。内面：ナデ。	

面にはタテハケが施される。524以下のタイプでは、外面に縦または斜め方向のハケ、内面に横方向のハケというパターンが多いようである。537・539・541は口縁部が丸みを帯びる。537の器壁は薄く、やや白っぽい色調を呈する。540の口唇部は尖り気味で、内外面にはハケメが明瞭に残る。やや白っぽい色調を呈する。542・551・552の口唇部には窪みが見られる。544～550は口唇部が丸みを有する。549はやや白っぽい色調を呈する。553～562は口唇部が面を有する。563・564は口唇部に窪みが見られる。563の胴部には1条の突帯が残る。全体的に黒っぽい色調を呈する。565は口唇部がやや尖り気味、566は口唇部が面を有する。

567の口縁部は外方に折れ曲がり、ユビオサエによって整形されたような形態を呈する。口縁部上面外面側から口唇部にかけてハケ原体状の工具による刻みが施されている。

568は口縁部下面が丸みを帯びている。断面の観察によると、突出部は貼り付けられているようである。形態および、大きさは無文土器に類似する。

569～572は口縁部の突出が大きく、口縁部上面がほぼ直線状で、口唇部が丸みを帯びる。口縁部の厚みはほぼ一定で、いずれも口縁部内面上部が突出し、やや白っぽい色調を呈する。572の口縁部内面上部の突出はとくに大きい。これらは須玖系もしくは須玖式と考えられ

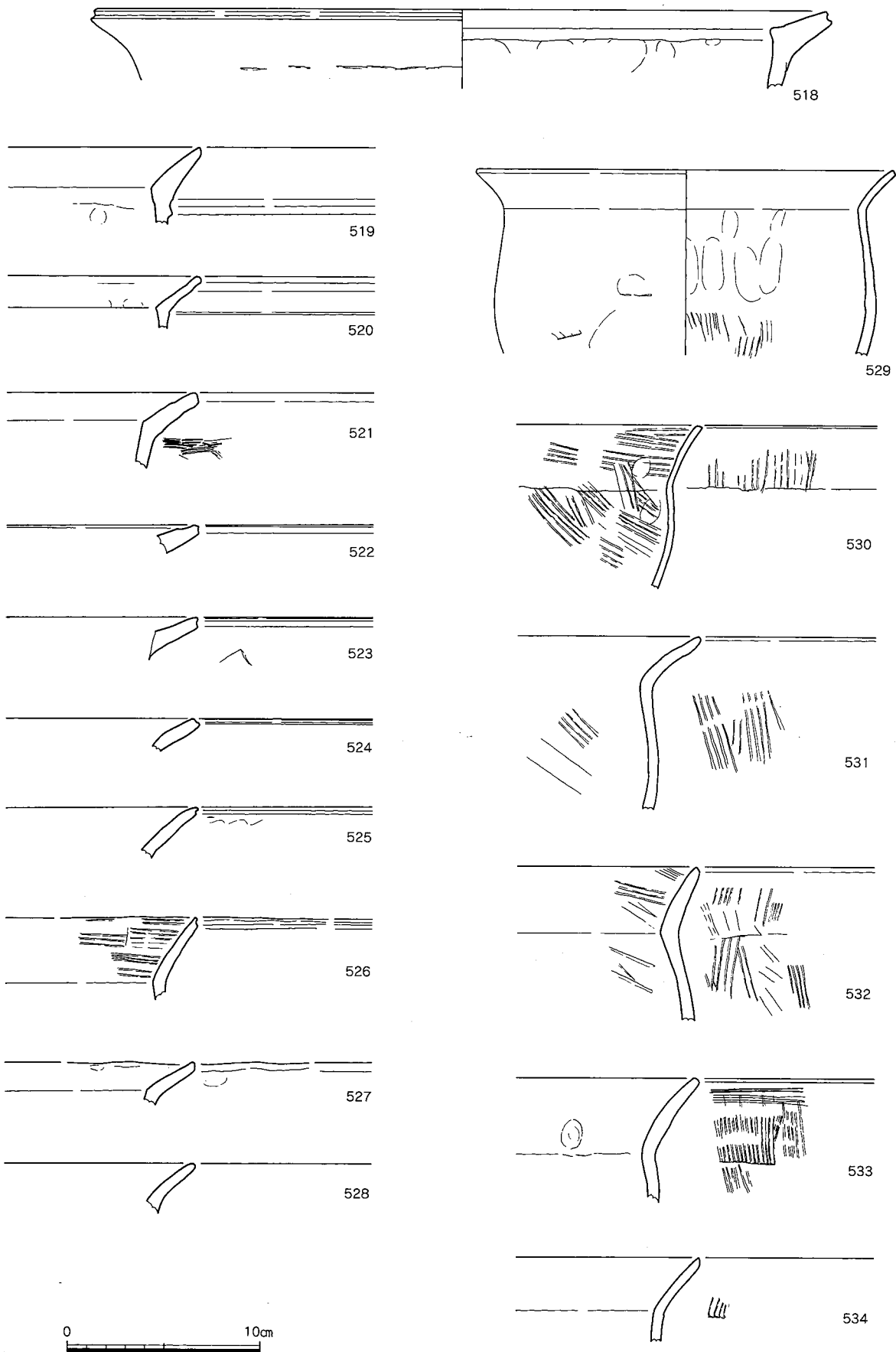


Fig.59 RI1 出土遺物 (16) S=1/3

Tab.32 RI1 出土遺物観察表 (16)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	調 整	備考
518	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2。内面：灰褐色7.5YR6/2。	砂粒～微砂粒を含む。金色の雲母・透明粒・軽石。	ヨコナデ。外面下部：ハケのちナデ。内面下部：ナデ。	口径 (67.6) cm。
519	RI1	弥生	甕?	外面：橙色7.5YR6/6。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。	礫～細砂粒を含む。白色粒・半透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
520	RI1	弥生	甕	灰白色5Y8/1。器肉：暗灰色N3/。附着物のため詳細不明。	砂粒を含む。透明粒。	外面：ヨコナデ? 内面：ナデ。	磨滅している。
521	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR5/1・暗灰色N3/。内面：明褐灰色7.5YR7/2・暗灰色N3/。	砂粒をわずかに含む。透明粒・黒色粒。	口縁：ヨコナデ。外面：ハケ。内面：ナデ。	黒斑あり。
522	RI1	弥生	甕	口縁部上面：褐灰色10YR4/1・にぶい褐色7.5YR5/3。下面：にぶい橙色7.5YR6/3。	砂粒・細砂粒を含む。金色の雲母・透明粒・白色粒。	ナデ。	
523	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR6/1。内面：灰色N6/。	砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒。	ヨコナデ?	
524	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR6/4。内面：灰色N4/。器肉：灰白色10YR8/2。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・白色粒。	ナデ。	
525	RI1	弥生	甕	外面：灰色5Y5/1。内面：灰黄色2.5Y7/2。	細砂粒を含む。透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
526	RI1	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR6/3。	礫・砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒・角閃石。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
527	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR6/3+灰褐色10YR4/1。内面：にぶい橙色7.5YR7/4+灰黄褐色10YR6/2。	砂粒・粗砂粒を含む。軽石・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
528	RI1	弥生	甕	外面：(上部) 灰黄色2.5Y5/。(下部) にぶい黄橙色10YR7/3。内面：にぶい黄橙色10YR7/3。	粗砂粒・砂粒を含む。赤茶色の粒・透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
529	RI1	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2。内面：橙色5YR7/6。	粗砂粒・砂粒を含む。赤茶色の粒・透明粒。	外面：ナデ。内面：(口縁部) ヨコナデ。(胴部) ハケのちナデ。	口径 (21.6) cm。
530	RI1	弥生	甕	外面：灰白色7.5YR8/2。内面：灰褐色7.5YR6/2。	細砂粒を含む。赤茶色の粒・透明粒・軽石。	外面：ハケのちナデ。内面：ハケ。	
531	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/3。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。	粗砂粒～細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	口縁付近：ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
532	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/2。内面：浅黄褐色7.5YR8/3。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ハケのちナデ。口唇部：ヨコナデ。	
533	RI1	弥生	甕	外面：灰褐色5YR5/2。内面：にぶい褐色7.5YR6/4。器肉：暗灰色N3/。	粗砂粒～微砂粒を含む。半透明粒。	外面：縦方向ハケのちナデ。(口縁) 横方向のハケ。内面：ナデ。	
534	RI1	弥生	甕	にぶい褐色7.5YR7/3。	砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒・赤茶色の粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	

る。

573～577は口縁部の突出が大きく、口唇部が丸みを帯びる。573・575・577の口縁部上面には窪みが見られる。573・575～577の口縁部内面は突出している。575の胴部には細い沈線が1条施されている。575・577はやや白っぽい色調を呈する。これらは黒髪系あるいは黒髪式と考えられる。

578は口縁部が斜め上方に立ち上がり、口唇部は丸みを有する。579は口縁部上面および口唇部が丸みを帯び、口縁部はかなり厚い。

580・582は口縁部の突出部が剥落した資料で、接合の状況がよくわかるため取り上げた。580の胴部には沈線が3条施されている。581は口縁部突出部で擬口縁部分から剥落している。

583～585は甕の胴部片である。583は大型の甕で、横方向の突帯が4条残り、横方向の突帯の上方には斜交する突帯が4条残る。584には波状文状の文様が施されて

いる。585には横方向の沈線が1条施された後、直交して長さ1.5cmほどの刺突文が施されている。この文様は列点文に似る。

586～587は甕の底部付近である。588の内面には炭化物が付着している。

589～599は甕の底部。589～592の底面は比較的薄いようである。595～597はやや小型で、597の底面は少し上げ底である。598の端部には窪みが見られ、胎土に金色のウンモが含まれる。599は小型で、底面の中央部がわずかに上げ底となる。端部にはわずかな窪みが見られ、胎土に金色のウンモが含まれる。

600～614は脚台部である。600の脚台はかなり大きく開く。601はかなり磨滅が激しい。604・607は中程に屈曲部があり、外反して脚端部に至る。609はかなり大型であり、610の脚台は長い。614は中程に屈曲部があり、外反して端部に至る。内面は剥落している可能性も考えられ、その場合は「充実した」脚台であったことにな

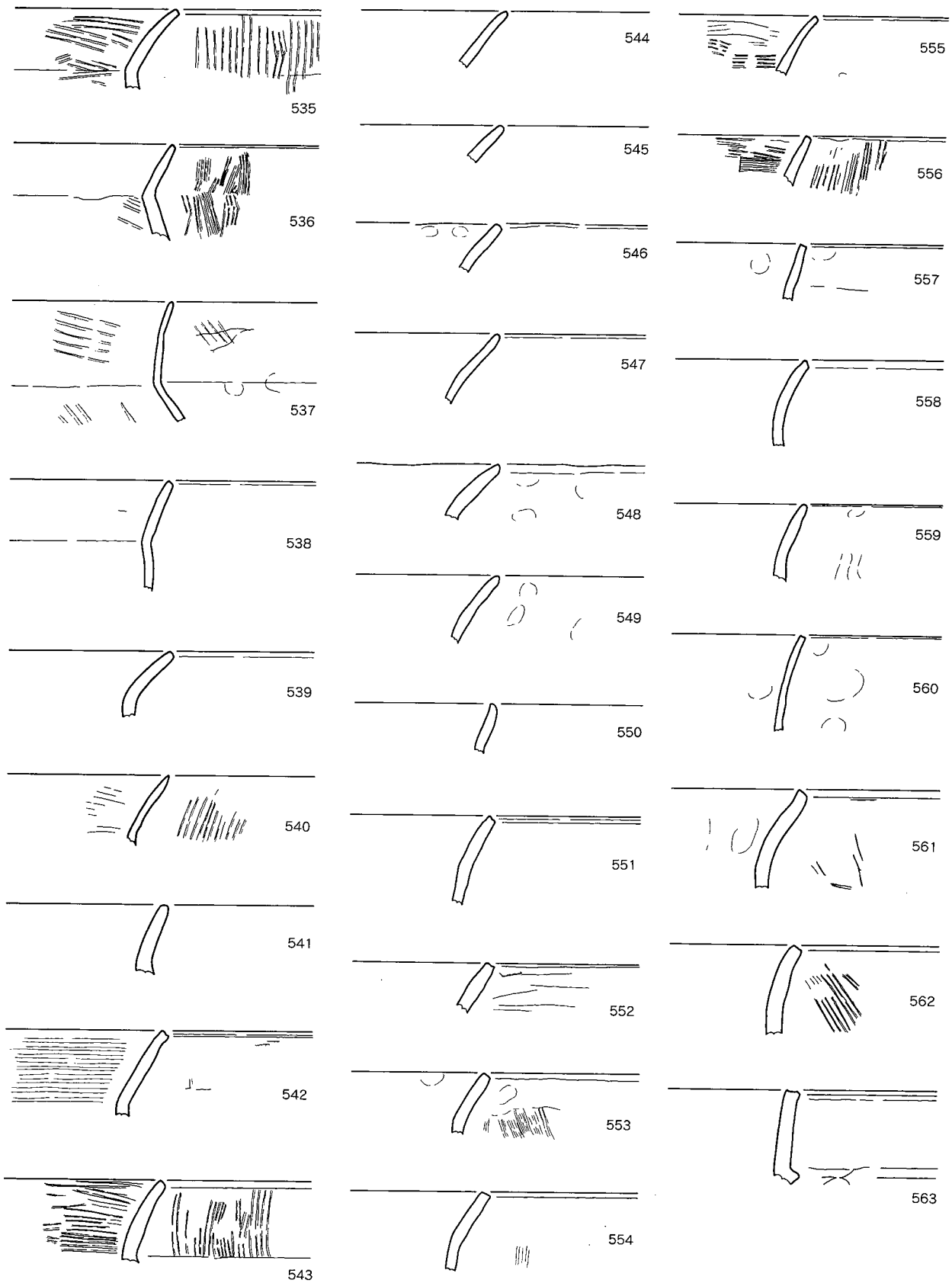


Fig.60 RI1 出土遺物 (17) S = 1/3

Tab.33 RI1 出土遺物観察表(17)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
535	RII	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/2。内面：褐灰色10YR5/1。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒・角閃石。	外面：縦方向ハケ。内面：横方向ハケのちナデ。	
536	RII	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ハケのちナデ。	
537	RII	弥生	甕	外面：灰白色10YR8/2。内面：にぶい黄橙色10YR7/3。器肉：灰色N4/。	砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒。	ハケのちナデ。	
538	RII	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明。内面：灰褐色7.5YR6/2。	砂粒・細砂粒を含む。	ナデ。	
539	RII	弥生	甕	外面：明褐色7.5YR7/2。内面：にぶい橙色7.5YR7/3。	粗砂粒～細砂粒を含む。赤茶色の粒・軽石・透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
540	RII	弥生	甕	浅黄橙色7.5YR8/4+にぶい黄橙色10YR7/3。	細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ハケ。口唇部付近：ナデ。	
541	RII	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/4。内面：にぶい褐色7.5YR5/4・オリーブ黒7.5YR3/1。	砂粒・細砂粒を含む。	ナデ?	
542	RII	弥生	甕	灰黄褐色10YR6/2・灰黄褐色10YR5/2。器肉：黒色N2/。	粗砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	
543	RII	弥生?	甕	外面：灰黄2.5Y7/2。内面：灰黄褐色10YR6/2。器肉中央：灰色N4/。	砂粒・粗砂粒を含む。半透明粒・赤茶色の粒。	外面：縦方向ハケのちナデ。内面：横方向ハケのちナデ。	
544	RII	弥生?	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/3。内面：にぶい褐色7.5YR5/4。	砂粒を含む。軽石・透明粒。	ナデ。	傾き不明。
545	RII	弥生	甕	黄灰色2.5Y5/1・にぶい黄橙色10YR7/2。	細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
546	RII	弥生?	甕	外面：灰黄褐色10YR5/2。内面：鉄分付着のため不明。	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒。	ナデ。	
547	RII	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2・にぶい黄褐色10YR6/4。内面：褐灰色7.5YR4/1。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・白色粒。	ナデ。	
548	RII	弥生か古墳	甕	灰白色10YR8/1+灰白色2.5Y7/1。口唇部：黄灰色2.5Y5/1。	砂粒を含む。赤茶色の粒・黒色粒。	ナデ。	
549	RII	弥生か古墳	甕	外面：灰白色10YR8/2に近い。内面：鉄分付着のため不明。器肉：灰色N4/。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
550	RII	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	砂粒・微砂粒を含む。透明粒。	外面：ナデ。内面：ヨコナデ。	
551	RII	弥生?	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2。内面：褐灰色10YR4/1。	粗砂粒～細砂粒を含む。透明粒・白色粒。	ナデ。	
552	RII	弥生	甕	外面：黄灰色2.5Y5/1。内面：黄灰色2.5Y6/1+灰黄2.5Y7/2。器肉：灰色N4/。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
553	RII	弥生か古墳	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/2。一部褐灰色7.5YR5/1。内面：明褐色7.5YR7/2・にぶい黄褐色10YR7/2。	砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
554	RII	弥生か古墳	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/4・灰黄褐色10YR6/2。内面：にぶい褐色7.5YR7/4と褐色7.5YR7/6の中間。器肉：暗灰色N3/。	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒・赤茶色の粒・軽石。	ヨコナデ。外面下部：ハケのちナデ。	
555	RII	弥生	甕	外面：灰色2.5Y4/1。内面：灰褐色7.5YR6/2。鉄分付着のため詳細不明。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
556	RII	弥生	甕か壺	にぶい褐色5YR6/4と褐色5YR6/6の中間。	砂粒・微砂粒をわずかに含む。	外面：縦方向ハケ。内面：横方向ハケ。	
557	RII	弥生	甕	外面：褐色7.5YR4/3。内面：にぶい褐色7.5YR5/4。	細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
558	RII	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒。	ナデ?	
559	RII	古墳	甕	外面：(上部) 褐灰色7.5YR4/1。(下部) にぶい褐色7.5YR5/3。内面：鉄分付着のため不明。	砂粒を含む。軽石・透明粒。	ナデ。	
560	RII	弥生か古墳	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/2。口唇部付近・器肉：灰色N4/。内面：鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。黒色粒。	ナデ。	
561	RII	古墳	甕	外面：褐灰色10YR6/1。内面：黄灰色2.5Y5/1。	砂粒・微砂粒を含む。赤茶色の粒。	ナデ。	
562	RII	古墳	甕	外面：にぶい黄褐色10YR6/3。内面：灰黄褐色10YR6/2・暗灰色N3/。器肉：暗灰色N3/。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	口唇部付近：ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
563	RII	弥生	甕	黒色5Y2/1。	粗砂粒を含む。透明粒・軽石。	ヨコナデ。	

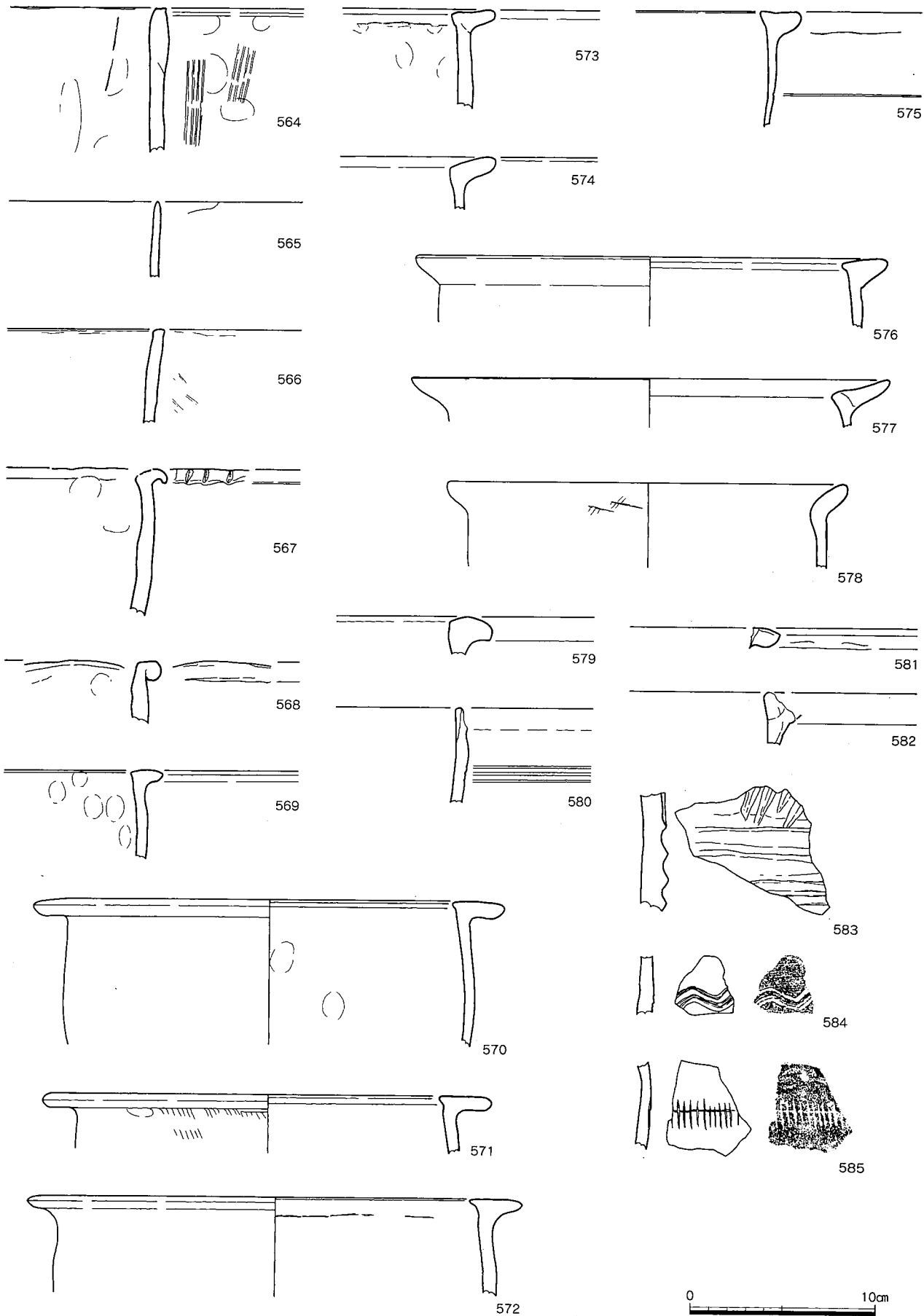


Fig.61 RI1 出土遺物 (18) S=1/3

Tab.34 RI1 出土遺物観察表 (18)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
564	RI1		甕	外面：暗灰色N3/. 内面：黄灰色2.5Y4/1.	粗砂粒・細砂粒・微砂粒を含む。軽石・透明粒・白色粒。	口唇部付近：ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
565	RI1	古墳?	甕	にぶい橙色7.5YR7/3。器内：黄色がかった暗灰色N3/ (Y)。	粗砂粒～細砂粒を含む。茶色の粒・軽石・透明粒。	ナデ。	
566	RI1	弥生か古墳	甕	外面：褐灰色10YR4/1+黒褐色10YR3/1。内面：黄灰色2.5Y6/1・黒色N2/。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ヨコナデ。	傾き不明。
567	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR6/3。内面：にぶい黄橙色10YR6/3。	粗砂粒～細砂粒を含む。透明粒・黒色粒・軽石。	ナデ。	
568	RI1	弥生	甕	外面：褐色7.5YR4/3。内面：にぶい黄橙色10YR5/4。	礫～細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
569	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/3。内面：浅黄橙色7.5YR8/4。	砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒・角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
570	RI1	弥生	甕	外面：褐色7.5YR4/6。内面：浅黄橙色10YR8/3。	砂粒・細砂粒を含む。半透明粒・白色粒。	ナデ。口縁突帯付近：ヨコナデ。	口径 (20.2) cm.
571	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/3。内面：浅黄橙色10YR8/3。器内：暗灰色N3/。	礫・砂粒を含む。軽石・白色粒。	ナデ。口縁突帯付近：ヨコナデ。	口径 (18.8) cm.
572	RI1	弥生	甕	浅黄橙色10YR8/3。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒・黒色粒。	ナデ。口縁付近：ヨコナデ。	
573	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色2.5YR6/4。内面：灰褐色5YR6/2。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ。口縁突帯付近：ヨコナデ。	
574	RI1	弥生	甕	外面：(上部)にぶい黄橙色10YR6/3。(下部)にぶい褐色7.5YR7/3。内面：浅黄橙色10YR8/3。器内：暗灰色N3/。	砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
575	RI1	弥生	甕	外面：灰色N4/。内面：灰白色10YR7/1。	粗砂粒・細砂粒を含む。半透明粒・黒色粒。	ナデ?	磨滅している。
576	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR7/2。内面：にぶい黄橙色10YR6/3。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・黒色粒多。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (25.7) cm.
577	RI1	弥生	甕	灰白色10YR7/1。	礫～細砂粒を含む。白色粒・黒色粒。	ナデ。	磨滅している。
578	RI1	弥生	甕	外面：にぶい黄橙色10YR6/3。内面：オリブ黒5Y3/1。	砂粒～微砂粒を含む。白色粒・黒色粒。	ナデ。外面口縁付近：ハケのちナデ。	口径 (21.6) cm. 残存率1/10.
579	RI1	弥生	甕	暗灰色N3/. 内面：褐灰色5YR4/1。	砂粒を含む。角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
580	RI1	弥生	甕	外面：褐灰色10YR4/1～黒褐色10YR4/1。内面：灰黄褐色10YR4/2。接合面・内面上部：にぶい黄橙色10YR7/3。	砂粒を多く含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒・白色粒。	ナデ。	
581	RI1	弥生	甕	黄灰色2.5Y4/1。	細砂粒・微砂粒を含む。黒色粒多・透明粒。	ヨコナデ。	
582	RI1	弥生	甕	鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。透明粒。	ナデ?	
583	RI1	弥生	甕	外面：鉄分付着のため不明。内面：にぶい橙色7.5YR6/4。	粗砂粒・砂粒を多く含む。赤色粒・角閃石・石英・白色粒。	外面：ヨコナデ? (上部) ナデ? 内面：ナデ。	
584	RI1		甕	褐灰色10YR4/1。	礫少し・砂粒を含む多く含む。石英・赤色粒。	ナデ。外面上部：ヨコナデ。	
585	RI1	弥生?	甕	灰白色2.5Y7/1・灰色N5/。内面：にぶい黄橙色10YR7/2。	細砂粒を多く含む。赤色粒・白色粒。	ナデ。	

る。

615～642は鉢と考えられる資料である。615は薄手で、口縁部も小さいことから、小型品と考えられる。616は口縁部が外方にやや突出する。617の口縁部は三角形を呈し、突出はやや大きい。618はひじょうに磨滅が激しい。口縁部直下に穿孔が見られる。焼成後にあけられたもので、外面と内面の両側から穿孔されたと考えられる。619の口縁部は外方に折り曲げられたような形状で、ゆがみが大きく、胴部にも凹凸が見られる粗雑な作

りである。620の口縁部はやや外方に突出する。口縁部直下が窪んでおり、指で挟んで成形したものと考えられる。621の口縁部は外方に突出し、口縁部内面も突出している。622は口縁部の内外への突出がさらに大きい。

623は外反しながら立ち上がり、口縁部付近から直立する。口縁部直下に幅広の沈線が見られる。

624の胴部は内湾気味に立ち上がり、口縁部は外方に突出する。口唇部は面を持たない。625は斜め上方に立ち上がる。口縁部は三角形を呈し、突出はかなり大き

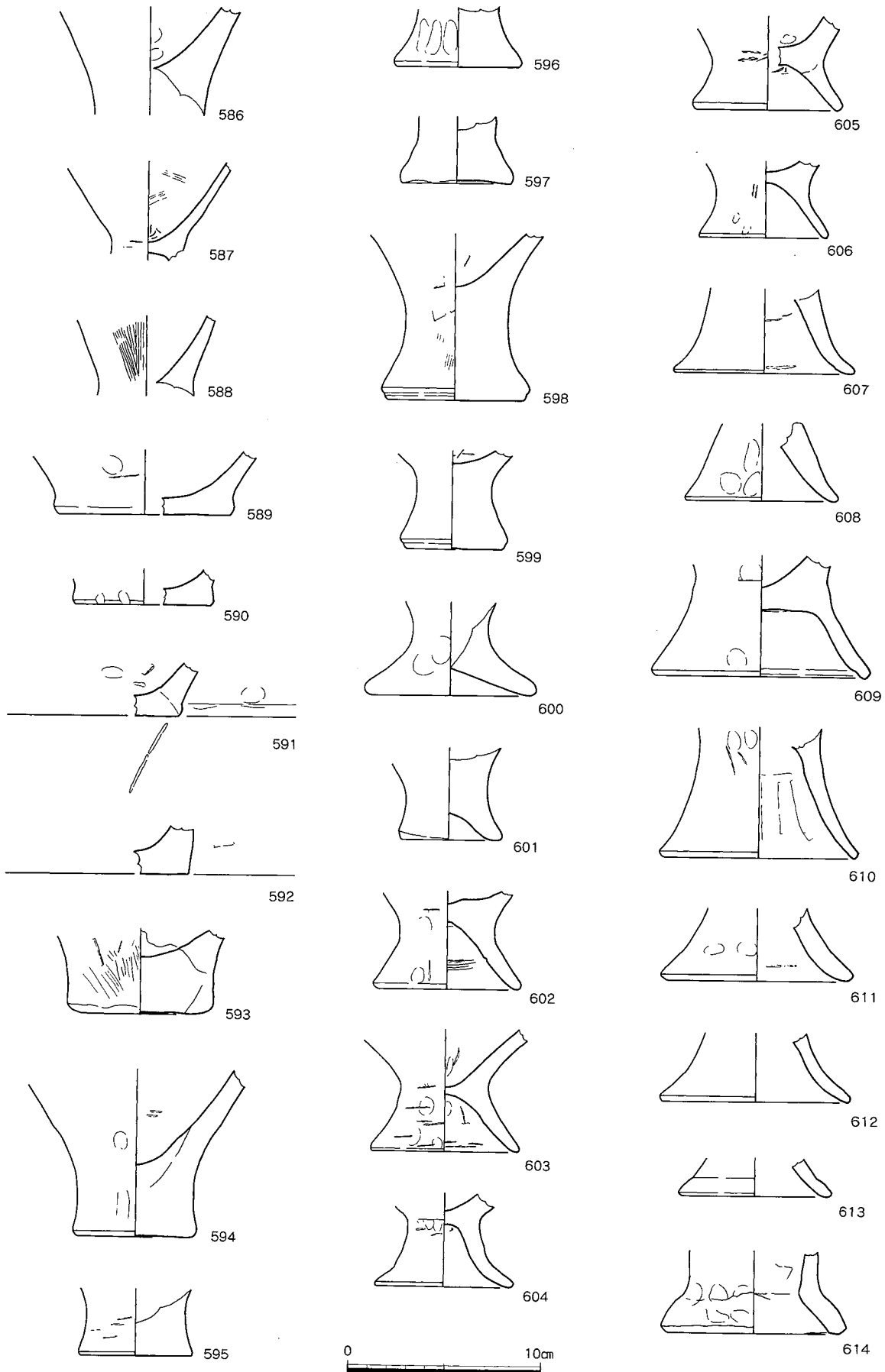


Fig.62 RI1 出土遺物 (19) S=1/3

Tab.35 RI1 出土遺物観察表(19)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
586	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4。内面：黄灰色2.5Y6/2。器内：(外面側) 橙色2.5YR6/6。(内面側) 灰白色10YR8/1。	礫～砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石。	ナデ。	
587	RI1	弥生	甕	外面：灰白色2.5Y7/1・にぶい褐色7.5YR6/3。内面：にぶい橙色7.5YR7/3～にぶい褐色7.5YR6/3。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石・黒色粒。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
588	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。内面：オリーブ黒5Y3/1。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
589	RI1	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/3。内面：灰黄褐色10YR6/2。	粗砂粒・砂粒を含む。半透明粒・白色粒・黒色粒。	外面・外底面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	底径(9)cm。
590	RI1	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2。内面：灰白色10YR8/2。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
591	RI1	弥生	甕	黒褐色7.5YR3/2。鉄分付着のため詳細不明。	砂粒・細砂粒を含む。	ナデ?	
592	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4。内面：褐灰色7.5YR4/1。	粗砂粒・砂粒を含む。軽石・白色粒・透明粒・角閃石。	ナデ。	
593	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色2.5YR6/3。内面：灰N5/。	礫・砂粒・細砂粒を含む。軽石・白色粒・角閃石・黒色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	底径(7.6)cm。
594	RI1	弥生	甕	外面：にぶい赤褐色5YR5/4。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。	粗砂粒・砂粒を多く含む。透明粒・赤茶色の粒・角閃石。	ナデ。	底径(6.2)cm。
595	RI1	弥生	甕	にぶい橙色5YR6/4。	砂粒～細砂粒を含む。軽石・角閃石・透明粒・赤茶色の粒。	外面：ハケのちナデ。外底面：ナデ。	底径(5.8)cm。
596	RI1	弥生	甕	外面：にぶい橙色2.5YR6/4。外底面：にぶい褐色7.5YR5/3。	礫・砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒・黒色粒。	ナデ。	底径(6.4)cm。
597	RI1	弥生	甕	にぶい橙色5YR7/4・6/3。器内：橙色2.5YR6/6。	粗砂粒・砂粒を多く含む。	ナデ?	底径(2.9)cm。
598	RI1	弥生	甕	外面：(上部) にぶい橙色5YR7/4。(下部) 灰白色2.5Y7/1。内面：黄灰色2.5Y6/1。	礫・粗砂粒・砂粒を含む。金色の雲母多・白い粒。	ハケのちナデ。	底径7.6cm。
599	RI1	弥生	甕	外面・外底面：にぶい橙色7.5YR6/4。内面：灰黄褐色10YR4/2。	粗砂粒・砂粒を含む。金色の雲母多・白色粒。	ナデ。	底径4.5cm。内面：スス付着。
600	RI1	弥生?	甕	内外面：にぶい橙色7.5YR7/4。器内：褐灰色10YR5/1に類似。	砂粒・微砂粒を含む。黒色粒・赤茶色の粒。	ナデ。	底径(9)cm。
601	RI1	弥生	甕	橙色5YR6/6。器内中央付近：褐灰色7.5YR6/1。	粗砂粒・砂粒を多く含む。白色粒多。	ナデ。	底径(5.3)cm。
602	RI1	弥生	甕	付着物のため不明。	粗砂粒～細砂粒を含む。軽石・半透明粒。	ヨコナデ?。	底径7.8cm。
603	RI1	弥生	甕	外面・脚台内面：にぶい赤褐色5YR4/3。内面：にぶい褐色7.5YR5/3。器内：灰色N3/。	礫・細砂粒を含む。白色粒。	外面：ハケのちナデ。脚台内面：ハケのち(ヨコ)ナデ。内面：ナデ。	底径7.7cm。
604	RI1	弥生	甕	脚台内外面：にぶい黄褐色10YR7/3。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。器内：灰色N5/。	粗砂粒・砂粒を含む。黒色粒・軽石。	脚台内面：ヨコナデ。内外面：ナデ。	底径4.2cm。
605	RI1	弥生	甕	外面・脚台内面：浅黄褐色7.5YR8/4。内面：灰色N4/。	礫・粗砂粒を含む。透明粒・角閃石・軽石。	ナデ。	底径(7.8)cm。
606	RI1	弥生	甕	脚台内外面：灰黄褐色10YR6/2。内面・器内：灰色N3/(Y)。	礫・砂粒・細砂粒を含む。白色粒・透明粒・角閃石。	脚台内面：ヨコナデ。内外面：ナデ。	底径(6.7)cm。
607	RI1	弥生か古墳	甕	外面：鉄分付着のため不明。内面：褐灰色10YR6/1。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。黒色粒。	ナデ。	底径(9.4)cm。
608	RI1	弥生か古墳	甕	にぶい赤褐色5YR尾5/4。鉄分付着のため詳細不明。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	外面：ナデ。脚台内面：ヨコナデ。	底径(8)cm。残存率1/6。
609	RI1	古墳	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/3。脚台内面・外底面：灰黄色尾2.5Y7/2・黄灰色2.5Y4/1。内面：オリーブ黒5Y3/1。器内：にぶい橙色7.5YR6/4。	細砂粒・微砂粒をわずかに含む。	脚台内外面：ヨコナデ。内面・外底面：ナデ。	底径(6.3)cm。
610	RI1	古墳?	甕	外面：浅黄褐色10YR8/3。内面：にぶい黄褐色10YR7/4。内外面上部・接合面：橙色5YR6/6。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・白色粒。	外面：ナデ。内面：ヨコナデ。	底径(10.4)cm。
611	RI1	弥生か古墳	甕	外面：浅黄褐色10YR8/3とにぶい黄褐色10YR7/3の中間。内面：にぶい黄褐色10YR7/4・にぶい橙色7.5YR6/4。	礫・粗砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	底径(10)cm。残存率約1/5。
612	RI1	弥生か古墳	甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4。内面：にぶい赤褐色5YR5/3。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	底径(10)cm。残存率約1/6。
613	RI1	弥生か古墳	甕	外面：にぶい橙色7.5YR6/4・にぶい黄褐色10YR7/3。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。	砂粒～微砂粒を含む。透明粒・軽石・黒色粒。	ナデ。	底径(8)cm。
614	RI1	弥生か古墳	甕	にぶい橙色7.5YR6/4。鉄分付着のため詳細不明。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石・黒色粒。	ナデ?	底径(6)cm。

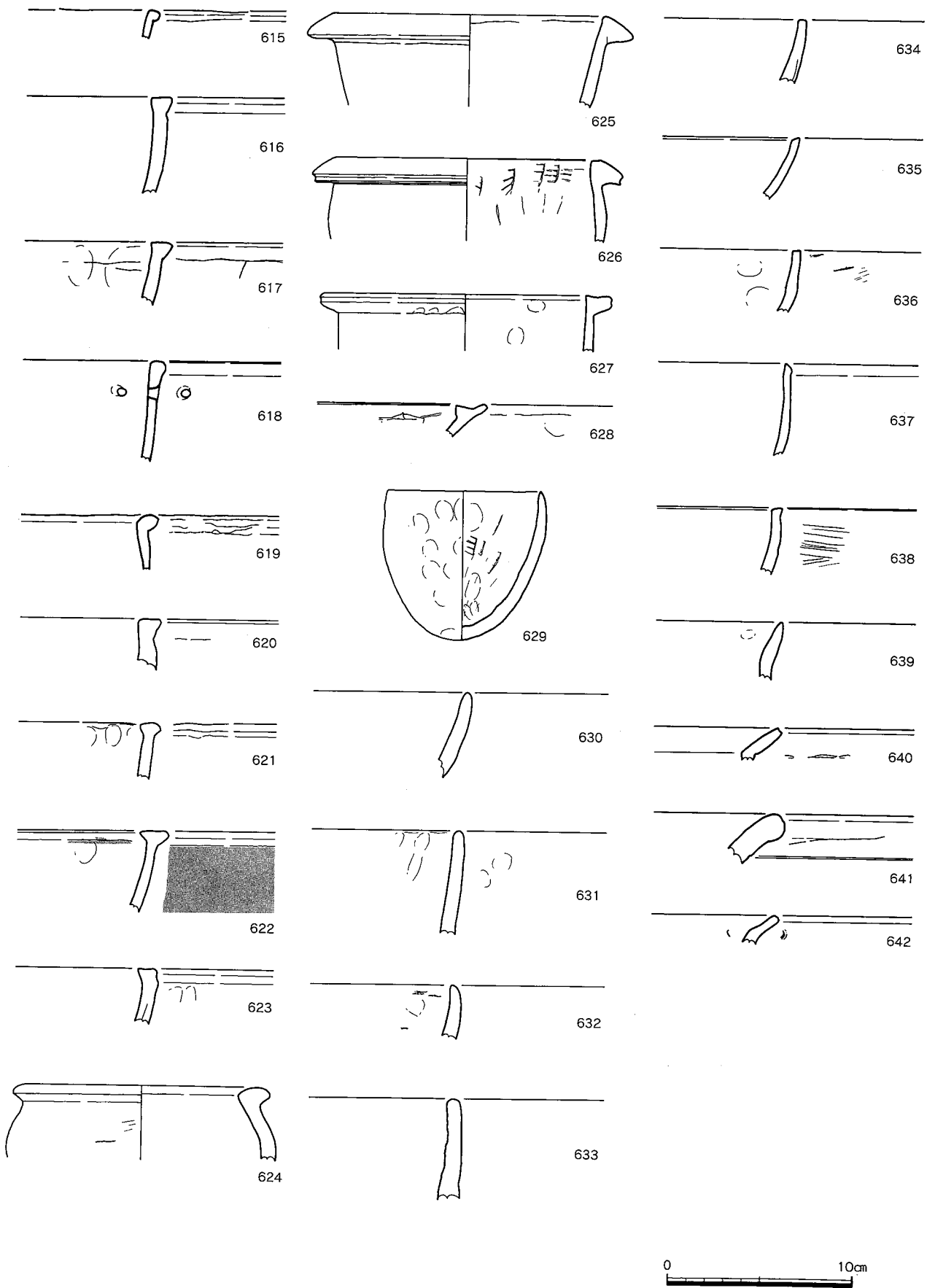


Fig.63 RI1 出土遺物 (20) S=1/3

Tab.36 RI1 出土遺物観察表 (20)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
615	RII	弥生	鉢	にぶい黄橙色10YR6/4. 器内：オリーブ黒色5Y3/1.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	ナデ。	
616	RII	弥生	鉢	外面：黒色10YR2/1. 内面：黒褐色10YR3/2. 鉄分付着のため詳細不明。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒多。	ナデ? 内面下部：ハケのちナデ。	
617	RII	弥生	鉢?	外面：にぶい橙色7.5YR6/4. 内面：灰黄褐色10YR6/2.	微砂粒を含む。	外面：ナデ。内面：(ハケのち)ナデ。	磨滅している。
618	RII		鉢?	外面：にぶい黄橙色10YR7/2. 内面：黒褐色10YR3/.	粗砂粒を多く含む。石英・白色粒・赤色粒・角閃石。		ひじょうに磨滅している。
619	RII	弥生	鉢	橙色7.5YR6/6.	砂粒を含む。透明粒。	ナデ?	
620	RII	弥生	鉢?	外面：にぶい橙色7.5YR6/4. 内面：灰黄褐色10YR6/2. 器内：灰色5Y4/1.	粗砂粒・細砂粒を含む。白色粒・軽石。	ナデ。	
621	RII		鉢?	にぶい黄橙色10YR6/3.	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒・白色粒。	ナデ。口縁付近：ヨコナデ。	
622	RII		鉢	外面：(赤色顔料)にぶい橙色5YR6/4. 口縁部上面・内面：にぶい橙色7.5YR6/4. 器内：黄灰色2.5Y4/1.	砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	
623	RII	弥生	鉢	にぶい赤褐色5YR5/4. 付着物のため詳細不明。口縁部上面：灰白2.5Y8/2.	微砂粒を含む。	口縁付近：ヨコナデ。付着物のため詳細不明。	
624	RII	弥生	鉢	外面：橙色2.5YR6/6. 口縁部上面・内面：にぶい橙色10YR7/2. 器内：暗灰色N3/.	砂粒を含む。透明粒・角閃石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (12.6) cm.
625	RII	弥生	鉢?	黒褐色2.5Y3/1.	粗砂粒～細砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	口径 (14.6) cm. 裏の可能性。
626	RII	弥生	鉢?	外面：褐色5YR5/1. 内面：にぶい橙色5YR6/4.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	外面：ナデ。(口縁下付近)ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。	口径 (14.4) cm.
627	RII	弥生	鉢?	外面：褐灰色7.5YR5/1. 内面：明褐灰色7.5YR7/2.	砂粒を多く含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (13) cm.
628	RII		鉢	付着物のため詳細は不明。	細砂粒を含む。	ヨコナデ。	
629	RII		鉢?	内底部：灰褐色7.5YR5/2. ほかは鉄分など付着物のため不明。	細砂粒を含む。角閃石。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	外面：黒斑あり。
630	RII		鉢?	外面：灰白色2.5Y+7/1灰色N3/. 口唇部付近：灰白色2.5Y7/1. 内面・器内：黄色がかった灰色N3/ (Y) .	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石・白色粒。	ナデ?	磨滅している。
631	RII		鉢?	褐灰色7.5YR4/1. 鉄分付着のため詳細不明。	粗砂粒・砂粒を含む。軽石・透明粒。	ナデ。口唇部付近：ヨコナデ。	
632	RII		鉢?	外面：灰褐色7.5YR5/2. (口唇部付近) 黒色7.5YR2/1. 内面：鉄分付着のため不明。	砂粒を含む。	ナデ?	
633	RII		鉢?	外面：橙色5YR6/6. 内面：褐灰色7.5YR6/1.	砂粒を多く含む。透明粒・黒色粒。	外面：ナデ。内面：剥落している。	
634	RII		鉢?	にぶい褐色7.5YR6/3に類似。	砂粒・細砂粒を含む。軽石。	ナデ。	
635	RII		鉢	にぶい橙色5YR6/4. 内面：橙色5YR6/6+褐灰色10YR5/1.	砂粒・細砂粒を含む。軽石・透明粒。	ヨコナデ。	
636	RII		鉢	外面：灰黄色2.5Y6/2+にぶい黄褐色10YR7/2. 内面：にぶい黄色2.5Y6/3. 器内：灰色N4(Y) .	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・透明粒。	ヨコナデ。	
637	RII		鉢	鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。	ナデ?	
638	RII		鉢?	外面：黒褐色10YR3/1. 内面：褐灰色7.5YR4/1. 器内：にぶい橙色7.5YR6/4.	粗砂粒・細砂粒を含む。白色粒。	外面：ミガキ? 内面：ナデ?	
639	RII	弥生	鉢	外面：明褐灰色7.5YR7/2・にぶい橙色7.5YR7/4. 内面：にぶい黄褐色10YR7/3.	粗砂粒～細砂粒を含む。赤茶色の粒・黒色粒。	ナデ。	
640	RII	弥生	鉢?	外面：褐灰色10YR5/1. 内面：褐灰色10YR6/1.	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒。	ナデ。	鉄分付着。
641	RII		鉢	浅黄褐色10YR8/3. 器内：灰色N5/ (Y) .	礫・砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	外面：ナデ。内面：ヨコナデ?	
642	RII		鉢	にぶい褐色7.5YR5/3.	微砂粒を含む。	ナデ。	口縁下に穿孔あり。

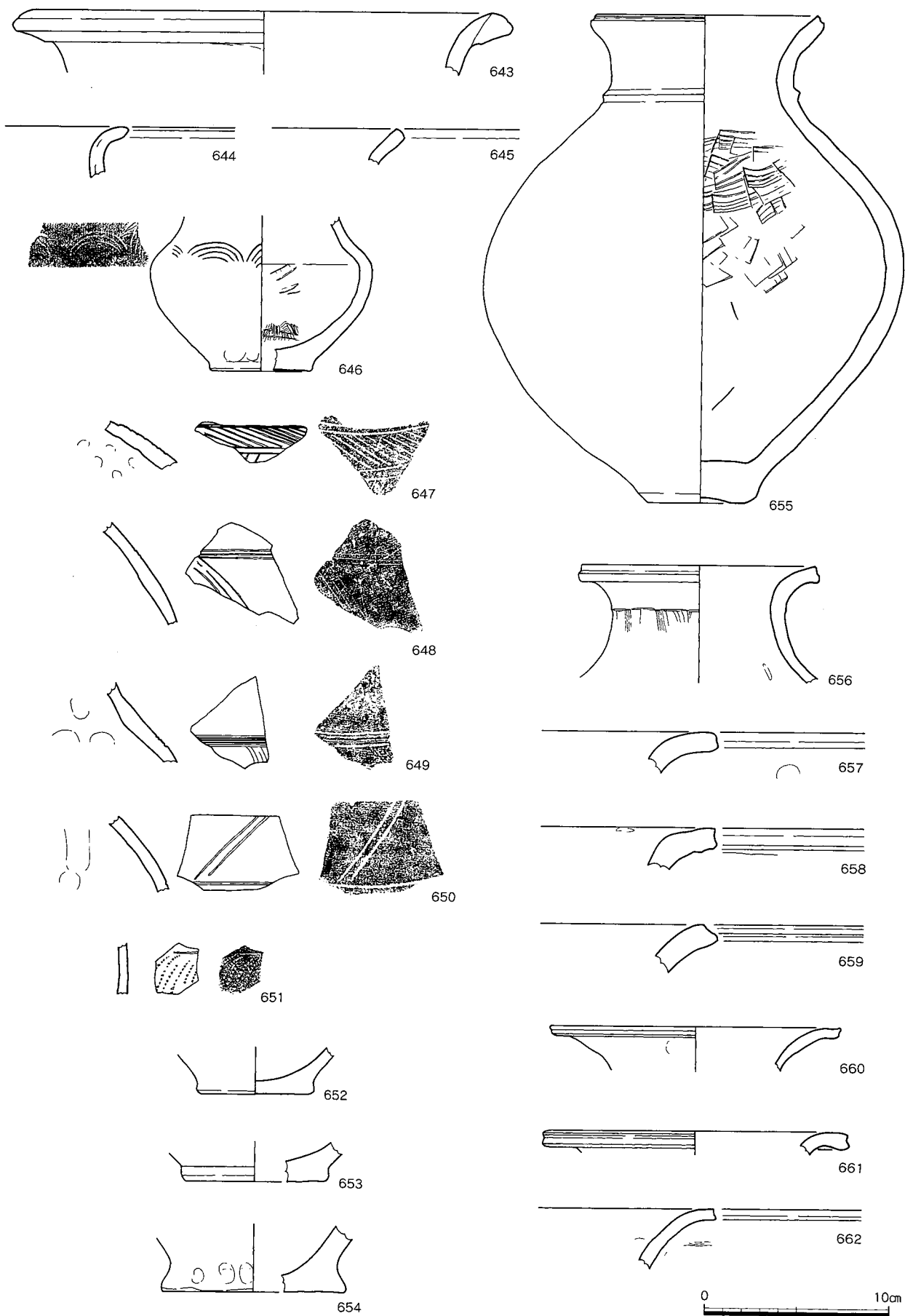


Fig.64 RI1 出土遺物 (21) S=1/3

Tab.37 RI1 出土遺物観察表 (21)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
643	RI1	弥生	壺	にぶい橙色7.5YR7/3.	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。軽石・赤茶色の粒・半透明粒。	ナデ。	
644	RI1	弥生	壺	にぶい橙色7.5YR6/4.	砂粒・粗砂粒を含む。白色粒・黒色粒。	ナデ。	
645	RI1	弥生	壺	外面：褐灰色10YR4/1。口唇部：にぶい黄橙色10YR6/3。内面：灰黄褐色10YR5/2.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
646	RI1	弥生	小壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。内面：暗青灰色5B3/1.	粗砂粒・砂粒をやや多く含む。軽石・赤茶色の粒・透明粒。	外面：ナデ。内面：ナデ。下部一部ミガキ?	底径 (5.6) cm.
647	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色5YR6/3。内面：にぶい橙色7.5YR7/3.	粗砂粒～細砂粒を含む。黒色粒・軽石・透明粒。	ナデ。	
648	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR5/3。内面：褐色7.5YR4/3.	細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
649	RI1	弥生	壺	外面：灰白色7.5YR8/2・暗灰黄色2.5Y5/2。内面：灰白色10YR8/2.	砂粒を含む。赤色粒多・黒色粒・白色粒。	ナデ。	
650	RI1	弥生	壺	にぶい黄橙色10YR7/3.	砂粒を含む。赤色粒・石英。	ナデ。	
651	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR4/3。内面：鉄分付着のため不明。	細砂粒・微砂粒を含む。	ナデ?	
652	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR6/4。内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	礫・粗砂粒を含む。	ナデ。	底径 (6.4) cm.
653	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR7/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/3.	礫・粗砂粒を含む。半透明粒・赤茶色の粒。	ナデ。	底径 (8.1) cm.
654	RI1	弥生	壺	外面：褐色7.5YR4/3。内面：灰黄褐色10YR6/2.	粗砂粒～細砂粒を含む。軽石。	ナデ。	底径 (10.2) cm.
655	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/3。内面：褐灰色10YR5/1.	礫～細砂粒を含む。軽石・赤茶色の粒。	外面：(口縁～頸部付近)ヨコナデ。(胴部～底部)ナデ。内面：(口縁付近)ヨコナデ。(上部)ハケ。(下部)ハケのちナデ。	口径 (12) cm. 底径6cm. 外面胴部：黒斑あり。
656	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・軽石。	口縁付近：ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	口径 (12.6) cm.
657	RI1	弥生	壺	外面：鉄分付着のため不明。内面：にぶい黄褐色10YR12.5/3.	粗砂粒を含む。	ナデ。	
658	RI1	弥生	壺	にぶい橙色7.5YR6/4。器肉：灰色5Y5/1.	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。軽石・白色粒。	ナデ。	
659	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR4/3。内面：にぶい橙色7.5YR6/4.	粗砂粒・細砂粒を含む。黒色粒。	ヨコナデ。	
660	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。内面：灰白色8.25YR/2・一部にぶい橙色5YR6/4.	砂粒～細砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (15.8) cm.
661	RI1	弥生	壺	上面：明褐色7.5YR7/2。下面：にぶい橙色7.5YR6/4.	砂粒を含む。赤茶色の粒・半透明粒・黒色粒。	ナデ。	口径 (16.7) cm.
662	RI1	弥生	壺	外面：浅黄褐色7.5YR8/4。一部にぶい橙色5YR7/4。内面：にぶい橙色5YR7/4・灰色N5/.	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒・軽石。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	

い。口縁部内面上部もわずかに突出する。626の口唇部には窪みが見られ、内面にはハケ原体を打ち込んだ痕跡が残る。627の口縁部は台形状で、口唇部に窪みが見られる。

628は斜め上方に立ち上がりそのまま口縁部に至る。口縁部上面はかなり窪み、口縁部内面は突出している。

629は内湾気味に立ち上がり、直立して口縁部に至る。口唇部は尖り気味で、底部は丸底。ユピオサエの痕跡が外面に多く残っている。630～632はいずれもほぼまっすぐに立ち上がり、口唇部は丸みを有する。633は直立し、口唇部は丸みを帯びる。内面は剥落が著しい。634～

636は口唇部に面を有する。637・638は口縁部が外方にやや突出する。638の外面には横方向のミガキが施されている。

639の胴部は直立し、口縁部付近からわずかに外反する。口唇部はやや尖り気味である。640も639と同様であるが屈曲の度合いが大きく、口唇部は面を有し、わずかに窪む。641は外反しながら口縁部にいたり、口縁部下面はやや肥厚している。口縁部下に1条の沈線が残る。642は口縁部付近から外反しており、屈曲部直上には焼成前の穿孔が見られる。

643～753は壺と考えられる資料である。

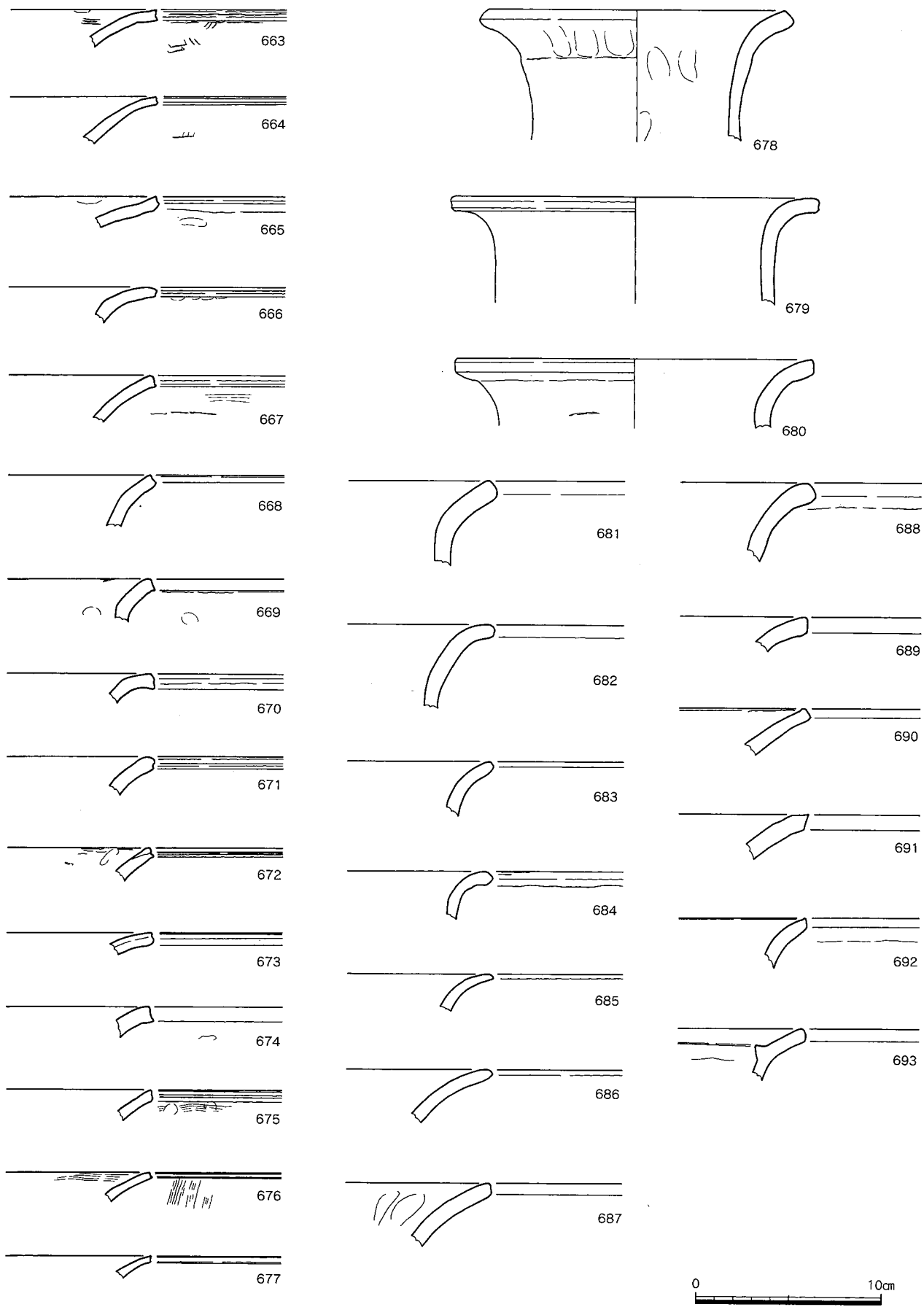


Fig. 65 RI1 出土遺物 (22) S = 1/3

Tab.38 RI1 出土遺物観察表 (22)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
663	RI1	弥生	壺	外面：にぶい赤褐色5YR5/4. 内面：灰黄褐色10YR6/2.	礫・粗砂粒を含む。角閃石・赤茶色の粒・軽石.	外面：ハケのちナデ。(口唇部付近)ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	鉄分付着。
664	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：黒色7.5YR2/1.	礫～細砂粒を含む。透明粒・軽石・白色粒.	ナデ。	
665	RI1	弥生	壺	鉄分付着のため不明.	粗砂粒を含む。	鉄分付着のため不明.	
666	RI1	弥生	壺	外面：鉄分付着のため不明。内面：にぶい黄褐色10YR7/2.	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・黒色粒.	外面：鉄分付着のため不明。内面：ナデ。	
667	RI1	弥生	壺	鉄分付着のため不明.	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。黒色粒.	外面：(ハケのち)ナデ？ 内面：ナデ？	
668	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色5YR7/4. 内面：黄灰色2.5Y6/1・にぶい褐色5YR7/4.	礫・粗砂粒を含む。軽石・透明粒.	ナデ？	磨滅している。
669	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：にぶい黄褐色10YR7/2. 口唇部：にぶい黄褐色10YR7/2+灰色N5/.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ.	砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒・半透明粒.	
670	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：鉄分など付着物のため不明.	粗砂粒をわずかに含む。	ナデ？	
671	RI1	弥生	壺	にぶい褐色7.5YR7/3.	粗砂粒・細砂粒を含む。(5mm大)茶色の粒・透明粒.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ.	
672	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR7/3. 器肉：灰色N4/.	細砂粒・微砂粒を含む。	ヨコナデ。	
673	RI1	弥生	壺	口縁部上面：黒褐色7.5YR3/1. 下面：鉄分付着のため不明.	砂粒を含む。透明粒.	ナデ？	
674	RI1	弥生	壺	口縁部上面：浅黄褐色10YR8/3. 下面：浅黄褐色10YR8/3・灰色N6/.	礫・粗砂粒を含む。軽石・角閃石・赤茶色の粒.	ヨコナデ。	
675	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR7/3.	3mm大赤茶色の粒・細砂粒を含む。	ヨコナデ。	
676	RI1	弥生	壺	外面：褐色7.5YR6/6. 内面：にぶい褐色7.5YR7/3.	粗砂粒～微砂粒を含む。黒色粒.	ハケのちナデ。	
677	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR6/4.	粗砂粒をわずかに含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ.	
678	RI1	弥生	壺	外面：鉄分付着のため不明。内面：にぶい黄褐色10YR7/4.	礫～粗砂粒を含む。透明粒・角閃石・白色粒.	ナデ。	口径 (16.1) cm.
679	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR7/4. 内面：灰白色10YR8/2.	砂粒を含む。透明粒・角閃石.	ナデ。	口径 (20) cm.
680	RI1	弥生	壺	外面：褐色7.5YR7/6. 内面：にぶい黄褐色10YR7/4.	礫～細砂粒を含む。角閃石・透明粒・赤茶色の粒.	ナデ。内外面口縁付近：ヨコナデ。	口径 (19.4) cm.
681	RI1	弥生	壺	褐色7.5YR7/6.	砂粒を多く含む。半透明粒・角閃石・黒色粒.	ナデ。	
682	RI1	弥生	壺	外面：灰褐色5YR5/2. 内面：にぶい褐色5YR7/4.	砂粒・細砂粒を含む。黒色粒・軽石.	ナデ。	
683	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色7.5YR7/4.	砂粒～細砂粒を含む。透明粒・黒色粒・白色粒・赤茶色の粒.	外面：ヨコナデ？ 内面：ナデ。	やや磨滅している。
684	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR7/3. 内面：にぶい黄褐色10YR7/2.	砂粒・粗砂粒を含む。軽石・角閃石・赤茶色の粒.	外面：ヨコナデ。内面：ナデ.	
685	RI1	弥生	壺	外面：黄灰色2.5Y4/1・にぶい黄褐色10YR5/3. 内面：にぶい黄褐色10YR5/3.	粗砂粒を含む。透明粒・軽石・角閃石・	外面口縁付近：ヨコナデ。内外面：ナデ。	
686	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR7/2. 鉄分付着のため詳細不明.	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・軽石・(3mm大～)赤茶色の粒.	ナデ？	磨滅している。
687	RI1	弥生	壺	外面：灰白色10YR8/2. 内面：浅黄褐色7.5YR8/4.	砂粒・粗砂粒を含む。白色粒多・赤茶色の粒.	ヨコナデ。	
688	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR7/4. 内面：浅黄褐色10YR8/4.	礫・粗砂粒を含む。半透明粒・角閃石・白色粒.	ナデ。	
689	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR6/4. 内面：にぶい褐色7.5YR6/4+褐灰色10YR6/1.	礫・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒.	ナデ。	
690	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR7/2.	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒・透明粒・角閃石.	ナデ。	
691	RI1	弥生	壺	にぶい褐色5YR6/4.	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒.	ナデ。	
692	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR5/3. 内面：灰黄褐色10YR4/2.	粗砂粒・細砂粒を含む。軽石・黒色粒.	ナデ。	
693	RI1	弥生	壺	外面：鉄分など付着のため不明。内面：にぶい黄褐色10YR7/2.	礫・粗砂粒を含む。透明粒.	ナデ？	

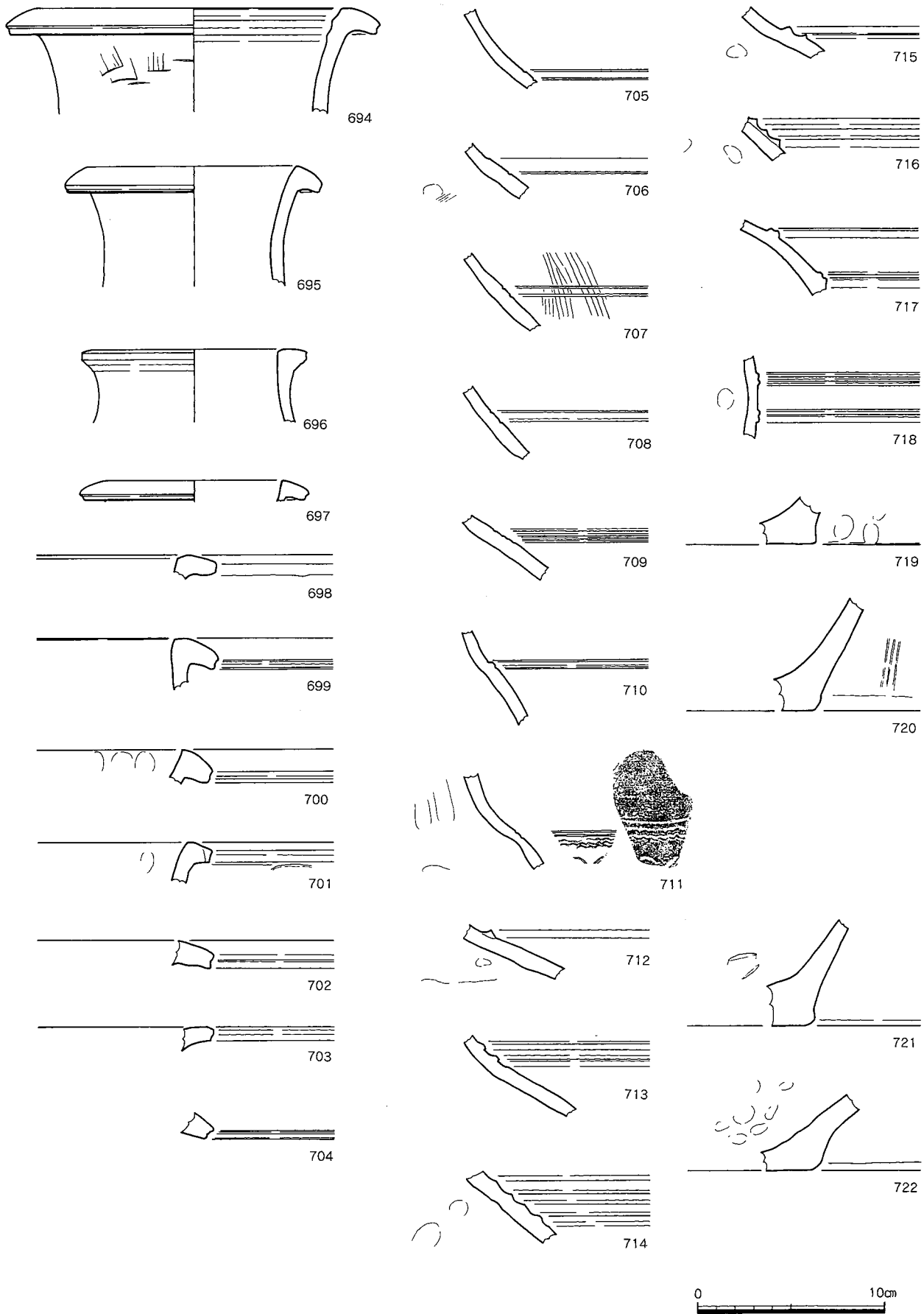
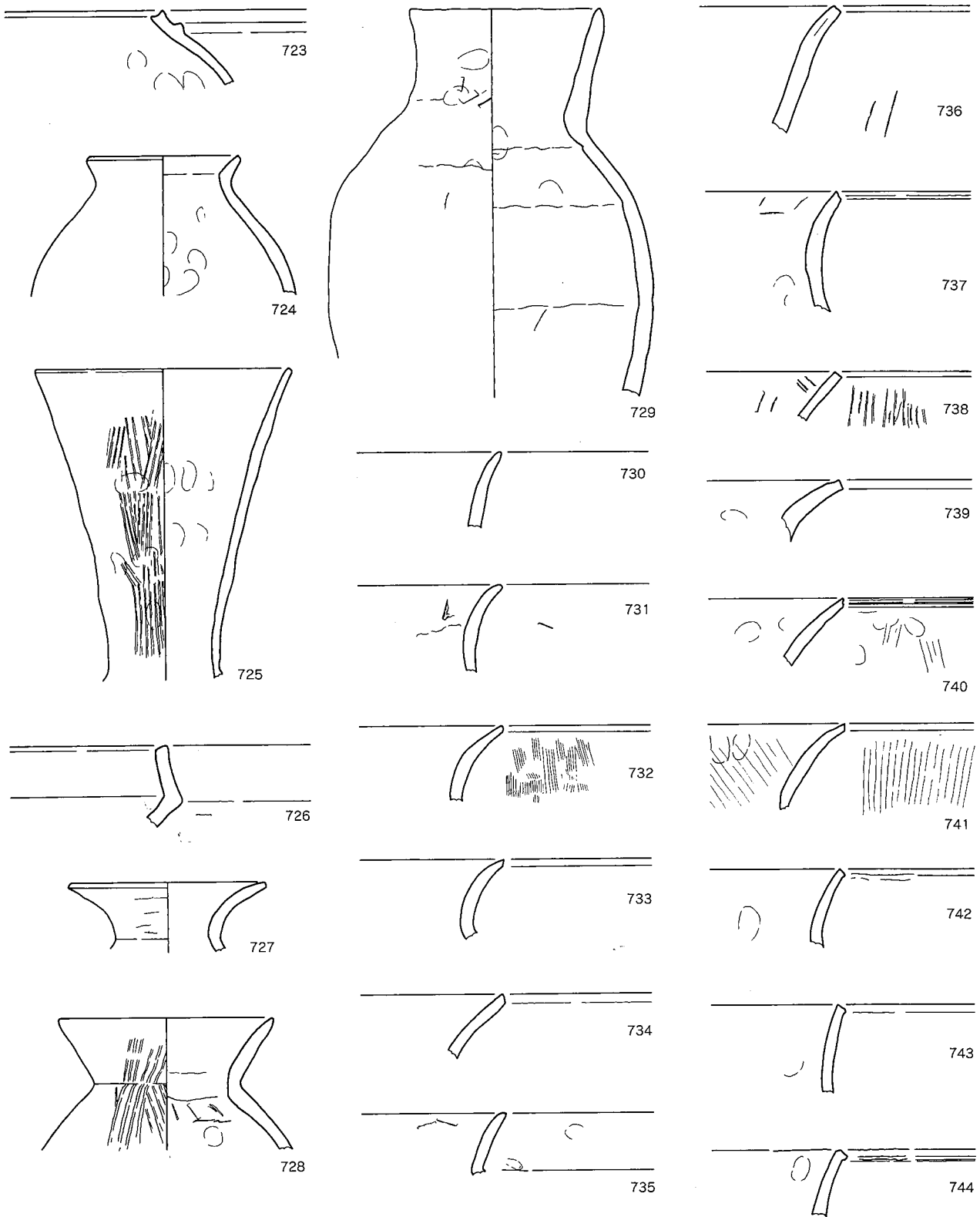


Fig.66 R11 出土遺物 (23) S=1/3

Tab.39 RI1 出土遺物観察表 (23)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	調 整	備考
694	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/3。内面：にぶい褐色7.5YR6/3。	礫～細砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒。	口縁部付近：ヨコナデ。外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	口径 (16) cm.
695	RI1	弥生	壺	外面：橙色7.5YR6/6。内面：にぶい黄褐色10YR7/4。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。角閃石・軽石・透明粒。	ナデ。外面口縁部付近：ヨコナデ。	口径 (11) cm.
696	RI1	弥生	壺	にぶい褐色7.5YR6/3。	粗砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒・角閃石。	口縁部上面・外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (9) cm.
697	RI1	弥生	壺	外面：褐灰色7.5YR5/1。内面：にぶい橙色7.5YR6/4。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	口縁部付近：ヨコナデ。内面：ナデ。	口径 (8.4) cm.
698	RI1	弥生	壺	外面：黄灰色2.5Y4/1・灰黄褐色10YR5/2。内面：鉄分付着のため不明。	砂粒・細砂粒を含む。角閃石・赤茶色の粒。	鉄分付着のため不明。	
699	RI1	弥生	壺	鉄分付着のため不明。	礫・粗砂粒を含む。角閃石・白色粒・赤茶色の粒。	外面口縁部下：ヨコナデ。ほかは鉄分付着のため不明。	
700	RI1	弥生	壺	口縁部上面・内面：にぶい橙色5YR6/3。口縁部下面：褐灰色5YR4/1。	粗砂粒を含む。透明粒・黒色粒。		
701	RI1	弥生	壺	外面：褐灰色7.5YR5/1。内面：灰褐色7.5YR6/2。		外面：ヨコナデ。	
702	RI1	弥生	壺	口縁部上面：にぶい橙色10YR7/3+にぶい黄褐色10YR7/3。内面：にぶい橙色10YR7/3。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒。	上面：ナデ。下面：ヨコナデ。	
703	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR5/3。	細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ。	
704	RI1	弥生	壺	口縁部上面：にぶい橙色7.5YR7/4。下面：浅黄褐色10YR8/3。	粗砂粒・細砂粒を含む。(5mm大)茶色の粒・角閃石・透明粒。	ヨコナデ。	
705	RI1	弥生	壺	外面：灰黄色2.5Y4/1・にぶい黄褐色10YR6/3。内面：灰黄褐色10YR6/2? 鉄分付着のため詳細不明。	砂粒・細砂粒を含む。白色粒・角閃石。	外面：丁寧なナデ。内面：ナデ。	
706	RI1	弥生	壺	外面：褐灰色7.5YR5/1。内面：黒色2.5Y2/1。	礫・粗砂粒を多く含む。石英・白色粒・黒色粒。	外面：丁寧なナデ。内面：ハケのちナデ。	
707	RI1	弥生	壺	鉄分付着のため不明。	粗砂粒を多く含む。石英・角閃石・赤茶色の粒。	外面：ハケのち文様のちナデ。内面：ナデ?	
708	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR5/4。内面：にぶい橙色7.5YR6/4。	粗砂粒～細砂粒を含む。石英・赤色粒・白色粒・角閃石。	外面：ナデ? 内面：ナデ。	
709	RI1	弥生	壺	明褐灰色7.5YR7/2。	砂粒を含む。赤色粒・白色粒・石英・角閃石。		磨減している。
710	RI1	弥生	壺	橙色7.5YR6/6。	砂粒を含む。赤色粒・白色粒。	外面：ナデ? 内面：ナデ。	
711	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR7/2+灰黄褐色10YR5/2。	砂粒を多く含む。赤色粒・石英・角閃石。	ナデ。	
712	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR5/4。内面：黄灰色2.5Y6/1。	礫～細砂粒を多く含む。透明粒・白色粒・黒色粒。	ナデ。	
713	RI1	弥生	壺	外面：灰白色7.5YR8/2。内面：淡橙色5YR8/3。器肉中央：灰色N7/。	礫～細砂粒を多く含む。透明粒・赤色粒。	ナデ?	磨減している。
714	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR4/3。(突部) にぶい橙色2.5YR6/4。内面：鉄分付着のため不明。	礫・砂粒を含む。白色粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
715	RI1	弥生	壺	鉄分付着のため不明。	砂粒・細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ?	
716	RI1	弥生	壺	鉄分付着のため不明。	砂粒・細砂粒を含む。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
717	RI1	弥生	壺	外面：暗灰色N3/。内面：褐灰色10YR6/1。	粗砂粒・細砂粒を含む。白色粒・角閃石。	外面：丁寧なナデ。内面：ナデ。	
718	RI1	弥生	壺	外面：暗灰色N3/・黄灰色2.5Y6/。内面：黄灰色2.5Y6/1。	礫・砂粒を含む。白色粒・金色の雲母。	ナデ。	
719	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/4。外底面：にぶい橙色5YR6/4。内面：褐灰色10YR6/1。	粗砂粒～細砂粒を含む。赤茶色の粒・軽石・黒色粒。	ナデ。	
720	RI1	弥生	壺	外面：橙色2.5YR6/6。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。	礫・砂粒・細砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒・黒色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
721	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色5YR6/4。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。	砂粒・粗砂粒を含む。透明粒・白色粒。	ナデ。	
722	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色5YR7/4。内面：鉄分付着のため不明。	礫・粗砂粒を含む。白色粒。	鉄分付着のため不明。	



0 10cm

Fig.67 R11 出土遺物 (24) S = 1/3

Tab.40 RI1 出土遺物観察表 (24)

No	層	種別	器種	種別	胎土	調整	備考
723	RI1	弥生	無頸壺	外面：浅黄橙色7.5YR8/4。内面：にぶい褐色7.5YR5/4。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。	ナデ?	
724	RI1	弥生	短頸壺	外面：にぶい褐色7.5YR5/4。内面：橙色7.5YR6/6。	細砂粒をわずかに含む。透明粒・角閃石。	ナデ。内外面口縁部付近：ヨコナデ。	口径(8) cm.
725	RI1	弥生	長頸壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/3。内面：にぶい橙色5YR7/4。器肉：灰色N3/。	粗砂粒・細砂粒を含む。角閃石。	外面：ハケ。(口縁付近)ヨコナデ。内面：ヨコナデ。	口径13.1cm.
726	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄色2.5Y5/3。内面：黄灰色2.5Y5/1・にぶい褐色7.5YR6/4。	粗砂粒を多く含む。石英・赤色粒・角閃石。	ナデ。外面下部：ハケのちナデ。	
727	RI1	弥生	壺	にぶい赤褐色5YR5/4と明赤褐色5YR5/6の中間。	粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒。	外面：ヨコナデ。内面：ナデ。鉄分付着。	
728	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色5YR7/4。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。(頸部下)黄灰色2.5Y5/1。器肉：黄色がかかった灰色N3/ (Y)。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒・透明粒・軽石。	内外面頸部下：ハケのちナデ。内面口縁部下：ナデ。	口径(11) cm.
729	RI1	弥生か古墳	壺	橙色7.5YR7/6。	礫～細砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。外面：頸部付近ヨコナデ。	口径(9.8) cm.内面接合痕明瞭。
730	RI1	弥生	壺	にぶい褐色7.5YR7/4。	礫を含む。	ナデ。	
731	RI1	弥生	壺	にぶい褐色7.5YR5/3。	礫・粗砂粒を含む。透明粒・角閃石。	ナデ。	
732	RI1	弥生	壺	にぶい黄褐色10YR7/3。器肉：灰赤色10YR6/2。	粗砂粒を含む。黒色粒。	外面：ハケのちナデ。内面：ナデ。	
733	RI1	弥生	壺	外面：黄灰色2.5Y5/1・にぶい褐色7.5YR7/3。内面：にぶい褐色7.5YR6/3。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。透明粒・白色粒。	ナデ。	
734	RI1	弥生	壺	灰褐色7.5YR5/2。	礫・粗砂粒・細砂粒を含む。	ヨコナデ。	外面に鉄分付着。
735	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色5YR6/4。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。器肉：暗灰色N3/。	粗砂粒・細砂粒を含む。	ナデ。	
736	RI1	弥生	壺	外面：灰黄褐色10YR5/2。	粗砂粒・微砂粒を含む。透明粒。	外面上部：ヨコナデ。外面下部・内面：ナデ。	
737	RI1	弥生	壺	にぶい褐色7.5YR5/3。鉄分など付着のため詳細不明。	砂粒・細砂粒を含む。白色粒。	内外面口縁付近：ヨコナデ。(下部)ナデ。	
738	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR6/4。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。	粗砂粒・微砂粒を含む。	ハケのちナデ。	
739	RI1	弥生	壺	灰白色10YR8/2。	粗砂粒・細砂粒を含む。黒色粒多。	ナデ。	
740	RI1	弥生	壺	鉄分付着のため不明。	礫・細砂粒を含む。	鉄分付着のため不明。	
741	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色5YR7/4。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。器肉：暗灰色N3/。	粗砂粒を含む。透明粒・軽石・赤茶色の粒。	内外面：(口縁付近)ヨコナデ。(下部)ナデ。	
742	RI1	弥生	壺	外面：鉄分など付着物のため不明。内面：(上部)にぶい黄褐色10YR7/2。(下部)灰色N5/。	砂粒～細砂粒を含む。透明粒・黒色粒。	ナデ?	
743	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色5YR6/3。内面：鉄分付着のため不明。	細砂粒を含む。	ナデ。	
744	RI1	弥生	壺	鉄分など付着物のため不明。	粗砂粒・細砂粒を含む。	ナデ?	

643～654は弥生時代前期の壺と考えられる。643～645は口縁部付近の資料である。643は口唇部がわずかに窪んでおり、口縁部下面がやや肥厚する。644は口縁部付近で大きく外反する。645は斜め上方に立ち上がる。

646は胴部から底部にかけてが残る。胴部上方の外面には篋描きで4条からなる重弧文が施されている。底部付近の内面にはミガキの痕跡が残る。

647～651は胴部に施された文様である。647は篋描き

文で、横方向の沈線の後、斜め方向の沈線が施されたようである。648は篋描きによる細い沈線が横方向と斜め方向に施される。649は櫛描きによる横方向の沈線が施される。650には横方向と斜め方向の沈線が施されている。651は篋描きによる横方向の細沈線と斜め方向に施された貝殻による刺突文が見られる。

652～654は底部である。653・654は端部が外方に突出している。

655～751は弥生時代中期以降と考えられる壺である。

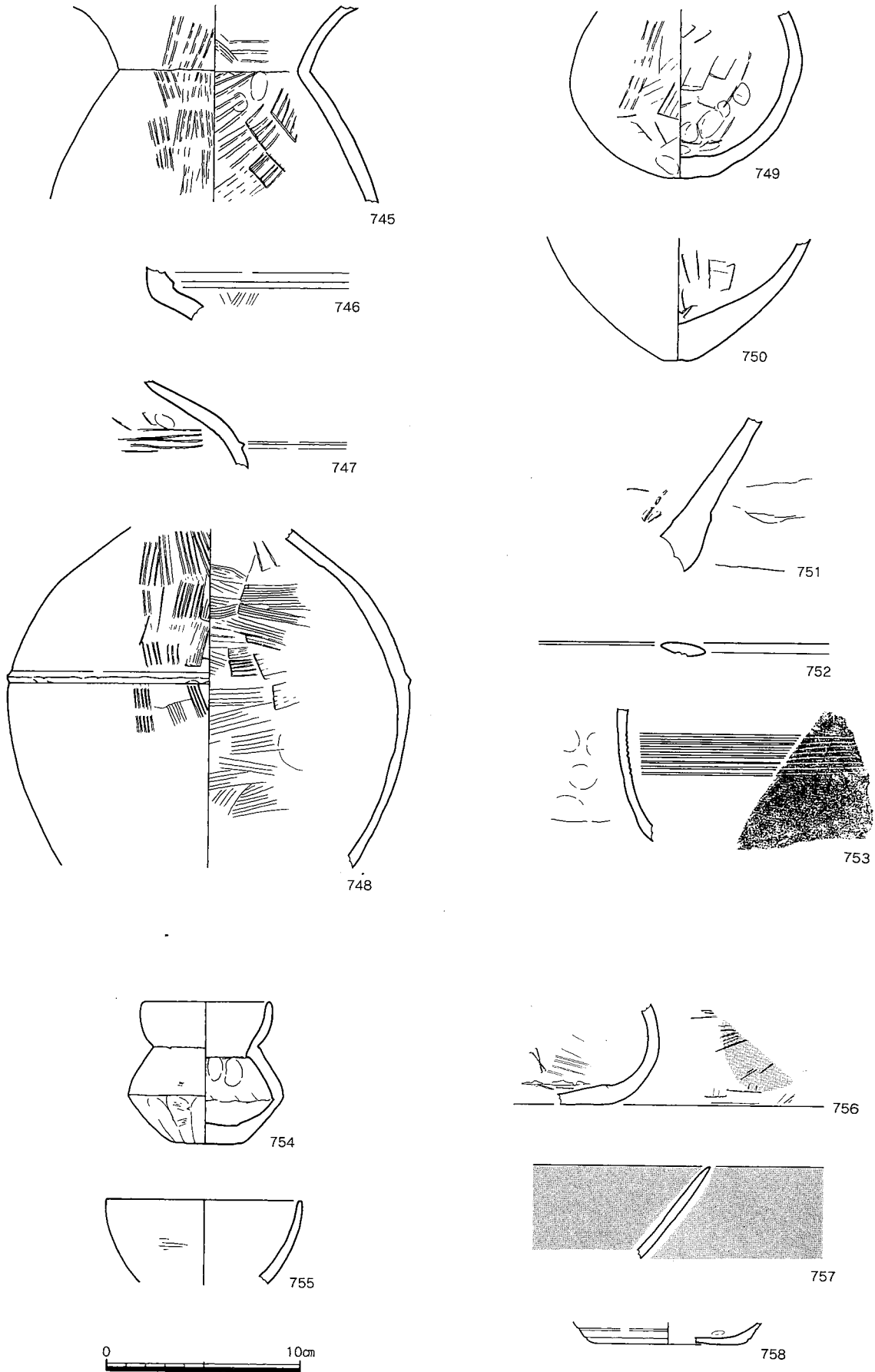


Fig.68 R11 出土遺物 (25) S=1/3

Tab.41 RI1 出土遺物観察表 (25)

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整	備考
745	RI1	弥生	壺	外面：にぶい褐色7.5YR5/4. 内面：灰黄色2.5Y6/2. 器肉：灰色N3/.	粗砂粒を含む. 透明粒・軽石.	ハケのちナデ.	
746	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/3. 内面：にぶい黄橙色10YR7/3. 器肉：灰色N4/.	礫～砂粒を含む. 白色粒・軽石・透明粒.	外面：ハケのちナデ. (突帯部) ヨコナデ. 内面：ナデ?	磨滅している.
747	RI1	弥生	壺	外面：にぶい橙色7.5YR7/3. 内面：明褐色7.5YR7/2.	礫・砂粒を含む. 赤色粒・角閃石.	外面：ナデ. 内面：ハケのちナデ.	
748	RI1	弥生	壺	外面：にぶい黄褐色10YR5/4. 内面：灰褐色7.5YR6/2. 器肉：褐色がかった灰色N3/(YR).	礫～細砂粒を含む. 透明粒・軽石・角閃石.	外面：ハケのちナデ. (突帯付近) ヨコナデ. 内面：ハケ. (下部) ハケのちナデ.	
749	RI1	弥生か古墳	壺?	外面：にぶい黄褐色10YR7/3. 内面：灰褐色7.5YR6/2.	礫を含む. 黒色粒.	ハケのちナデ.	
750	RI1	弥生	壺	外面：灰白色10YR7/1. 鉄分付着のため詳細不明. 内面：鉄分など付着物のため不明.	砂粒～微砂粒を含む. 黒色粒・白色粒.	外面：なで? 内面：ハケのちナデ.	外面底部付近に黒斑あり.
751	RI1	弥生	壺	外面：赤色10YR5/6. 内面：暗灰黄2.5Y4/1.	砂粒を含む. 角閃石・白色粒.	ナデ.	
752	RI1	弥生	壺	にぶい橙色7.5YR7/4.	砂粒・細砂粒を含む. 透明粒・黒色粒.	ヨコナデ.	
753	RI1	弥生	壺	外面：橙色7.5YR6/6. 内面：にぶい黄橙色10YR7/3.	粗砂粒～細砂粒を含む. 石英・白色粒・黒色粒・赤色粒.	外面：磨滅のため不明. 内面：ナデ?	
754	RI1	古墳	埴	灰白色10YR8/2. 器肉：灰色N4/.	砂粒～微砂粒を含む. 透明粒・角閃石・軽石・赤茶色の粒.	外面：ナデ. (胴部～底部) ハケのちナデ. 内面：(口縁付近上部) ヨコナデ. (口縁付近下部) ナデ. 外底面：ナデ.	口径 (6.6) cm. 底径4cm.
755	RI1	鉢?		外面：にぶい橙色7.5YR7/4と橙色7.5YR7/6の中間. 内面：黄灰色2.5Y6/1・浅黄橙色10YR8/4.	微砂粒を含む. 赤色粒・軽石・黒色粒.	外面：ナデ. 口縁付近：ヨコナデ. 内面：ナデ?	口径 (10.2) cm. 口唇部付近に赤色顔料付着.
756	RI1	古墳	埴	外面：灰黄色2.5Y7/2. (赤色顔料) にぶい褐色7.5YR6/3. 内面：にぶい黄橙色10YR7/3. (黒斑) 黄褐色に近い灰色N4/(YR).	細砂粒・微砂粒を含む.	内外面：ハケのちナデ. 外底面：ナデ.	
757	RI1	古墳	埴か高杯	内外面：(赤色顔料) 橙色2.5YR6/6・明赤褐色2.5YR5/6. 器肉：灰白色5Y8/1.	微砂粒を含む.	外面：ナデ. 内面：ミガキ?	
758	RI1		杯?	外面：鉄分付着のため不明. 内面：灰白色5Y7/1.	砂粒・細砂粒を含む. 石英・白色粒・角閃石.	ナデ.	

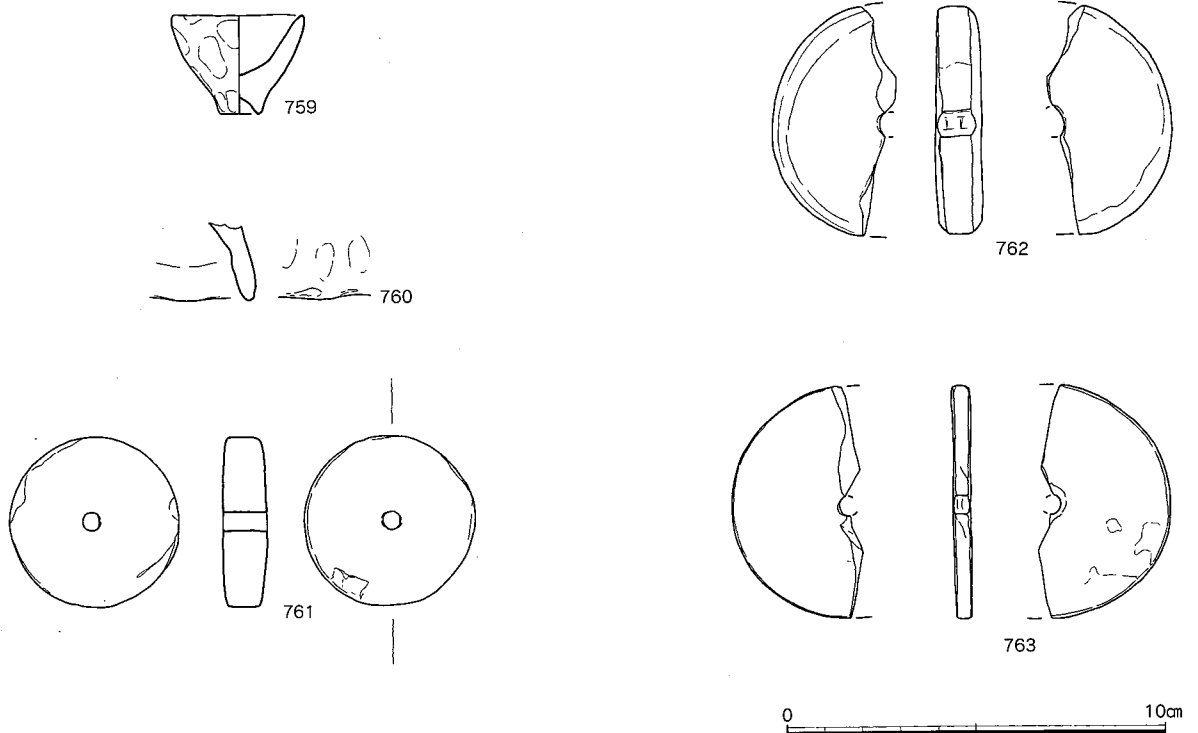


Fig.69 RI1 出土遺物 (26) S=1/3

Tab.42 RI1 出土遺物観察表 (26)

No	層	種別	器種	色 調	胎 土	備考	最大長	最大幅	最大厚	重 量
759	RII	弥生か古墳	手づくね甕	鉄分付着のため不明.		ナデ				
760	RII		手づくね甕?	外面: にぶい橙色5YR6/4. 鉄分付着のため不明.	砂粒・細砂粒を含む. 赤色粒・石英・白色粒.	ナデ?				
761	RII	土製品	紡錘車	オリーブ黒色5Y3/1. 一部にぶい黄橙色10YR7/3.	礫若干・砂粒を含む. 透明粒・角閃石.		4.5cm		1.2cm	32.70 g
762	RII	土製品	紡錘車	にぶい橙色7.5YR7/3. 黒色7.5Y2/1.	砂粒を含む. 軽石・赤茶色の粒.		(6.2) cm	(3.11) cm	(1.2) cm	(28.06) g
763	RII	土製品	紡錘車	にぶい黄橙色10YR6/4~橙色7.5YR6/6.			(6.2) cm	(3.28) cm	(0.5) cm	(13.74) g

655は完形に復元できる資料である。口唇部は窪んでおり、頸部と胴部との境界には断面三角形の突帯が1条巡らされる。胴部のほぼ中央が胴部最大径をとる。底部は上げ底になっている。胴部内面にはハケの原体を止めた跡がよく残っている。656は口縁部から胴部にかけてである。口唇部は窪んでいて、口縁部下面はわずかに突出する。頸部が胴部よりもわずかに肥厚し、その境目は段になっている。657~677は口縁部付近の資料。いずれも口唇部に窪みが見られる。667・669・670・674は口縁部下面がわずかに突出する。668は655と同一個体の可能性がある。

678~688は口唇部が丸みを有するもの。678は口縁部から頸部にかけて残っている。口縁部直下の外面はユビオサエによってわずかに窪んでいる。689~692は口唇部が面を有するもの。

693は口唇部が丸みを帯び、口縁部下の内面に断面三角形の突帯が取り付けられている。

694~704は口縁部が台形を呈するもので、多くは同様の口縁部形態を呈する甕のように、口唇部に窪みが見られる。694は口縁部直下の内面に、2条の突帯状の突出を有する。700は口縁部がさらに立ち上がり、甕になる可能性も考えられる。

705~718は胴部片である。705には2条の沈線が残っている。706は見かけは2条の沈線であるが、上側は段になっている。707はハケの後に、2条の沈線が施されている。708は2条の沈線が、709には4条の沈線が施されている。710は見かけは2条の沈線であるが、上側は段になっている。711には貝殻によって付けられたと考えられる平行の沈線と波状文に似る文様、その下部には篋描きによると考えられる波状文が施される。712には断面三角形の突帯が1条巡らされる。713は先端が丸みを帯びる突帯が2条残っている。714には断面三角形を呈する突帯が4条残る。715には先端がシャープな突帯が2条残る。716には断面三角形の突帯が3条見られる。717・718には断面が「M」字状を呈する突帯が2条残っている。

719~722は壺の底部およびその付近である。

723は無頸壺で内湾しながら口縁部に至る。口唇部は窪んでおり、口縁部直下に1条の突帯が取り付けられている。724は短頸壺で口縁部直下で外反しながら立ち上がる。725は長頸壺の口縁部から頸部にかけてで、外反しながら立ち上がり、外面にはハケメが残る。748と同一個体の可能性がある。726は二重口縁の壺の口縁部の可能性が考えられるが、小片のため断定できない。

727~745は頸部が外反しながら立ち上がるタイプである。727はかなり大きく外反しながら立ち上がり、口縁部に至る。728~731の口唇部は丸みを帯びる。729の頸部はかなり直に立ち上がる。内面には接合痕が残っている。732~744は口唇部が面を有する。737・740の口唇部には窪みが見られる。ハケメが見られるものについては基本的に外面には縦方向のハケメが、内面には斜め方向のハケメが残る。742~744の口縁部下面はわずかに突出している。745は口縁部を欠損しているが、大きく外へ開く口縁部で、なで肩の形態を呈する。

746は頸部から胴部にかけての破片で、頸部と胴部の境界に1条の低い突帯が巡らされている。

747~748は胴部である。748は胴部最大径部付近に断面三角形の低い突帯が1条巡らされる。725と同一個体の可能性が高い。外面は縦方向のハケメが、内面には横方向のハケメがよく残っている。

749~751は胴部から底部にかけてである。749は丸底で、内外面ともユビオサエによると思われる凹凸が残る。750はわずかに平坦面が認められるが、ほとんど丸底に近い。751は下方に向かうにつれ、かなり厚みを増している。

752は壺の口縁部になると考えられる。口唇部はやや尖り気味、口縁部内面はひじょうに突出する。口縁部の厚みはかなり薄く、ヨコナデの痕跡が明瞭に残る。やや白っぽい色調を呈する。須玖式系の可能性が考えられる。

753は壺の頸部と考えられる。篋描きによる8条の沈線が施され、やや白っぽい色調を呈する。西瀬戸内の前期の壺に類似する。

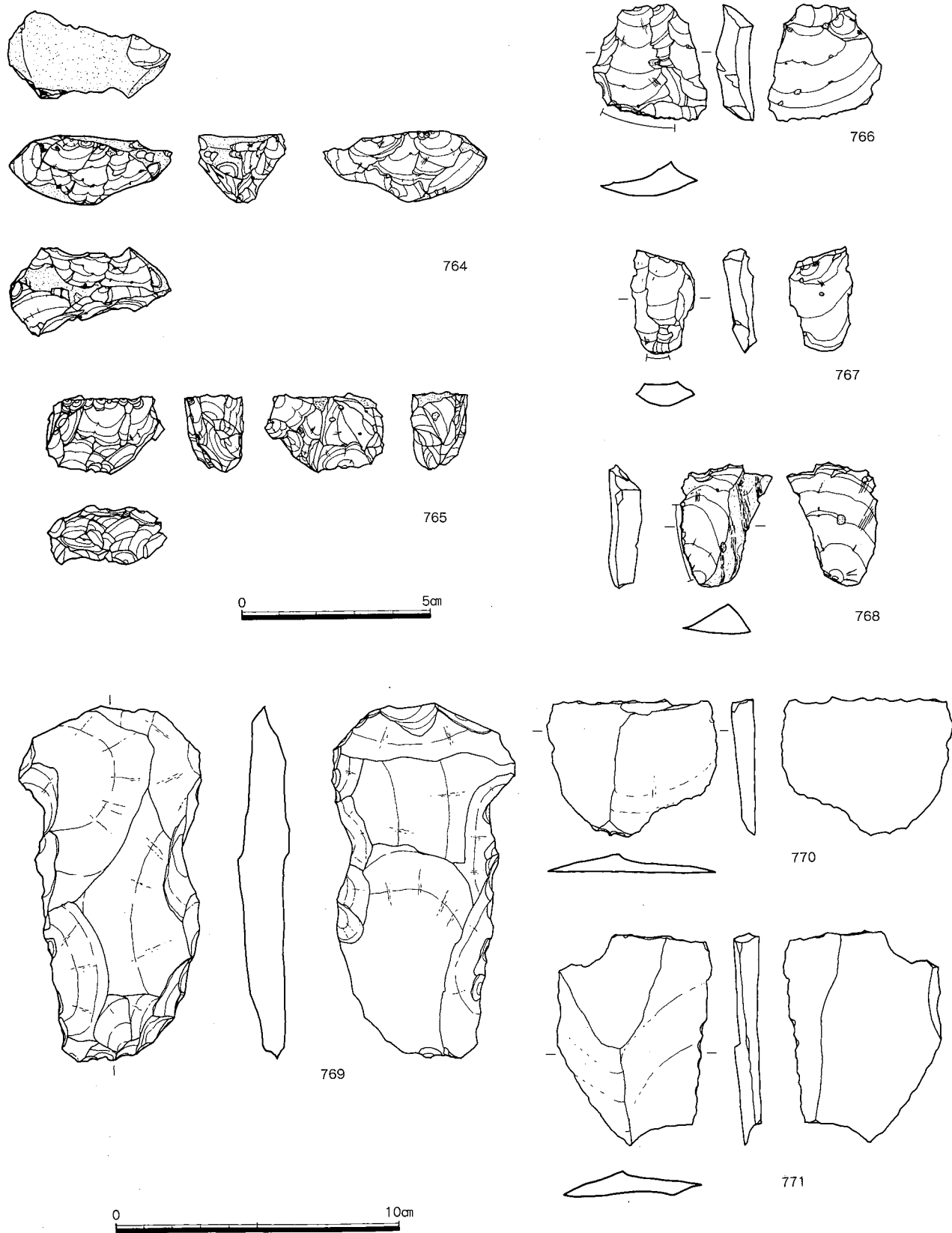


Fig.70 R11 出土遺物 (27) S=1/3

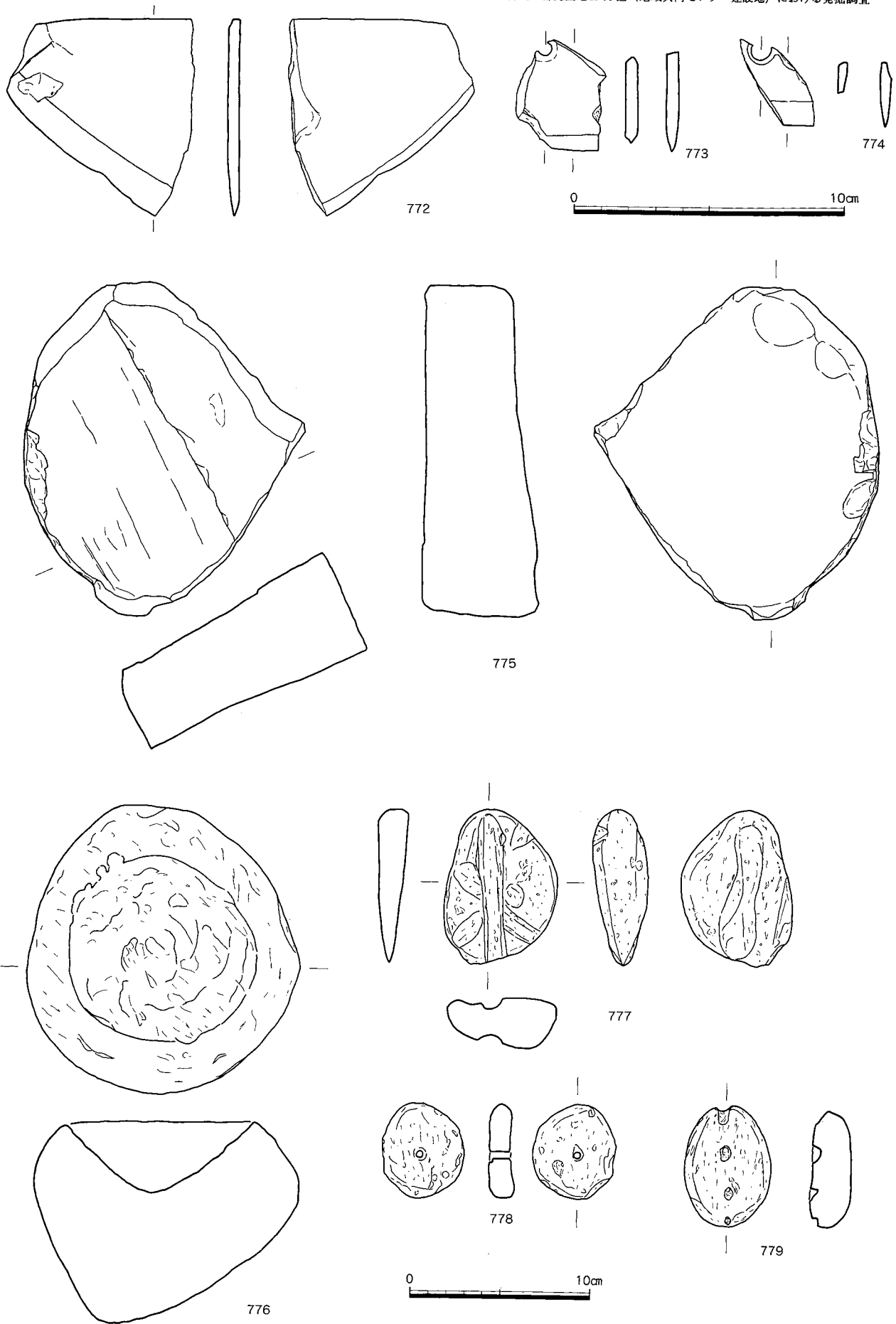


Fig.71 RI1 出土遺物 (28) S=1/3

754は平底の埴で、口縁部は内湾気味に立ち上がり、口唇部は丸みを帯びる。胴部最大径部に稜線が見られる。755はやや内湾気味に立ち上がり、口唇部は丸みを帯びる。埴の口縁部と考えたが鉢の可能性も残る。756は埴の胴部から底部にかけてである。平底を呈し、中央部付近はやや薄くなっている。外面の一部に赤色顔料がわずかに残存している。

757は高杯の口縁部から杯部にかけてと考えたが、埴の口縁部である可能性も残る。斜め上方にほぼまっす

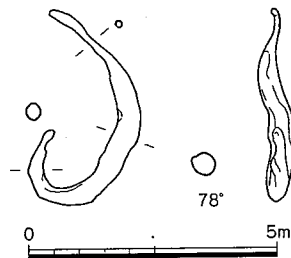


Fig. 72 RI1 出土遺物 (29) S=2/3

ぐに立ち上がり、口唇部はやや尖り気味である。内外面とも赤色顔料が塗布されている。

758は平底で、斜め上方に立ち上がる。胴部には2条の沈線状の窪みが見られる。底部はかなり薄手である。形態的には杯に類似する。

759は甕形の手づくね土器で、外面にはユビオサエの痕跡が残る。760は手づくね土器の甕の脚台部と考えられる。

761は完形の紡錘車で、直径4.5cm、厚さ1.2cm、穴の直径は5mm弱である。762は直径約6.2cm、厚さ1.2cmを測る。穴の直径は推定で7mm程度である。763は直径約6.2cm、厚さは5mm、穴の直径は5mm程度である。761・762に比べかなり薄い。

764・765は石核で、石材は黒曜石である。764は横長の三角形を呈し、上面に自然面が残る。ほとんどが上面からの剥離で、縦方向に行われている。765横長の略四角形を呈し、上面に自然面が残る。上下両方向から剥離が行われている。

766~768は剥片類で、石材は黒曜石である。766・767

Tab.43 RI1 出土遺物観察表 (27)

No	層	種別	器種	材質	最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
764	RI1	石器	石核	黒曜石	1.78cm	4.3cm	2.4cm	14.94 g	
765	RI1	石器	石核	黒曜石	2.07cm	3.15cm	1.58cm	9.66 g	
766	RI1	石器	薄片	黒曜石	3.05cm	2.85cm	0.9cm	7.29 g	
767	RI1	石器	薄片	黒曜石	2.64cm	17cm	0.7cm	3.22 g	
768	RI1	石器	薄片	黒曜石	3.3cm	2.23cm	0.86cm	5.45 g	
769	RI1	石器	打製石斧	砂質センマイ岩	12.6cm	6.5cm	1.75cm	160.5 g	
770	RI1	石器	フレーク	安山岩かヒン岩	4.8cm	6.04cm	0.8cm	18.31 g	
771	RI1	石器	フレーク	安山岩かヒン岩	7.48cm	5cm	0.85cm	29.29 g	
772	RI1	石器	石庖丁	粘板岩	(7.3) cm	(6.86) cm	(0.45) cm	(32.51) g	
773	RI1	石器	石庖丁	黒色頁岩	(2.7) cm	(1.86) cm	(0.4) cm	(9.09) g	両刃.
774	RI1	石器	石庖丁	黒色頁岩	(4.03) cm	(3.17) cm	(0.5) cm	(2.02) g	両刃.
775	RI1	石器	石皿?	安山岩かヒン岩	17.7cm	15.7cm	6cm	3.0kg	
776	RI1	軽石加工品		軽石	16.1cm	15.15cm	11.4cm	10.80 g	
778	RI1	軽石加工品		軽石	5.32cm	4.6cm	1.45cm	10.80 g	
779	RI1	軽石加工品		軽石	6.75cm	4.9cm	1.2cm	19.32 g	
780	RI1	鉄器	釣り針?	鉄	3.9cm	0.6cm	0.57cm	3.02 g	

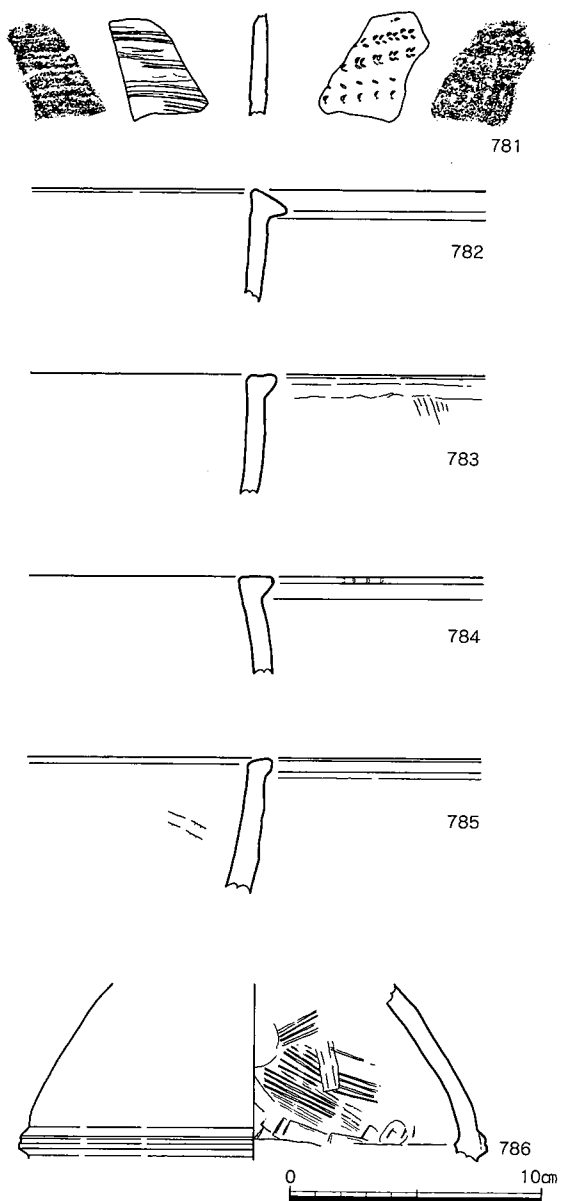


Fig.73 RI2 出土遺物 S=1/3

は下面の表側に細かい剥離が見られ、二次加工による刃部が作られている。768は自然面が一部残っているが、一方の側面の表側に二次加工による刃部が作られている。

769は扁平打製石斧である。中央よりやや上側にくびれが見られ、刃部は尖っている。石材は砂質千枚岩で、この付近には存在しない石材である。

770・771は剥片類である。770は剥離面が片面が複数面、もう一方が1面のもの。771は両面とも複数の剥離面が見られる。

772～774は磨製の石庖丁である。772は大型の石庖丁で、刃は両側から付けられているが、非対象である。磨製ではあるがそれほど丁寧に磨かれておらず、表面には細かい凹凸が残る。厚さは4.5mmと薄手で、残存部に穿孔は見られない。石材は粘板岩で、付近にはあまり見られないものである。形態的には古い段階のものと考えられる。773・774は残存部の刃部が直線的であったため、直線刃に還元しているが、残存部が少ないため、断定はできない。773の刃は両方から付けられており、穿孔の直径は約5mm、石材は黒色の頁岩である。774の刃も両方から付けられており、穿孔の直径は約7mm、石材は黒色頁岩である。

775は石皿と考えられる。平面形で丸みを帯びた部分は意図的に整形している。安山岩と考えられるがヒン岩の可能性も残る。

776～779は軽石加工品もしくはその可能性が考えられるものである。776の平面は円形・断面は略三角錐形を呈し、上面には直径約10.5cm、深さ約4cmの円錐形状の穴がけられている。777には両面に太い凹線が施されている。太い凹線が施されたものは、平成4年度に行われた郡元団地

Tab.44 RI2出土遺物観察表

No	層	種別	器種	色調	胎土	調整・文様	備考
781	RI2	縄文		外面：にぶい黄褐色10YR5/4。内面：にぶい黄褐色10YR5/3。	細砂粒を含む。黒色粒。	外面：貝殻刺突連点文。内面：押し引き条痕。	やや磨滅している。
782	RI2	弥生	甕	内面：にぶい褐色7.5YR5/4。突帯部：黄灰色2.5Y4/1。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒。	ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
783	RI2	弥生	甕	外面：灰黄褐色10YR6/2。内面：にぶい黄褐色10YR7/3。	粗砂粒・砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒。	ハケのちナデ。	
784	RI2	弥生	甕	外面：浅黄褐色7.5YR4/4。内面：明褐色7.5YR7/1。	砂粒を含む。透明粒・角閃石・赤茶色の粒。	ナデ？	
785	RI2	弥生	甕か鉢	外面：黒褐色10YR3/1。内面：にぶい黄褐色10YR6/3。	粗砂粒・砂粒を含む。白い粒。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。口縁部付近：ヨコナデ。	
786	RI2	弥生	壺	外面：褐色7.5YR4/1・鈍い橙色5YR6/3。内面：黄灰色2.5YR5/1。	砂粒を含む。金色の雲母・軽石・赤茶色の粒。	外面：ナデ？ 突帯部付近：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	突帯部径(18.8)cm。

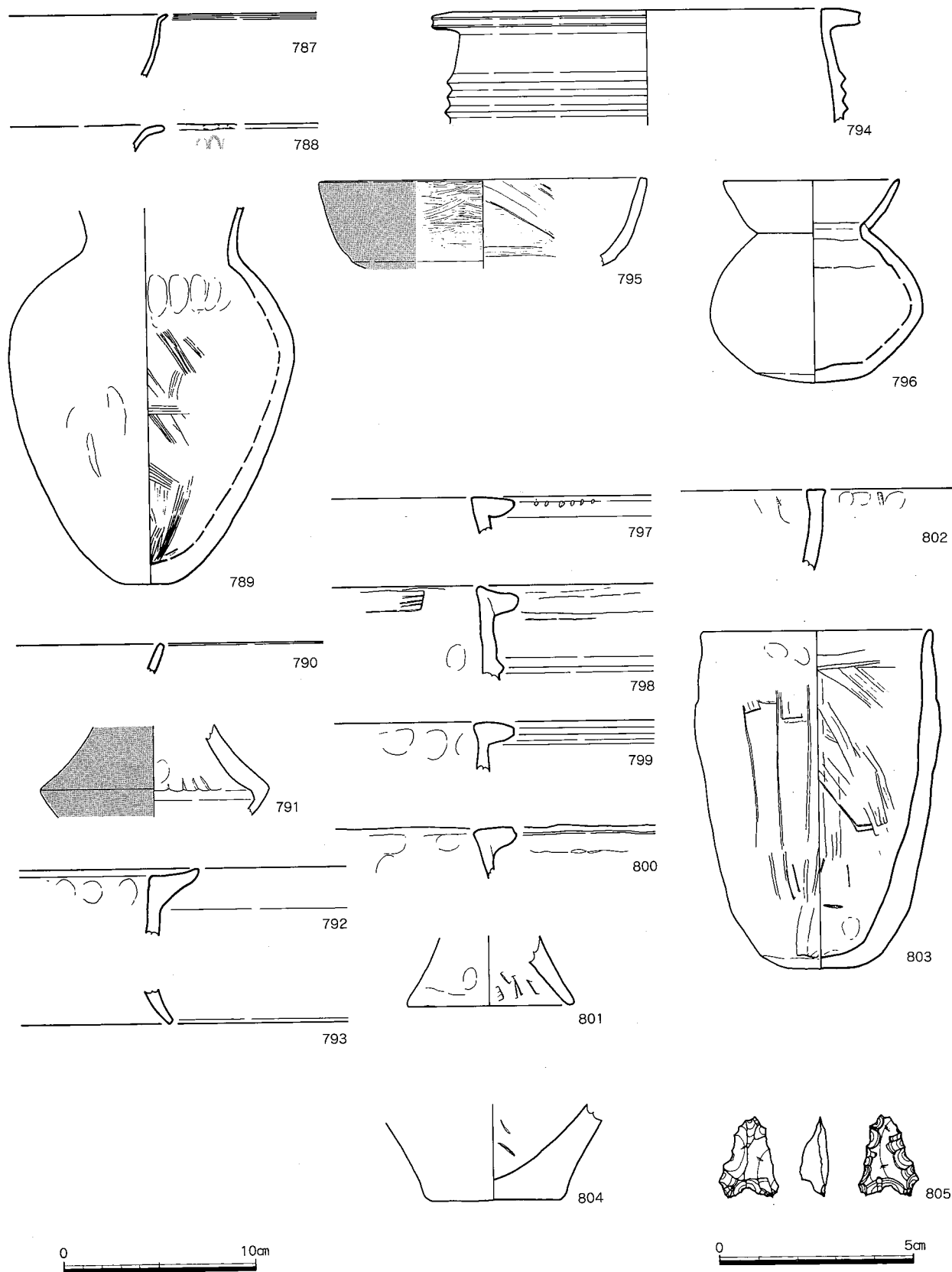


Fig.74 3~7層, カクラン出土遺物 805: S=2/3 その他: S=1/3

Tab.45 3~7層, カクラン出土遺物観察表

No	層	種別	器種	釉調・色調	胎土	調整	備考
787	3	白磁	椀	灰白色2.5YR7/1透明釉。細かい貫入あり。	磁胎：灰白色。		
788	3	青磁	皿	オリーブ灰2.5GY6/1半透明釉。	灰白色。		
789	4	弥生か古墳	壺	灰白色10YR8/2。	粗砂粒から細砂粒を含む。軽石・角閃石・透明粒。	外面：ナデ。頸部付近ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	胴部下半分~底部にかけて黒斑あり。
790	5	古墳?	埴?	橙色7.5YR7/6。	砂粒を少し含む。	ナデ。	赤色顔料付着。
791	5	古墳	埴	外面：にぶい橙色7.5YR7/4・赤色10R5/6 (赤色顔料)。内面：にぶい黄褐色10YR7/2。	微砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒・白色粒。	外面：ナデ?。内面：ナデ。	屈曲部径：(12) cm。
792	5	弥生	甕	外面：にぶい黄褐色10YR7/2。内面：橙色5YR7/6。	粗砂粒・微砂粒を含む。軽石・透明粒。金色の雲母を多く含む。	ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
793	5	古墳	甕	にぶい橙色7.5YR7/4。	粗砂粒・細砂粒を含む。赤茶色の粒・黒色粒。	ヨコナデ。	
794	6	弥生	甕	外面：にぶい褐色7.5YR5/4~褐色7.5YR4/4。内面~器肉：にぶい褐色7.5YR6/4。	砂粒を含む。軽石・透明粒・赤茶色の粒。	口縁部上面~外面突帯部：ヨコナデ。内面：ナデ。	
795	6	古墳	高杯	外面：赤褐色2.5YR4/8 (赤色顔料)。内面：浅黄褐色10YR8/3。	微砂粒を含む。黒色粒。	外面：ヘラミガキ。内面：ヘラミガキの痕跡。	
796	6	古墳	埴	浅黄褐色10YR8/3・橙色5YR7/8。		外面：ナデ。口縁部：ヨコナデ。	口縁内面下と底部に黒斑あり。
797	3~7	弥生	甕	褐灰色。	礫 (白い粒)・細砂粒を含む。黒色粒・透明粒少し。	ナデ	
798	3~7	弥生	甕	内外面：にぶい黄褐色10YR7/3。器肉：暗灰色。	粗砂粒・砂粒・細砂粒を含む。5mm大軽石?・茶色の粒・黒色粒。	外面口縁部付近：ヨコナデ。内面：ハケのちナデ。	口縁部上面~内面：黒斑あり。
799	3~7	弥生	甕	橙色5YR6/6。	砂粒・細砂粒を多く含む。2mm大軽石・透明粒・黒色粒赤茶色の粒。	ナデ。	
800	3~7		甕	外面：にぶい黄褐色10YR5/3。内面：にぶい橙色7.5YR7/4。	砂粒を含む。透明粒・赤茶色の粒。	ナデ。口縁部上面：ヨコナデ。	
801	3~7	弥生	甕	外面：灰褐色7.5YR5/2。内面：にぶい赤褐色5YR5/4。	砂粒・細砂粒を含む。2.5mm大以下軽石・透明粒・角閃石。	口縁部上面~外面：ヨコナデ。内面：ナデ。	
802	3~7	弥生か古墳	鉢?	外面：にぶい橙色7.5YR6/4。内面：にぶい黄褐色10YR5/3。	細砂粒を含む。軽石・透明粒。	外面：ナデ。内面：ハケのちナデ。	
803	3~7		鉢?	外面：淡赤褐色2.5YR7/4。内面：にぶい橙色5YR7/4。	粗砂粒・細砂粒を含む。4mm大以下白い塊・透明粒。	外面：ハケのちナデ、下部：ミガキ。内面：ハケのちナデ。	外面下部：一部黒斑あり。
804	カクラン	弥生	壺	外面：にぶい橙色5YR7/3。内面：にぶい赤褐色5YR5/3。	砂粒を含む。白色粒・黒色粒。	外面：ナデ?。内面：ハケのちナデ。	鉄分付着。
805	カクラン	石器	石鏃		黒曜石。		重量：1.47g。最大長：2.03cm。最大幅：1.48cm。最大厚：0.78cm。

L-6区 (中央図書館増築地) の発掘調査でも出土している。778は略円形を呈し、中央の穴は直径約3mmで、貫通している。779は直線状に直径5~8mm、深さ約5mmの穴があげられている。上部は挟られた状態を呈する。

780は鉄製品で、形態的には釣り針に類似する。PL.62-4のX線写真によっても、先端にかえりは見られない。

RI2

調査区の北東隅で検出した。確認できたのは一方の肩のみであり、もう一方の肩は調査区外にあるものと考えられる。北西-南東向きで、埋土の厚さは約1mを測る。RII-3を切っており、埋土中からは弥生土器の小破片などが出土している。出土量は発掘面積が少ないた

めそれほど多くはない。

RI2 出土遺物 (Fig. 73)

781は縄文土器の胴部片で、外面には貝殻刺突による連点文が、内面には条痕が見られる。

782・783は甕の口縁部から胴部にかけての破片である。口縁部断面の形態はいずれも三角形を呈し、突出はそれほど大きくない。

784の口唇部には細かい刻みが施される。783の口縁部上面にはわずかな窪みが見られる。785は甕または鉢の口縁部から胴部にかけての破片で、口縁部は外方にやや突出し、口唇部は面を有する。

786は壺の胴部で、外面には断面「M」字状を呈する突帯が見られる。内面調整はハケ後ナデで、突帯部の内面

には工具によるナデの痕跡が多く残る。胎土には金色のウンモが多く見られる。

RI3

調査区の北東隅で検出した。RI1・2によって切られており、埋土だけが残っている状態であったため、河川の方向・規模などは不明である。1辺2mのトレンチ(7トレンチ)を設けて埋土を掘り下げたが遺物は確認できなかった。

6 包含層出土の遺物 (Fig.74)

3層出土遺物

787は白磁の椀と考えられる。口縁部は外方に屈曲し、内外面に細かい貫入が見られる。788は青磁の稜花皿で、口縁部付近から外方に屈曲している。内外面には貫入が見られる。

4層出土遺物

789は壺の頸部から底部にかけてである。底部は丸底に近いがわずかに面を有する。

5層出土遺物

790は罎の可能性が考えられる口縁部小破片で、外面に赤色顔料がわずかに残っている。791は罎の胴部である。外面には赤色顔料が見られる。胴部最大径部の内面には接合の際の痕跡が縦方向に残る。792は甕の口縁部小破片で、斜め上方に立ち上がり、口唇部に近づくと薄くなり、口唇部は面を持たない。口縁部上面はやや窪んでおり、口縁部内面はわずかに突出する。胎土には金色のウンモを多く含む。793は甕の脚台部で、端部は面を有する。

6層出土遺物

794は甕の口縁部から胴部にかけてである。口縁部形態はやや長方形に近い形を呈し、口唇部に窪みが見られる。胴部には現状で、3条の突帯が残る。795は高杯の口縁部から杯部にかけてである。口唇部は面を有し、内外面ともミガキの痕跡が残る。口縁部から胴部外面には赤色顔料が塗布されている。796は罎である。頸部はわずかに内湾しながら立ち上がり、口唇部はやや尖り気味である。胴部中央よりも下方に最大径部が位置しており、底面は丸みを帯びてはいるものの、平底である。頸部には、接合痕が明瞭に残っている。

3～7層出土遺物

797～801は甕である。797は口縁部の突出がかなり大きく、口唇部は丸みを有し、細かい刻みが施される。798は口唇部が面を有さず、口縁部上面がわずかに窪んでいる。現状で、1条の突帯が見られる。799は口縁部が台形状を呈し、口唇部は面を有する。口縁部内面はやや突出

している。800は口縁部の小破片で、口縁部はやや高い台形を呈する。口唇部には窪みが施されている。801は脚の端部付近で、内面には調整に用いられた工具の打ち込み痕が見られる。脚の立ち上がりの角度はそれほど急ではない。802は鉢と考えられる。口縁部が外方にやや突出している。外面の口縁部直下にはユビオサエの痕跡が横方向に残る。803は鉢形を呈する土器である。内外面にハケの原体のようなもので調整された痕跡が残り、外面底部付近には縦方向のミガキが施されている。

カクラン出土の遺物

804は壺の底部で、平底である。805は無茎の石鏃で片面の剥ぎ取りができなかったため未製品であったと考えられる。石材は黒曜石で色調の特徴から大分県の姫島産のものと考えられる。

7 まとめ

層について

層は2層から地山層に相当する10層まで整合的に堆積している。2～5層はほぼ水平に堆積しているが、6・7層の上面のレベルは一定していない。河川跡の底に露出している9層上面のレベルを比較すると北西が高く、南東がやや低くなっている。

本調査区の南側に隣接する工学部情報工学科校舎建設地の層についてプラント・オパール分析が行われている。それによるとI～V層にイネ・プラントオパールが含まれており、とくに多く含まれるI・Ⅲb・IVb層がイネの生産面であったと推定されている⁶⁾。本調査区の層の厚さや特徴と比較すると、本調査区の2a・2b層が情報工学科校舎建設地のⅡa・Ⅱb層に、3層がⅢa・Ⅲb層に、4層がIVa・IVb層に対応するようである。このことから、2～4層とくに3・4層は水田層であると考えられる。

3層では青磁・白磁が出土しているが、遺物の量が少ないため3層の時期を推定することはできない。

4・5・6層から出土した遺物も量が少ないが、古墳時代後期の土器がもっとも新しい遺物である。このことから、4・5・6層には古墳時代後期頃の年代を与えることができる。情報工学科校舎建設地の調査ではIVa・IVb層が成川式土器の単純層と考えられており⁷⁾、そのこととも矛盾しない。

7層(RI1埋土)からは弥生土器を中心に多量の遺物が出土したが、古墳時代の土器も少量含まれることから、7層の形成時期は古墳時代にまで及んだことがわかる。

RI1 出土遺物について

本調査地点では各層および遺構から遺物が出土したが、とくにRI1の埋土からの出土品が多かった。ここではRI1から出土した土器について若干のまとめを行いた



Fig.75 土器の散布図 (縄文時代) S = 1/250

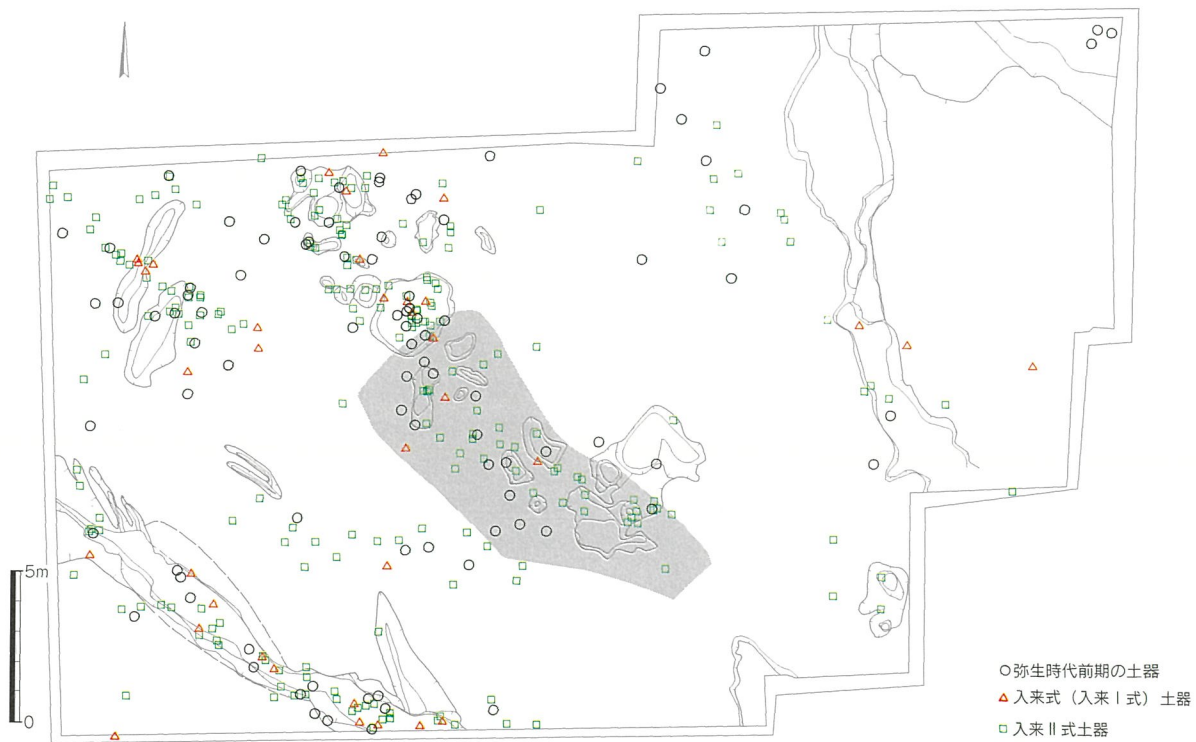


Fig.76 土器の散布図 (弥生時代前期～中期前半) S = 1/250



Fig77. 土器の散布図(弥生時代中期後半～古墳時代) S = 1/250

い。出土した土器は縄文時代から古墳時代にかけてのもので、とくに弥生土器の占める割合が高かった。なお、時期がわかるものに限れば、弥生土器と古墳時代の土器との比率は98%と2%である。

縄文土器はいずれも小片で磨滅しているものが多く、また、接合資料もほとんど見られなかった。前期の深浦式土器と連点文系の土器の出土頻度が高かったが、晩期の土器も比較的多く出土している。本調査区から南方150mのところの位置し、平成9年度に発掘調査が行われた郡元団地J・K-10・11区(工学部校舎建設地)では縄文時代前期から中期にかけての包含層が確認されており、付近に遺構などが存在する可能性が考えられる。

弥生土器の器種には甕・鉢・壺が見られるが、もっとも多く出土したのは甕である。RI1出土の弥生土器に限って器種構成比率を出すと、甕が74%、鉢が3%、壺が23%となる⁸⁾

弥生時代前期の土器では、口縁部断面形態が三角形をなす刻み目突帯文系(高橋Ⅱ式)の甕が多くを占めるが、278のように如意形口縁の板付式甕(高橋Ⅰ式)と考えられる資料も見られる。口唇部には刻み目が施されるものの比率が高い。

弥生時代中期前半前段階の甕は刻み目突帯文系を引き継ぎ、入来式、入来Ⅰ式と呼ばれるものが多くを占める。前期のものとの明確な線引きは難しいが、333以降は入来Ⅰ式の範疇で捉えられると考えられる。口唇部

には突帯の施されるものと、突帯の施されないものが見られる。655の壺は完形に復元することができた。本遺跡でのこの時期の残りの良い資料は少ないため貴重である。

弥生時代中期前半後段階の土器は口縁部断面形態が台形を呈し、口唇部に窪みが見られる入来Ⅱ式と呼ばれるものの占める割合が高い。これらは本調査区出土土器の中でもっとも多く出土しており、口縁部上面が下がるもの、口縁部上面に稜を有するもの、口縁部が長方形に近い形態を呈するものなど多くのバリエーションが認められた。これらは同一時期の形態差なのか、それとも時期差なのかなど、さらなる検討が必要である。

中期後半前段階と考えられるものには506～510などがあり、吉ヶ崎式、山ノ口Ⅰ式と呼ばれているが、本地点での出土数は少ない。口縁部断面形態は台形を呈し、上面が窪み、外方に向かってやや立ち上がるものが典型的な形態とされる。しかし、吉ヶ崎遺跡1号住居跡床面から一括して出土した資料には、口縁部が長方形を呈するものも含まれる⁹⁾ことから、496・497・501などは、この時期あるいはそれ以降に降りる可能性も考えておきたい。

中期後半後段階の土器は85・518などで、山ノ口式、山ノ口Ⅱ式と呼ばれている。本調査地点出土のこのタイプの土器の多くには金色のウンモが含まれている。本調査区出土の大部分の土器に金色のウンモは見られな

いことから、金色のウンモが胎土に含まれる土器が多く出土する大隅半島地域または、薩摩半島南端部地域からの持ち込みが考えられる。その場合、この時期の地元で作られた土器はどのようなものであったのかという疑問が残る。139のような一の宮式は本調査区より南側0.5kmに位置する一の宮遺跡を標識遺跡とするもので、地元産と考えられる。これは山ノ口式と同時期で、山ノ口式の中でも素朴なつくりであるという特徴をもち、これは本遺跡周辺の地域色であると捉えられている型式である。87は胎土に金色のウンモを含んでおらず、在地のものである可能性が高い。しかし、本調査区における一の宮式やこれと併行すると考えられる土器の出土量は金色のウンモを含む山ノ口Ⅱ式土器の数量よりかなり少ない。在地で作られた土器にも金色のウンモが意図的に入れられたのか、山ノ口Ⅱ式と同じ形態を呈するが金色のウンモを含まないものが一定量存在するのか、あるいは incoming Ⅱ式に含めたものの中にこの時期に降るものがあるのかなどの可能性も考えられる。

後期の土器は519のように尖帯が口縁部の直下にあるのが特徴とされ、高付式と呼ばれている。ほかに、520・521などは後期の可能性も考えられる。

529～535などは口縁部が斜め上方に立ち上がり、口縁部の厚みがほぼ一定している。弥生時代終末期の中津野式と考えられる。

古墳時代の土器はわずかしこ出土していないが、器種には甕・壺・罎・(高杯)が見られる。もっとも多いのは弥生土器と同様、甕である。

561・562などは立ち上がりの角度が急であり、古墳時代前期の東原式であると考えられる。563・564などはほぼ垂直に立ち上がり、古墳時代後期の笹貫式であると考えられる。

本地点から出土した弥生中期の土器はこの地域に一般に見られる incoming 式・山ノ口式などがほとんどであるが、外来系の須玖式土器あるいはその系統の土器や、黒髪式土器あるいはその系統の土器が出土しており、当時の交流を示す資料である。とくに須玖式およびその系統の土器の色調は白っぽく、在地の土器の色調とはかなり異なっている。

ほかに、弥生時代前期に瀬戸内地方に見られるような多条の匏描きの平行沈線が施された壺(753)も出土している。

379・428・471はいずれも口唇部に incoming Ⅱ式に特徴的な窪みが見られる。しかし、これらが持っている口唇部が丸みを帯び、口縁部上面が窪んで、口縁部内面側が突出するという形態は、黒髪式土器や須玖式土器に見られる特徴である。これらの土器は在地の土器(incoming Ⅱ式)との折衷タイプといえるかもしれないが、在地土器と外

来系土器との関係が認められるかどうかの判断にはさらに多くの資料の検討が必要であると思われる。

遺構について

溝状遺構

SD1～7は3層よりも上の層あるいは3層上面で検出された、比較的新しい時期の遺構である。SD1・2・4・5は規模が小さく、また、出土遺物も少ない。SD6の埋土には縄文土器から近世の遺物まで含まれているが、出土したレベルの高低と出土遺物の時期の新古とは相関しなかった。SD7については大部分がSD6によって切られているため、詳細は不明であるが、出土した土器はSD6よりも古いようである。SD6は情報工学科校舎建設地の発掘調査で検出された河1に方向やレベルが似ることから¹⁰⁾、河1に連続する同一の河川跡であると考えられる。

河川跡

3つの河川跡を確認できた。RI1は調査区のほぼ全域に広がっており、確認できたのは一方の肩のみで、もう一方の肩は調査区外にあると考えられる。情報工学科校舎建設地で確認された河2の肩が延びる方向や河2の底面のレベルが類似することから¹¹⁾、河2の肩が、本調査区のRI1のもう一方の肩になるものと考えられる。

RI2は調査区の北東隅で一方の肩が確認されたのみであり、RI3についてはRI1・RI2によって切られているため、規模を知ることはできない。RI2・RI3についても、RI1と同様にかなり大規模な河川であった可能性が考えられる。

つぎに各河川の時期を推定したい。まず、RI1についてであるが、出土した土器は弥生時代中期前半代のものがもっとも多かった。しかし、縄文時代前期・晩期、弥生時代前期・中期後半・終末期の土器もある程度の量見られる。さらに、古墳時代後期の土器も少量見られる。複数の時期の遺物が見られることから、河川は流路を変えながら長期間流れていた可能性が考えられる。そこで、遺物の散布を検討してみる。

Fig. 75は縄文時代の遺物の平面散布図である。ほぼ全域に分布しているが、晩期の土器が東側にやや集中しているようである。

Fig. 76は弥生時代前期から中期前半までの遺物散布図である。調査区のほぼ全域に分布が見られる。

Fig. 77は弥生時代中期後半から古墳時代にかけての平面散布図である。中期後半になると木杭列の付近と西側に偏っている。後期以降古墳時代も同様である。

RI1には約1mの埋土が堆積していた。そこで、RI1内の層位によって遺物の時期に違いがあるのかどうかを検討した。検討には Fig. 40のRI1内ベルトの層位断面図と、遺物の出土量が比較的多かったベルト1とベルト2

の遺物 (Fig.41~43) を用いた。ベルト出土資料のうち、新しい時期のものがどの層から出土したかに着目した。

ベルト1では、⑤層出土の117・118と⑥層出土の127がもっとも新しい時期の遺物で、弥生時代後期から終末期の年代が考えられる。ベルト2では、①層出土の131・132, ③層出土の142, ⑥層出土の159, ⑫層出土の165が弥生時代後期から古墳時代にかけてのものと考えられる。

いずれのベルトについても、下位の層から新しい時期の遺物が出土している。したがって、RI1の埋土については、層位的な上下と年代的な新古とは関連しないと考えられる。

さらに、放射性炭素年代測定結果を参考にすると、木杭列の中の1本の測定値は1960±60B.P., 弥生時代中期後半頃の年代である。また、木杭列の北東側に位置するSK3から出土した木製鋤の放射性炭素年代測定値は2290±70B.P.である。木製品は河川の埋土と同様の粗砂から出土していることから、弥生時代前期頃には河川が存在していたものと考えられる。いずれの河川跡よりも下位の粗砂層(10層)から出土した自然木の放射性炭素年代測定値は4480±70B.P.であり、いずれの河川もこれ以降のものである。

遺物の平面散布図と放射性炭素年代測定値から、RI1の上限は縄文時代中期を遡ることはなく、弥生時代中期前半頃までは調査区の東側も流路であったのが、中期後半までには埋没してしまい、弥生時代中期後半から古墳時代にかけての流路は西側に移動していることがわかる。

RI2から出土した遺物は弥生時代前期末のものが多い。もっとも新しいのは786で弥生時代中期中頃の年代が与えられる。

RI3の埋土からは出土遺物が確認できなかったため、その年代を直接知ることはできない。

木杭列について

木杭列はRI1内から倒れた状態で検出された。木杭列から出土した土器のうちもっとも新しいのは、85・87など弥生時代中期後半のものである。また、木杭の放射性炭素年代測定値は1960±60B.P.で、土器の年代と木杭の年代とはよく一致している。これらのことから、弥生時代中期後半には木杭列が存在しており、この時期に倒壊・埋没したと考えられる。しかし、木杭列が作られたのが弥生時代中期後半なのかそれよりも古い時期なのかについては、1点の木杭しか年代測定していない現時点では断定できない。さらに多くの木杭の年代測定を行って検討する必要がある。

木杭列の性格として、井堰のような灌漑施設あるいは護岸施設の可能性が考えられる。調査の結果、RI1の全

体的な流れとしては、河底の傾斜や、南西部で確認された北西→南東向きの落ち込みの傾斜などから、北西→南東と推定できた。この場合、木杭列の方向と流れの方向とは平行することになり、護岸施設の可能性が考えられることになる。

河川の流れの方向を北西→南東と推定したが、これはRI1全体から判断された方向であり、木杭列あたりでは木杭列に直交する流れであった可能性も否定できない。この場合、これらの木杭列は井堰として用いられていた可能性が考えられることになる。

Fig. 75~77の遺物平面分布図の検討から、木杭列が存在した弥生時代中期後半には木杭列の北東側は埋没していたと考えた。木杭列は埋没した部分と河道との境界に位置していることになる。この場合、木杭列は護岸施設の可能性が高くなる。しかし、年代測定を行った木杭は1点のみであり、他の資料の分析結果によっては、木杭列の作られた時期がさらに古くなる可能性がある。したがって、現時点では護岸施設と、井堰両方の可能性を考えておきたい。来年度の年報で個々の木杭の報告を行う予定であり、さらに多くの資料の年代測定を行い、遺物の出土状況との関係を検討するなどして、改めて考えたい。

註

- 1) 中村直子(1993)第I部第2章郡元団地H-11区(地域共同研究センター建設予定地)における試掘調査報告. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, VIII.
- 2) 松永幸男・中村直子・黒木綾子・有馬孝一(1992)付編II鹿児島大学郡元団地H-11・12区(工学部情報工学科校舎建設予定地)における発掘調査. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, VII.
- 中村直子・黒木綾子(1993)付編I鹿児島大学構内遺跡郡元団地H-11・12区, 工学部情報工学科建設地発掘調査河2出土遺物の紹介. 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, VIII.
- 3) 出土遺物の説明および用語は以下の文献など、および例言に記した方々のご教示を参考にした。
- 小田富士雄・韓炳三編(1991)日韓交渉の考古学 弥生時代篇, 六興出版.
- 鹿児島県考古学会(1992)鹿児島県下の弥生土器.
- 河口貞徳・出口浩(1971)南九州弥生式土器の再編年. 鹿児島考古, 5.
- 出口浩・中村直子編(1988)草野貝塚. 鹿児島市埋蔵文化財発掘調査報告書, 9, 鹿児島市教育委員会.
- 中園聡(1997)九州南部地域弥生土器編年. 人類史研究, 9.
- 中村直子(1987)成川式土器再考. 鹿大考古, 6.
- 中村直子(1997)付編I. 郡元団地5区(教育学部教育実践研究指導センター建設地)における発掘調査, 鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報, 11.

本田道輝編（1986）鹿児島大学郡元団地内遺跡（J・7 地点）－鹿児島大学理学部公用車庫改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－。鹿児島大学理学部・鹿児島大学法文学部考古学研究室。

正岡睦夫・松本岩雄編（1992）弥生土器の様式と編年 山陽・山陰編，木耳社。

向田民夫（1978）日本の陶磁9 薩摩，保育社。

4) 中村直子（1993）付編鹿児島大学構内遺跡郡元団地 O-7 区（福利厚生施設建設地）における発掘調査報告。鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報，Ⅷ。

5) 宮崎大学農学部藤原宏志氏教示。

6) 藤原宏（1993）付編Ⅱ鹿児島大学構内遺跡郡元団地 H-11 区（地域共同研究センター建設予定地）におけるプラント・オ

パール分析結果。鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報，Ⅷ。

7) 松永幸男・中村直子・黒木綾子・有馬孝一（1992）付編Ⅱ鹿児島大学郡元団地 H-11・12 区（工学部情報工学科校舎建設予定地）における発掘調査。鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報，Ⅶ。

8) 判別が可能な特徴的な部位のみを用いて算出しているため、実際の構成比と若干異なる可能性がある。

9) 長野真一・中村耕治編（1983）大隅地区埋蔵文化財分布調査概報。鹿児島県埋蔵文化財調査報告書，25。

10) 註7) 文献に同じ。

11) 註7) 文献に同じ。



圖 版



PL. 1 郡元団地C-8区・H-11区における調査



1 96-2 北壁



2 93-5 ①-a・b・c区東壁

PL. 2 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査



1 ⑤・⑥-f 南壁

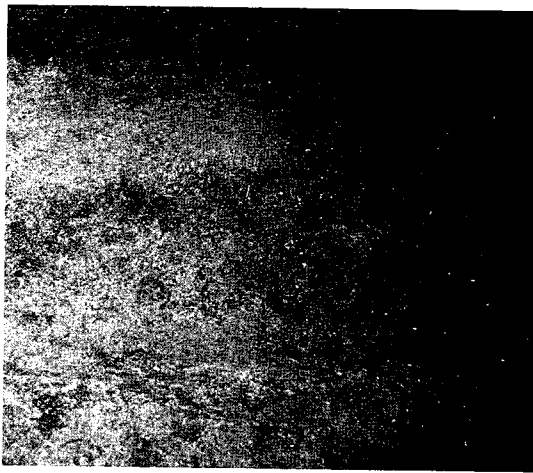


2 ⑦・⑧-f 東壁

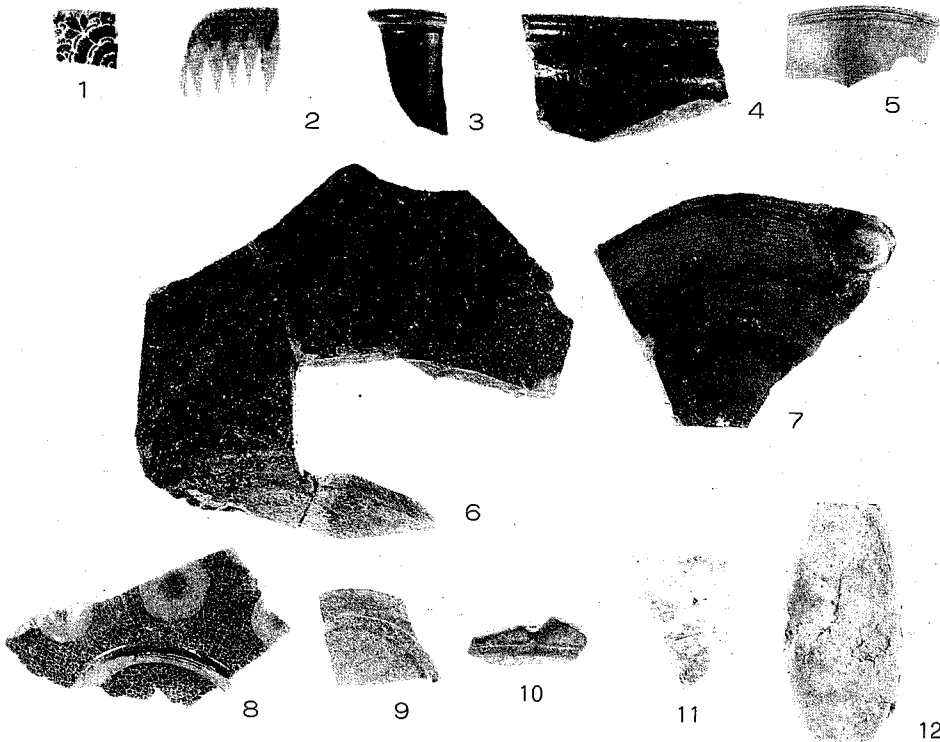
PL. 3 郡元団地C-8区（遺伝子実験施設建設予定地）における試掘調査



1 調査地点

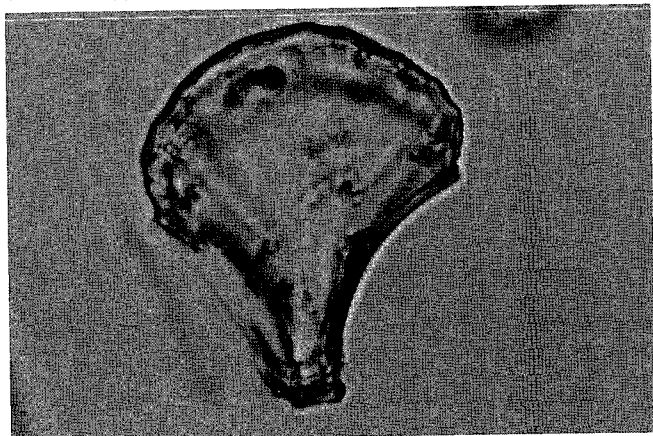


2 6層上面



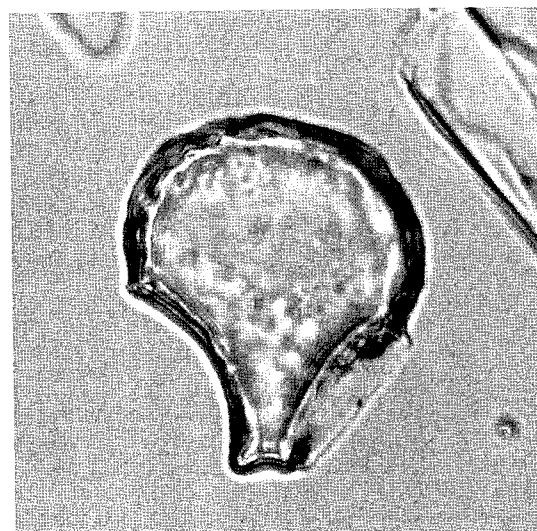
3 出土遺物

PL. 4 郡元団地C-8区における植物珪酸体分析

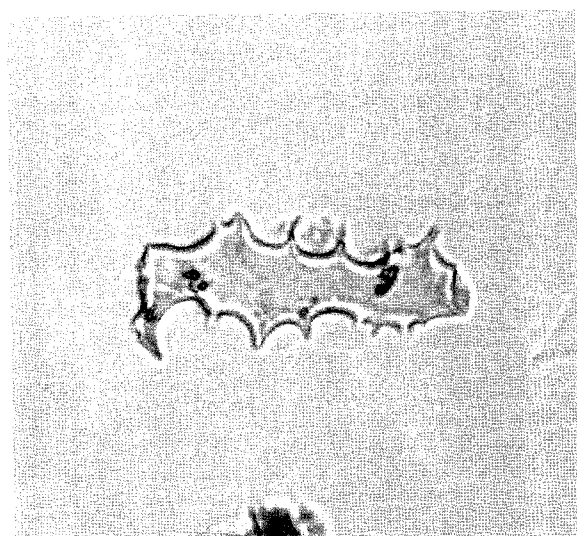


0 50 100 μm

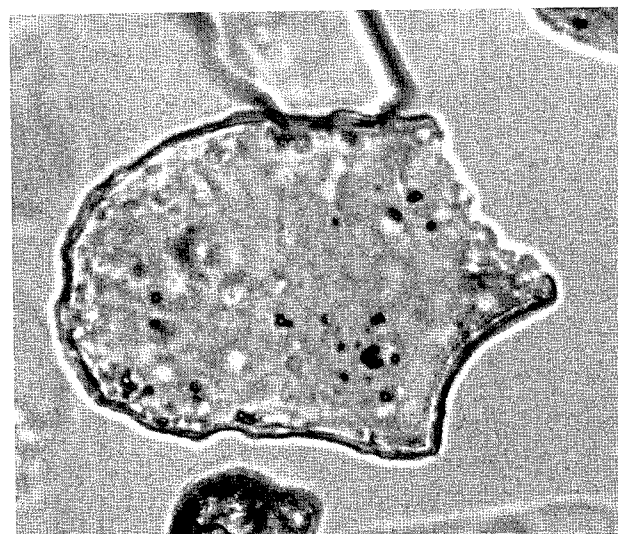
1 イネ 6層



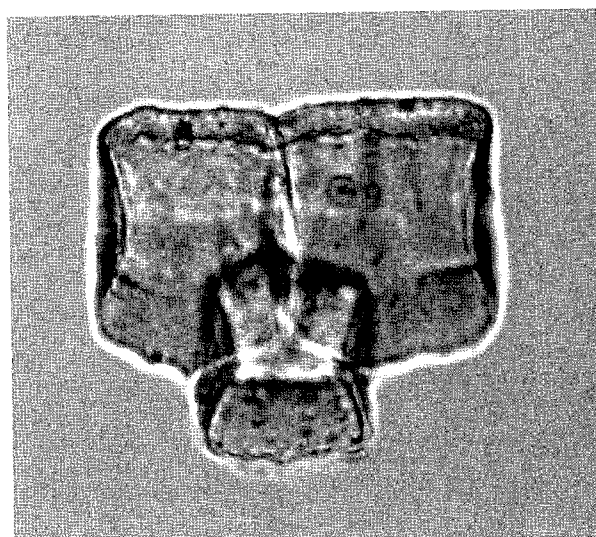
2 イネ 6層



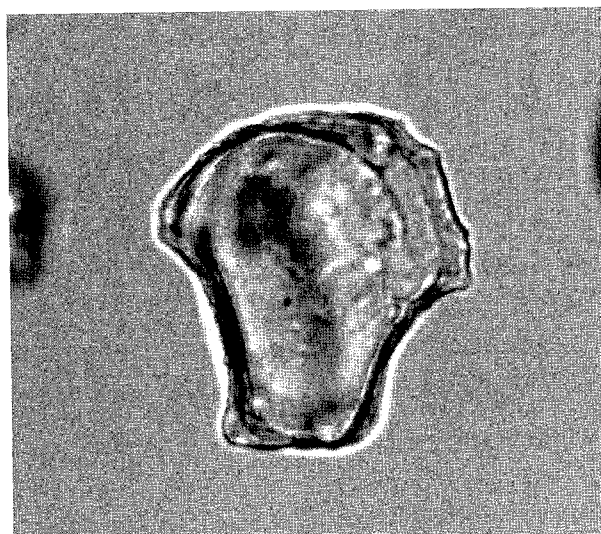
3 オオムギ族 (穎の表皮細胞) 5d層下



4 ヨシ属 5d層上



5 ススキ属型 5a層下



6 ネザサ筋型 5b層

PL. 5 郡元団地C-8区における植物珪酸体分析



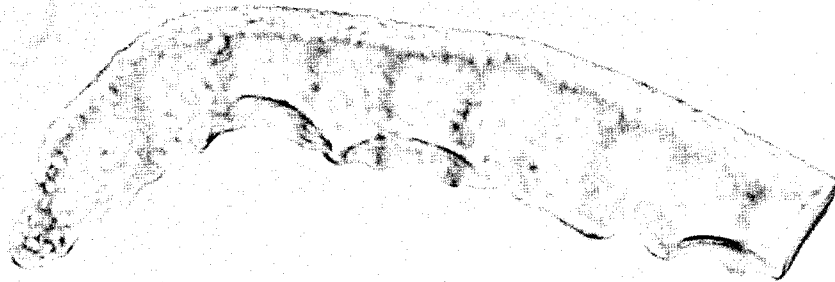
7 クマザサ属型 5c層



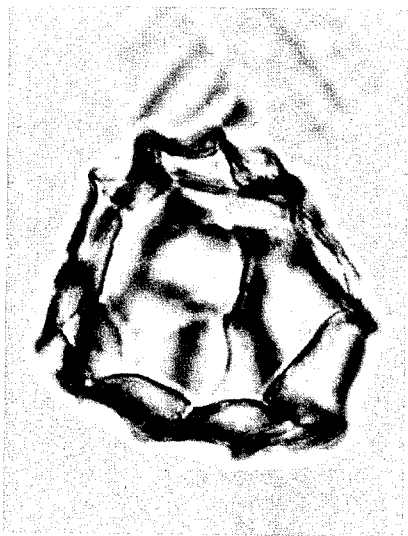
9 棒状珪酸体 5b層



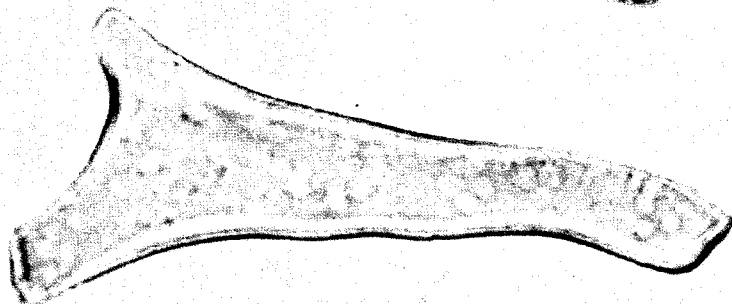
8 マダケ属型 5a層上



11 クスノキ科 5d層中



10 ブナ科(シイ科) 5d層中

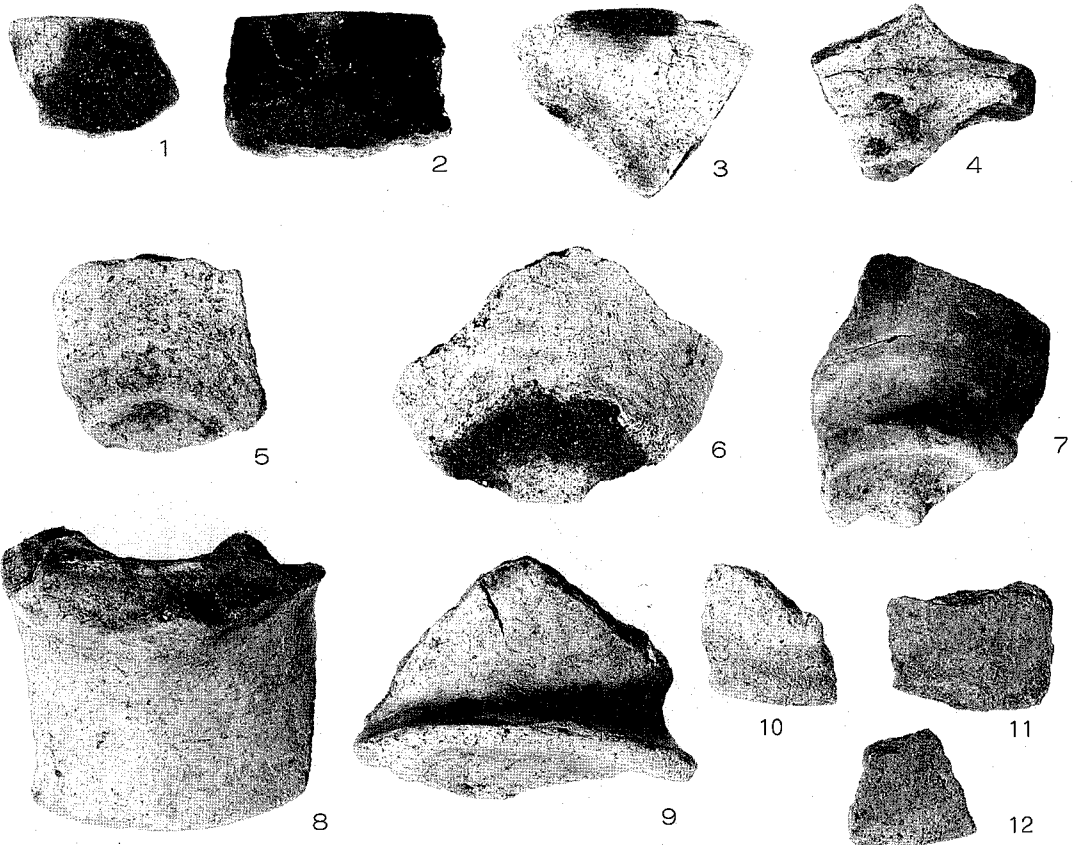


12 マンサク科(イスノキ属) 5d層中

PL. 6 立会調査(1)

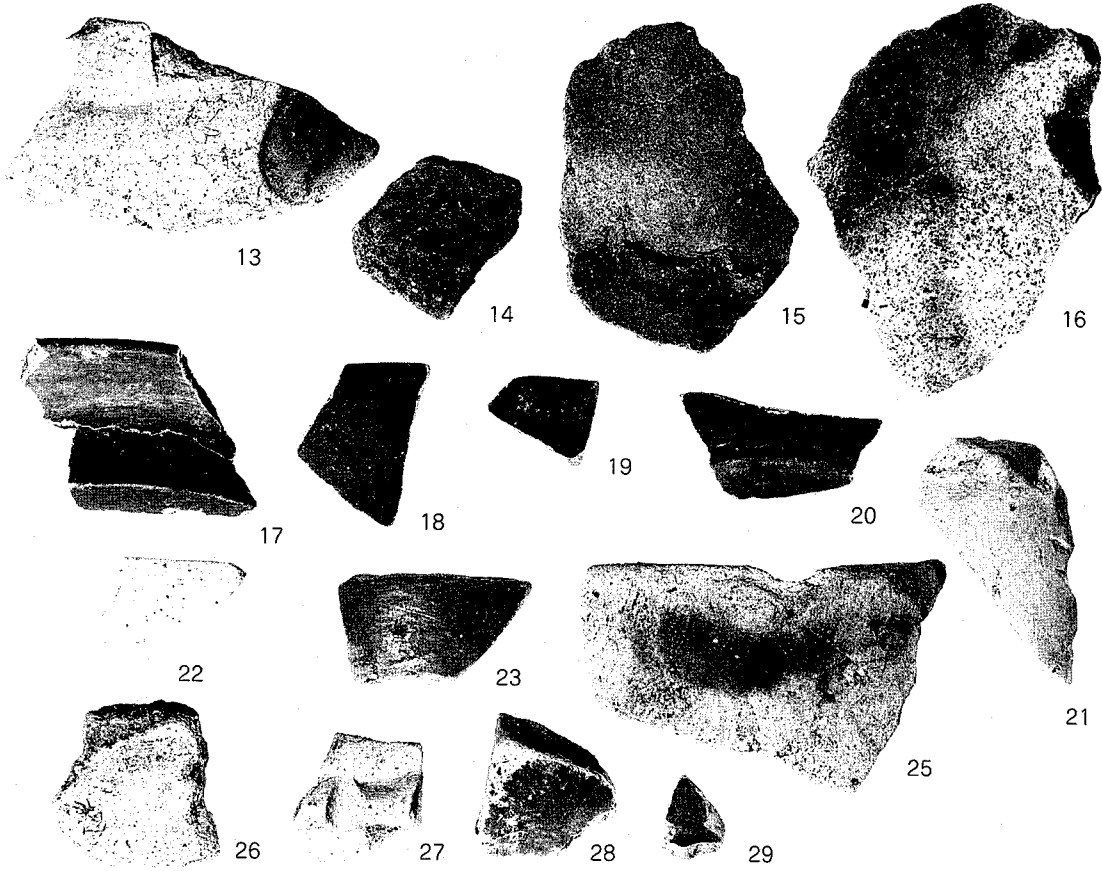


1 96-B法文学部北側調査地点



2 96-B・C出土遺物

PL. 7 立会調査 (2)

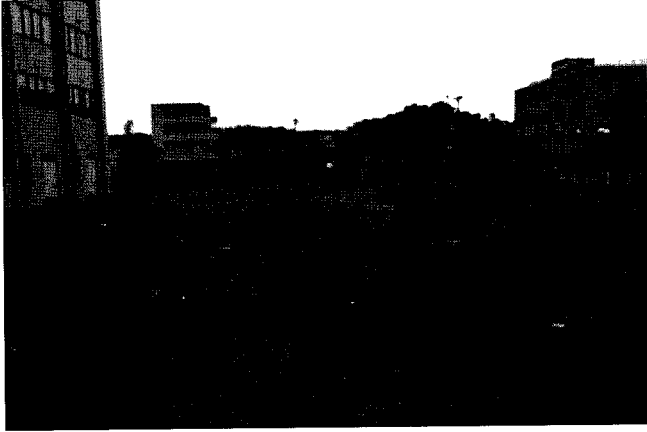


1 出土遺物

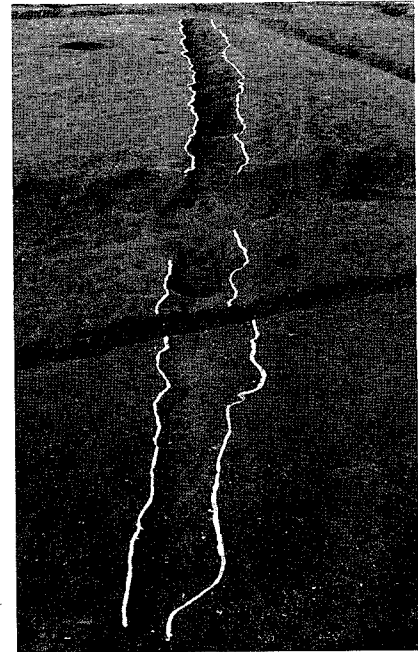


2 出土遺物

PL. 8 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（1）



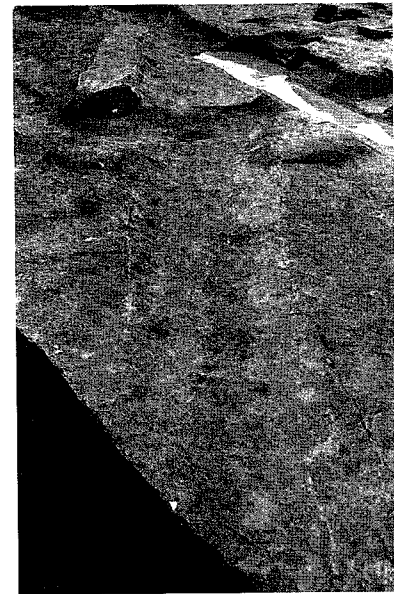
1 表土剥ぎ前の調査区全景



2 SD1完掘状況



3 SD2・4検出状況



4 SD2完掘状況



5 SD4完掘及びSD5検出状況



6 SD5完掘状況

PL. 9 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（2）



1 SD6検出状況



2 SD6底の木杭



3 SD6底の木杭痕

PL. 10 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（3）



1 SD6完掘状況



2 SD7完掘状況

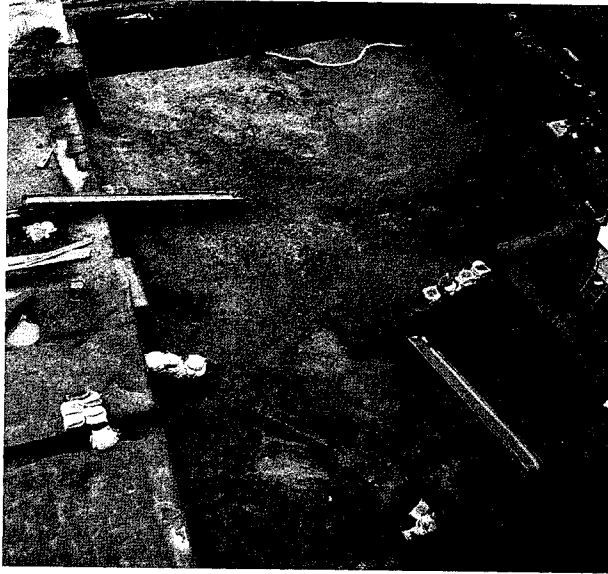


3 SD6・7埋土断面

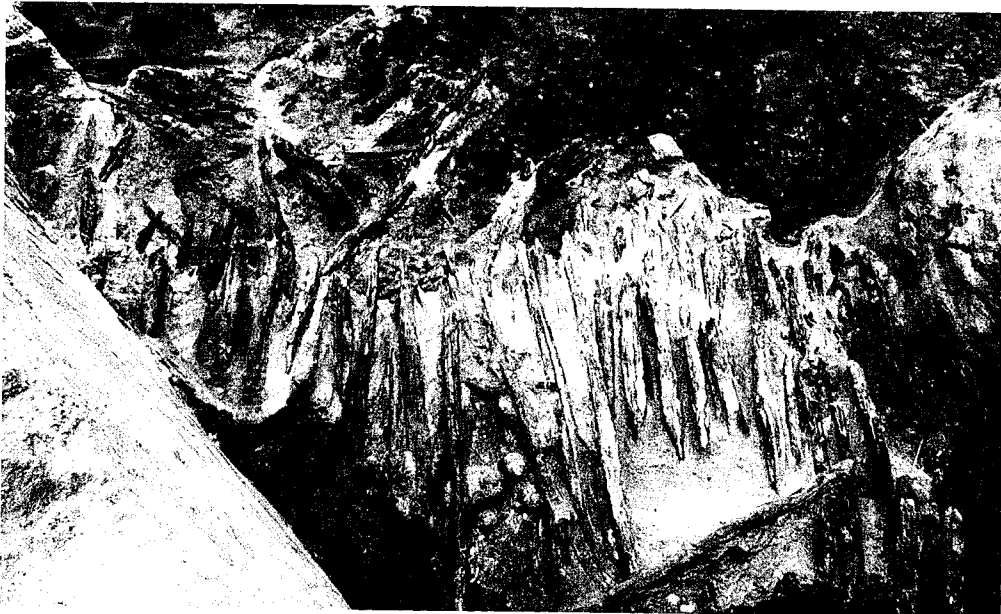


4 水田状遺構

PL. 11 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（4）



1 RI1 検出状況（東区）



2 RI1 木杭列検出状況（東区）



3 RI1 木杭列（西区）

PL. 12 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（5）



1 RI1 木杭列



2 RI1 木杭列



3 RI1 抉りのある木杭

PL. 13 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（6）



1 RI1木杭列



2 RI1木杭列



3 RI1木杭列



4 RI1木杭列

PL. 14 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（7）



1 R1 木杭列 土器出土状況



2 R1 木杭列出土の茎と繊維の束



3 R1 木杭列 木製容器出土状況



4 R1 木杭列 木製品出土状況

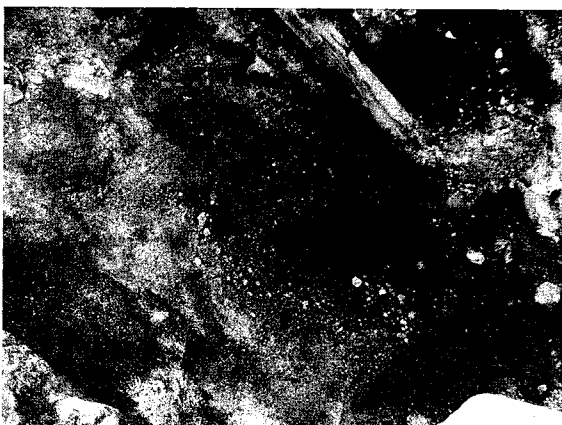
PL. 15 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（8）



1 RI1内SK2



2 RI1内SK3（掘り下げ中）



3 RI1内SK3 木製鋤出土状況



4 RI1内SK3 木製鋤出土状況



5 RI1内SK3



6 RI1内SK4

PL. 16 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（9）



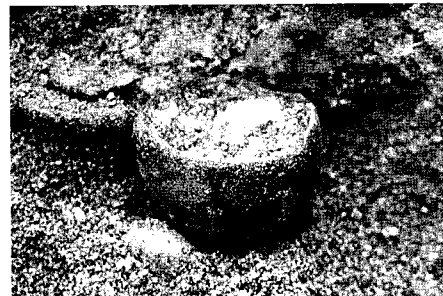
1 RI1 土器出土状況



2 RI1 土器出土状況



3 RI1 土器出土状況



4 RI1 土器出土状況



5 RI1 段落ち



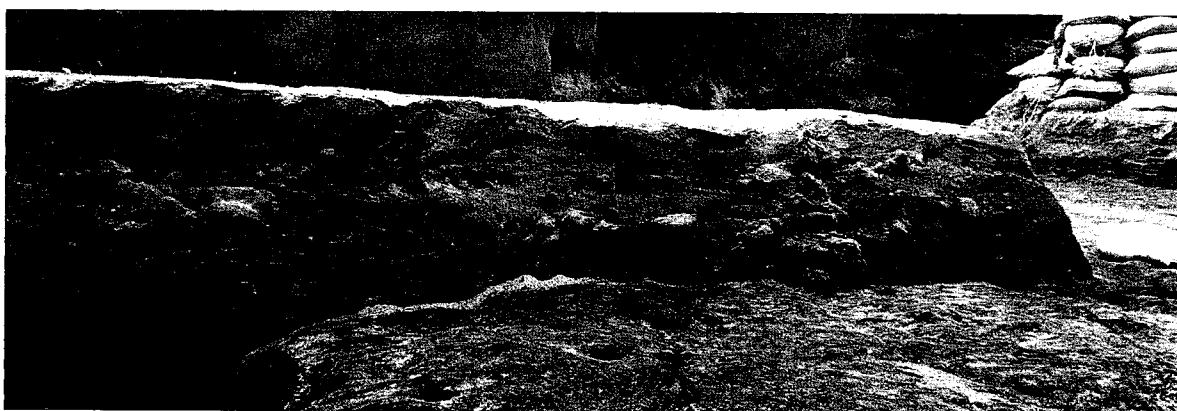
6 RI1 完掘状況



1 RI1ベルト1（南側）



2 RI1ベルト1（中央）

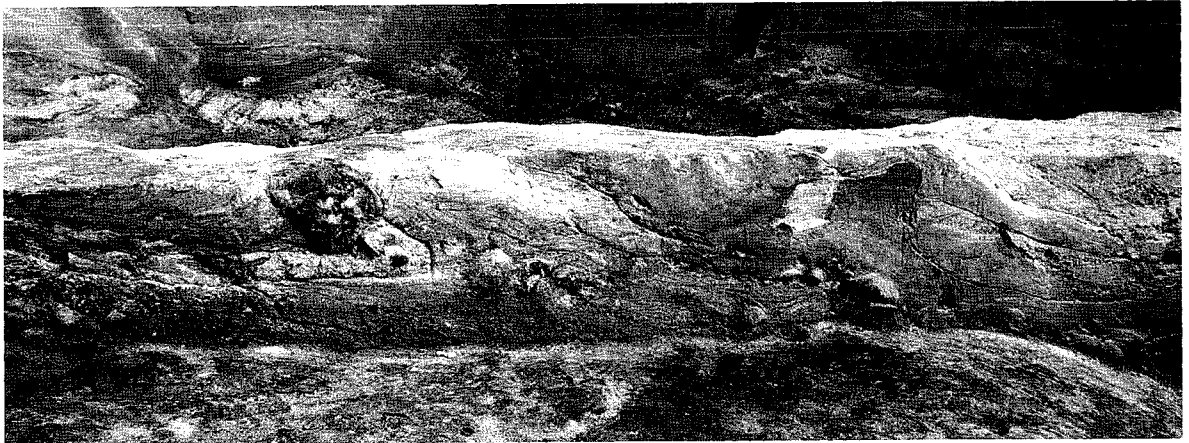


3 RI1ベルト1（北側）

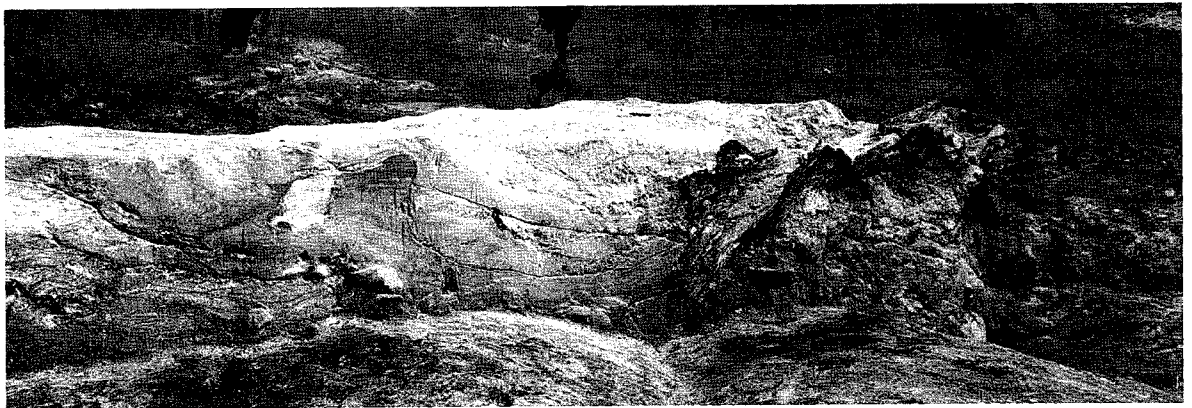


4 RI1ベルト2（北側）

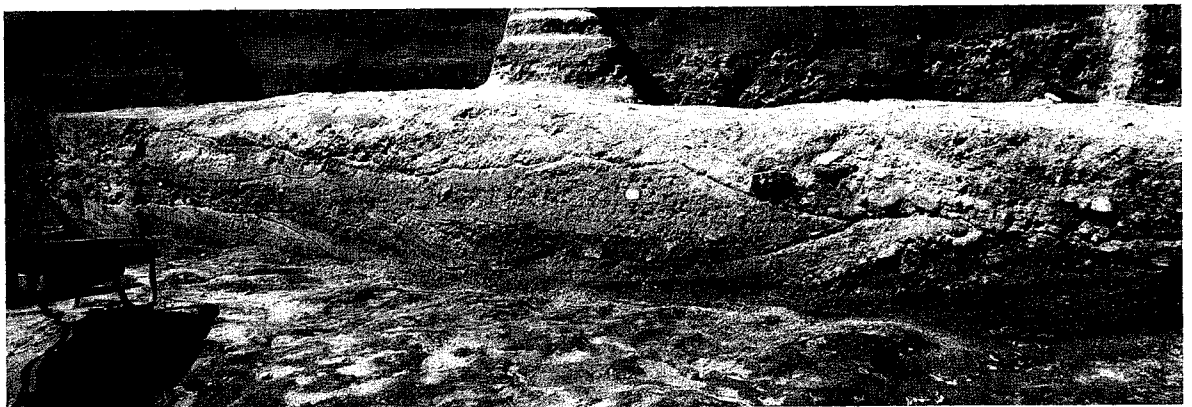
PL. 18 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（11）



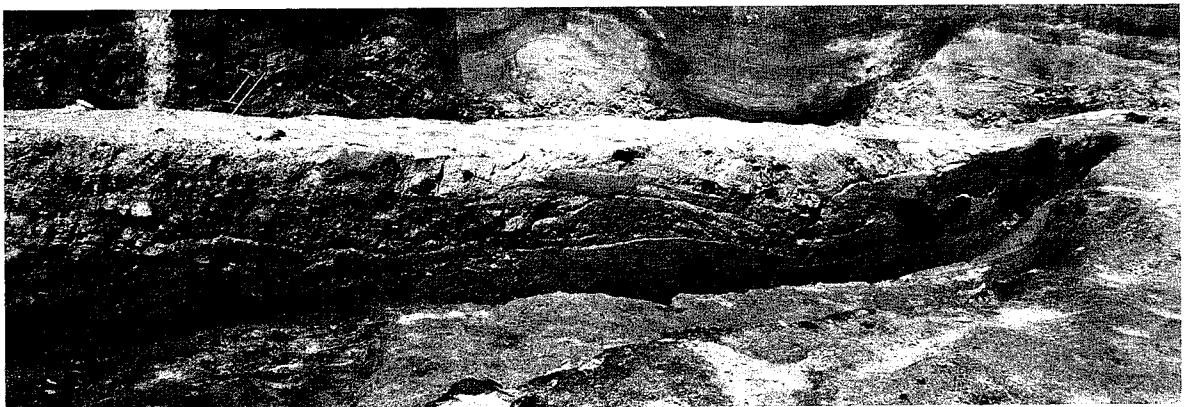
1 RI1ベルト2（中央）



2 RI1ベルト2（南側）



3 RI1ベルト3（南側）

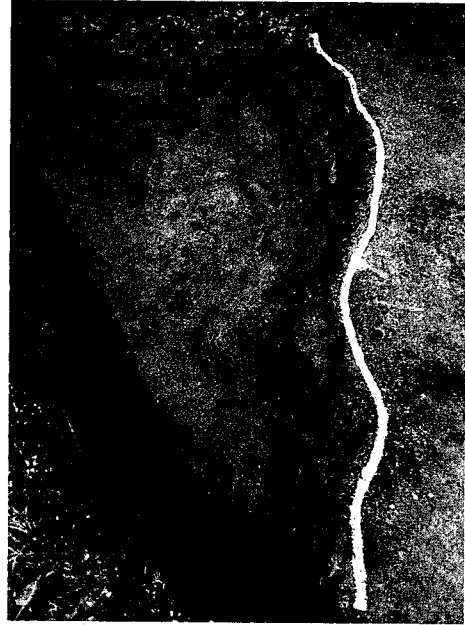


4 RI1ベルト3（北側）

PL. 19 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（12）



1 RI2検出状況



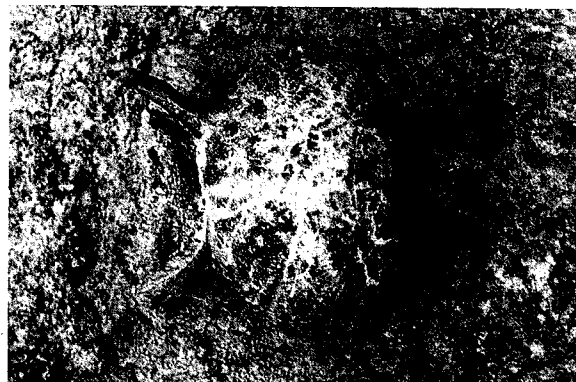
2 RI2完掘状況



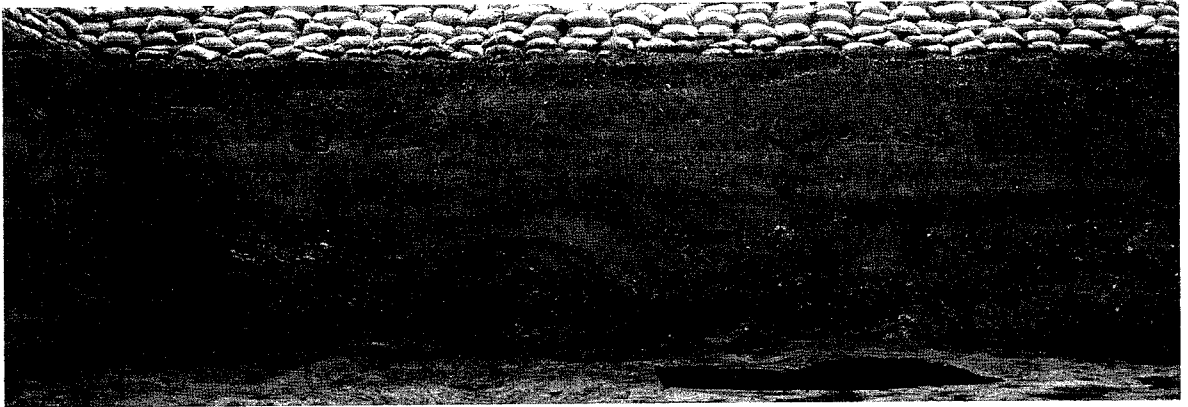
3 RI2埋土



4 4層土器出土状況



5 6層土器出土状況



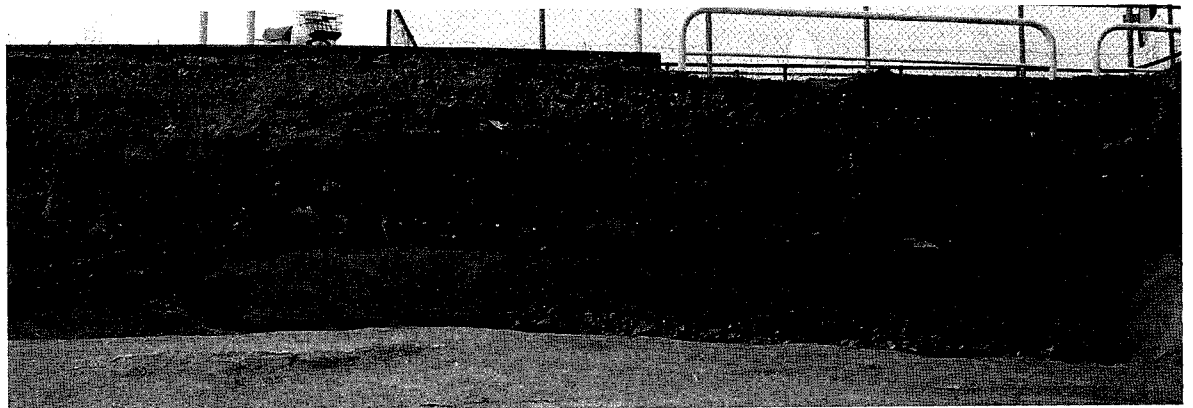
1 ⑦・⑧・⑨-b区北壁



2 ⑤・⑥-b区北壁

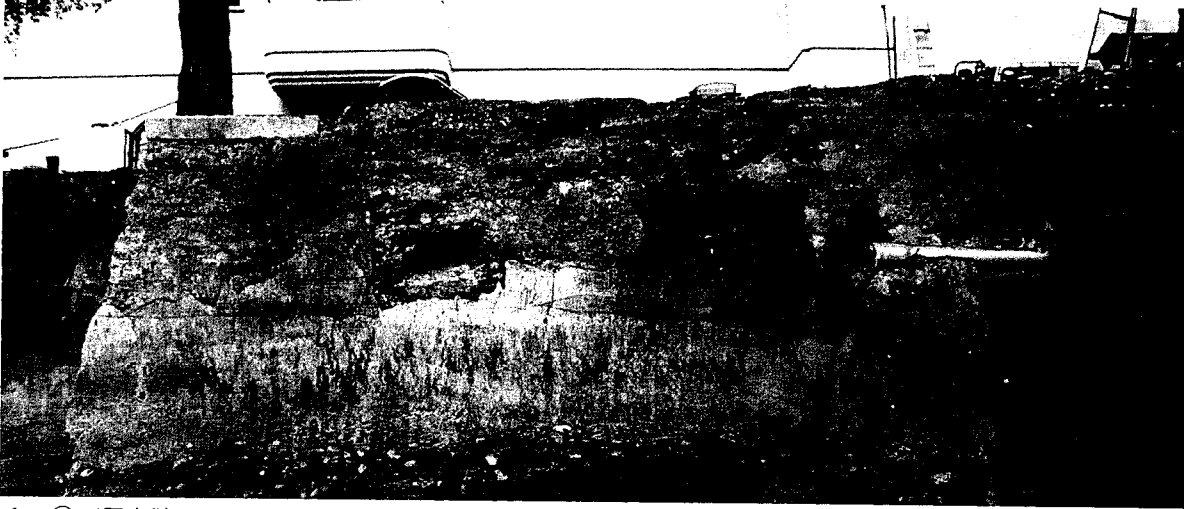


3 ③・④-a区北壁



4 ①・②・③-a区北壁

PL. 21 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（14）



1 ②-d区東壁



2 ③-e・f区東壁



3 ②・③-d区東壁

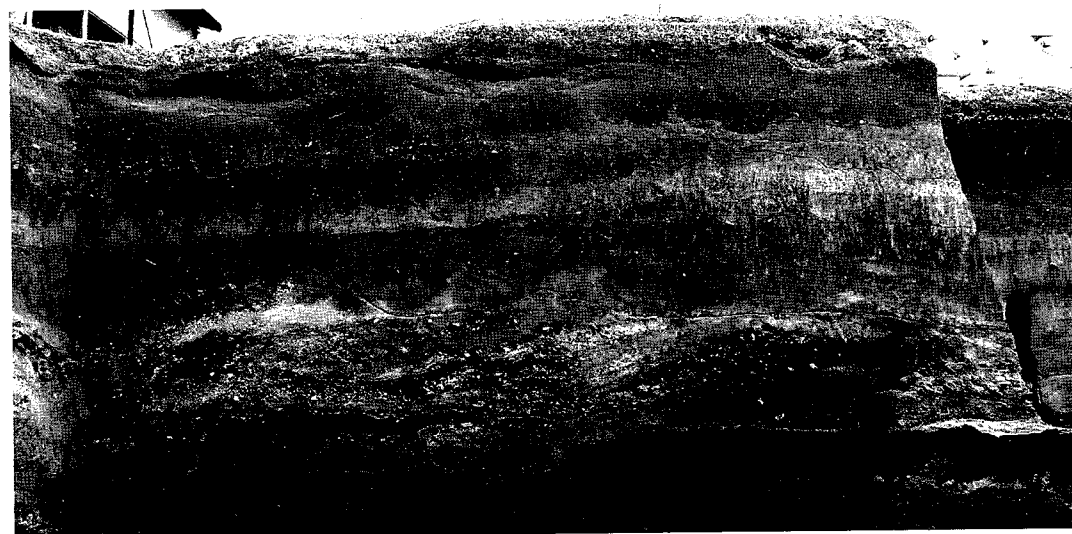
PL. 22 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（15）



1 ㊟-e・f区西壁



2 ㊟-b・c・d区西壁

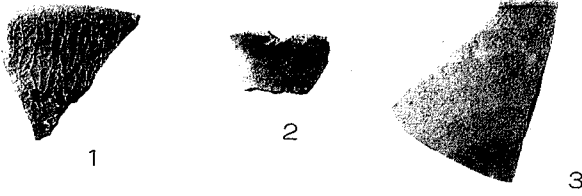


3 ㊟・㊟-f区南壁

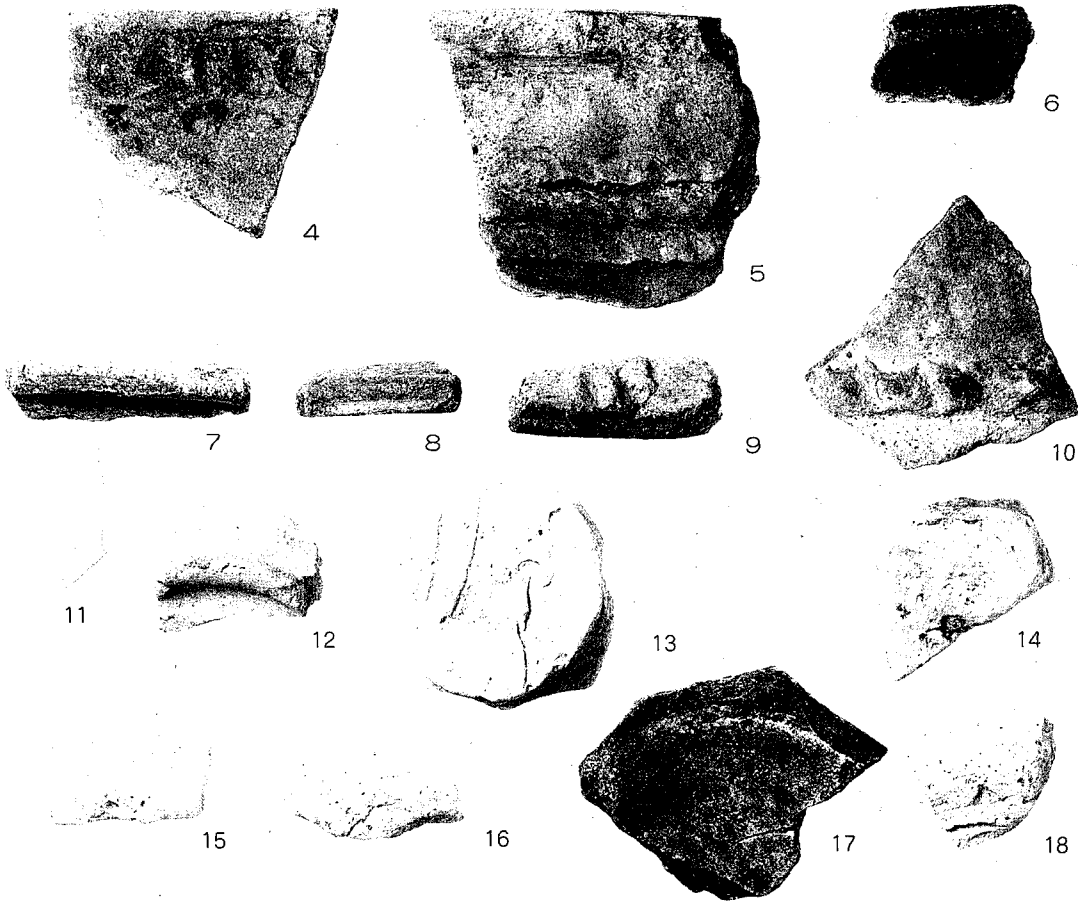


4 南北ベルト（南側）

PL. 23 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（16）

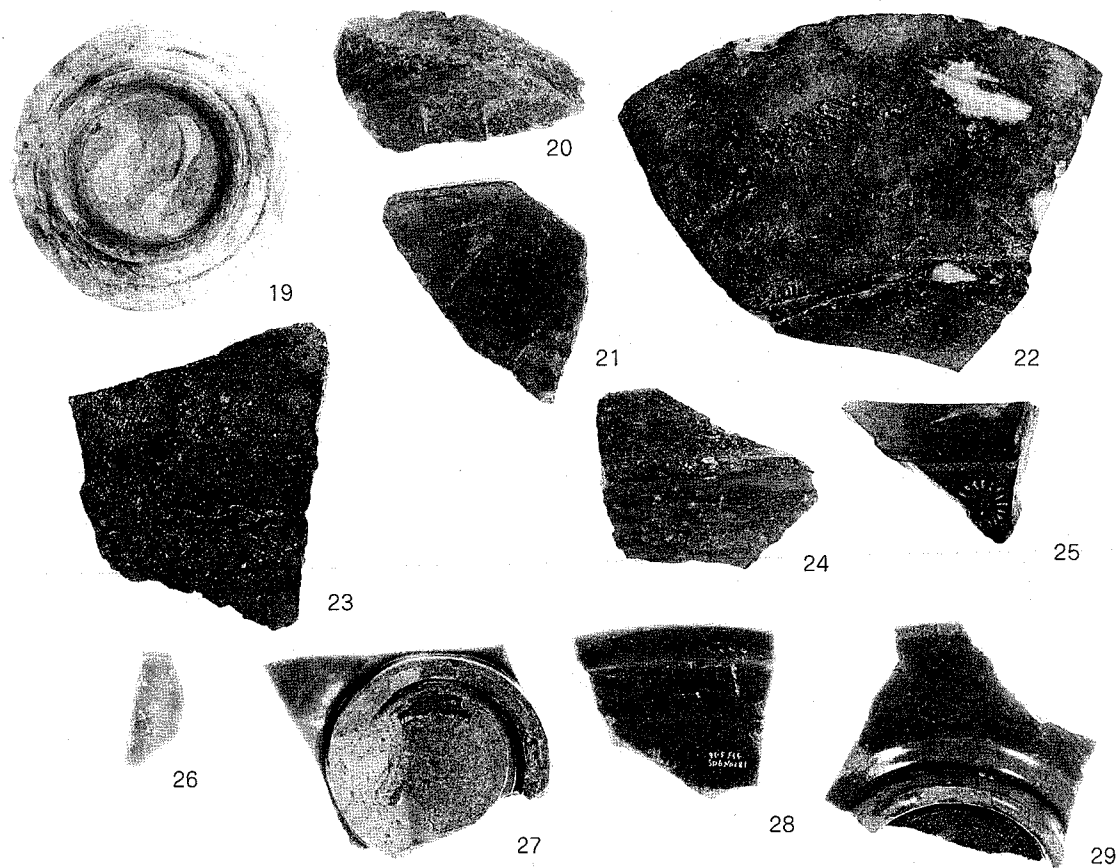


1 SD1・2出土遺物

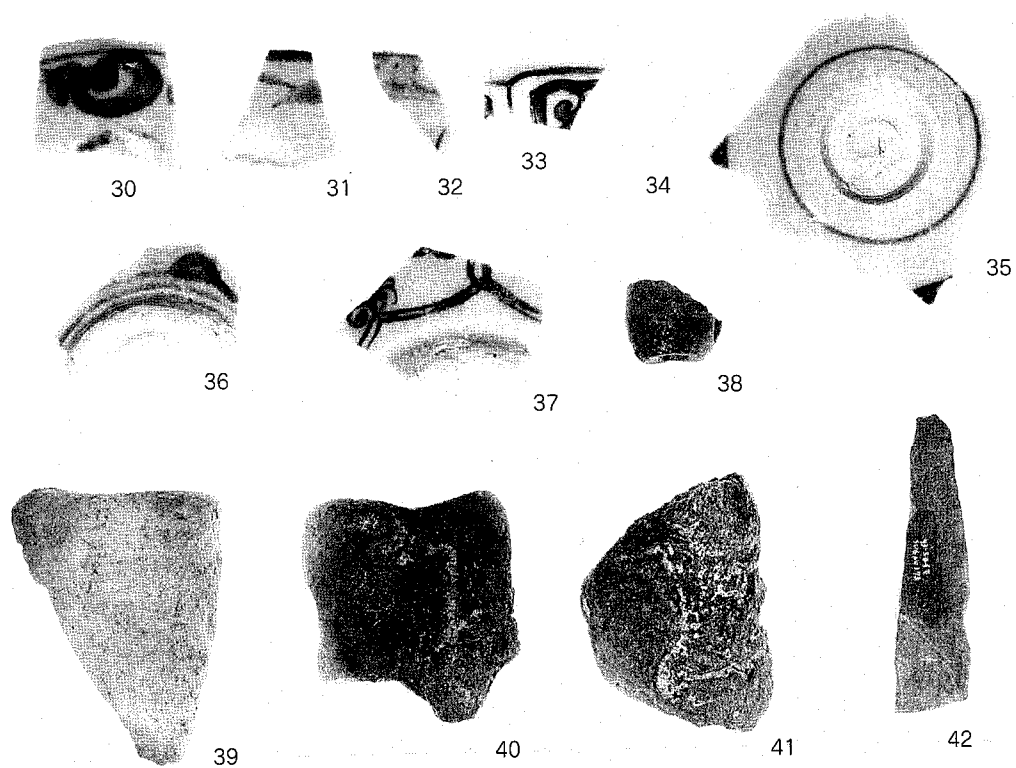


2 SD6出土遺物

PL. 24 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（17）

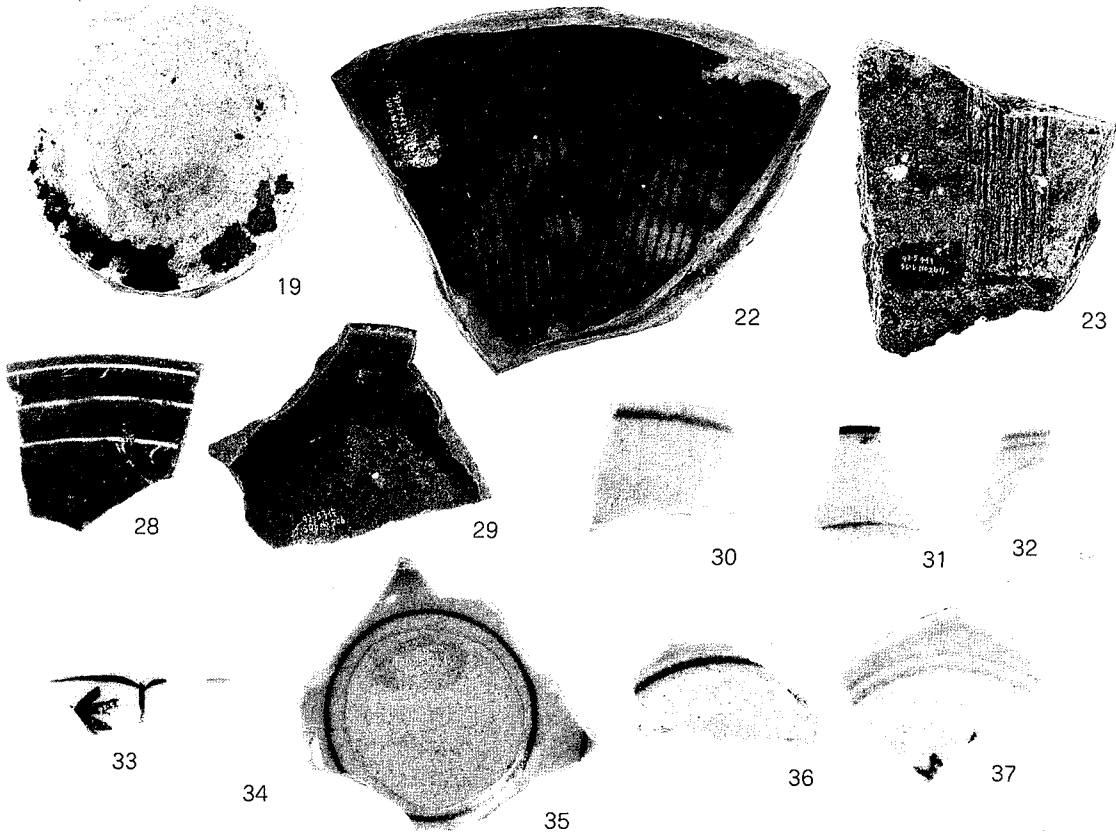


1 SD6出土遺物

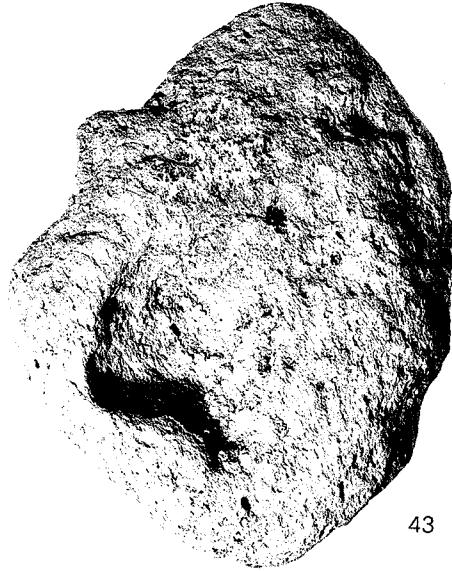


2 SD6出土遺物

PL. 25 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（18）



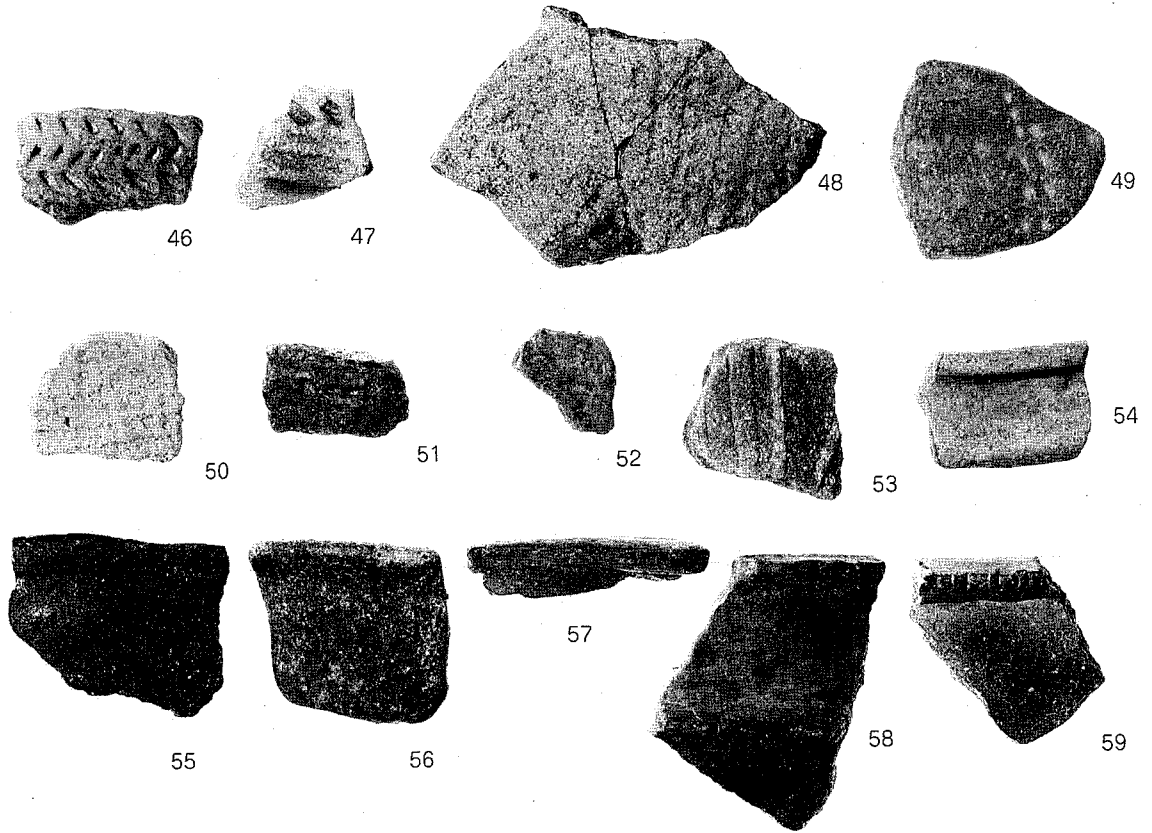
1 SD6出土遺（内面）



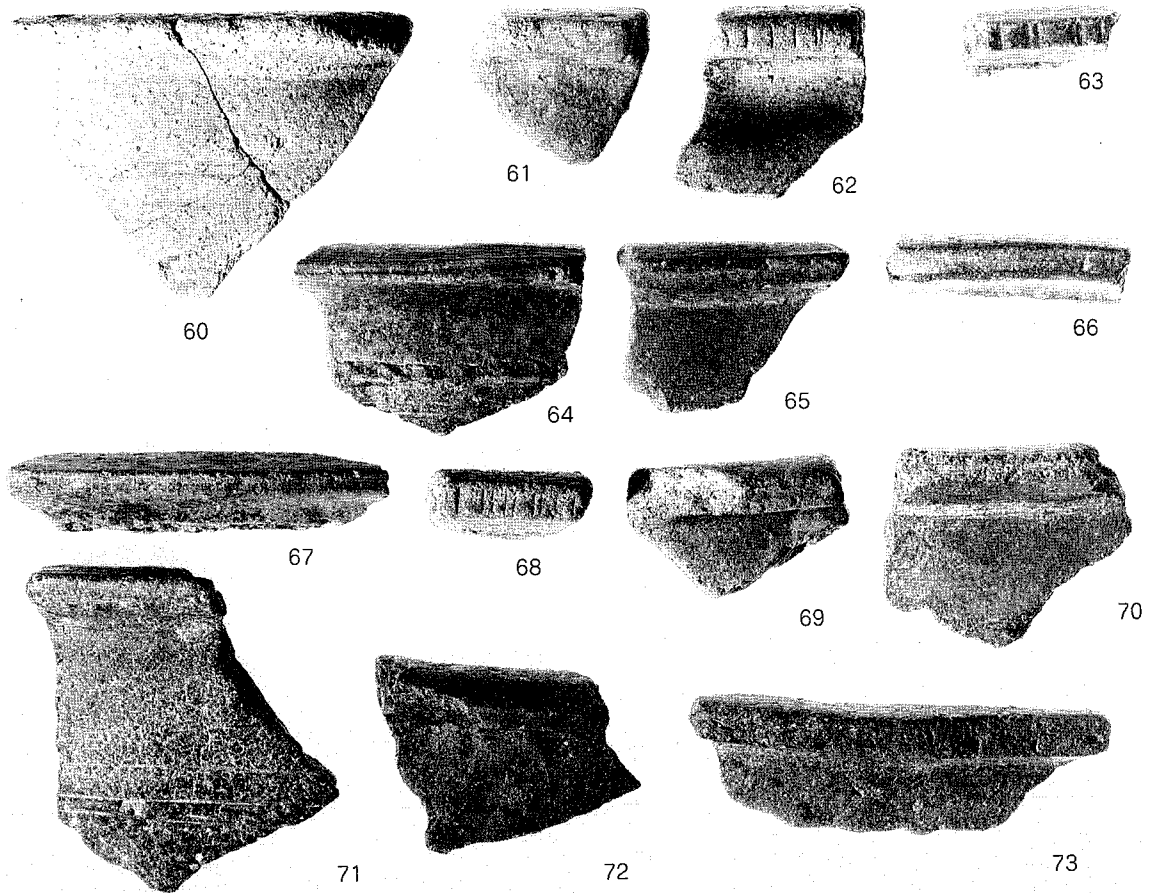
2 SD6出土遺物



3 SD7出土遺物

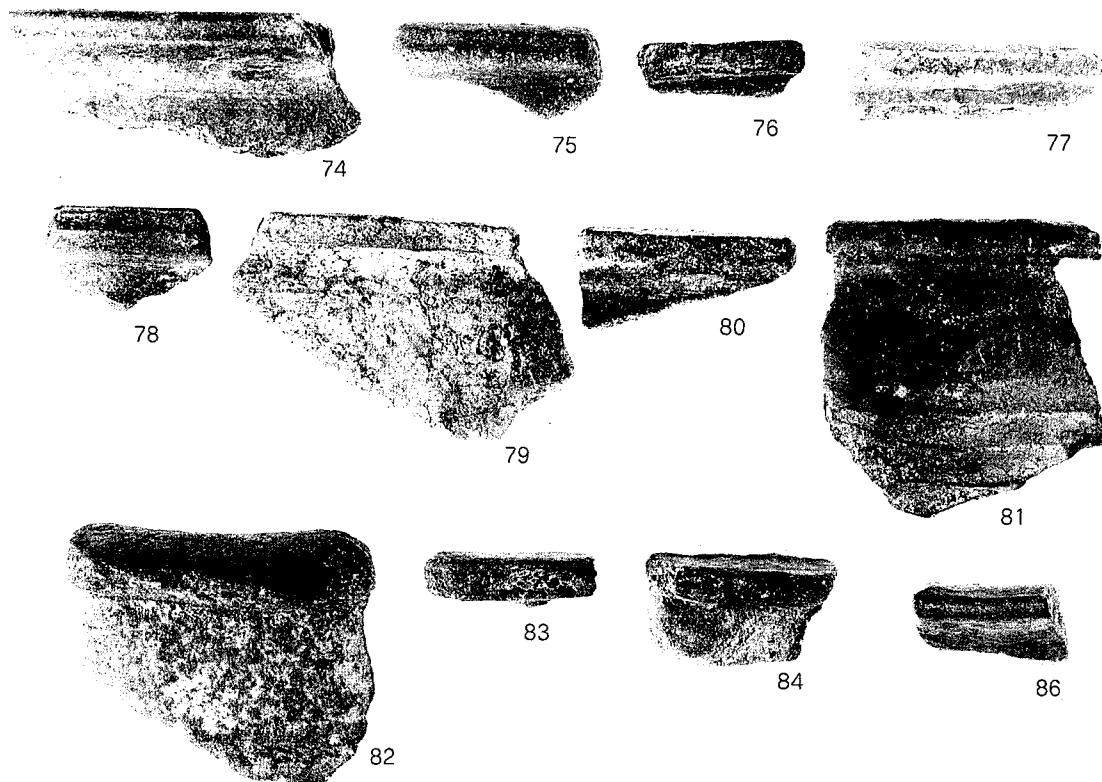


1 RI1 木杭列出土遺物

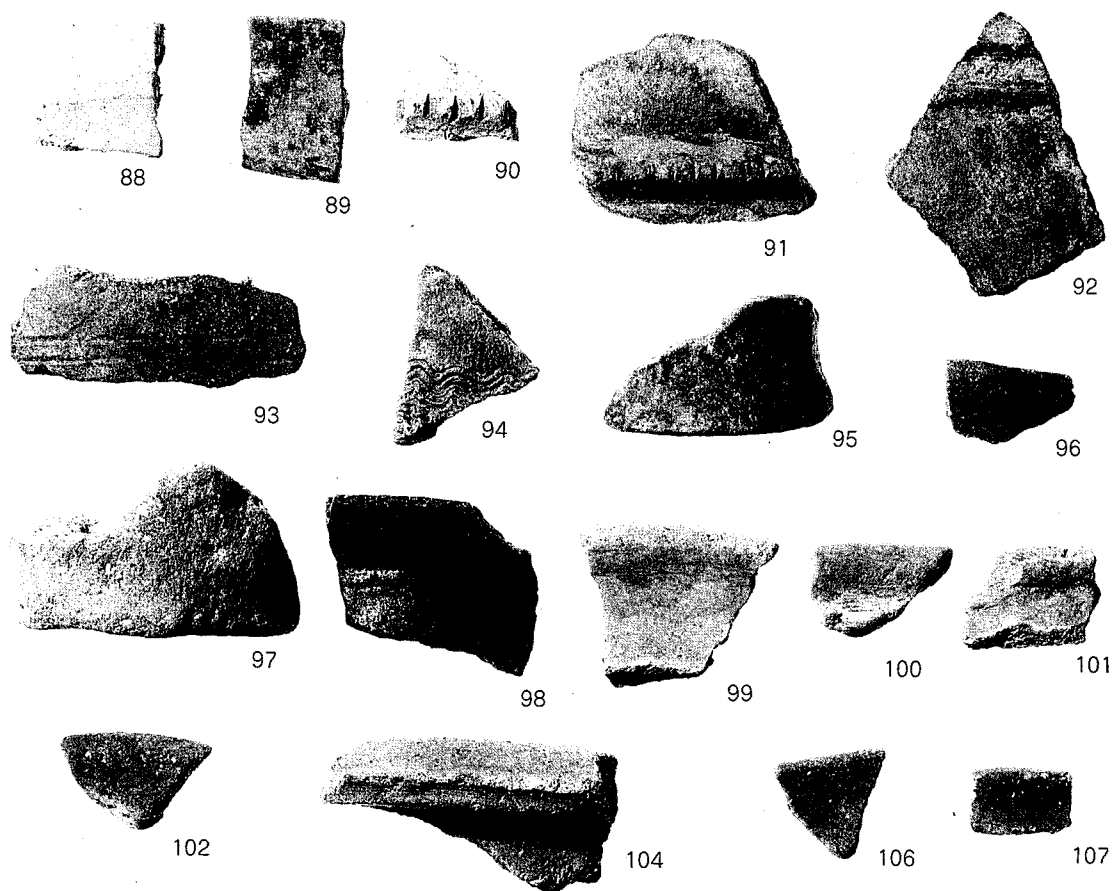


2 RI1 木杭列出土遺物

PL. 27 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（20）



1 RI1木杭列出土遺物

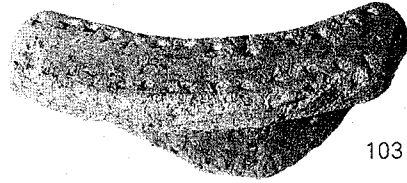


2 RI1木杭列出土遺物

PL. 28 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（21）

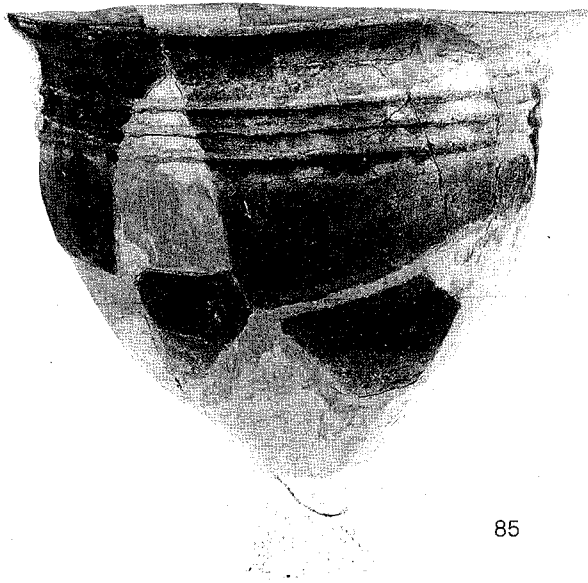


105

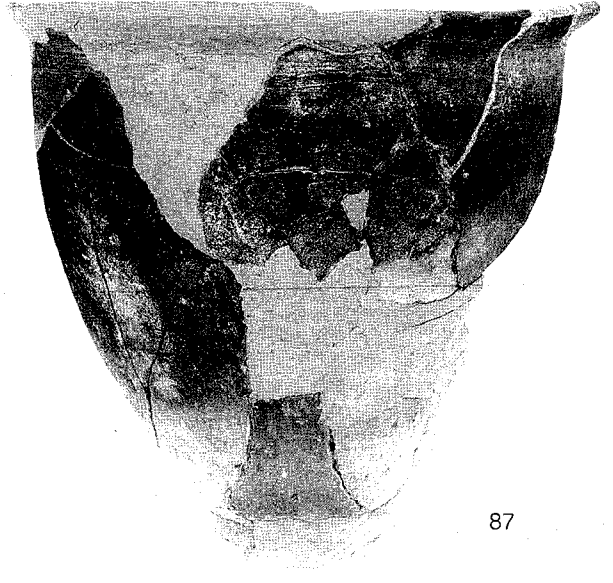


103

1 RI1 木杭列出土遺物



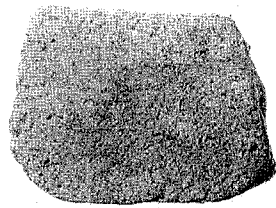
85



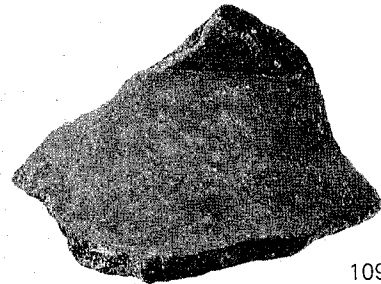
87

2 RI1 木杭列出土遺物

3 RI1 木杭列出土遺物



108



109



110



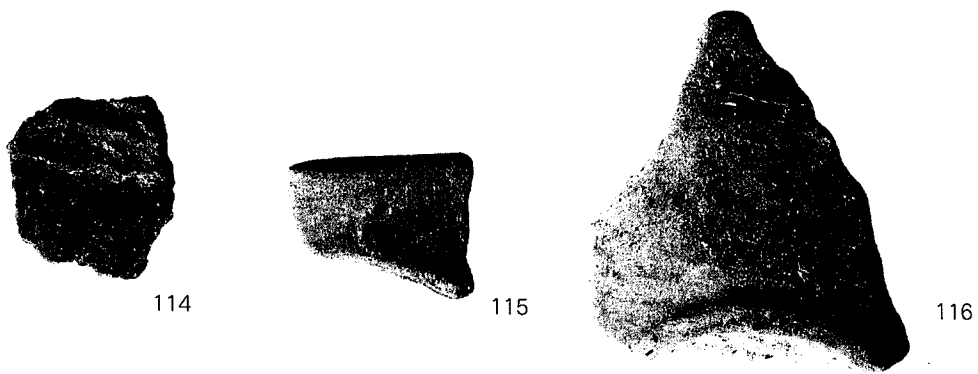
111



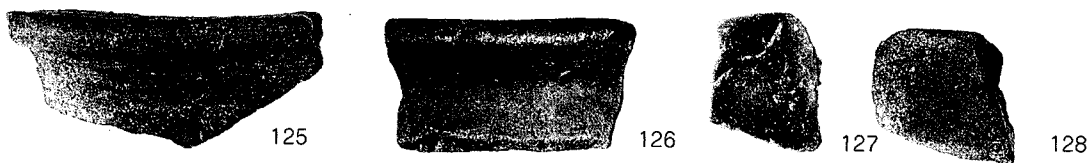
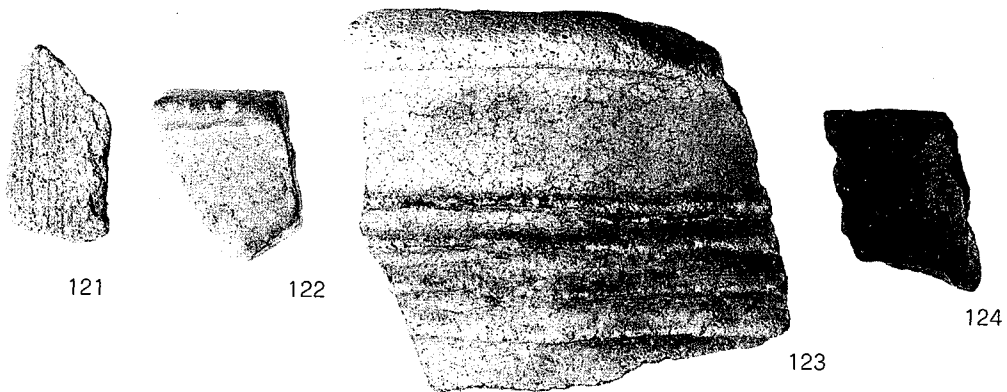
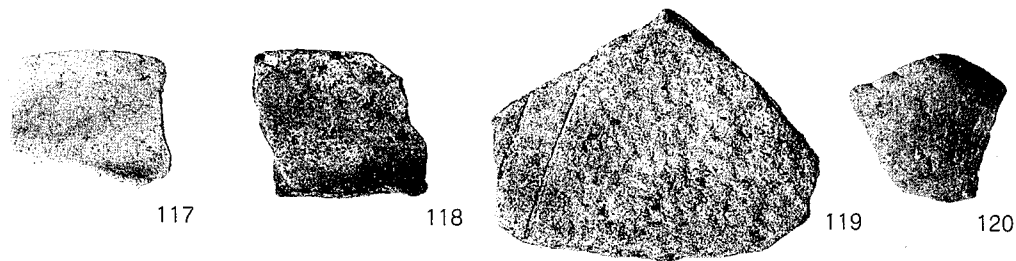
113

4 RI1 木杭列出土遺物

PL. 29 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（22）



1 RI1内SK3出土遺物



2 RI1ベルト1出土遺物

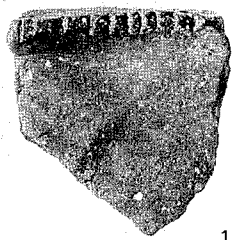


120 3 RI1ベルト1出土遺物 (内面)



112

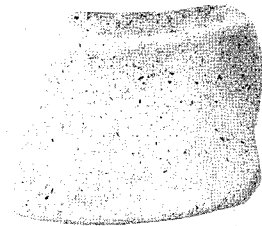
1 RI1木杭列出土遺物



129



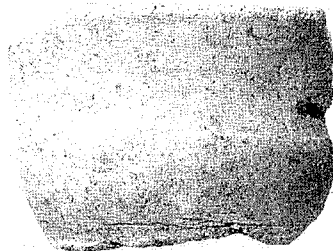
130



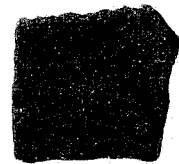
131



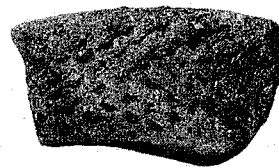
132



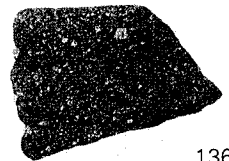
133



134



135



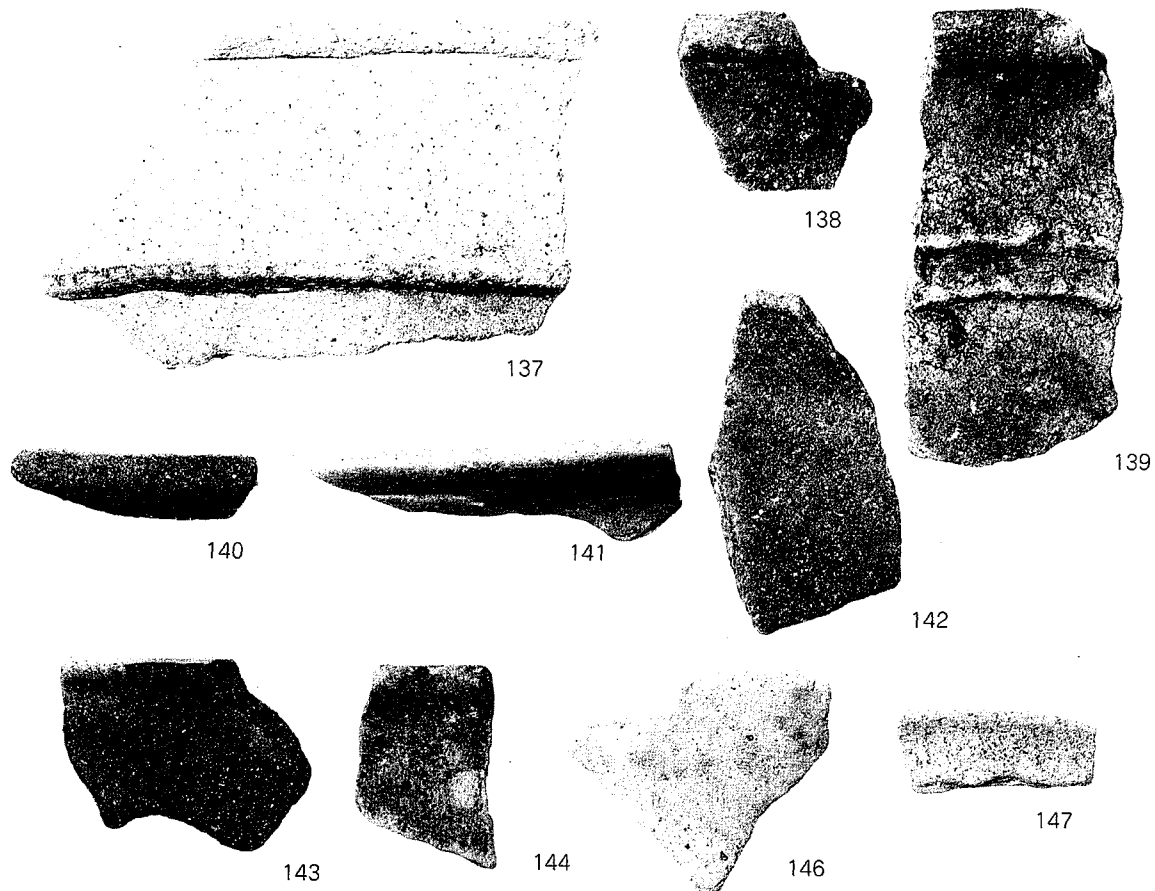
136

3 RI1ベルト1・2出土遺物

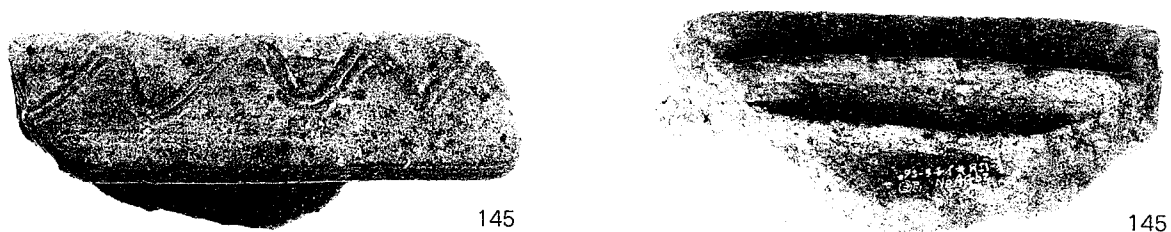


165

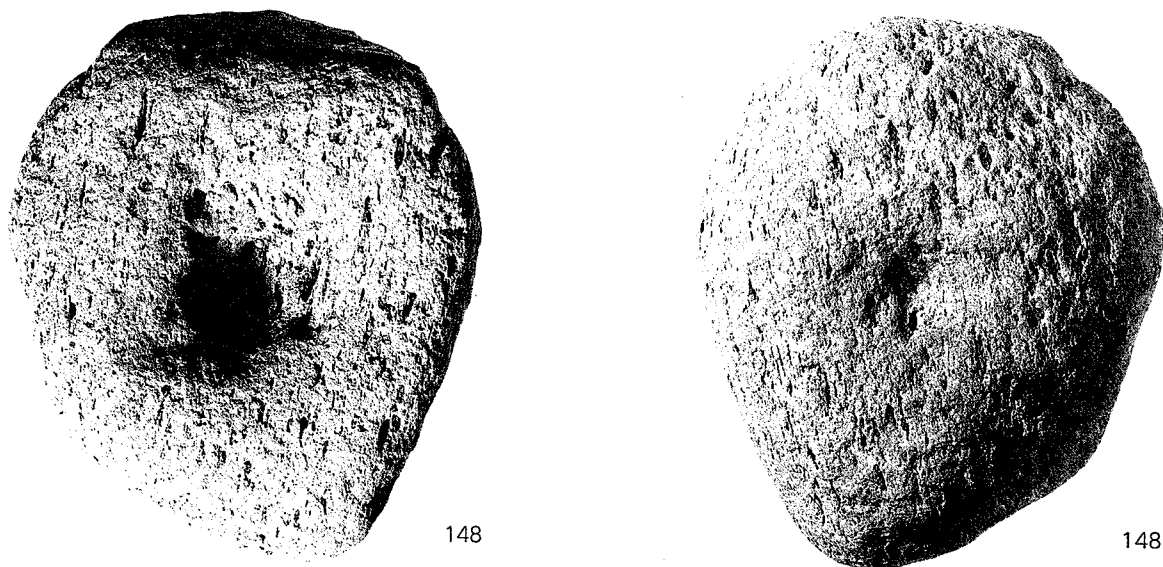
2 RI1ベルト2出土遺物



1 RI1ベルト2出土遺物

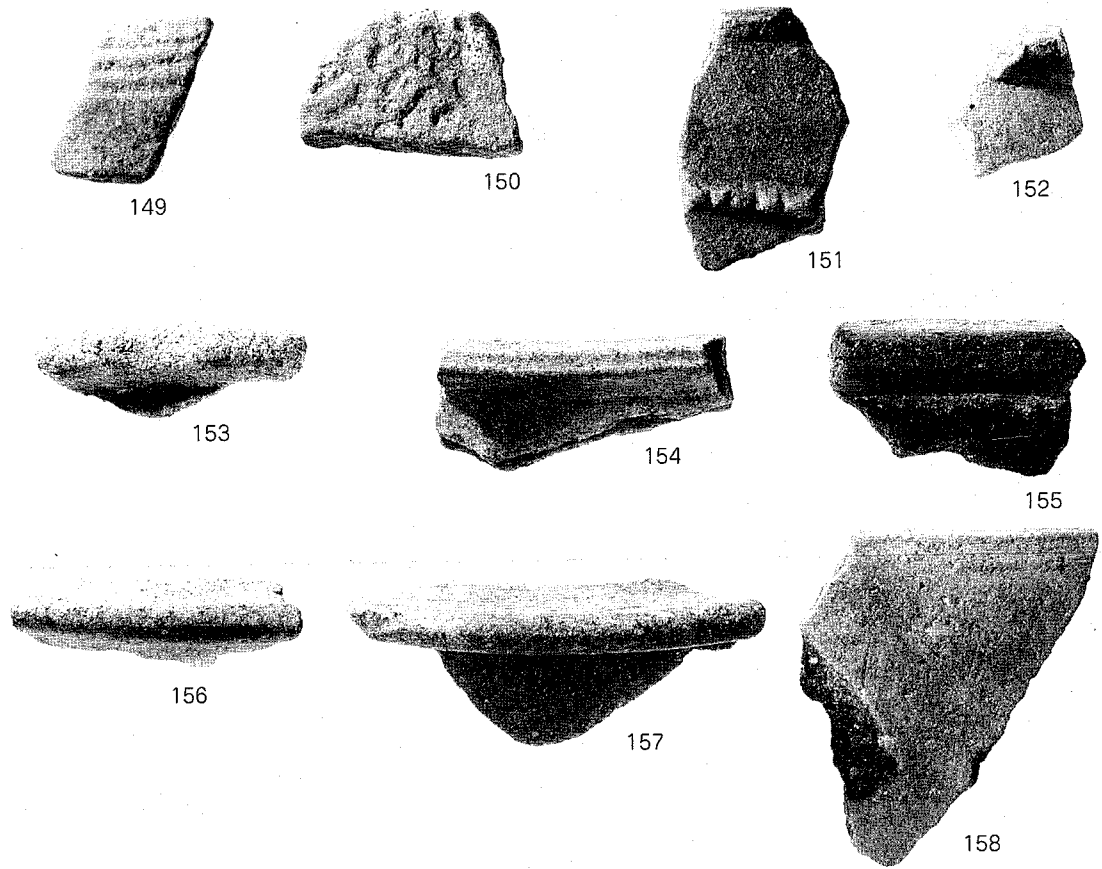


2 RI1ベルト2出土遺物（左：外面，右：内面）

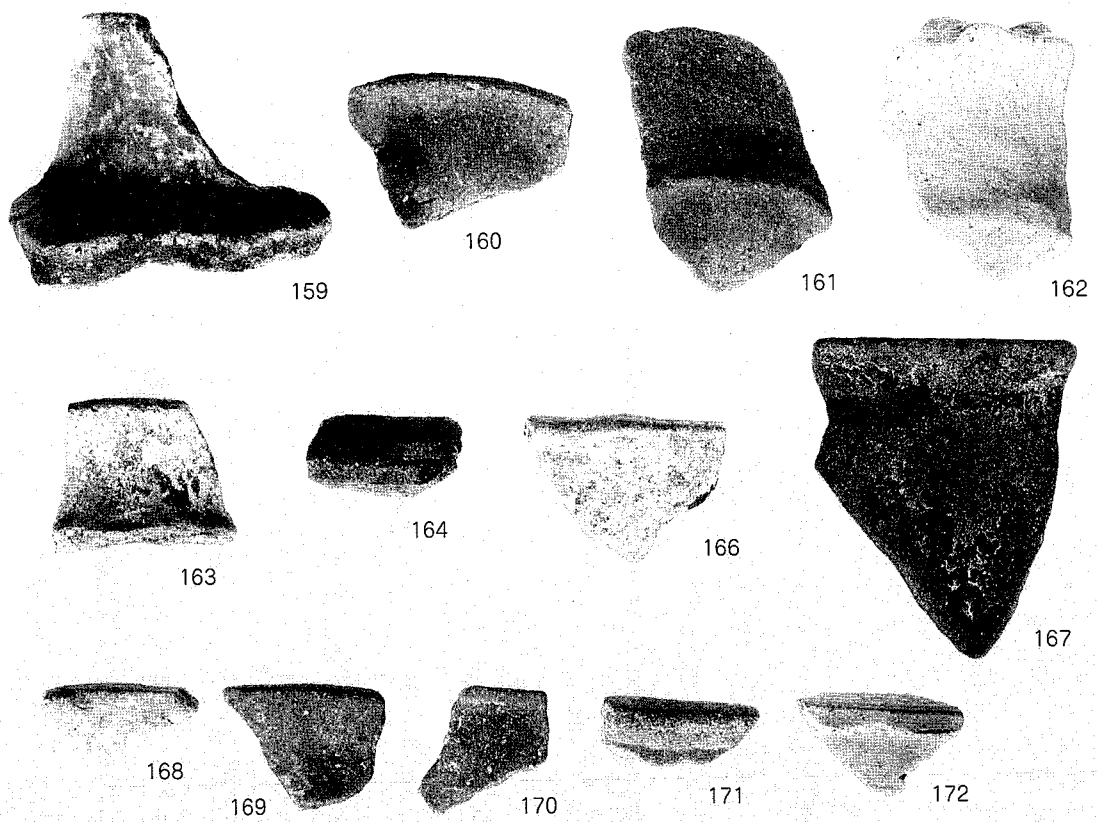


3 RI1ベルト2出土遺物（左：表，右：裏）

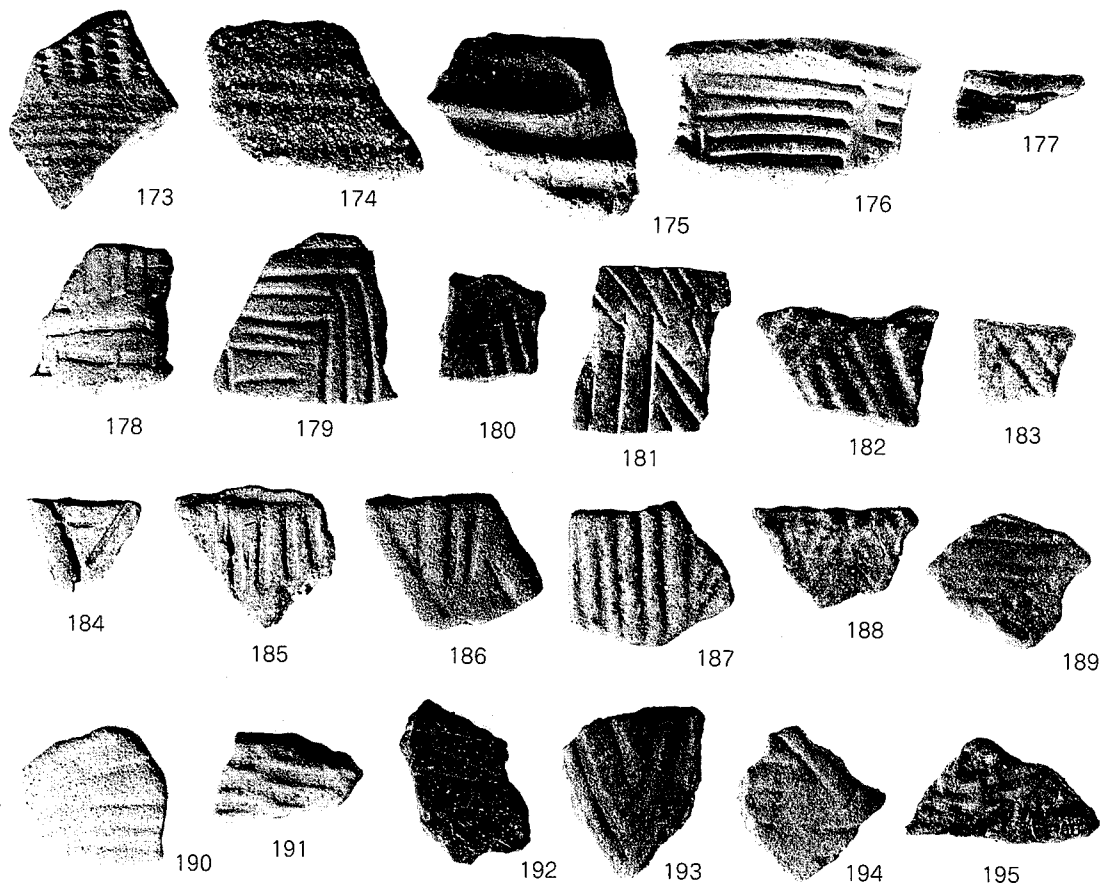
PL. 32 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（25）



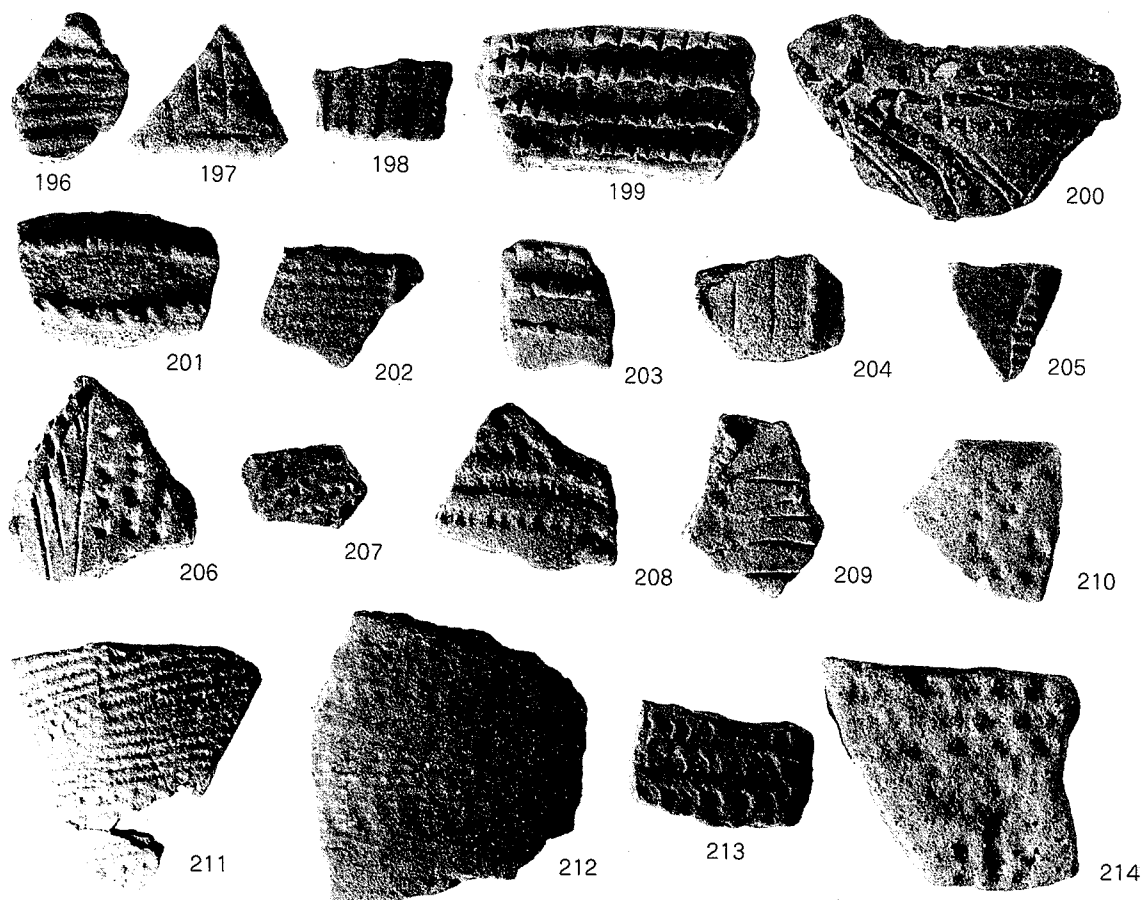
1 RI1ベルト2出土遺物



2 RI1ベルト2・3出土遺物

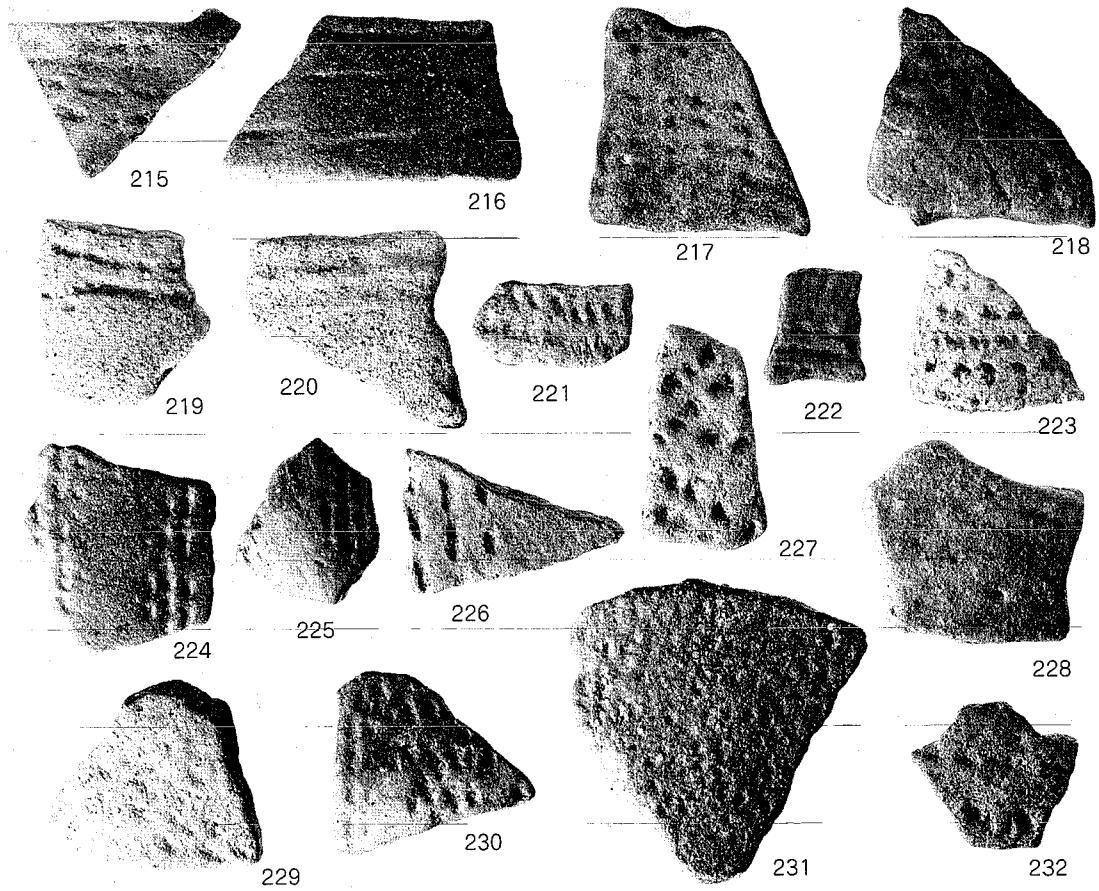


1 R11出土遺物

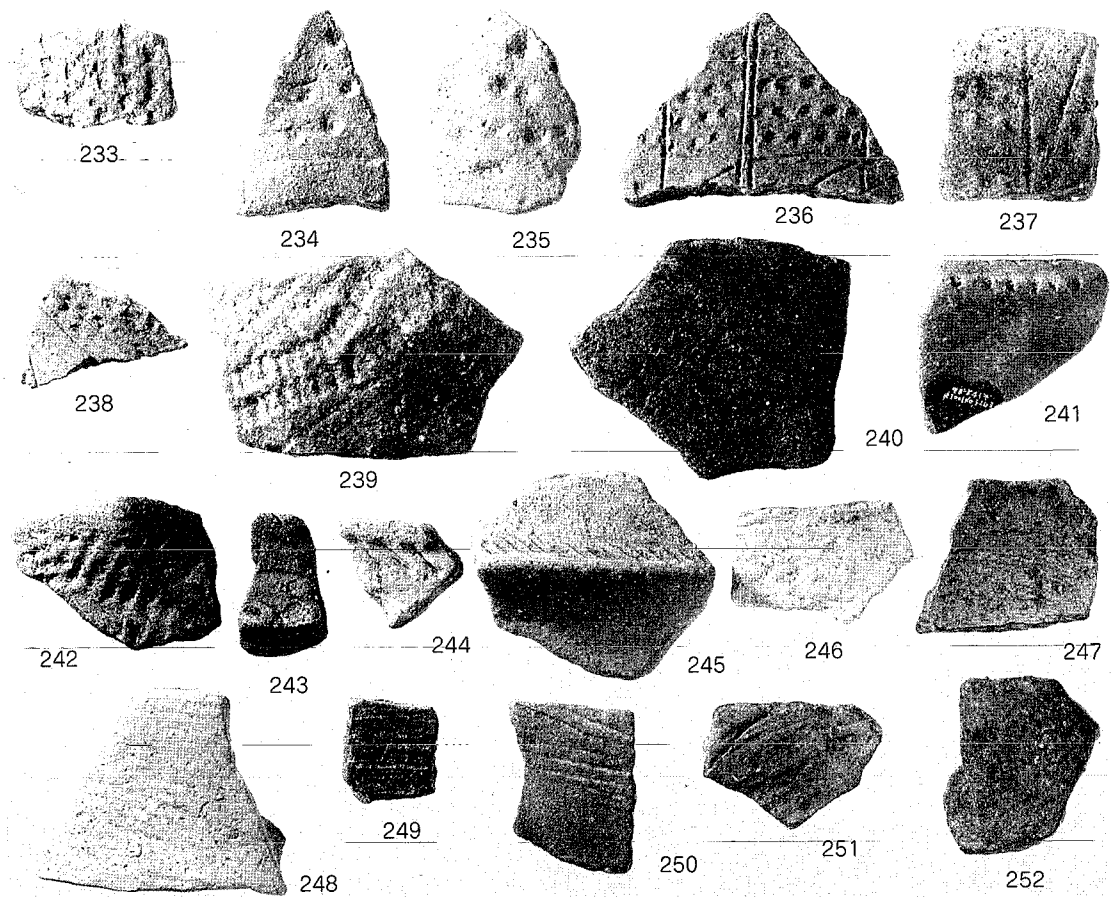


2 R11出土遺物

PL. 34 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（27）

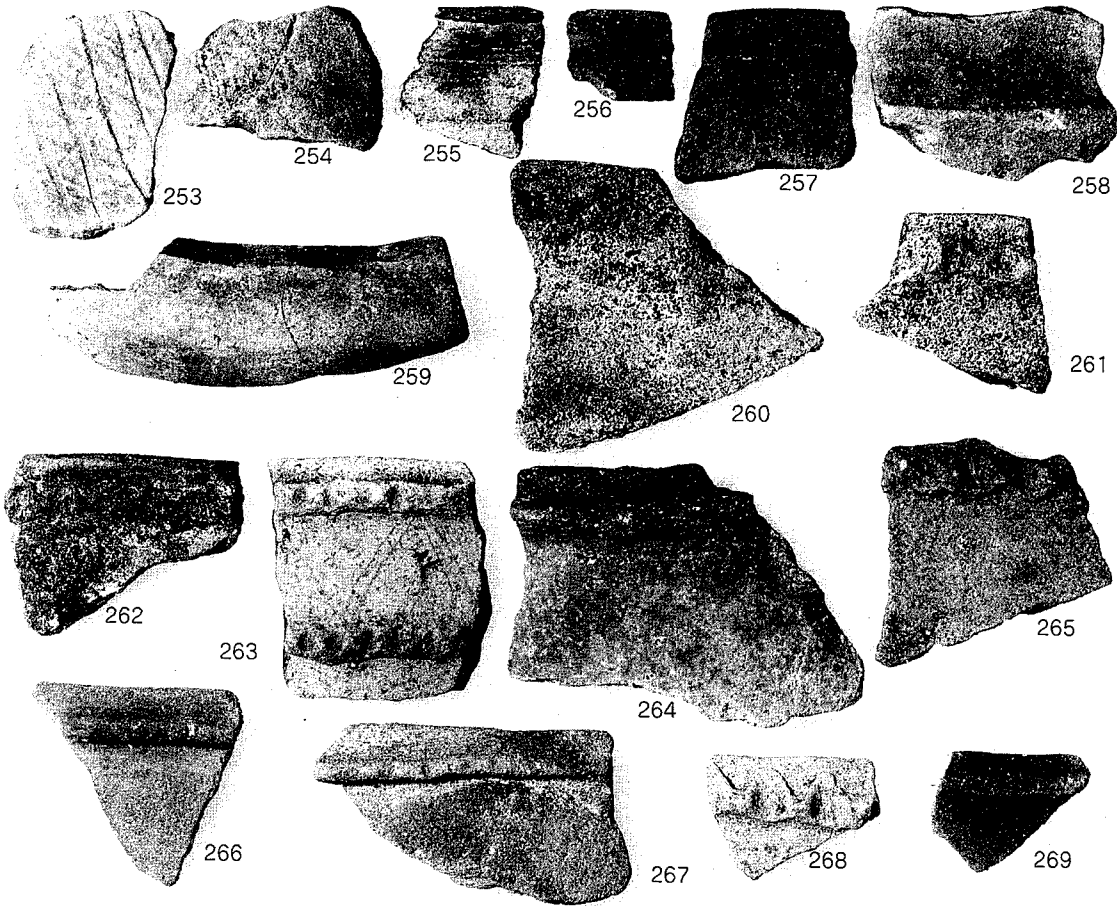


1 RI1出土遺物

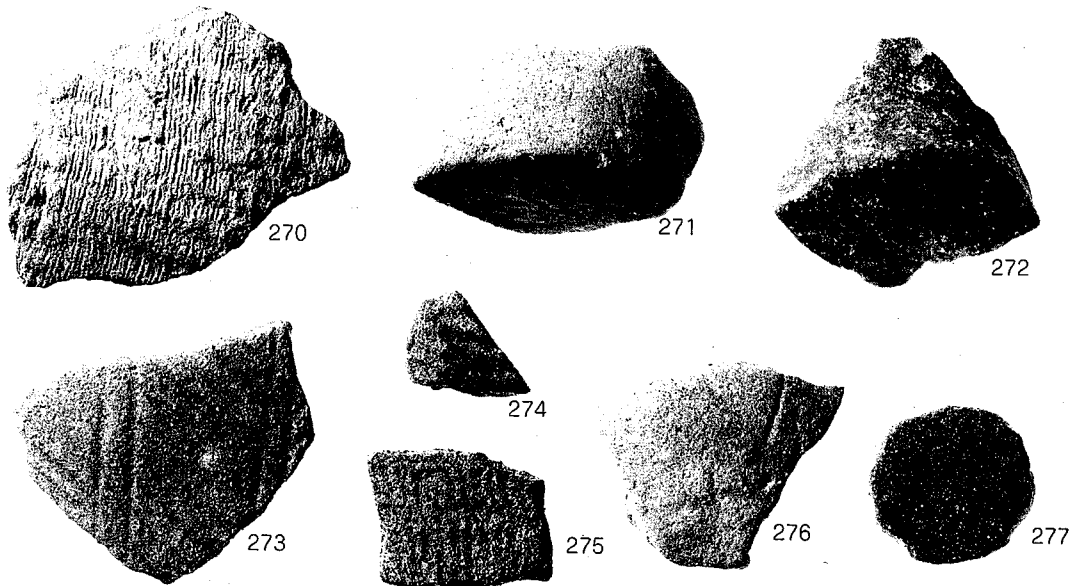


2 RI1出土遺物

PL. 35 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（28）

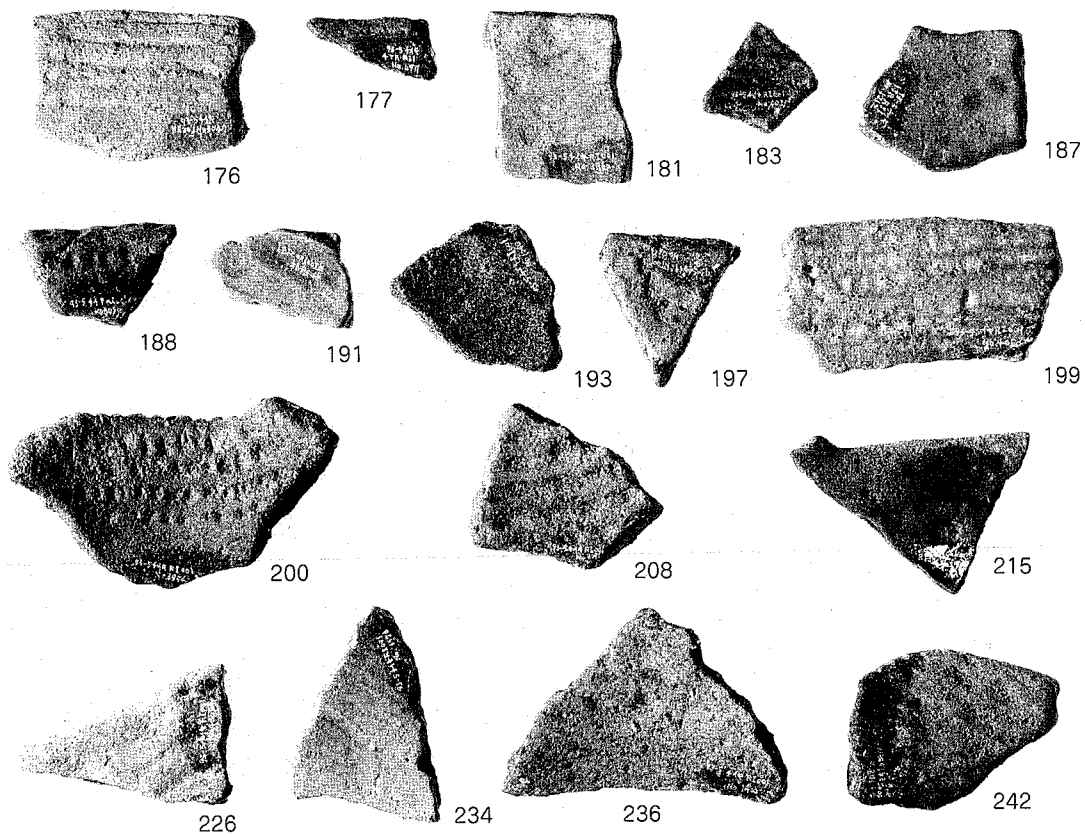


1 RI1出土遺物

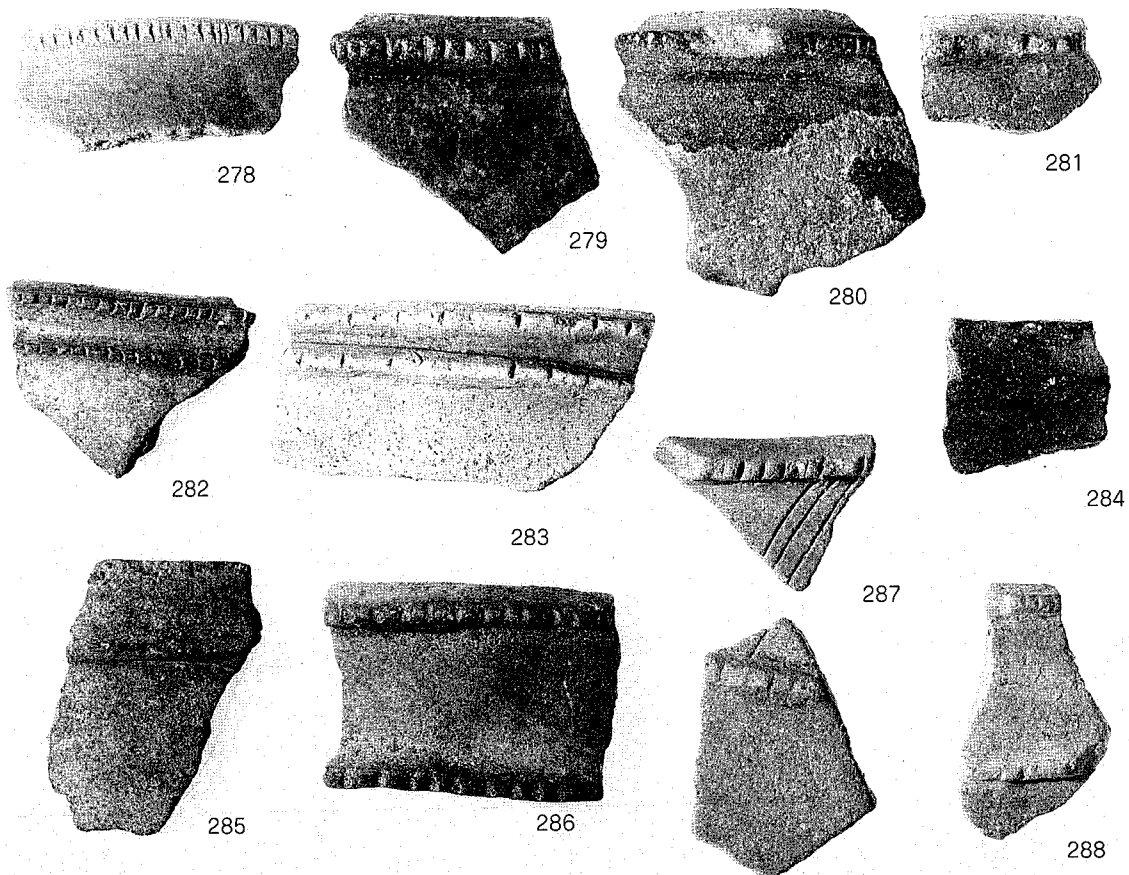


2 RI1出土遺物

PL. 36 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（29）

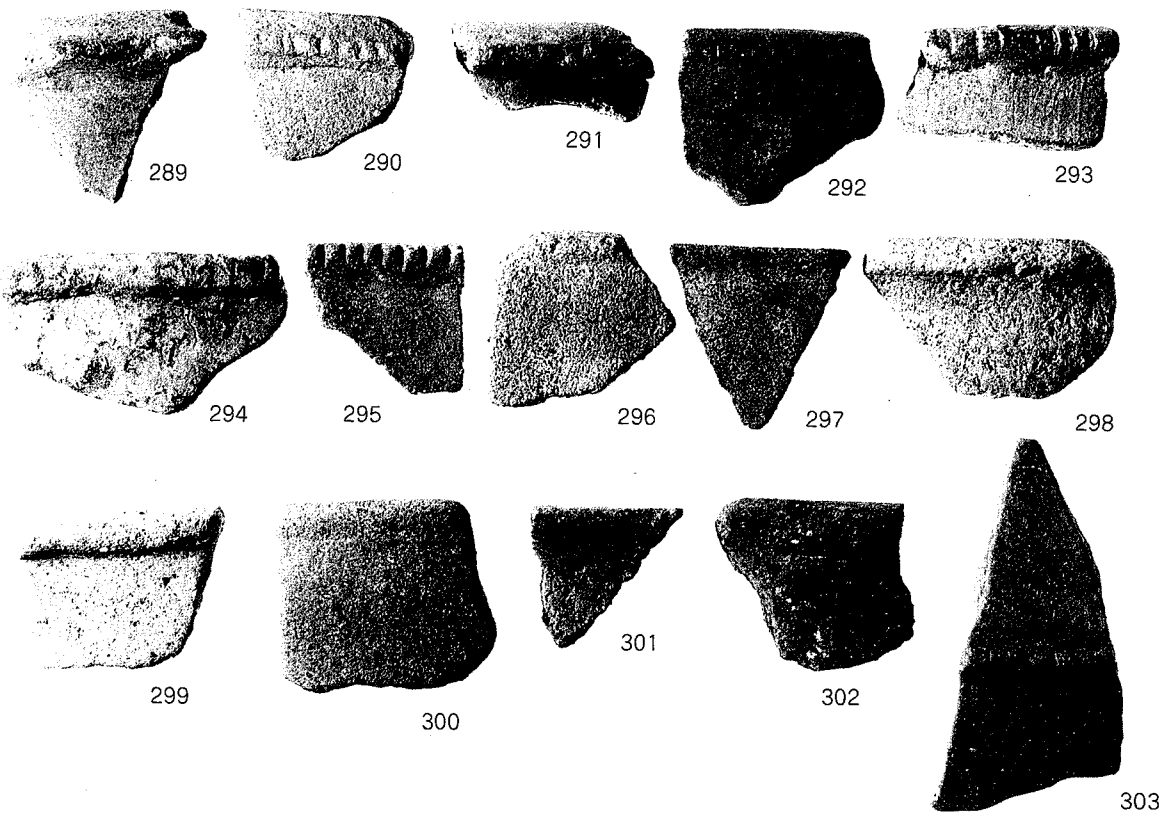


1 RI1出土遺物（内面）

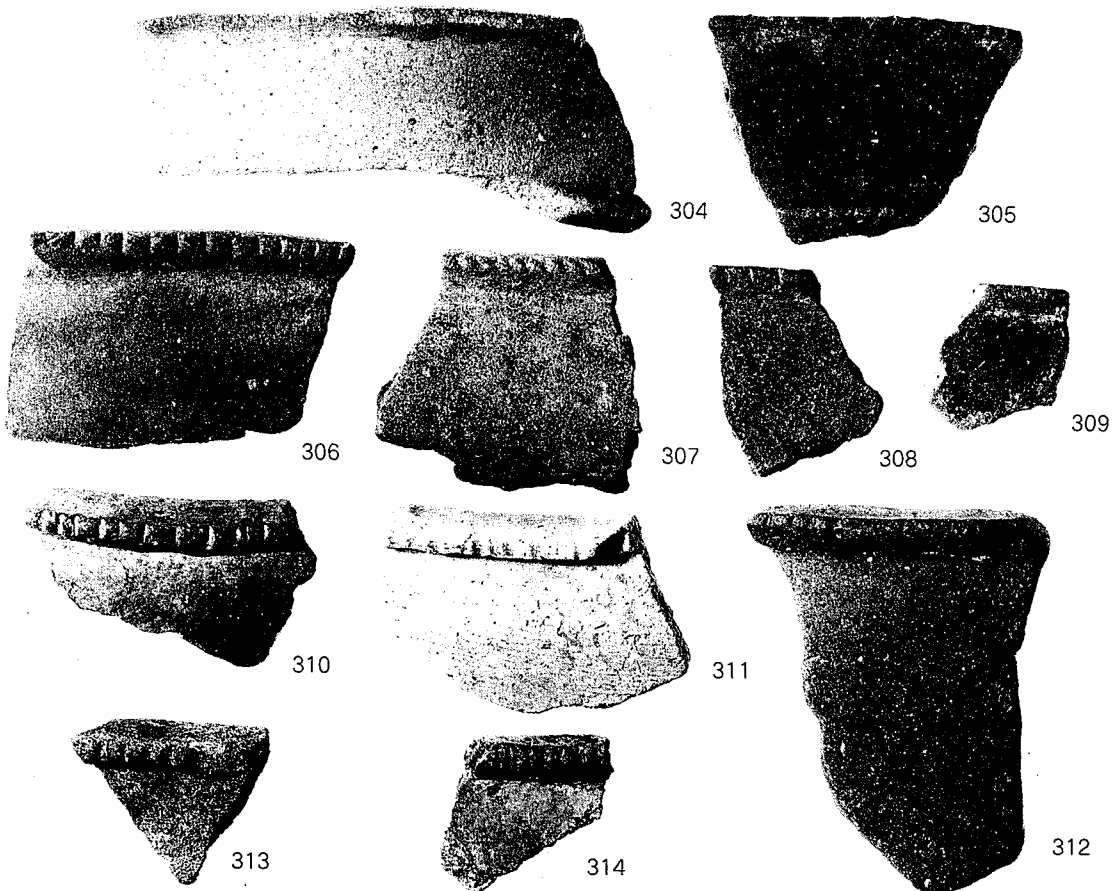


2 RI1出土遺物

PL. 37 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（30）

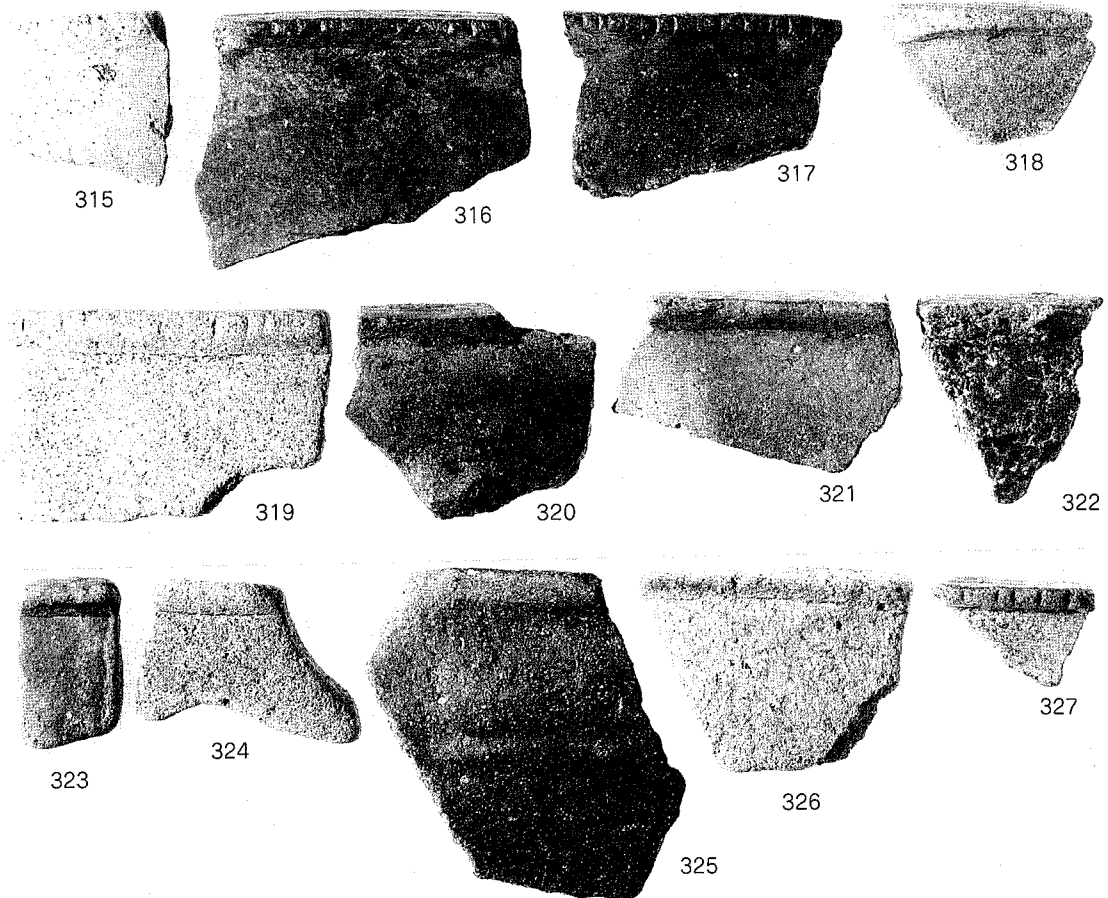


1 RI1出土遺物

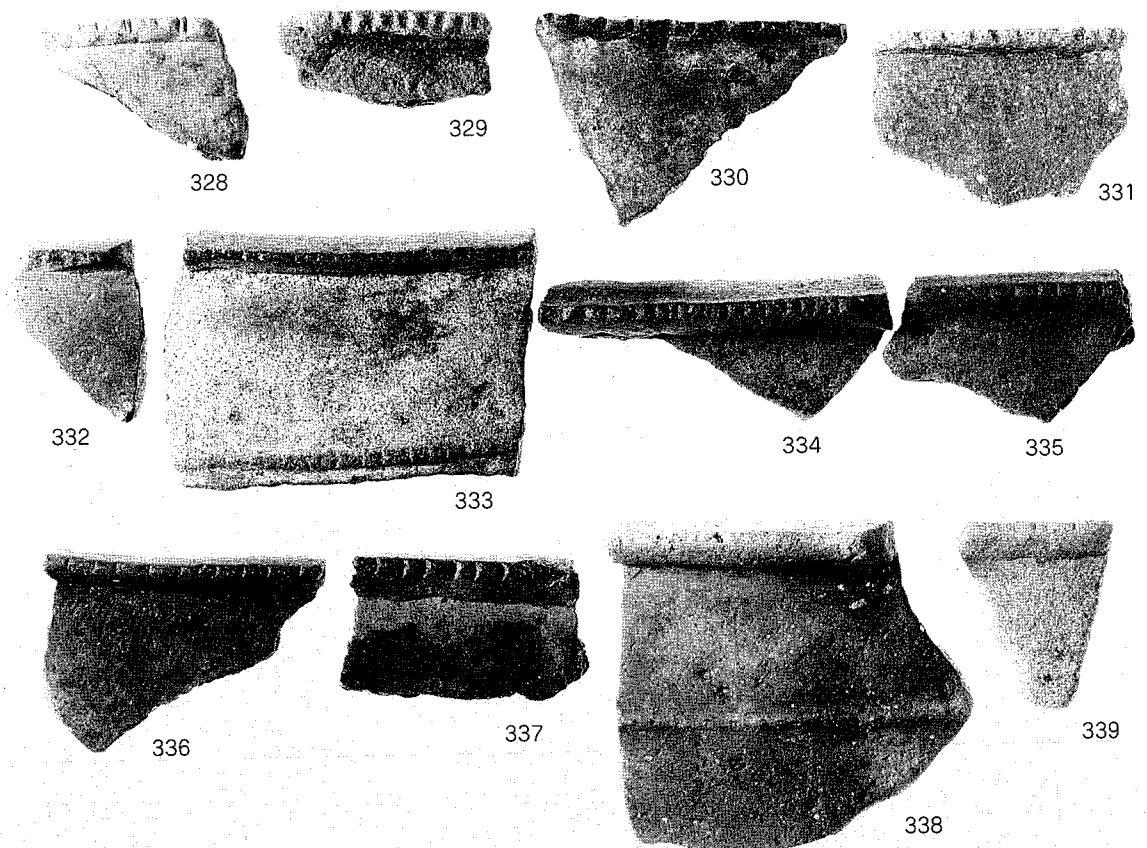


2 RI1出土遺物

PL. 38 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（31）

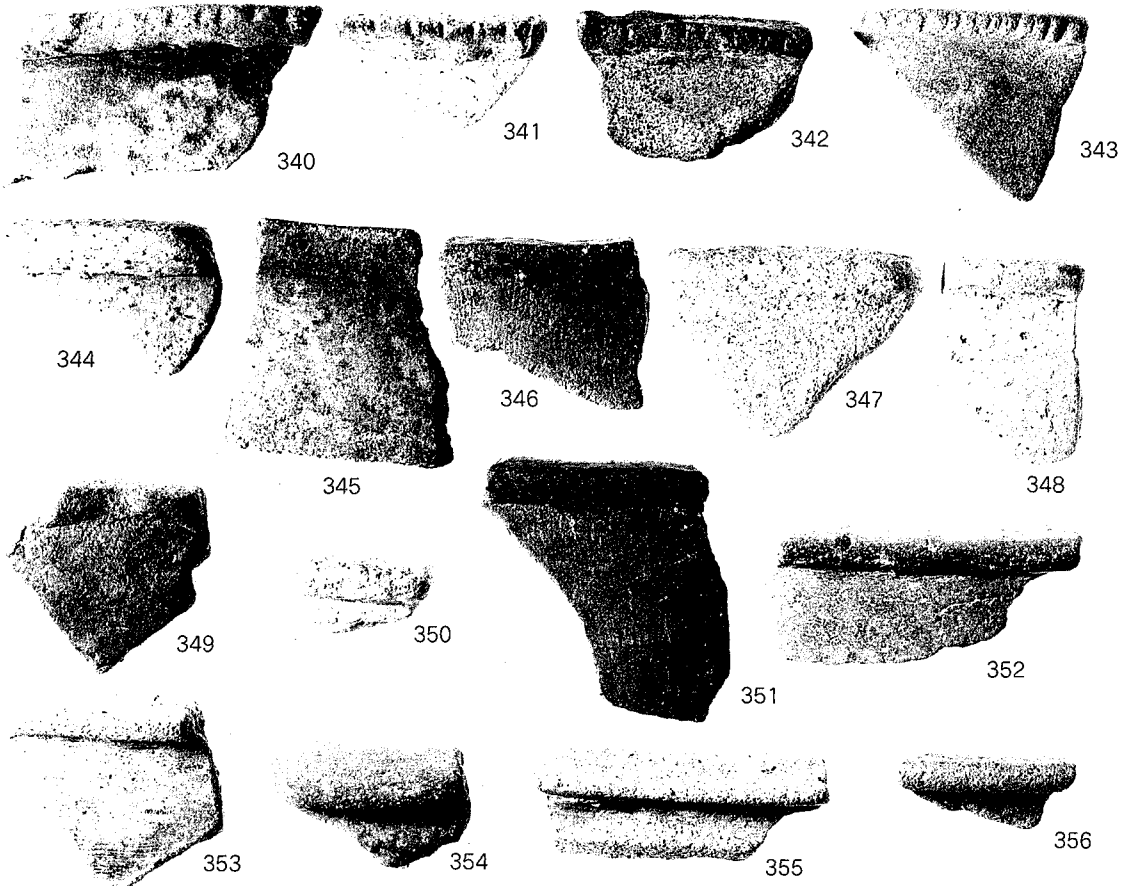


1 RI1出土遺物

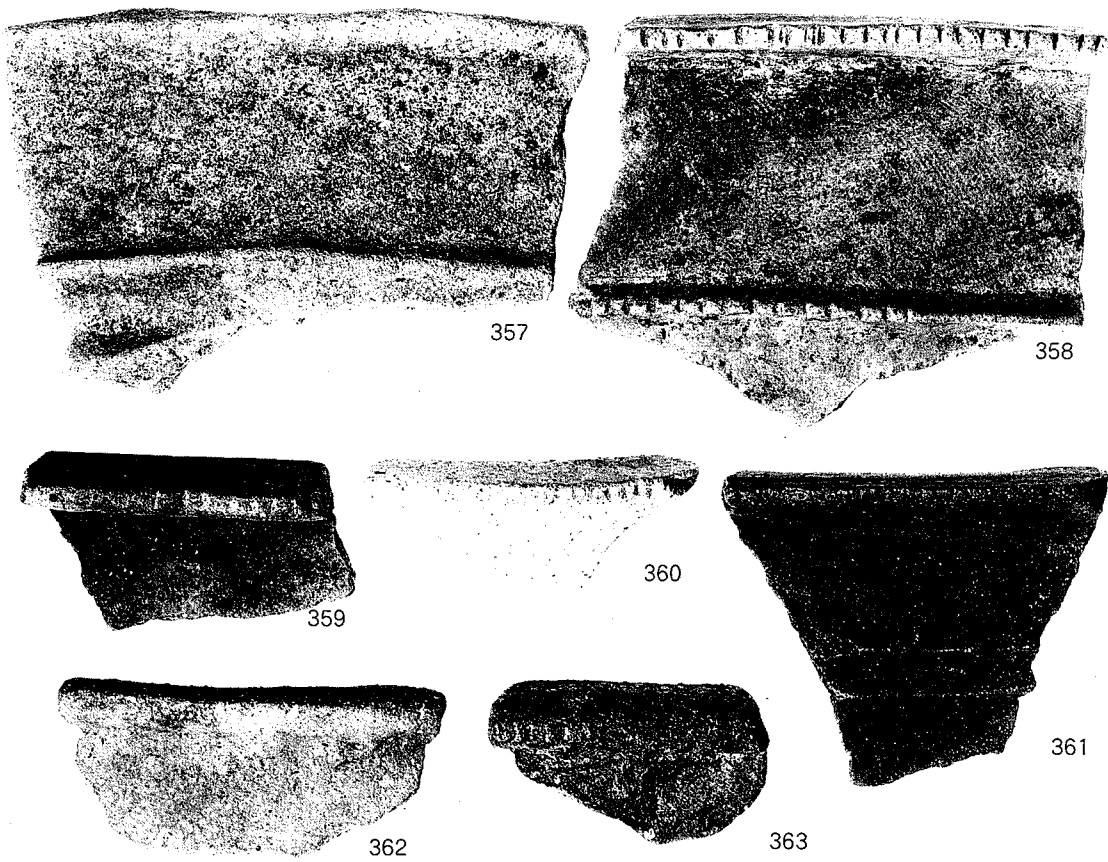


2 RI1出土遺物

PL. 39 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（32）

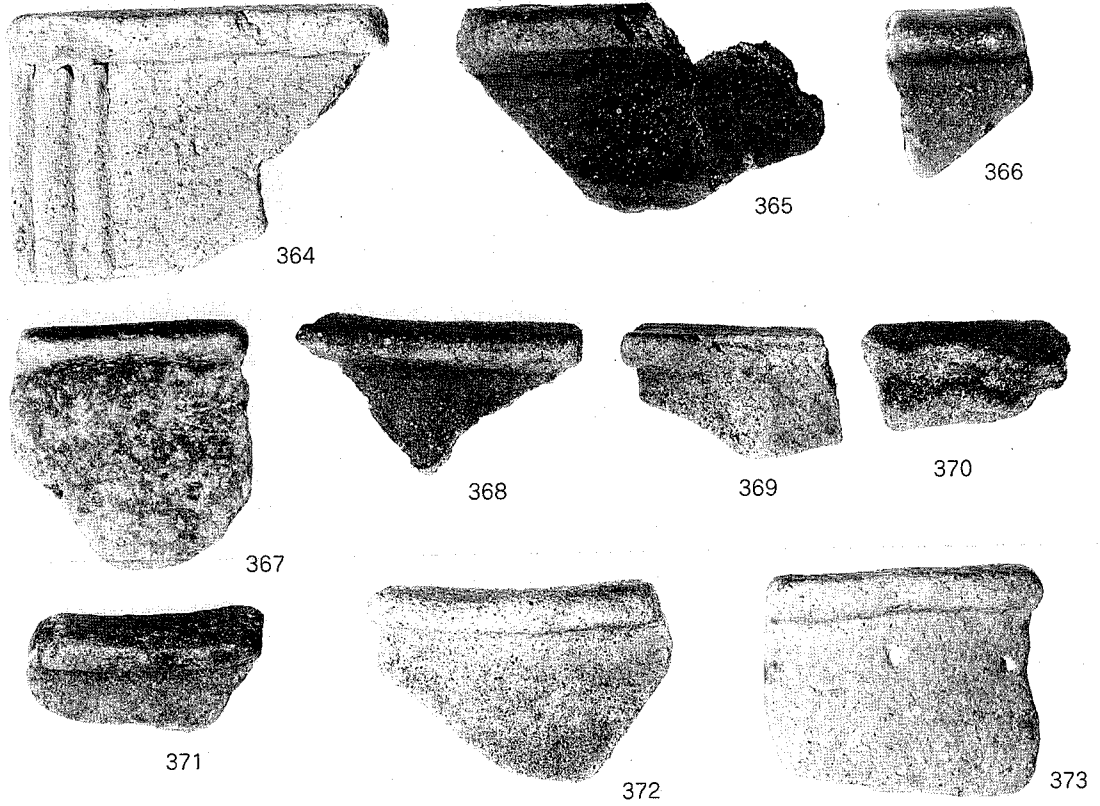


1 RI1出土遺物

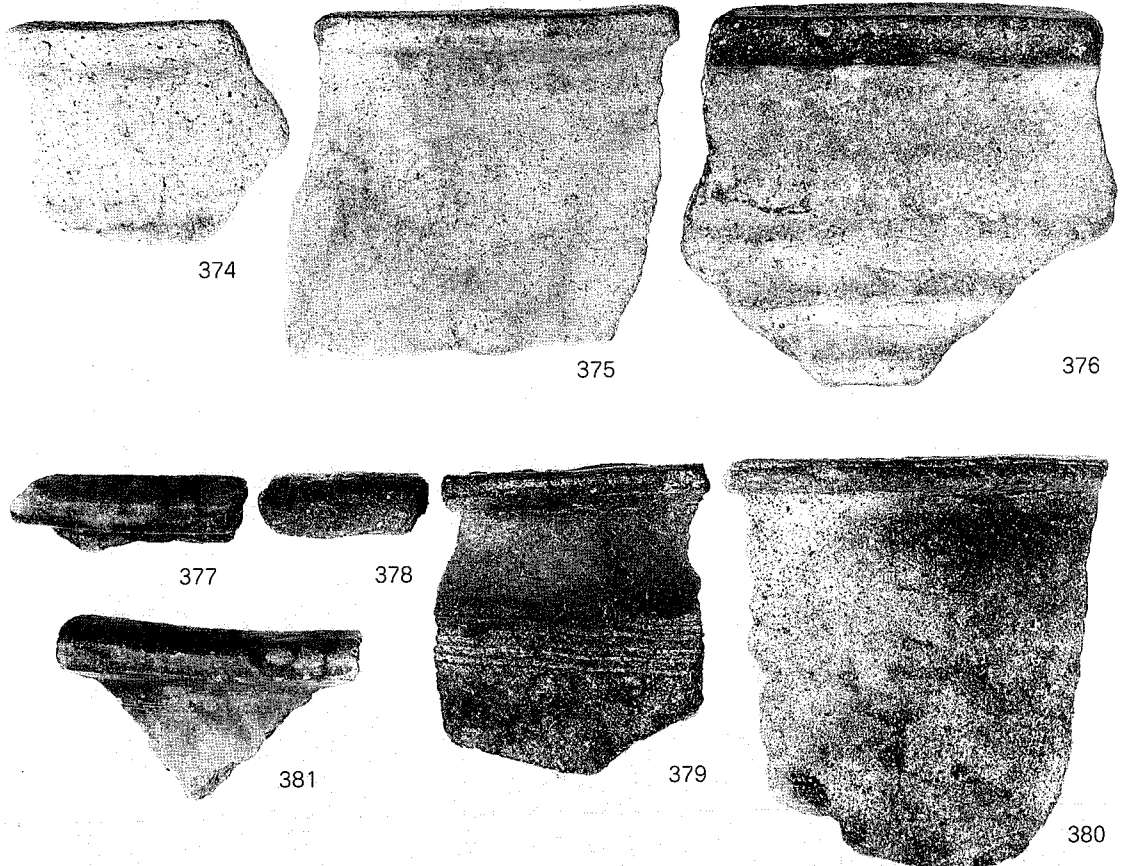


2 RI1出土遺物

PL. 40 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（33）

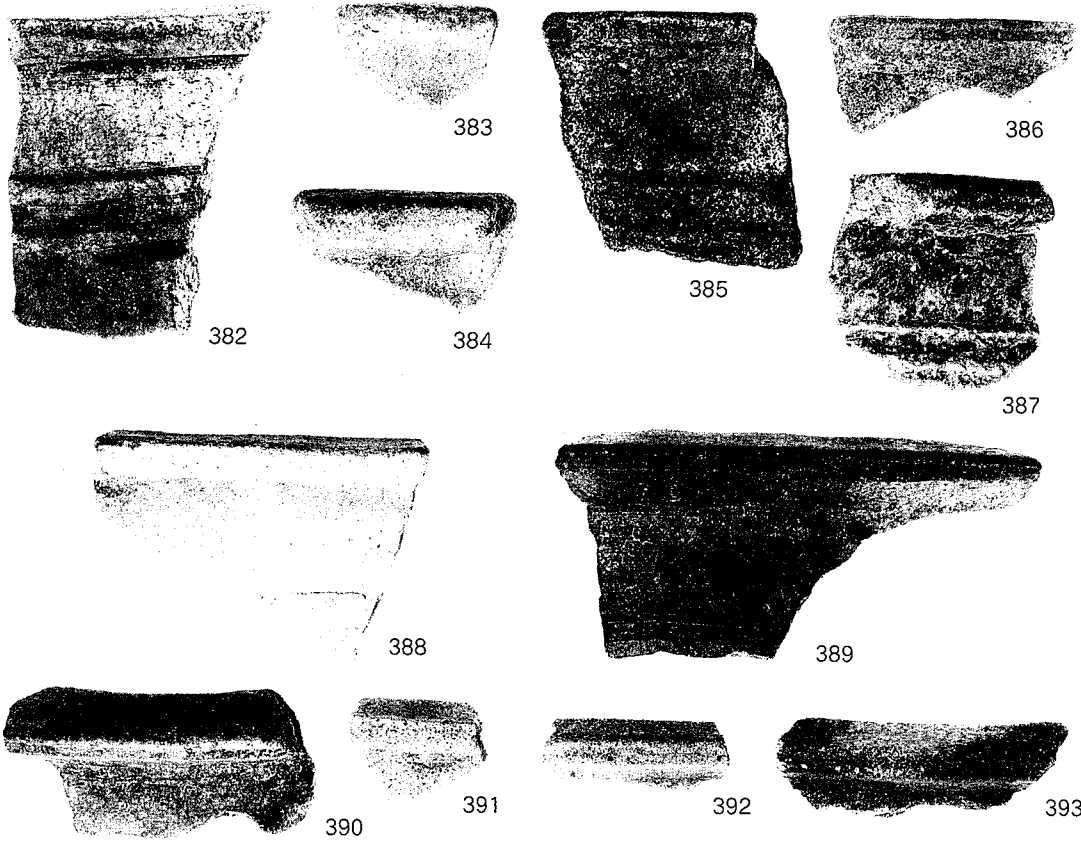


1 RI1出土遺物

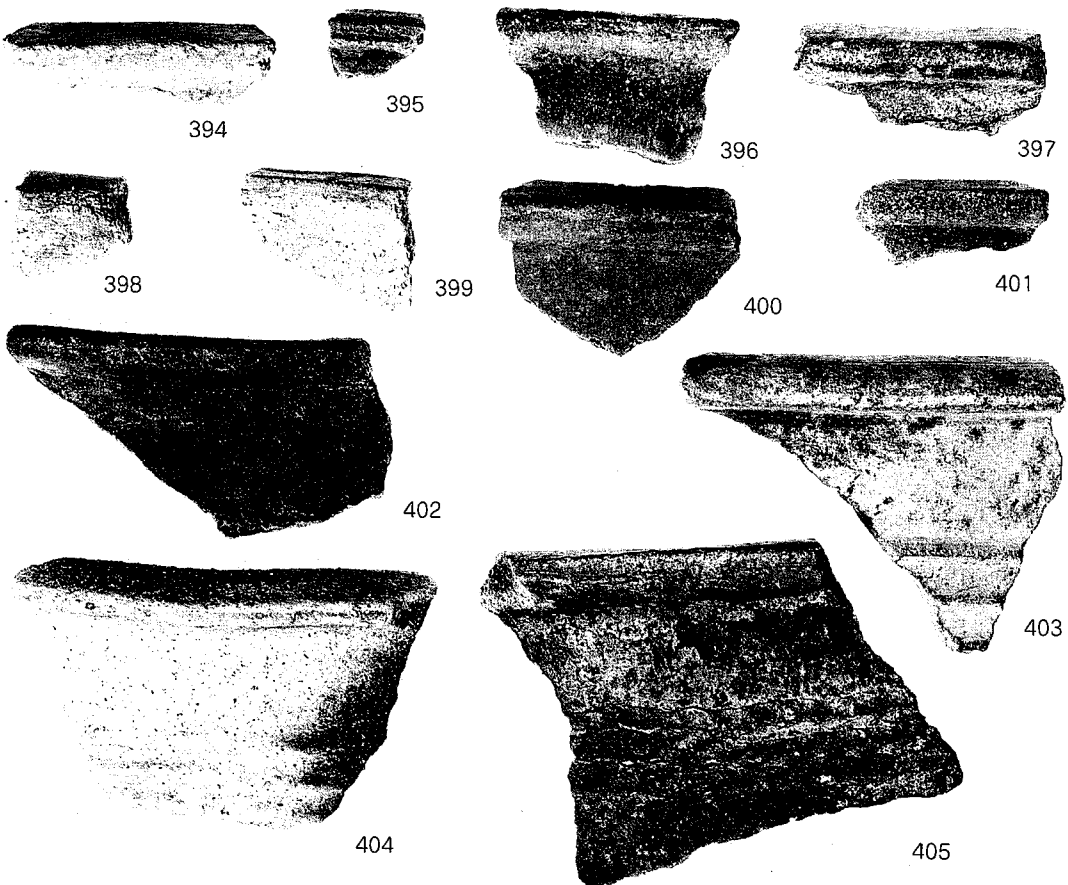


2 RI1出土遺物

PL. 41 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（34）

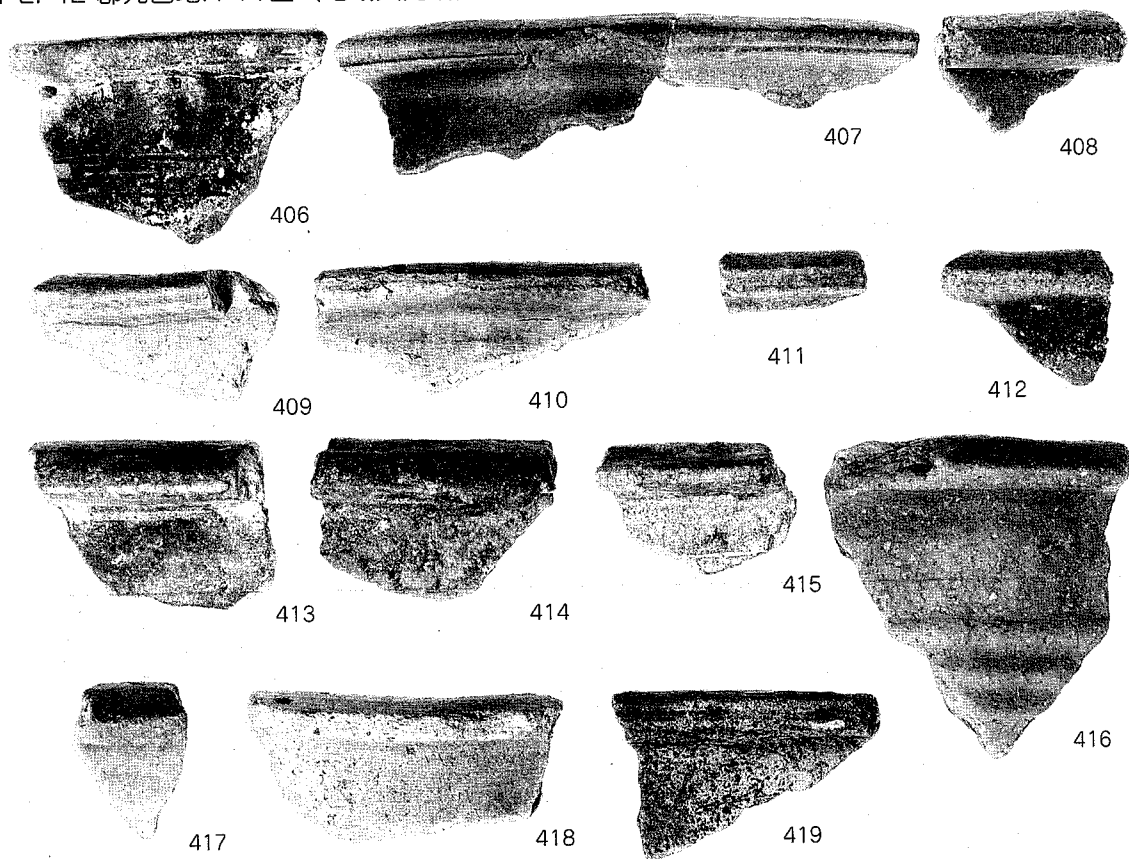


1 R11出土遺物

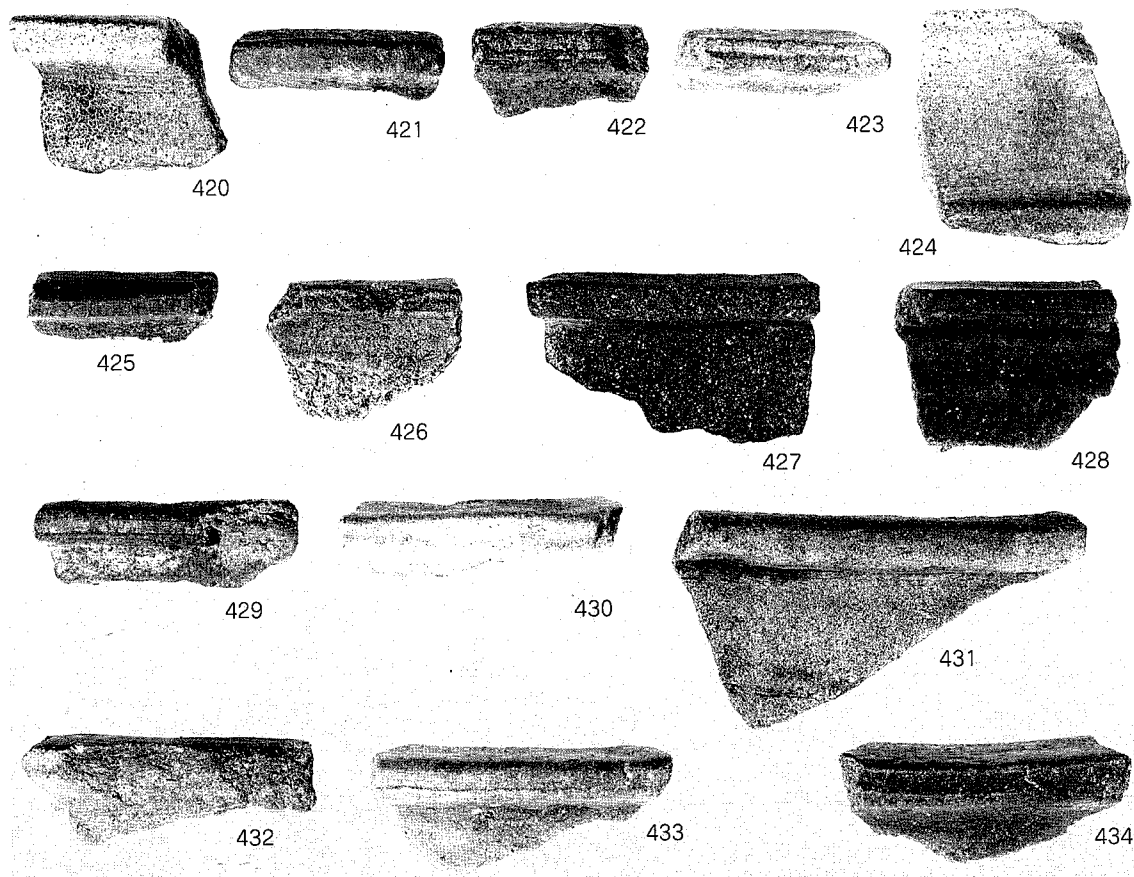


2 R11出土遺物

PL. 42 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（35）

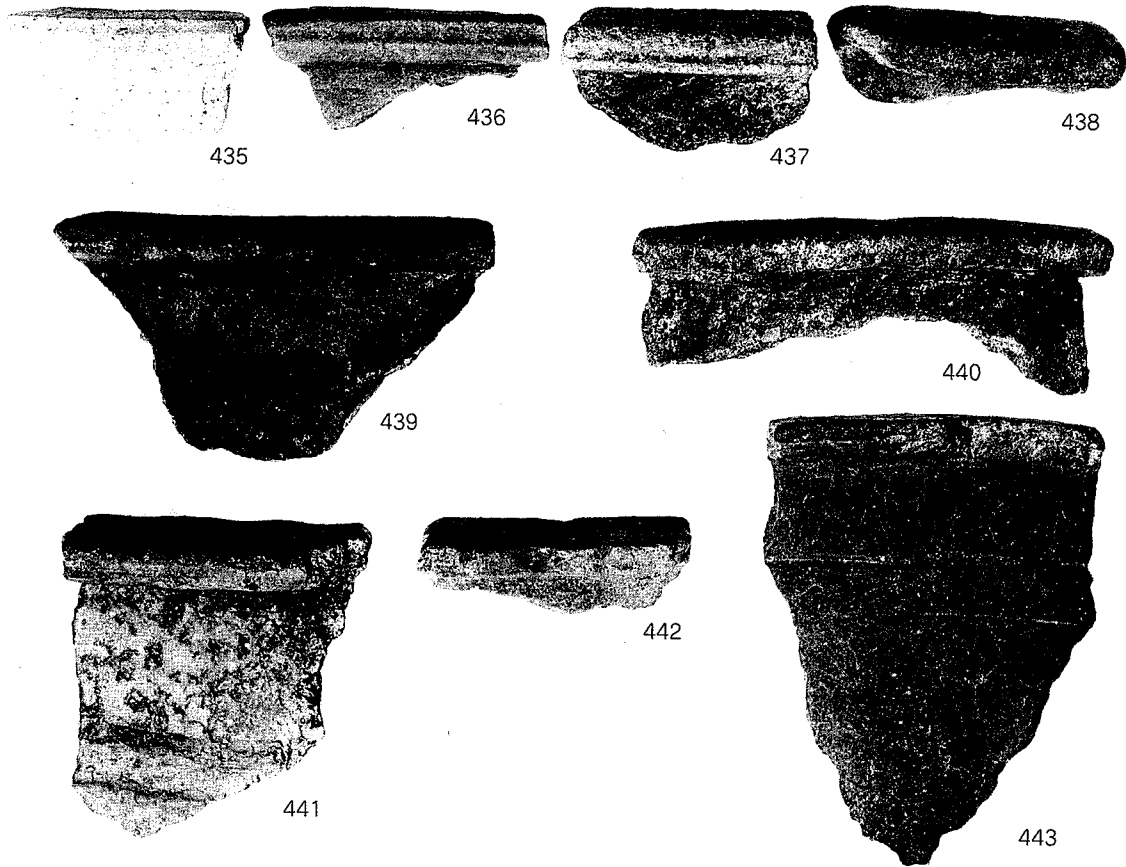


1 RI1出土遺物

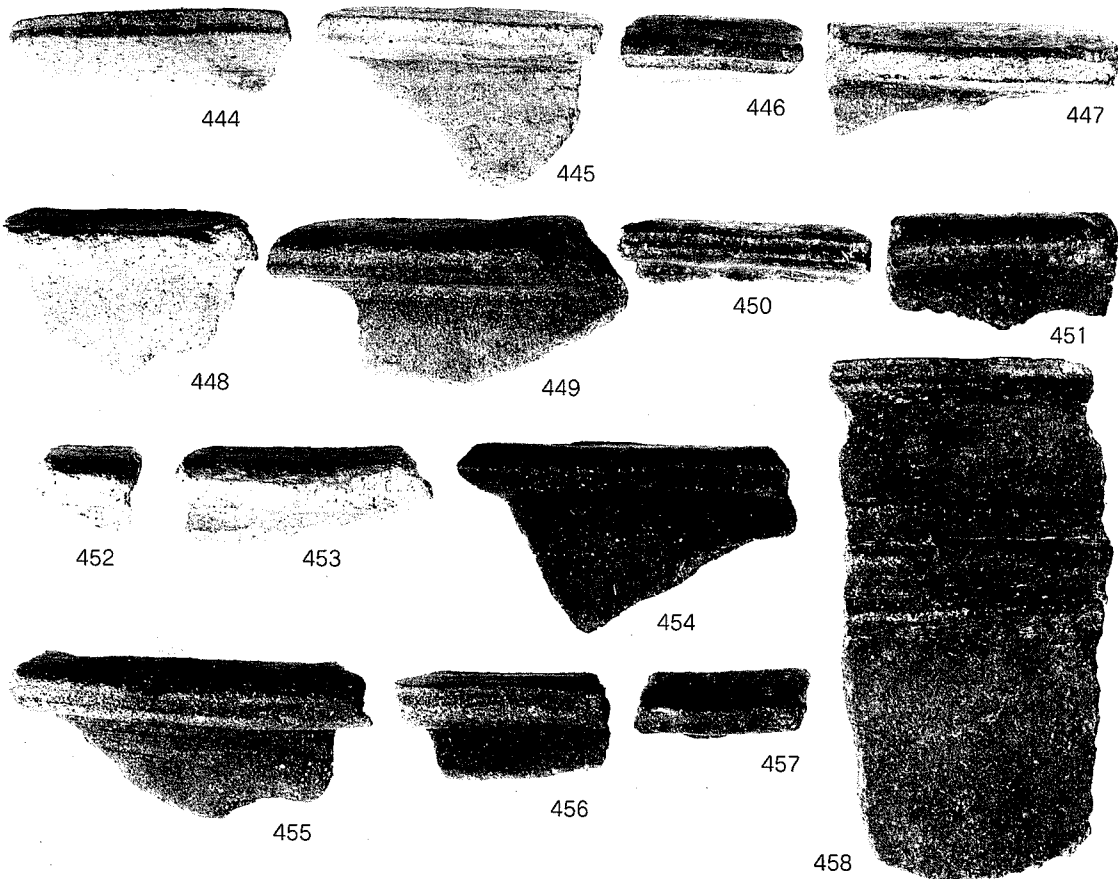


2 RI1出土遺物

PL. 43 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（36）

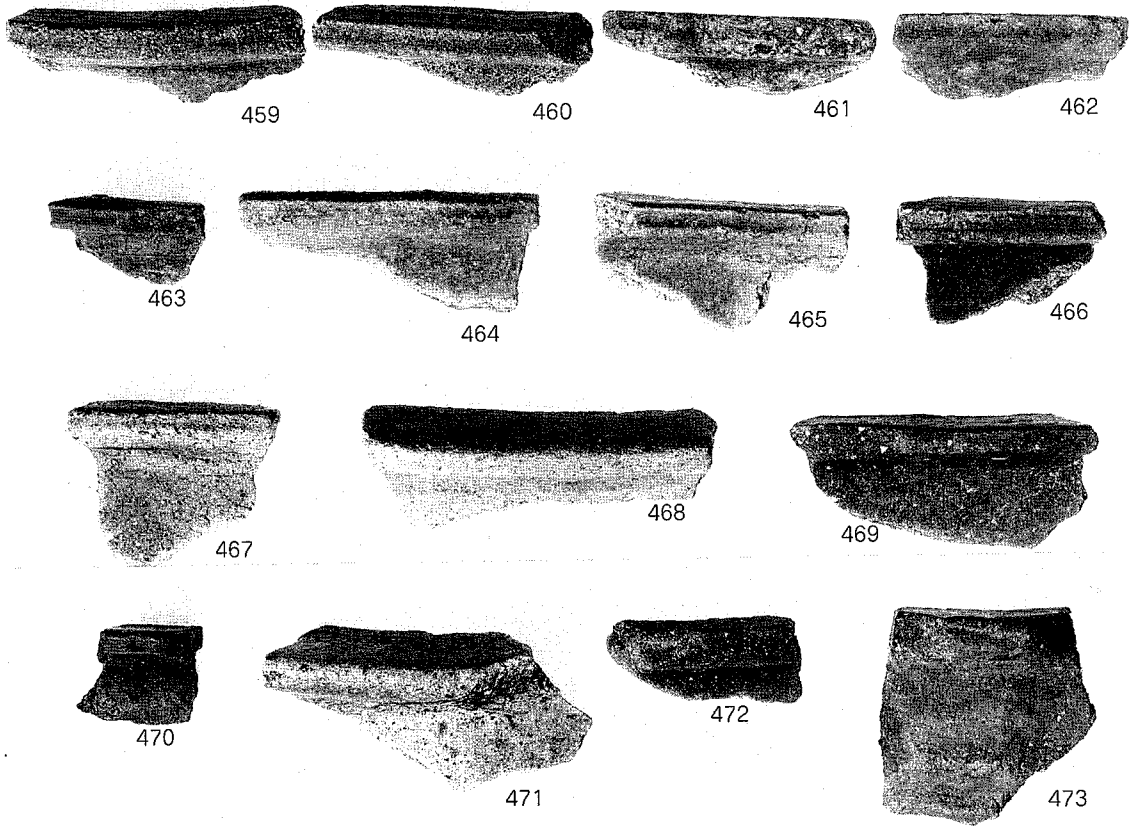


1 R11出土遺物

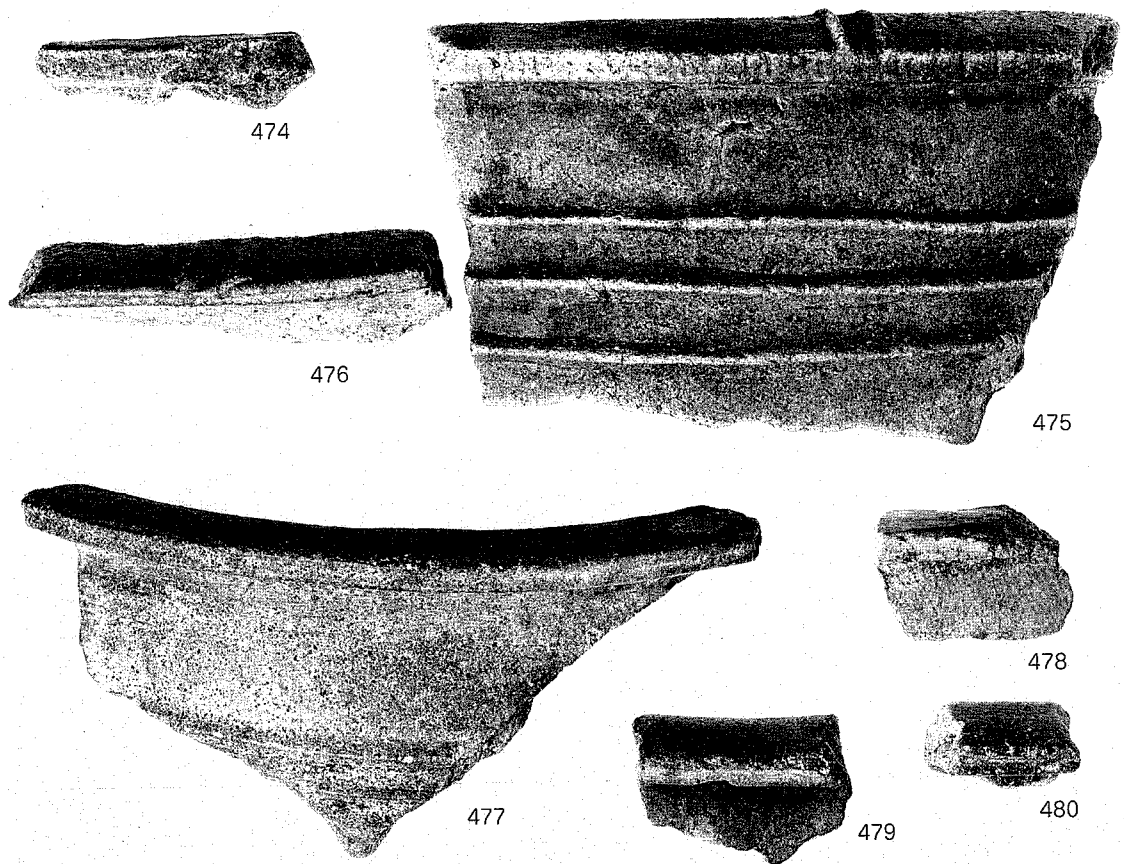


2 R11出土遺物

PL. 44 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（37）

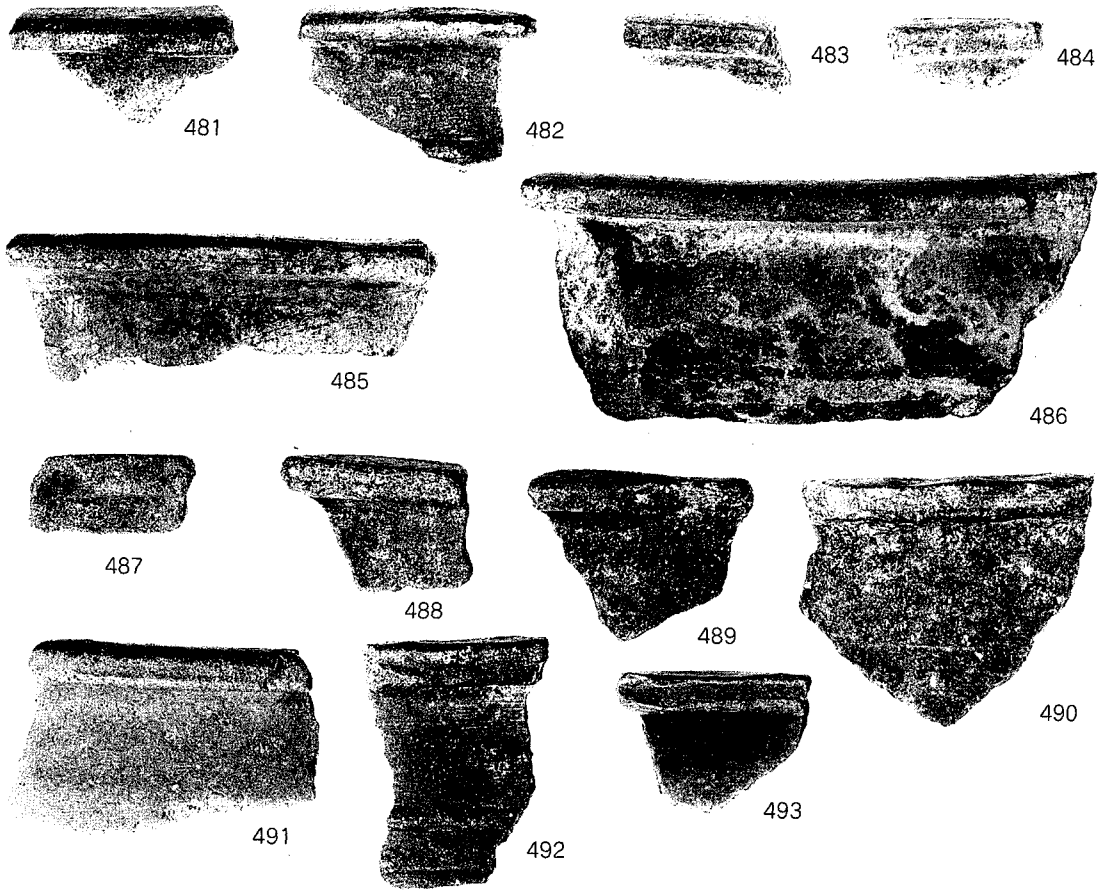


1 RI1出土遺物

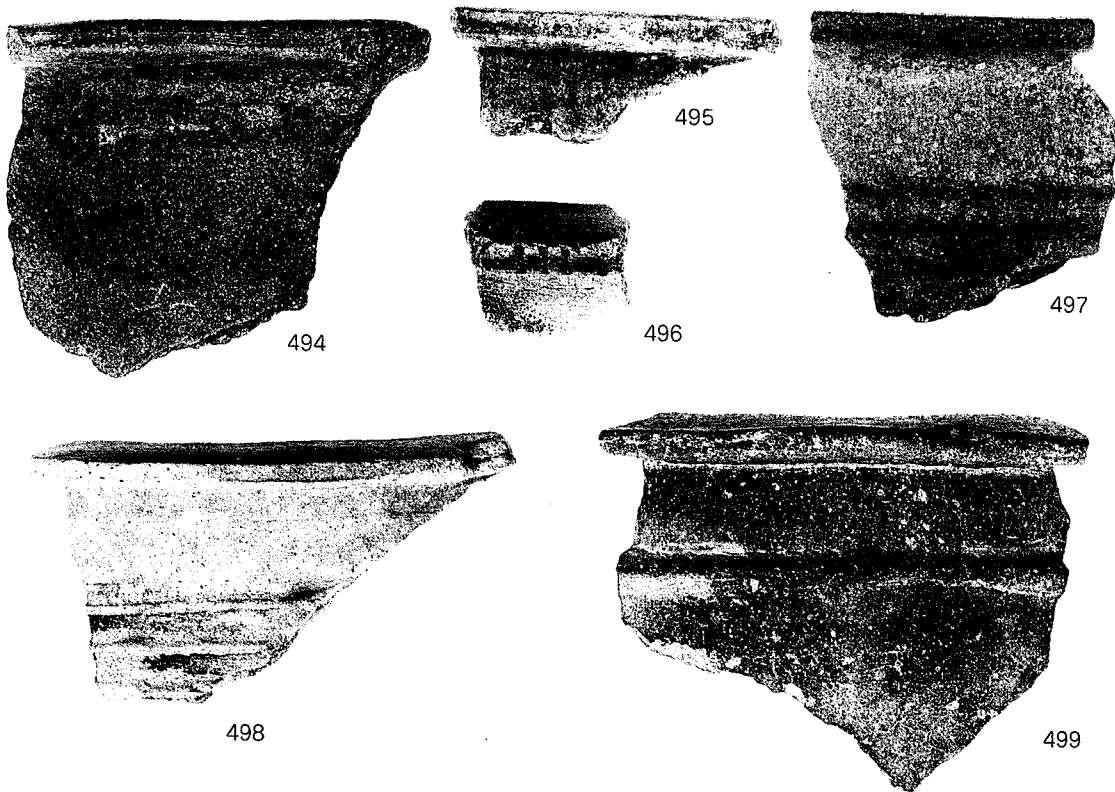


2 RI1出土遺物

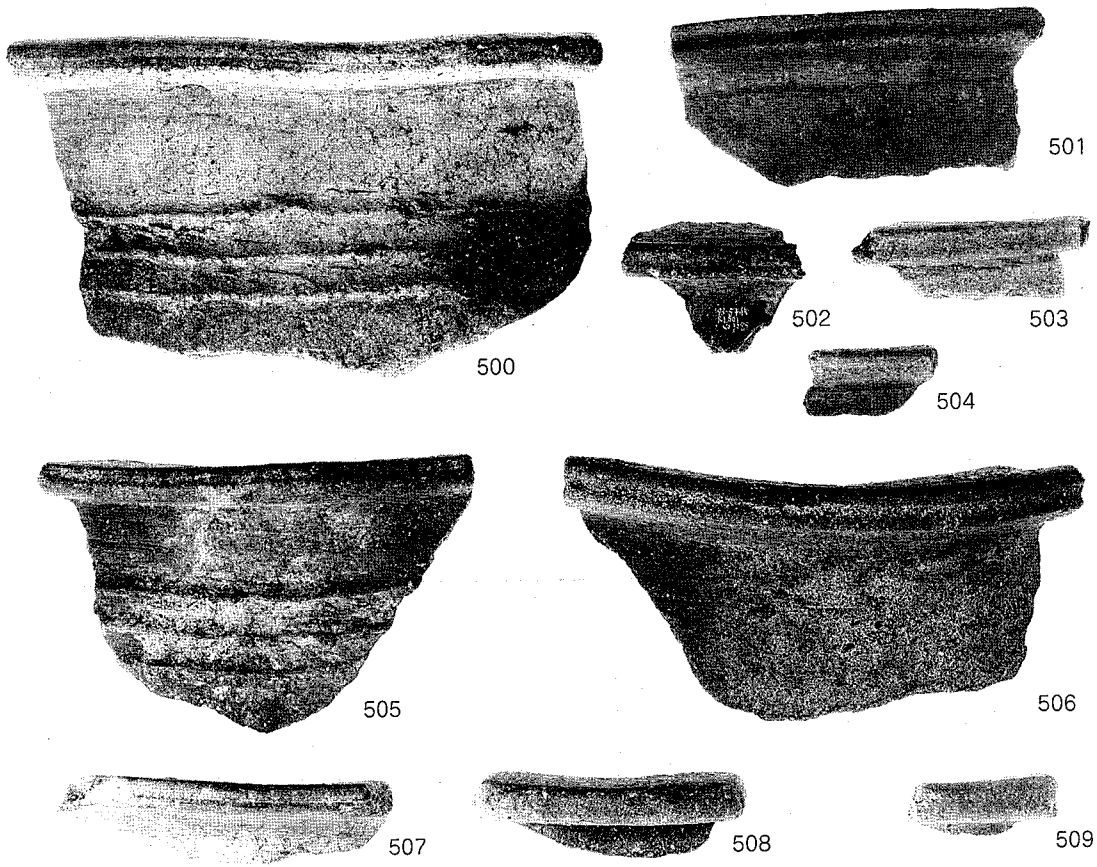
PL. 45 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（38）



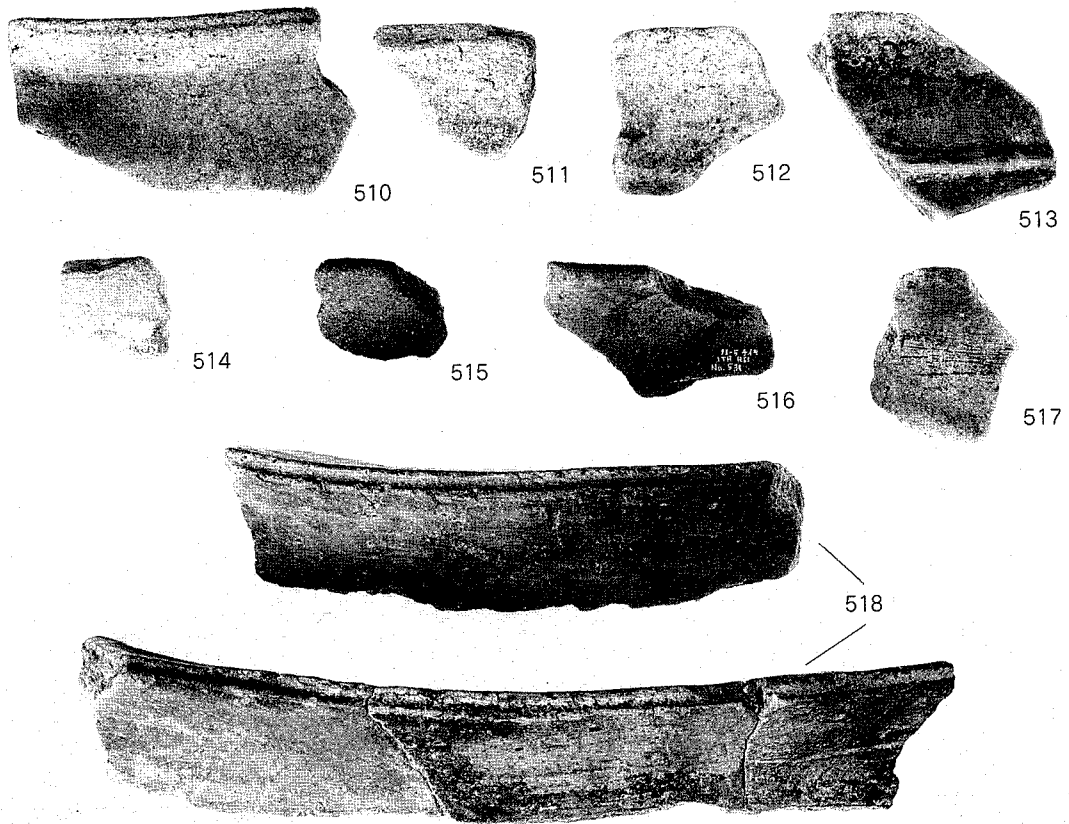
1 R11出土遺物



2 R11出土遺物

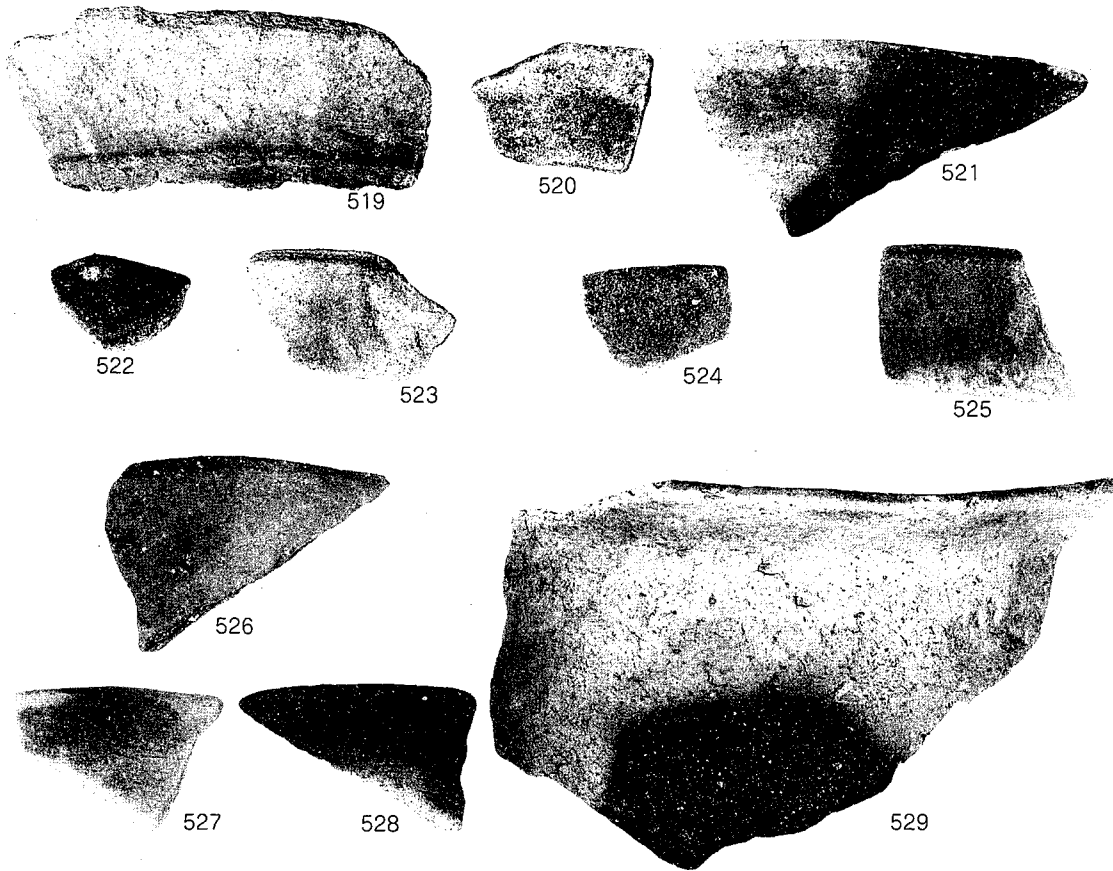


1 RI1出土遺物

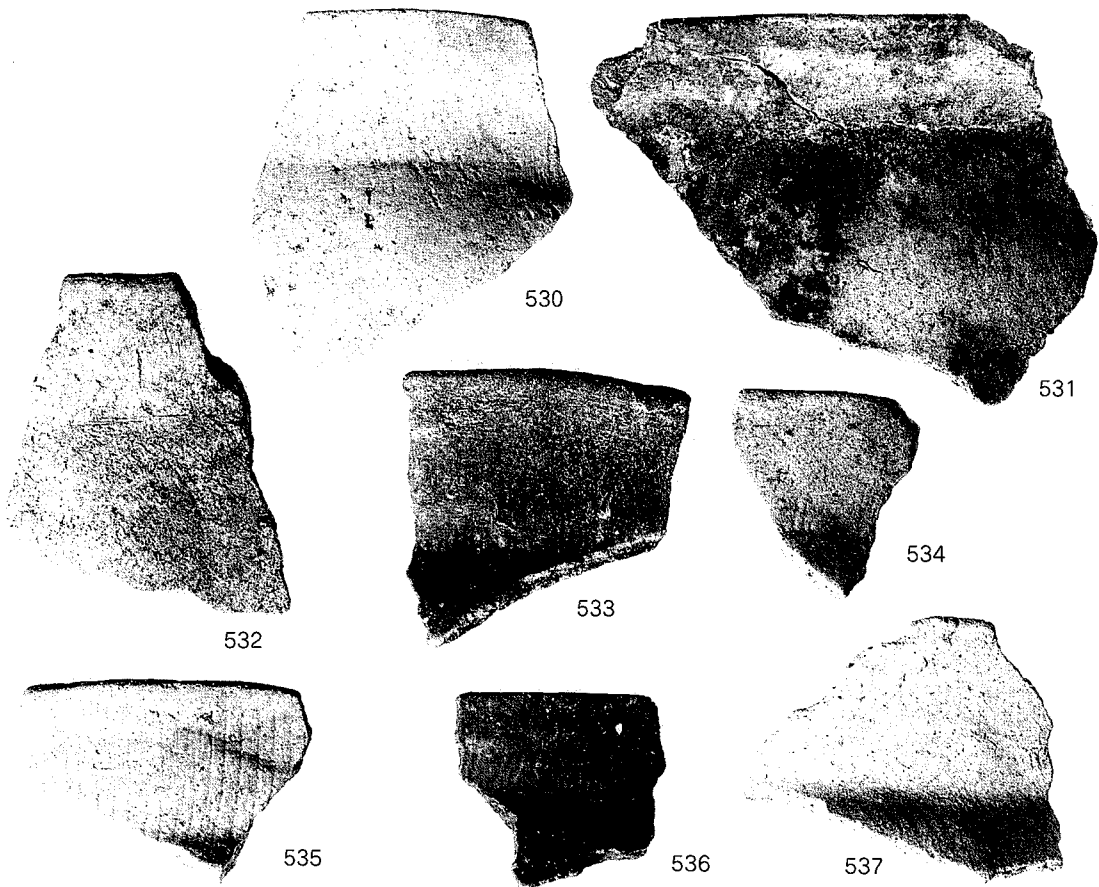


2 RI1出土遺物

PL. 47 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（40）

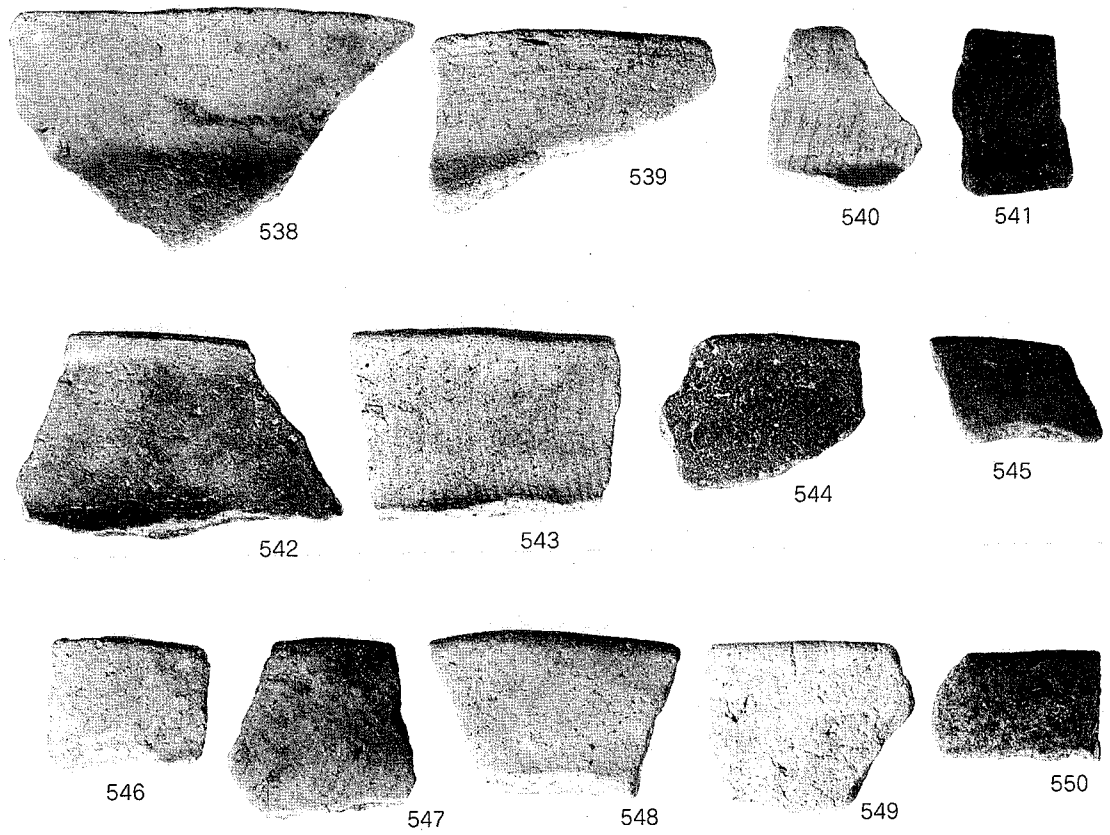


1 RI1出土遺物

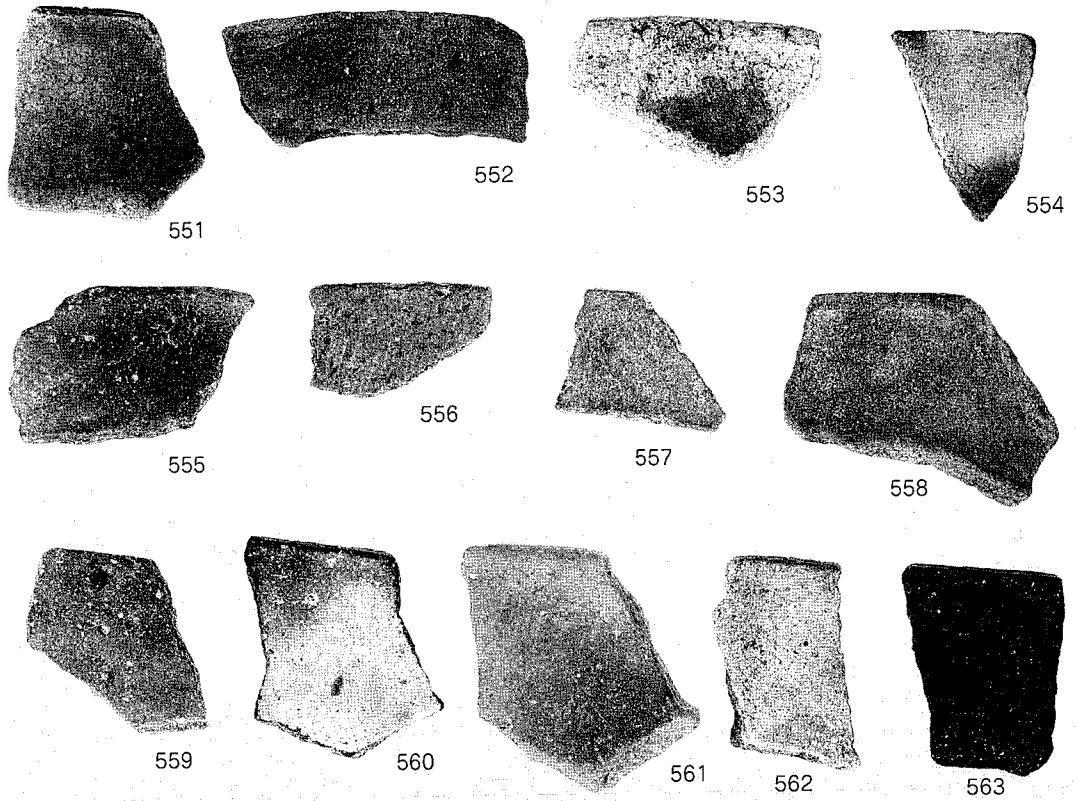


2 RI1出土遺物

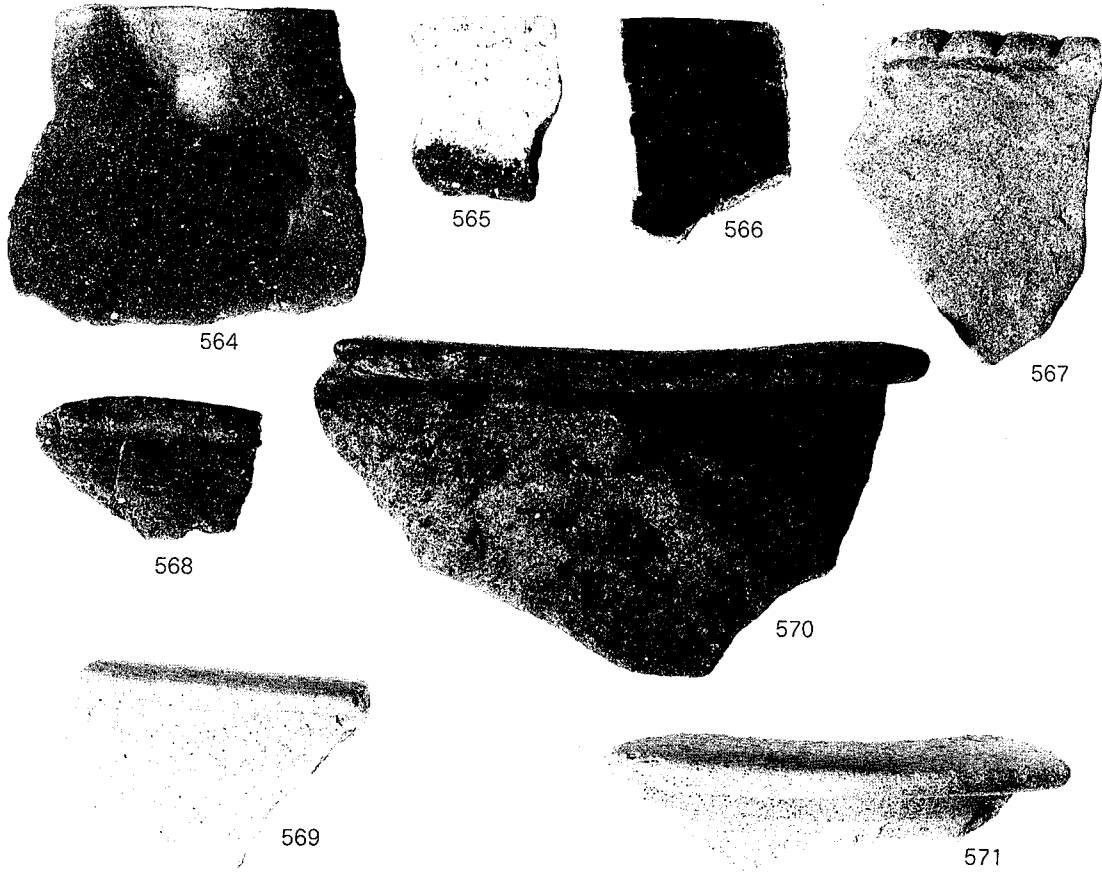
PL. 48 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（41）



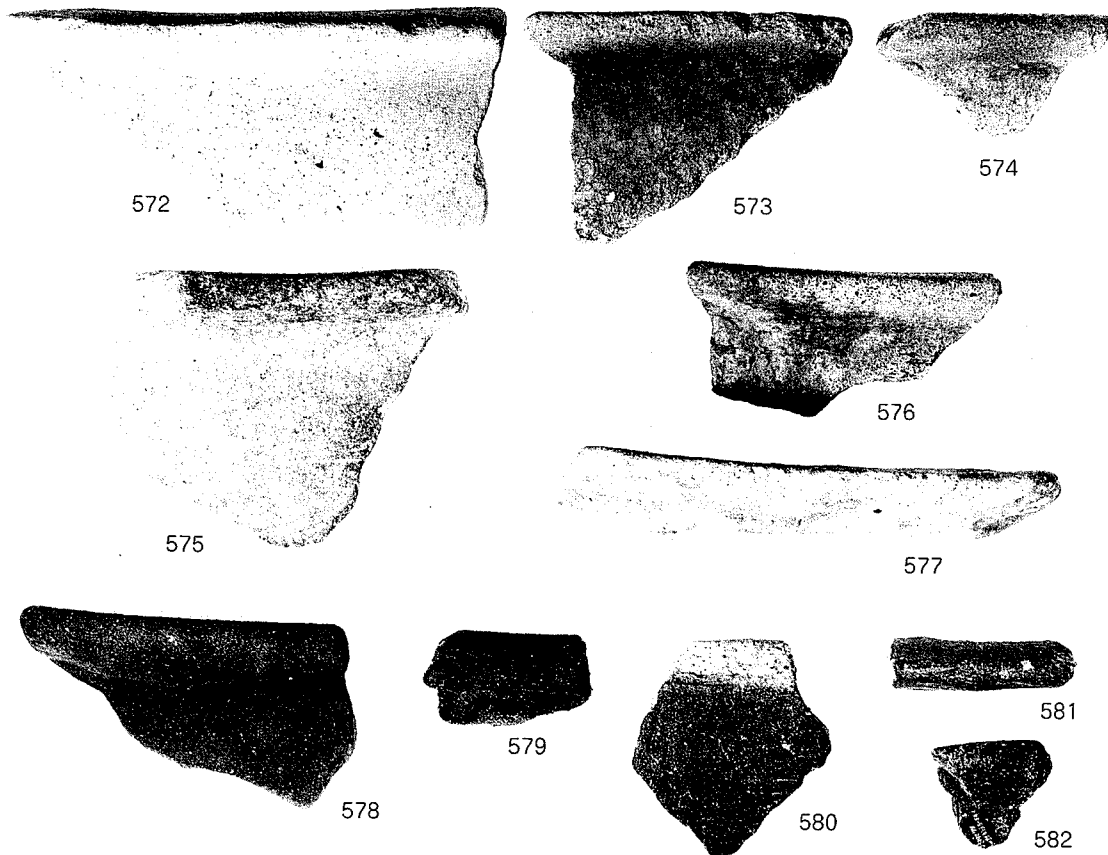
1 RI1出土遺物



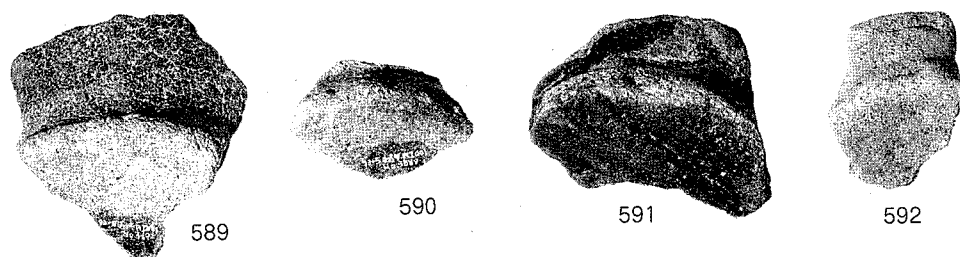
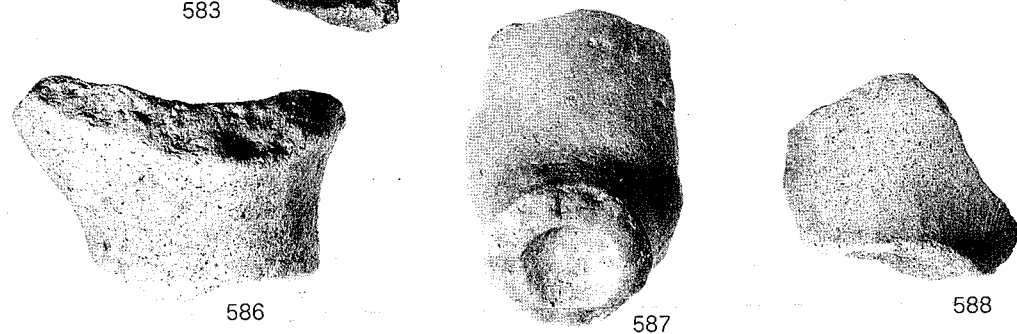
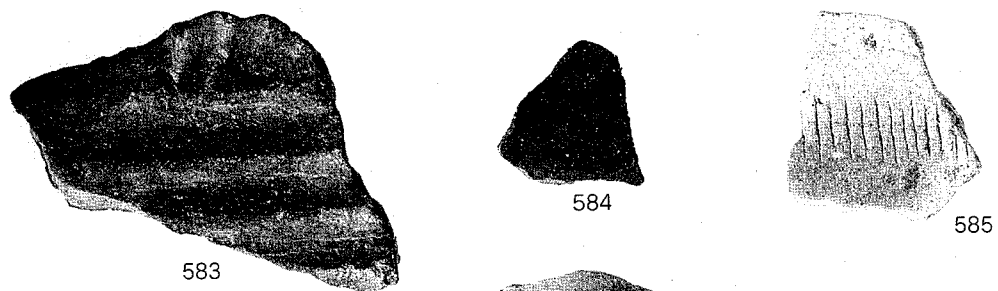
2 RI1出土遺物



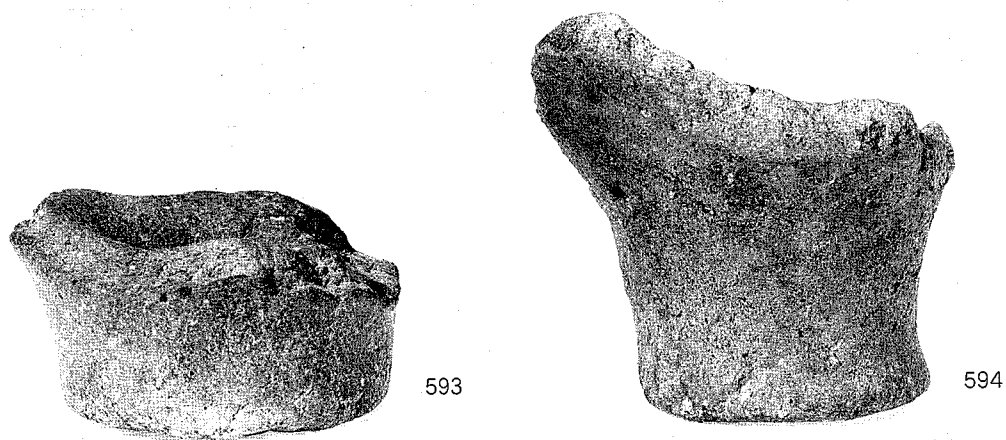
1 RI1出土遺物



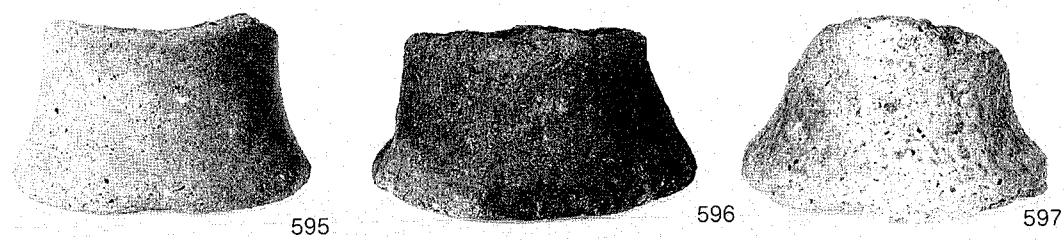
2 RI1出土遺物



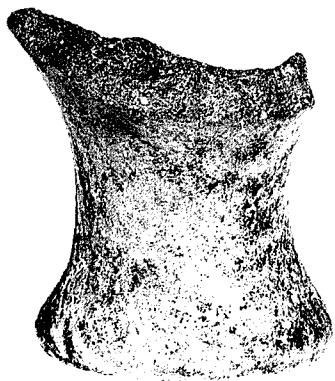
1 RI1出土遺物



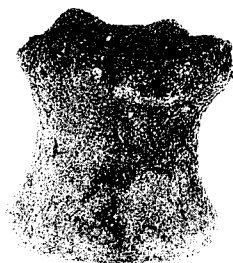
2 RI1出土遺物



3 RI1出土遺物



598

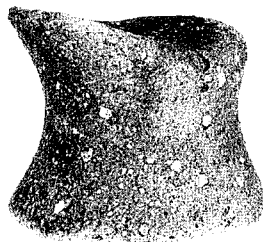


599

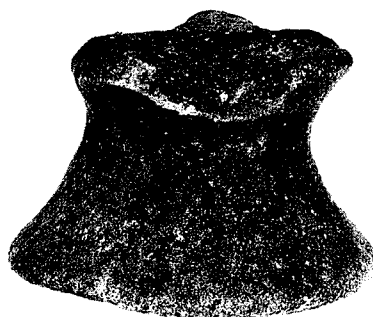
1 RI1出土遺物



600



601



602

2 RI1出土遺物

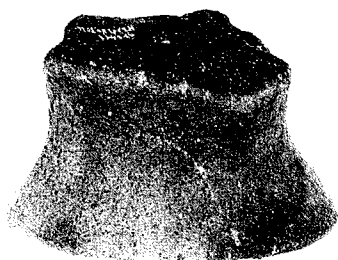


603

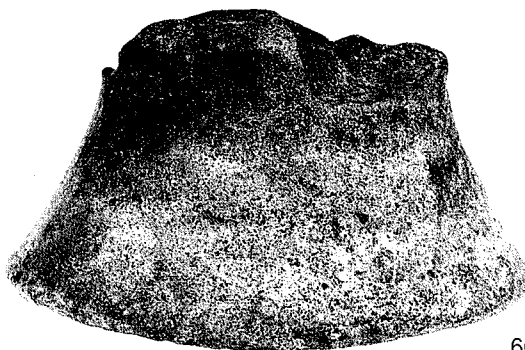


604

3 RI1出土遺物

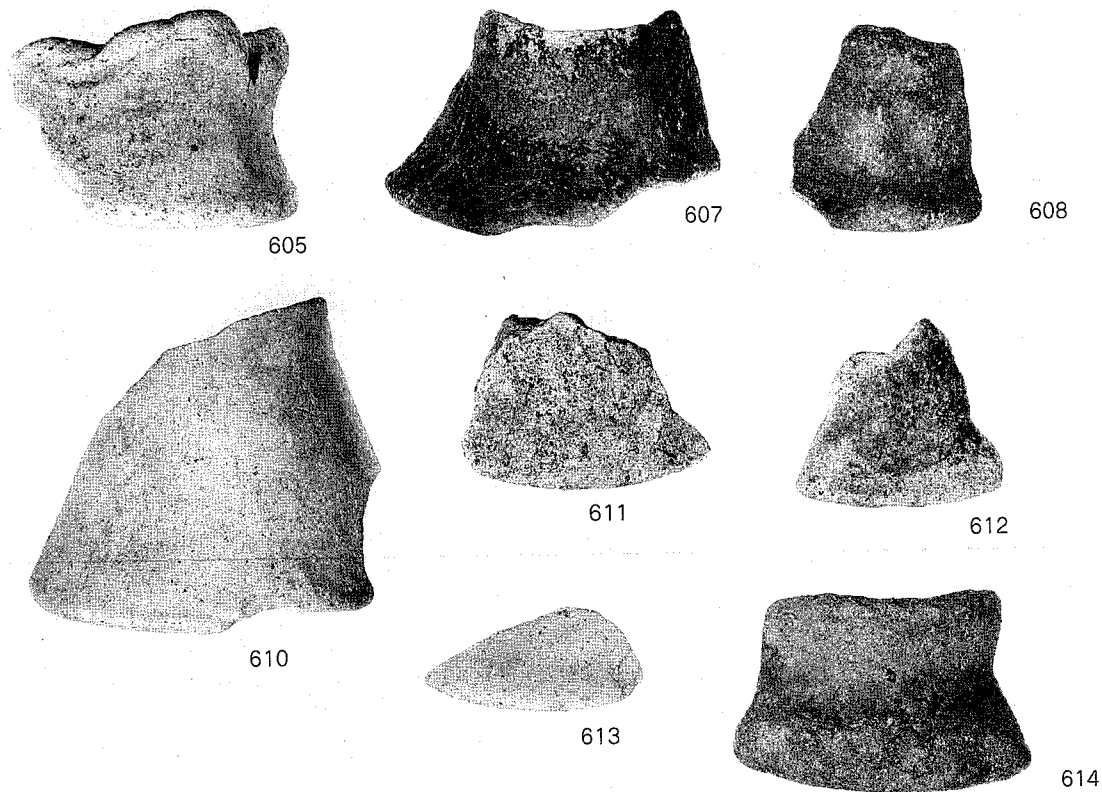


606

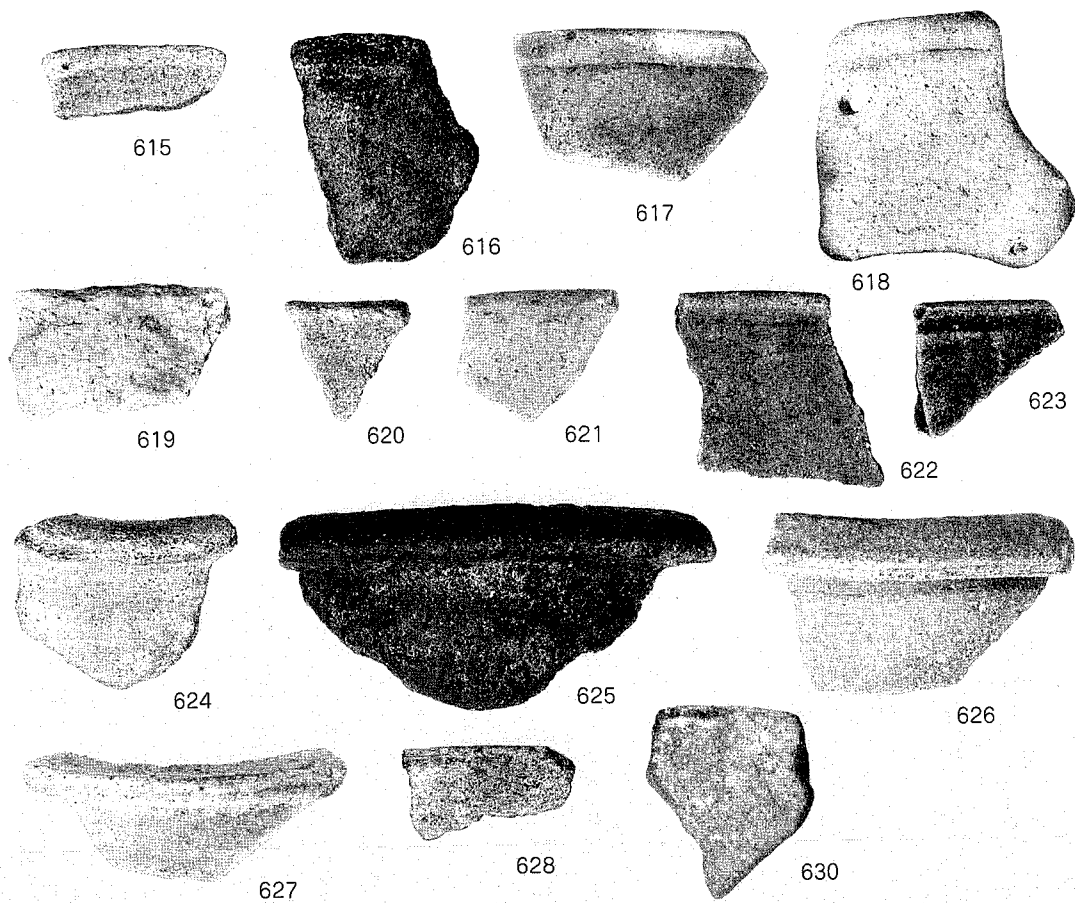


609

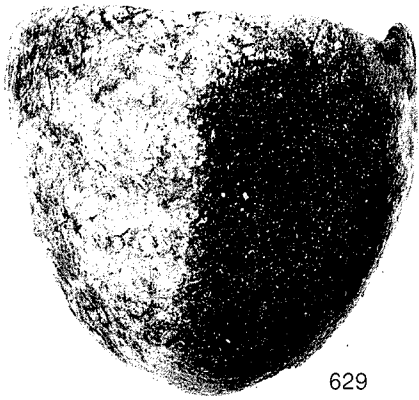
4 RI1出土遺物



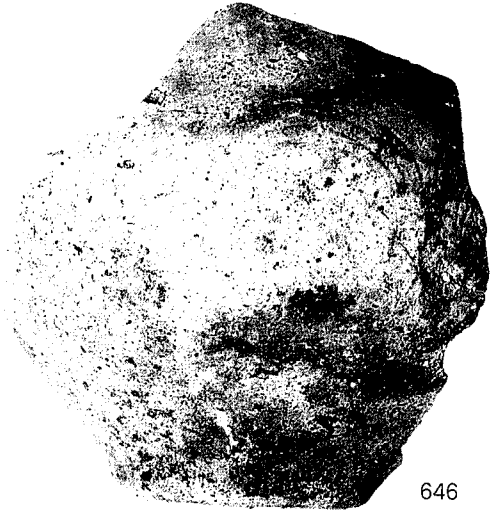
1 RI1出土遺物



2 RI1出土遺物



629



646

1 RI1出土遺物

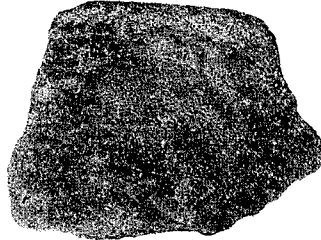
2 RI1出土遺物



631



632



633



634



635



636



637



638



639



640



642

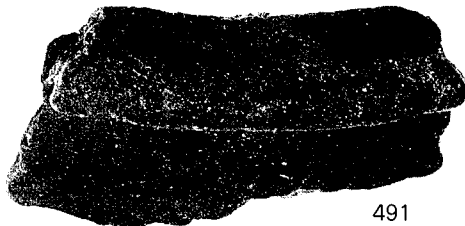


641

3 RI1出土遺物



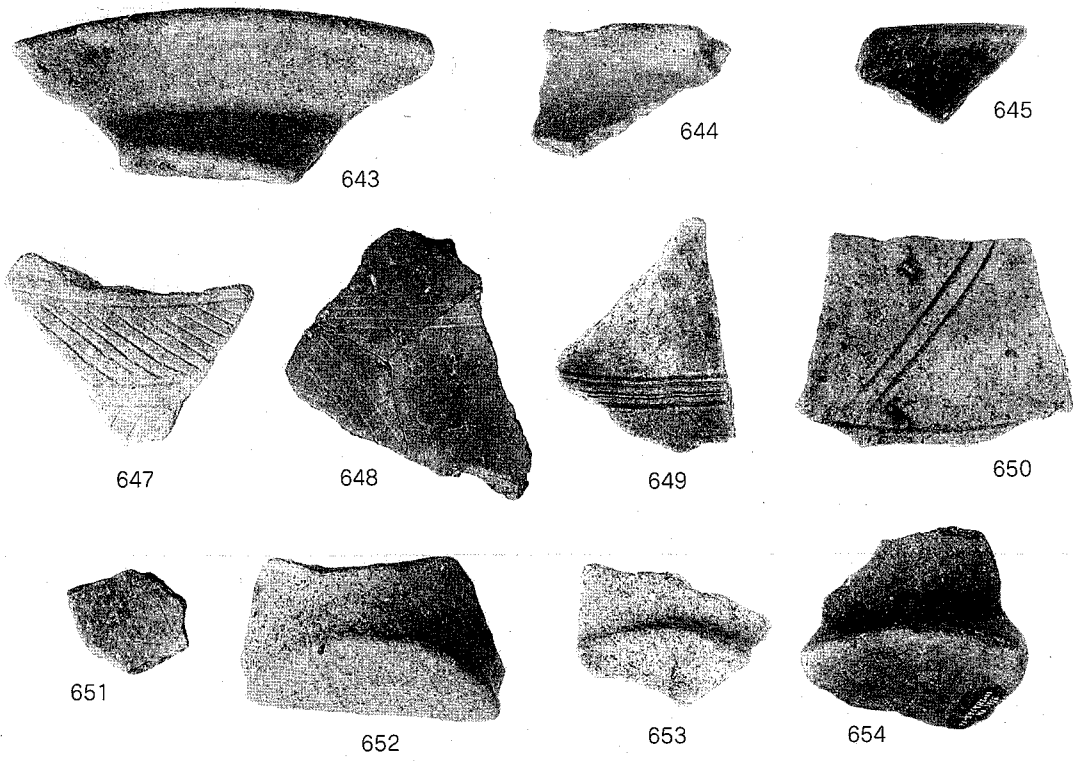
482



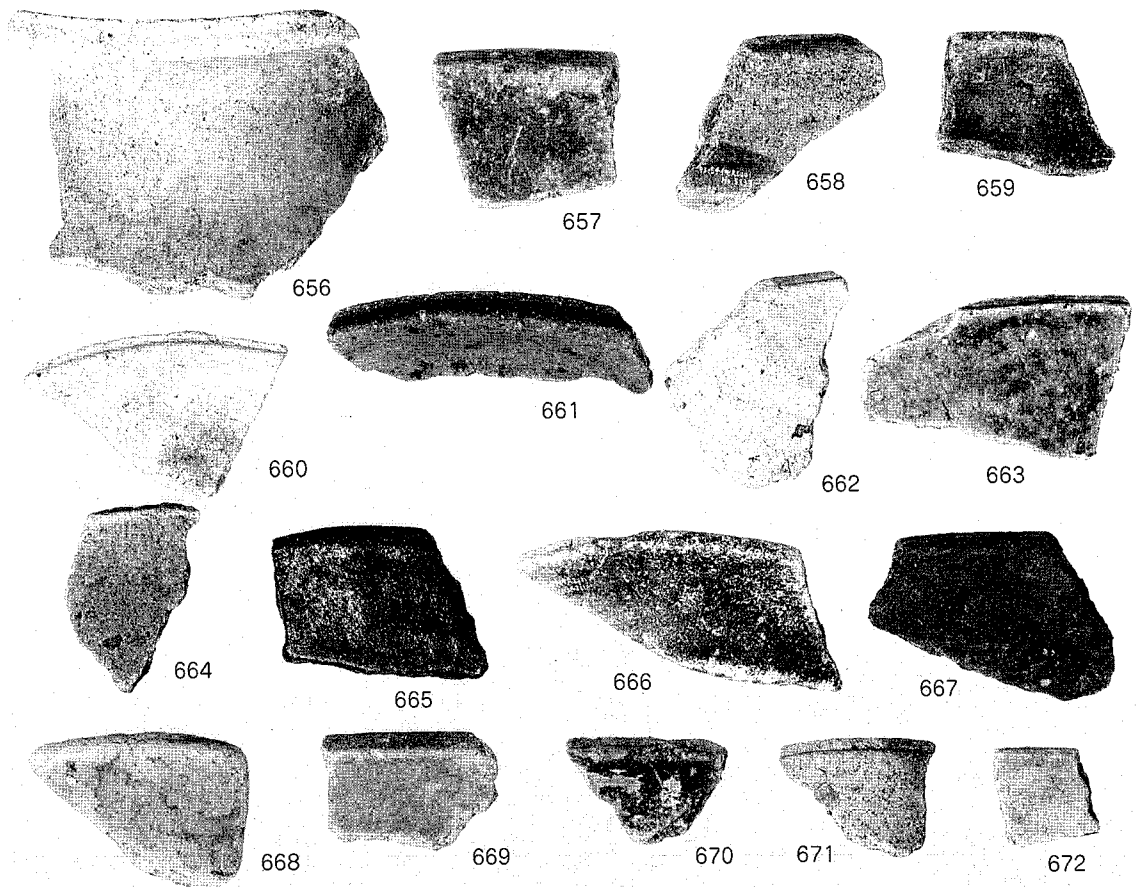
491

4 RI1出土遺物

PL. 54 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（47）

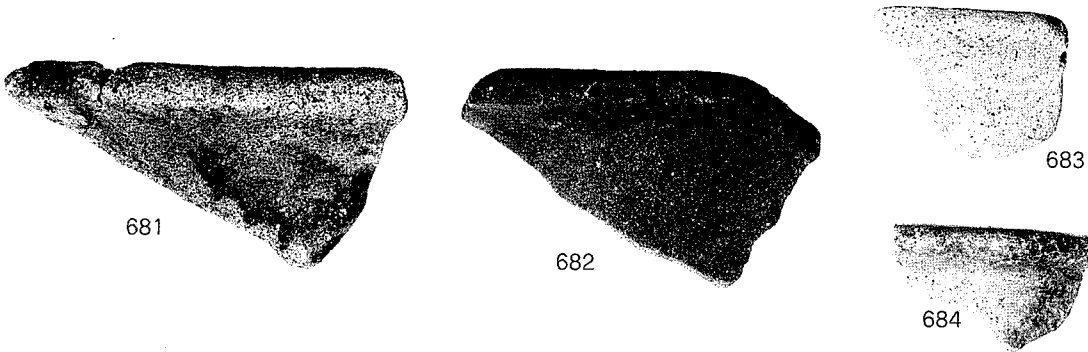
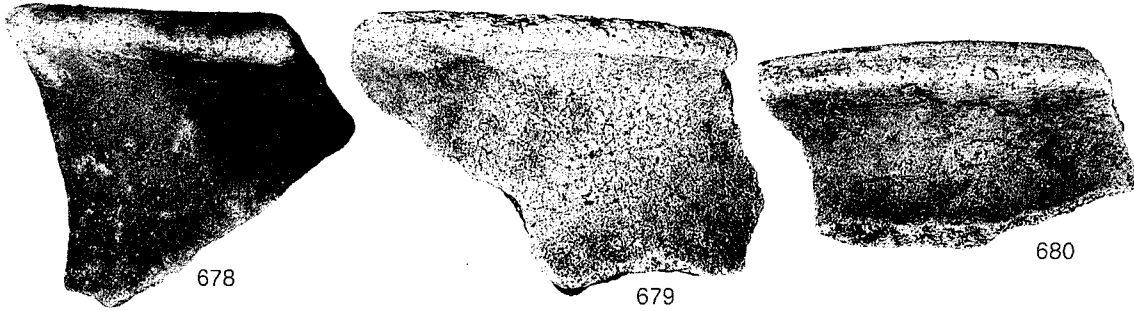


1 RI1出土遺物

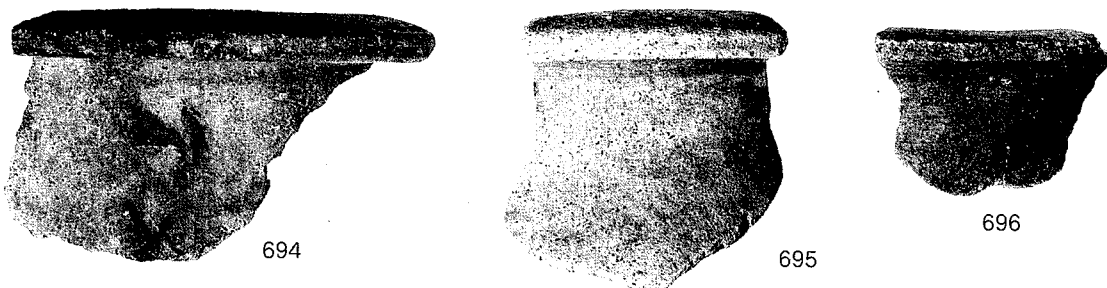
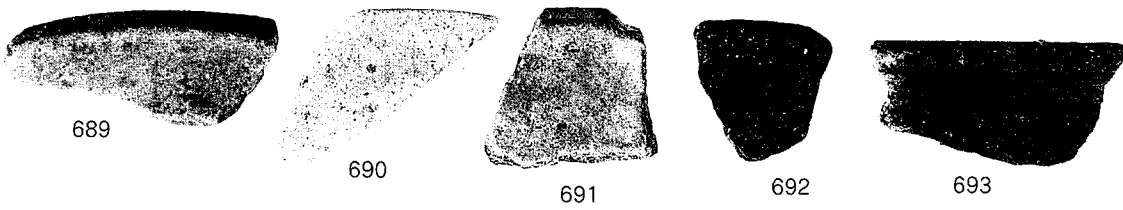
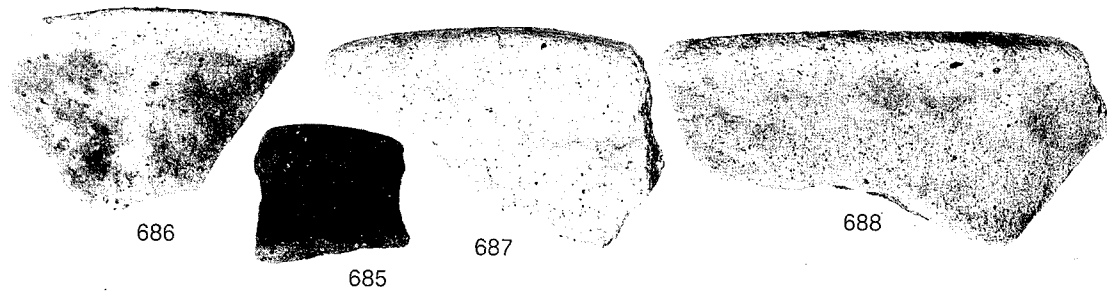


2 RI1出土遺物

PL. 55 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（48）

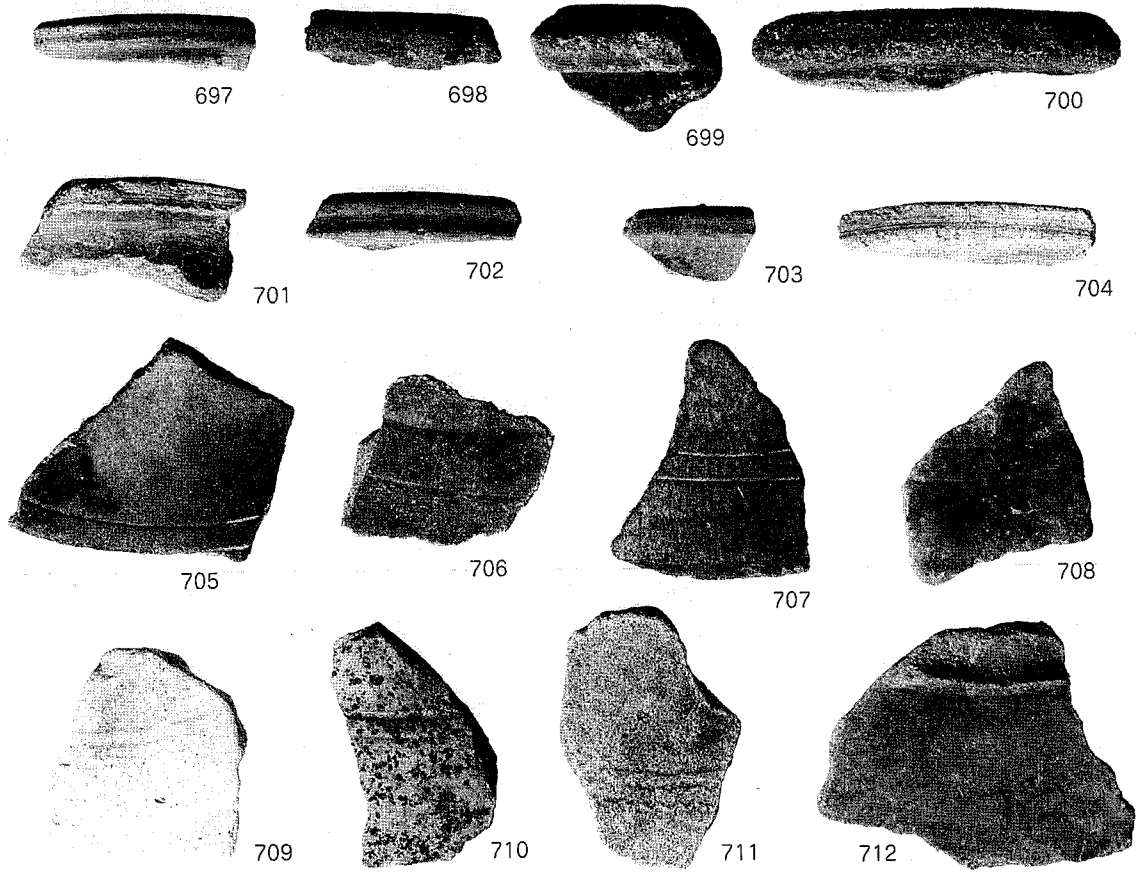


1 RI1出土遺物

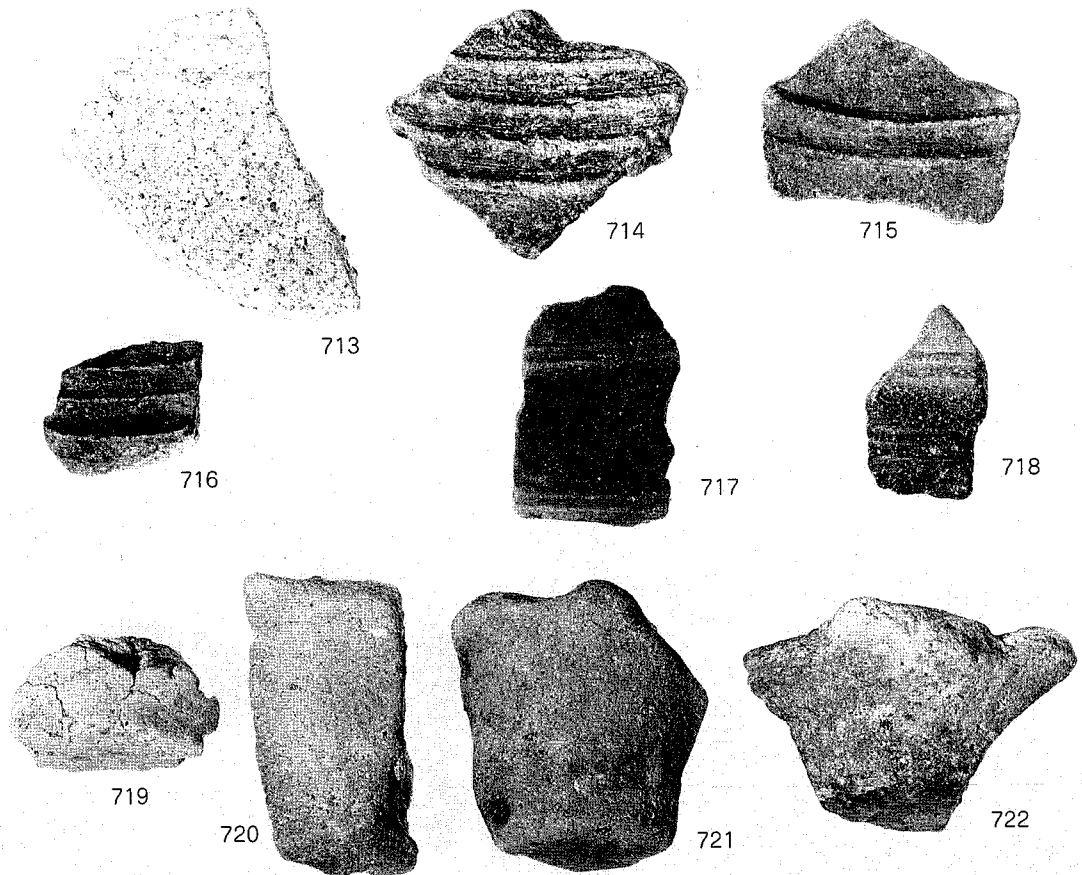


2 RI1出土遺物

PL. 56 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（49）

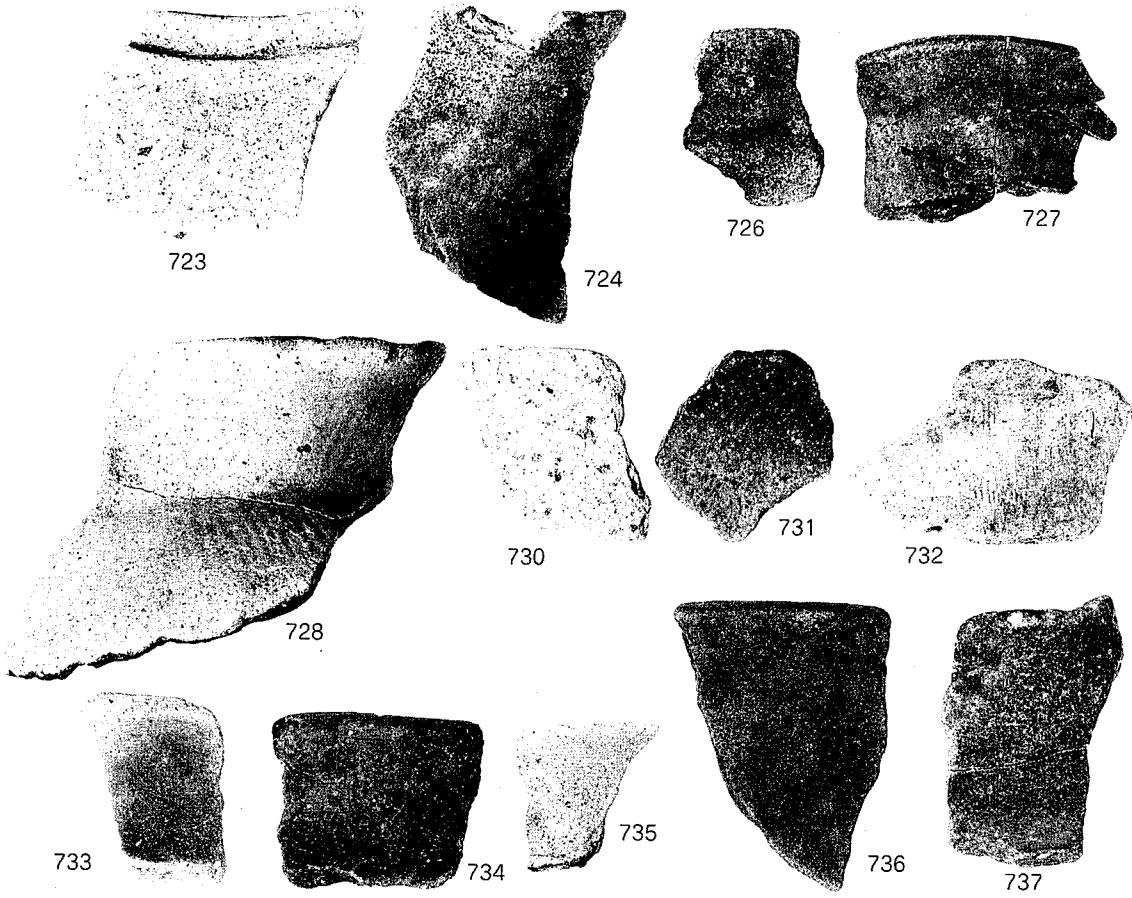


1 RI1出土遺物

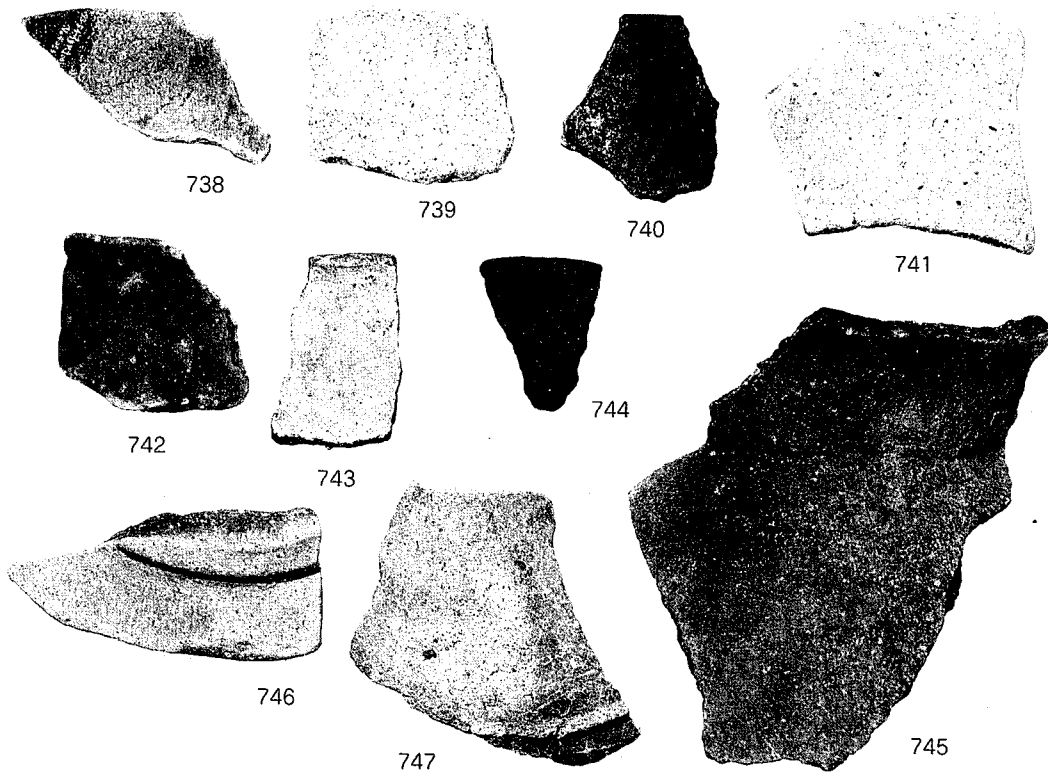


2 RI1出土遺物

PL. 57 郡元団地H-11区（地域共同研究センター建設地）における発掘調査（50）



1 RI1出土遺物



2 RI1出土遺物



665

1 R11出土遺物



725

2 R11出土遺物



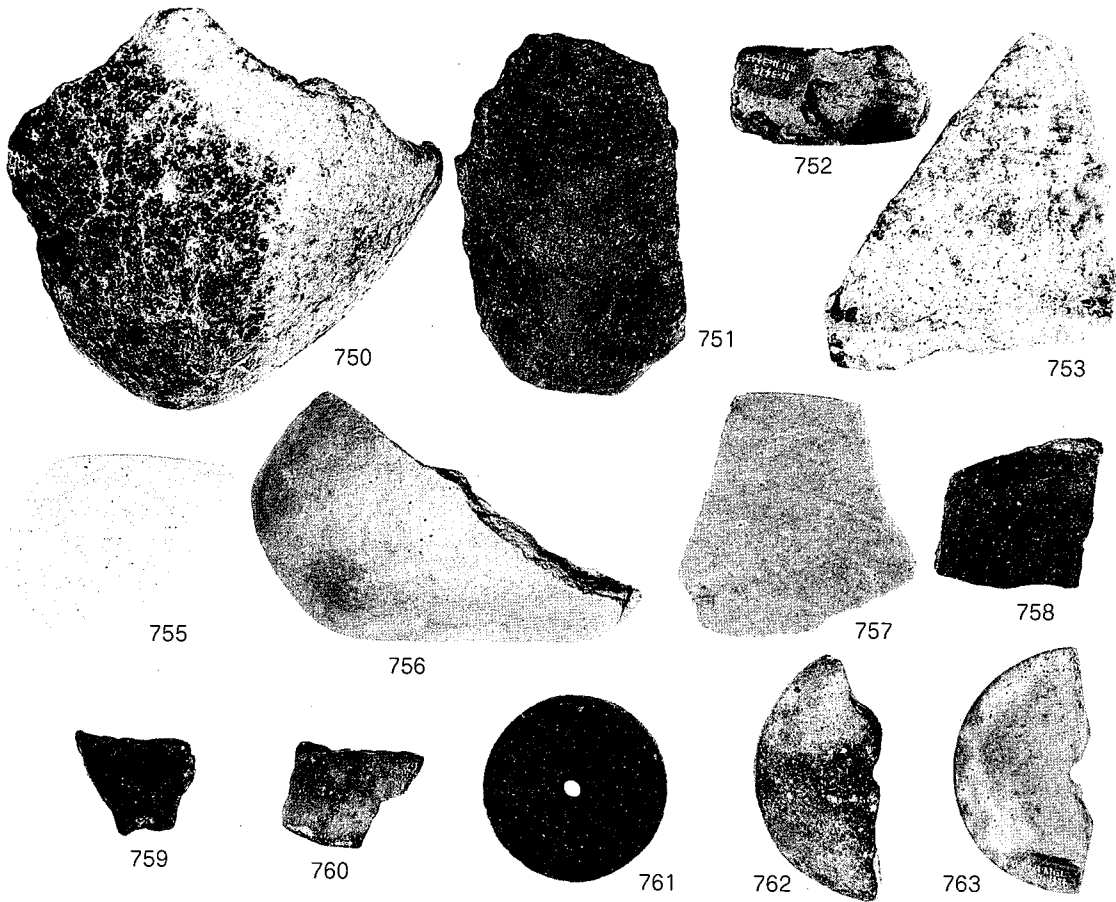
729

3 R11出土遺物

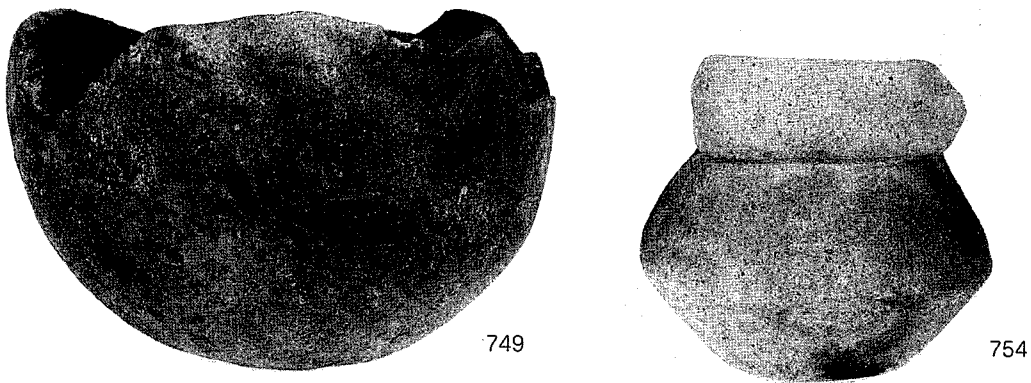


748

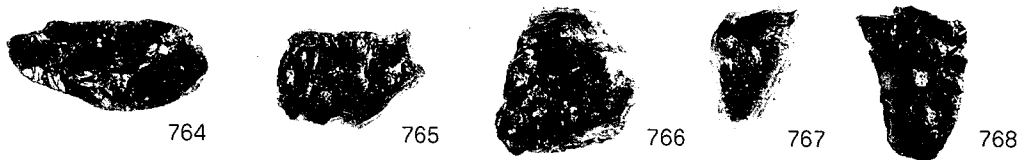
4 R11出土遺物



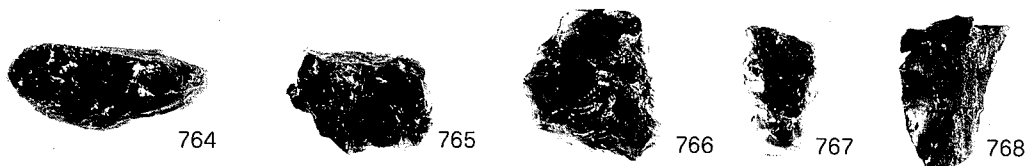
1 RI1出土遺物



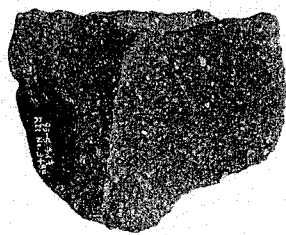
2 RI1出土遺物



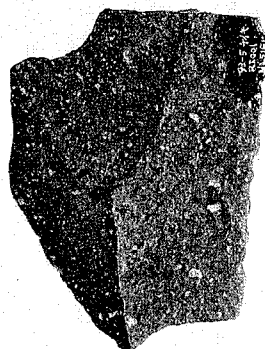
3 RI1出土遺物（表）



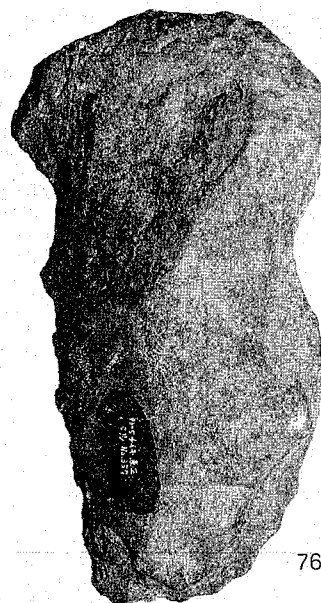
4 RI1出土遺物（裏）



770

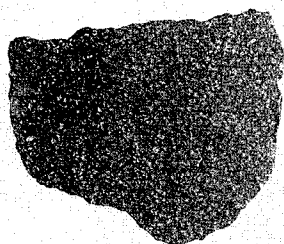


771

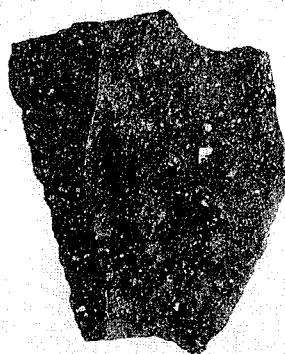


769

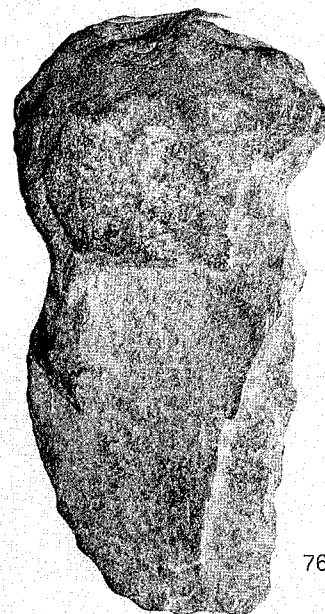
1 RI1出土遺物（表）



770

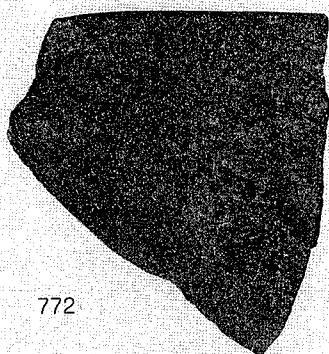


771



769

2 RI1出土遺物（裏）



772

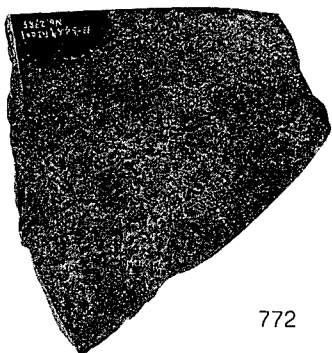


773



774

3 RI1出土遺物（表）

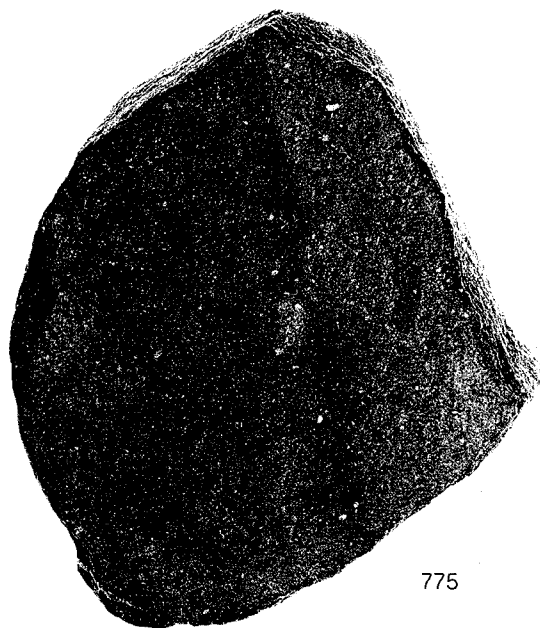


773

774

772

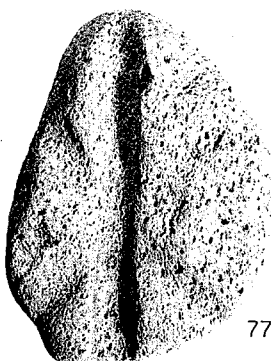
1 RI1出土遺物（裏）



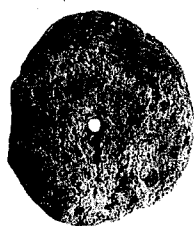
775

775

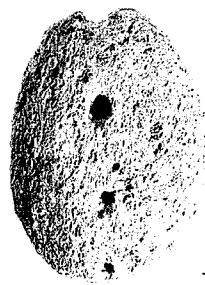
2 RI1出土遺物（左：表，右：裏）



777

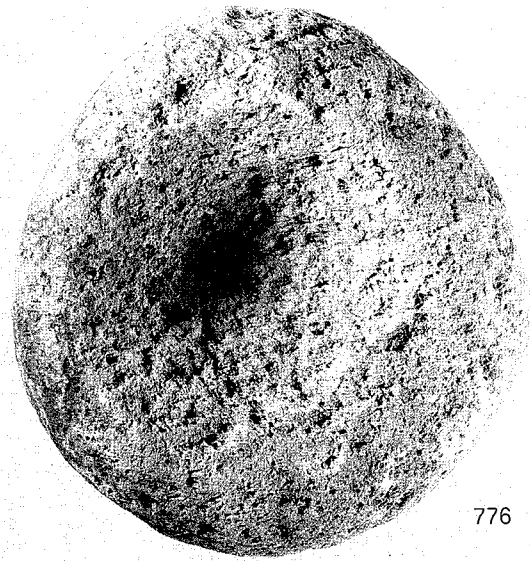


778



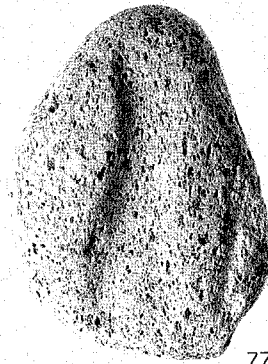
779

3 RI1出土遺物



776

1 RI1出土遺物



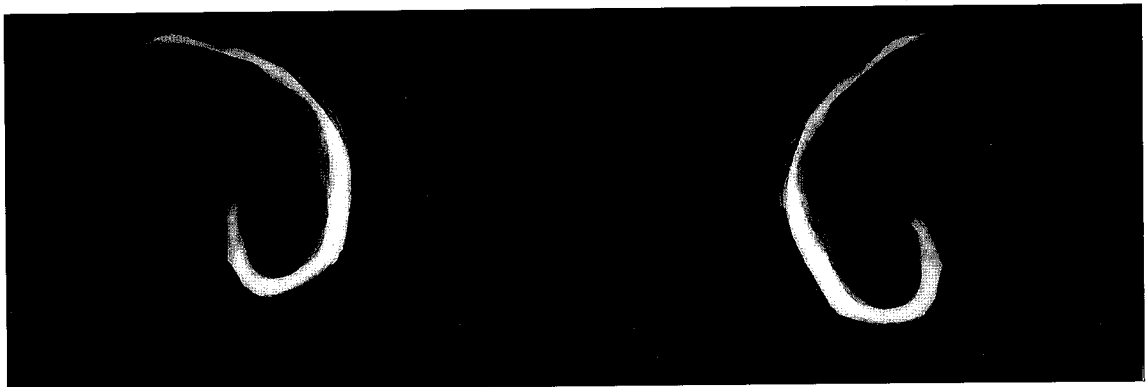
777

2 RI1出土遺物（裏）

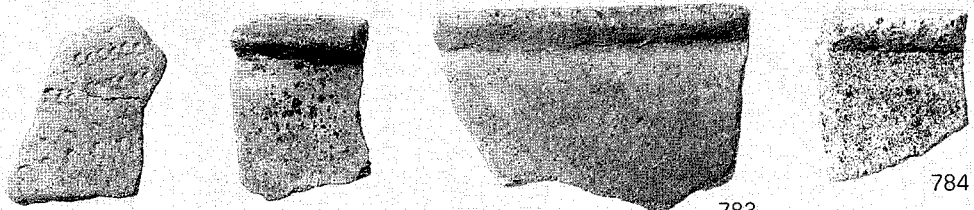


780

3 RI1出土遺物



4 780のX線写真

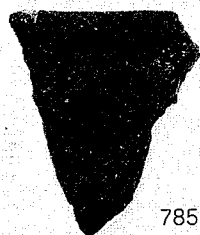


781

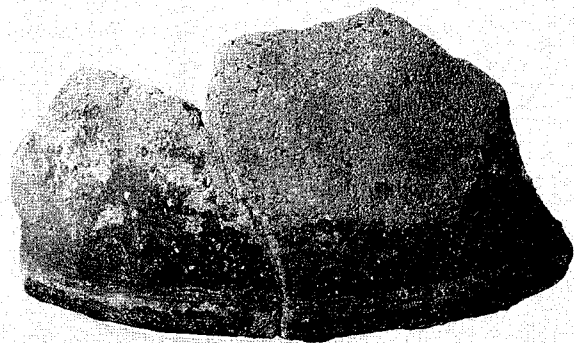
782

783

784

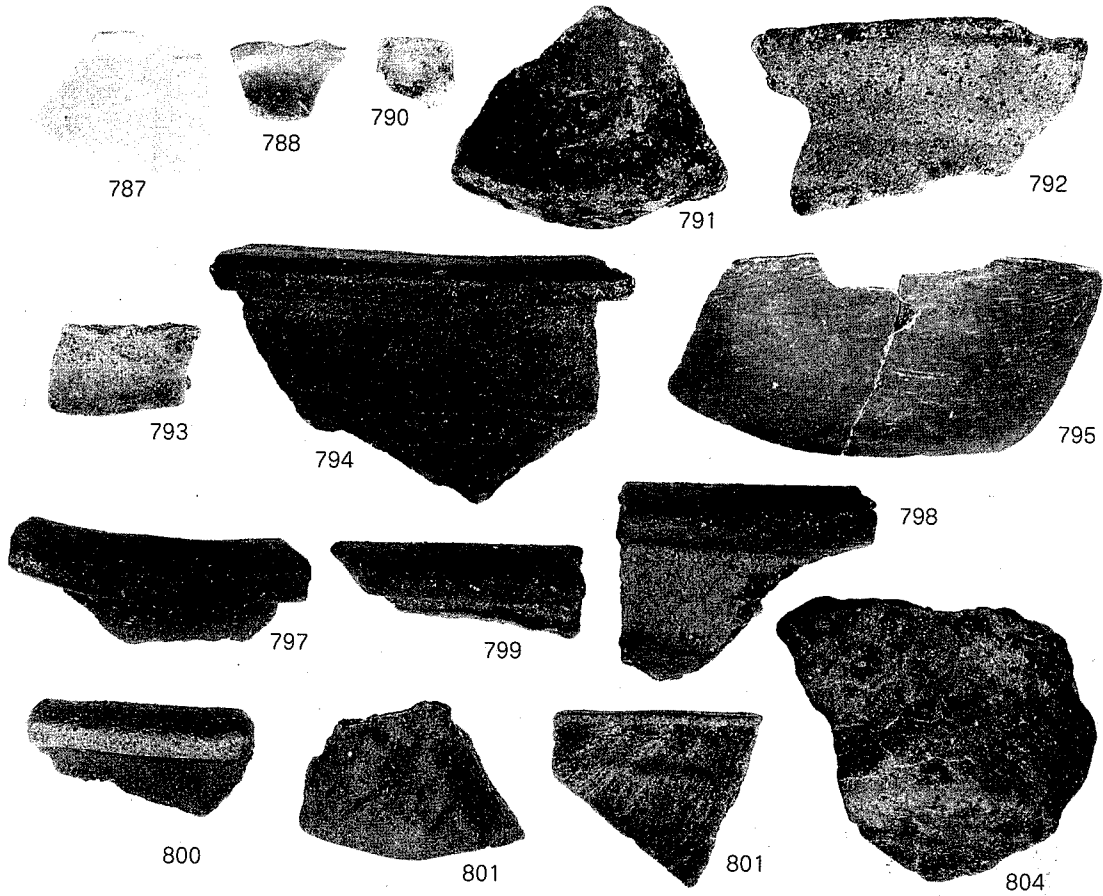


785



786

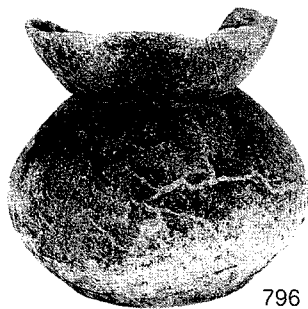
5 RI2出土遺物



1 3～7層・カクラン出土遺物



789



796



803

2 4層出土遺物

3 6層出土遺物

4 3～7層出土遺物



805



805

5 カクラン出土遺物（左：表，右：裏）

SUMMARY

This is the report of the rescue excavations and surveys of the sites in the campuses of Kagoshima University. Kagoshima University Archaeological Research Center made them for the duration from January 1996 to March 1997. This report also includes the results of the excavation carried in an appendix. Appendix reports the excavation of Area H-11 in Korimoto campus.

LOCATION AND HISTORICAL BACKGROUND

Kagoshima University is located in the center of Kagoshima city, south Kyushu Island. The western part of the city is highland and the eastern part is lowland. Active volcano Mt. Sakurajima is in the center of Kagoshima Bay. This report includes the results of excavation and field surveys at Korimoto campus and Sakuragaoka campus. Korimoto campus is located in the lowland. Sakuragaoka campus is situated in the highland. The sites at Korimoto campus are registered to be those of late Kofun period at 500 to 700AD., and those at Sakuragaoka campus are registered to be the site of Jomon and Yayoi period.

EXCAVATION IN KORIMOTO AND SAKURAGAOKA CAMPUSES

The center carried one excavation, one test survey and seven surveys in Korimoto campus. In Sakuragaoka campus, we carried one survey. They are all rescue archaeological surveys. This report includes detail results of the test excavation and field surveys. In Area K-5, we excavated seven square pit houses concentrated in a narrow range and found many potteries of Kofun period. Those are seemed to have belonged to the habitation known around this area. In Area E·F-4·5, we found the layer of wet-rice field, where were few artifacts. In Areas D-11·F-12, an ancient river was found, which seems same river that was found in Area H-11 located in south of there, reported as appendix.

APPENDIX : Area H-11 in Korimoto Campus

Archaeological Research Center made a rescue excavation from December 20, 1993 to April 16, 1994, before the construction of a building at Research and Development Center. Three ancient river was found, and this place was mainly occupied by one of them (RI1), along which about two hundred wooden piles were found in lines. Each pile is fifty to hundred centimeters long. They were built for the water gate of irrigation or the river bank protection. There were four large earthen pit at the bottom of the river RI1, from one of them (SK3) wooden spade-shoe was found. RI1 was contained a lot of potteries of Yayoi period.

報告書抄録

ふりがな	かごしまだいがくまいぞうぶんかざいちょうさしつねんぼうじゅうに							
書名	鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報12							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	中村直子・大西智和							
編集機関	鹿児島大学埋蔵文化財調査室							
所在地	〒890-8580 鹿児島県鹿児島市郡元一丁目21番24号 TEL.099-285-7270							
発行年月日	西暦1998年3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査起因
		市町村	遺跡番号					
かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだんちへいちー じゅういちく 鹿児島大学構内遺跡郡元団 地H-11区	かごしましこおりもといっしょうめい じゅうばんくごう 鹿児島市郡元一 丁目20番6号	4620		31	130	19931220 ~ 19930325	737	建物建設
				34	32			
				11	48			
かごしまだいがくこうないいせきこおりもとだんちしーは ちく 鹿児島大学構内遺跡郡元団 地C-8区	かごしましこおりもといっしょうめい じゅういちばんにじゅうよんごう 鹿児島市郡元一 丁目21番24号					19970303 ~ 19970314	6	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
鹿児島大学構内遺跡郡元団 地H-11区	河川跡	弥生 古墳 中世 近世	河川跡	弥生土器 古墳時代の土器 土師器 陶磁器				
鹿児島大学構内遺跡郡元団 地C-8区	散布地	中世 近世		陶磁器				

鹿児島大学埋蔵文化財調査室年報12

1998年3月発行

編集・発行 鹿児島大学埋蔵文化財調査室

鹿児島市郡元一丁目21番24号

TEL 099-285-7270

印刷 斯文堂株式会社

鹿児島市南栄3番1号

TEL 099-268-8211

Kagoshima University Archaeological Research Center Report Vol.12

CONTENTS

Chapter

- 1 Report of archaeological research In fiscal year 1996 1
- 2 The test excavation at Area C-8 in Korimoto Campus 6
- 3 Plant Opal Analysis at Area C-8 in Korimoto Campus 10
- 4 Reports of rescue surveys 13

Appendix

- Reports of excavations at Area H-11 in Korimoto Campus 28

Published by
Kagoshima University Archaeological Research Center
1998